上田市文化財調査報告書第88集

国分寺周辺遺跡群

しなの鉄道国分新駅駅前整備事業に伴う発掘調査報告書

2002.3

上田市土地開発公社
上　田　市
上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第88集

国分寺周辺遺跡群

しなの鉄道国分新駅駅前整備事業に伴う発掘調査報告書

2002.3

上田市土地開発公社
上　田　市
上田市教育委員会

序

公共交通機関は、通勤、通学など地域生活にとって欠かせないものであり、その拡充がのぞまれています。「しなの鉄道国分新駅駅前整備事業」は、しなの鉄道の利用者の拡大とその利便性を高めることを期待して計画されました。

上田市・上田市教育委員会では、工事に先立ち平成12年度に事業地に存在する国分寺周辺遺跡群の発掘調査を行いました。工事によって失われてしまう貴重な資料を記録保存することを目的としたものであります。調査の成果は、上田市の歴史研究の上で新たな手掛かりとなる資料を提供できるものと確信しております。

今回工事が実施される地点の隣には、皆様も御存知の県下最大の文化遺産である史跡信濃国分寺跡があります。いまは公園として保存され、歴史を学ぶ場であると同時に憩いの場となっておりますが、ここまでに至るには、地域住民の皆様と歴史研究者をはじめとする多くの方々の文化財保護に対する熱い思いと御尽力がありました。

今回の調査の成果としてここに本書を刊行し、先輩方から教えられた文化財を大切にする心を引き継いでいくことをあらためて誓い、後世に伝えてまいりたいと思います。

最後となりましたが、現地調査から整理作業・報告書刊行に至るまで御理解と御協力並びに御指導をいただきました地域の皆様、調査に参加された皆様、先生方、関係諸機関に心から敬意と感謝を表する次第であります。

平成14年3月

上田市教育委員会教育長　　我妻忠夫

例　言

1　本書は、「国分ふれあい・（仮称）国分新駅駅前広場整備事業」に伴う長野県上田市国分寺周辺遺跡群の発掘調査報告書である。

2　調査は、上田市（上田市教育委員会生涯学習課）が実施した。

3　現地での調査は、平成12年10月27日から平成13年3月16日に現地調査を実施した。整理作業・報告書作成作業は、平成14年3月まで実施した。

4　遺構の実測は、須齋千恵子、池田育子、塩沢むつきが行った他、空中写真測量、図化を株式会社写真測図研究所に委託して行った。また、遺構実測の基準となる国家座標によるグリッドの杭打ち、基準点等の設置も同社に委託して実施した。

5　遺物の整理及び報告書の作成作業は、久保田敦子の指示のもとに市村みつ子、井沢光子、大井敬子、田村雄二、山本万里、丸田由紀子が行った。

6　遺構の写真は、久保田、須齋が撮影した。航空写真は、（株）写真測図研究所に委託して撮影した。

7　遺物の写真は、久保田が撮影した。

8　石器石材の鑑定は、甲田三男先生にお願いした。

9　本調査にかかわる資料は上田市教育委員会が保管している。

11　本調査の体制は次のとおりである。

教育長	我妻忠夫
教育次長	内藤政則
生涯学習課長	塩野崎利英
文化財係長	細川修
文化財係	平林裕蔵（平成１３年３月退任）、中澤徳士、尾見智志（平成１３年４月再任）、塩崎幸夫、久保田敦子、小笠原正（平成１３年３月退任）

12　調査に参加・協力していただいた方々（順不同・敬称略）

須齋千恵子、名川真由美、村田宜子、横沢生枝、横沢昇、細尾好子、美斎津京子、藪義一、吉池敦子、高桑豊治、中島昭吾、佐野和男、中村清春、小林哲三、石巻賢忠、木本昭征、饗場奈那江、石合好江、田村まり子、市村みつ子、井沢光子、大井敬子、田村雄二、山本万里、丸田由紀子

13　調査にあたり多くの方々や諸機関の御指導と御協力をいただいた。ご芳名を記して感謝の意を表したい。

地元自治会の皆様、山岸猪久馬先生、児玉卓文先生、寺内隆夫様、堀田雄二様、田中浩江様、（財）長野県埋蔵文化財センター様、上田染谷丘高等学校同窓会様

凡　例

遺　構

1　遺構は、次のように略号で表した。番号は任意である。

竪穴住居跡（ＳＢ）　溝（ＳＤ）　ピット（Ｐ）　土壙（ＳＫ）　掘立柱建物跡（ＳＴ）

2　遺構の実測図については、次のとおりである。

（1）　国家座標の北を頁の上とした。例外の場合は、方位を示した。

（2）　原図１/20、縮小１/３としたが、ピット、溝については縮尺１/６、２/15、１/９にした。ただし、調査地区全体図、遺構配置図等は任意である。縮尺は、図版に表している。

（3）　海抜高の単位はｍである。

3　遺構の記述については次のとおりである。

（1）　長さの単位は、ｍである。

（2）　方位は国家座標によった。主に頁の上を北とし、そうでない場合は図中に示した。

（3）　溝、土壙、ピットの深さは、検出面からの深さを示した。

4　土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修 1997）を用いた。

5　遺構の写真の縮尺は任意である。

遺　物

1　遺物実測図については、次のとおりである。

（1）　原図１/１、縮小は以下の通りである。

土器・石器１/３

（2）　網点は黒色処理或いは赤色塗彩部分、または陶器断面を示し、黒塗りは須恵器断面を示す。

2　遺物観察表については、次のとおりである。

（1）　法量の単位はcm、ｇである。

（2）　「胎」を胎土、「焼」を焼成、「色」を色調とした。

（3）　（　）内の数値は、土器については推定値、石器・瓦については残存値を示す。

（4）　土器の色調は上記の『新版標準土色帖』を用いた。

3　遺物の写真の縮尺は任意である。

目　次

序

例言

凡例

第一章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯……1
第２節　調査の方法……1
１．遺跡名と略記号 ……1
２．調査地区の設定 ……2
３．グリッドの設定 ……2
４．遺構測量 ……2
５．その他 ……2
第３節　調査日誌……2

第二章　遺跡の環境

第１節　自然的環境……5
第２節　遺跡とその周辺のこれまでの調査……7
１．信濃国分寺跡 ……7
２．国分遺跡群 ……8
３．国分寺周辺遺跡群 ……12
４．常入遺跡群 ……15
第３節　基本層序 ……16

第三章　調査の結果

第１節　調査の概要 ……18
第２節　遺構と遺物 ……18
１．竪穴住居跡 ……18
２．掘立柱建物跡 ……24
３．土壙 ……25
４．配石 ……27
５．集石 ……28
６．溝跡 ……28
７．ピット ……31
８．遺構外 ……32
９．まとめ ……36

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図　グリッド設定図……　4
第2図　調査位置図……　4
第3図　調査地区及び周辺地形図……　6
第4図　国分寺周辺遺跡群とその周辺遺跡…　9
第5図　基本層序……　17
第6図　遺構配置図……　19
第7図　遺構外出土縄文土器グリッド別
　　総重量及び土偶出土地点分布図……　34
第8図　遺構外出土石器・剥片等出土分布図　35
第9図　第1号竪穴住居跡実測図……　38
第10図　第2号竪穴住居跡実測図……　38
第11図　第3号竪穴住居跡実測図……　39
第12図　第4号竪穴住居跡実測図……　40
第13図　第5号竪穴住居跡実測図……　41
第14図　第6号竪穴住居跡実測図……　42
第15図　第7号竪穴住居跡実測図……　42
第16図　第8号竪穴住居跡実測図……　43
第17図　第9号竪穴住居跡実測図……　44
第18図　第10号竪穴住居跡実測図……　45
第19図　第1号掘立柱建物跡実測図……　46
第20図　第2号掘立柱建物跡実測図……　47
第21図　第3号掘立柱建物跡実測図……　48
第22図　第4号掘立柱建物跡実測図……　49
第23図　土壙実測図……　50
第24図　配石・集石実測図……　52
第25図　第1・2・5～9号溝跡実測図……　53
第26図　第3・4号溝跡実測図……　54
第27図　ピット実測図……　55
第28図　第1号竪穴住居跡出土土器実測図…　70
第29図　第2号竪穴住居跡出土土器実測図…　71
第30図　第3号竪穴住居跡出土土器実測図…　71
第31図　第4号竪穴住居跡出土土器実測図…　73
第32図　第5号竪穴住居跡出土土器実測図…　74
第33図　第6号竪穴住居跡出土土器実測図…　74
第34図　第7号竪穴住居跡出土土器実測図…　74
第35図　第9号竪穴住居跡出土土器実測図…　76
第36図　第10号竪穴住居跡出土土器実測図…　77
第37図　第1号掘立柱建物跡出土土器実測図　78
第38図　第2号掘立柱建物跡出土土器実測図　78
第39図　第4号掘立柱建物跡出土土器実測図　78
第40図　土壙出土土器実測図……　78
第41図　第1号配石出土土器実測図……　81
第42図　集石出土土器実測図……　81
第43図　第1号溝跡出土土器実測図……　82
第44図　第2号溝跡出土土器実測図……　82
第45図　第3号溝跡出土土器実測図……　82
第46図　第4号溝跡出土土器実測図……　83
第47図　第5号溝跡出土土器実測図……　83
第48図　第6号溝跡出土土器実測図……　84
第49図　第7号溝跡出土土器実測図……　84
第50図　第8号溝跡出土土器実測図……　84
第51図　第9号溝跡出土土器実測図……　86
第52図　ピット出土土器実測図……　87
第53図　遺構外出土土器実測図……　89
第54図　石器実測図……　93
第55図　土偶・土製円盤・紡錘車・硯実測図…　102
第56図　瓦実測図……　103
第57図　寛永通宝拓影図……　103

挿表目次

第1表　周辺遺跡群……10
第2表　竪穴住居跡観察表(1)……58
第3表　竪穴住居跡観察表(2)……58
第4表　竪穴住居跡観察表(3)……58
第5表　掘立柱建物跡観察表……61
第6表　土壙観察表……62
第7表　配石観察表……62
第8表　集石観察表……62
第9表　ピット観察表(1)……62
第10表　ピット観察表(2)……62
第11表　ピット観察表(3)……62
第12表　ピット観察表(4)……62
第13表　ピット観察表(5)……62
第14表　ピット観察表(6)……62
第15表　ピット観察表(7)……69
第16表　土器観察表(1)……104
第17表　土器観察表(2)……104
第18表　土器観察表(3)……104
第19表　土器観察表(4)……104
第20表　土器観察表(5)……104
第21表　土器観察表(6)……104
第22表　土器観察表(7)……104
第23表　土器観察表(8)……104
第24表　土器観察表(9)……104
第25表　土器観察表(10)……104
第26表　土器観察表(11)……104
第27表　土器観察表(12)……104
第28表　土器観察表(13)……104
第29表　土器観察表(14)……104
第30表　土器観察表(15)……104
第31表　土器観察表(16)……104
第32表　土器観察表(17)……104
第33表　土器観察表(18)……121
第34表　石器観察表(1)……121
第35表　石器観察表(2)……121
第36表　石器観察表(3)……121
第37表　その他土製品観察表……124
第38表　瓦観察表……124

写真図版目次

写真図版 1　調査地区周辺・調査地区全景
写真図版 2　遺構　SB－01 ～ SB－04
写真図版 3　遺構　SB－04 ～ SB－09
写真図版 4　遺構　SB－09 ～ SK－02
写真図版 5　遺構　SK－03 ～ SK－11
写真図版 6　遺構　SX－03 ～ SD－04
写真図版 7　遺構　SD－05 ～ SD－09
写真図版 8　土器　SB－01 ～ SB－03
写真図版 9　土器　SB－04 ～ SB－07
写真図版 10　土器　SB－07 ～ SB－09
写真図版 11　土器　SB－10 ～ SK－05
写真図版 12　土器　SK－05 ～ SD－01
写真図版 13　土器　SD－02 ～ SD－06
写真図版 14　土器　SD－07 ～ SD－08
写真図版 15　土器　SB－08 ～ SD－07・P
写真図版 16　土器　P・遺構外
写真図版 17　土器　遺構外
写真図版 18　土器　遺構外・石器
写真図版 19　石器
写真図版 20　石器
写真図版 21　石器
写真図版 22　土偶・紡錘車・硯・金属・鉄滓
写真図版 23　瓦・骨・銭

第一章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

本調査の原因となった「しなの鉄道国分新駅駅前整備事業」（「国分ふれあい・（仮称）国分新駅駅前広場整備事業」）は、公共交通機関の拡充を目的として、しなの鉄道の利用者の拡大とその利便性を高めるために上田市等によって計画された。

その事業予定地が上田市大字国分に所在することから、上田市建設部管理課より埋蔵文化財の有無について上田市教育委員会事務局文化課（以下、事務局という。なお、平成12年度に生涯学習課に改組した。）に問い合わせがあった。予定地は、国分字仁王堂及び浦沖に所在する。事務局で確認したところ、この場所は文化財保護法における周知の埋蔵文化財包蔵地である「国分寺周辺遺跡群」の範囲内であったため平成10年９月29日に事務局と管理課で埋蔵文化財の保護との調整を図るために協議を行った。

さらに、平成11年５月17日付１１教文第141号で長野県教育委員会教育長から上田市教育委員会教育長あてに平成12・13年度公共事業等に係る埋蔵文化財の保護について、市内実施予定の公共事業一覧表の提出をするとともに庁内各関係課の事業計画を把握して事業と埋蔵文化財の保護との調整を図るよう依頼があった。これを受けて事務局は、同年10月７日に管理課との二者による本事業に係る埋蔵文化財の保護協議を実施し、その結果を長野県教育委員会教育長に提出した。内容は、用地買収が完了した後の平成12年度中に試掘調査を実施し、その結果をみて保護措置を検討するというものである。

事務局は、買収が終了した一部において平成12年５月11、12日、６月19日の2回にわたって試掘調査を実施し、事業地全域に遺跡が存在する可能性が高いことを確認した（上田市教育委員会2000『市内遺跡』）。この結果により、事務局と管理課は工事着手前に発掘調査を実施して埋蔵文化財の記録保存を図ることとした。

平成12年５月17日、「しなの鉄道・国分新駅（仮称）建設に関する庁内会議」が行われ、発掘調査の必要性について各関係課において確認された。、上田市管理課及び事務局は、しなの鉄道株式会社と９月25、26日に「発掘調査に係る協議」を実施し、さらに９月27日に「線路近接区域の発掘調査の実施について」の協議を申請し、10月12日に承諾された。また、平成12年10月10日付で上田市建設部管理課長より上田市教育委員会教育長あてに「国分新駅用地の発掘調査に関する確約書」が提出され、発掘調査の早期着手を実施することとなった。

これをうけて、平成12年10月27日から平成13年３月16日において現地調査を実施した。調査は、上田市が上田市土地開発公社から委託契約を受託して事務局が実施した。

その後、整理作業を行い、平成14年３月までに報告書を刊行し、調査を終了した。

なお、駅の名称は平成13年度に「（仮称）国分新駅」から「信濃国分寺駅」に決まった。

第２節　調査の方法

１．遺跡名と略記号

周知の埋蔵文化財包蔵地である「国寺分周辺遺跡群」は、複数の遺跡より構成される。『上田市の原始・古代文化』（1977年、上田市教育委員会）で浦沖遺跡、前田遺跡、仁王堂遺跡、明神前遺跡、堀遺跡、西沖

遺跡と表されたこれらの遺跡は、『上田市文化財分布地図』(1979年、上田市教育委員会)を作成するにあたり、一括して「国分寺周辺遺跡群」と称することとした。

この名称により、国分寺周辺遺跡群(Ｋｏｋｕ－Ｂｕｎｊｉ－Ｓｙｕｈｅｎ)の頭文字「ＫＢＳ」を本遺跡の略記号として調査に用いた。各種の記録や遺物の注記等にこの記号を使用してある。

２．調査地区の設定

調査区域は、第２図のとおりである。試掘調査によって判明した遺跡の範囲で、埋蔵文化財が失われる可能性のある部分とした。

なお、本書では南東側の調査地区を南東区、北西側の調査地区を北西区と便宜上呼ぶこととする。

３．グリッドの設定

便宜上、調査地区にグリッドを設定した。これは、１単位の大きさが３m×３mで、国家座標に拠った。交点にはそれぞれ記号名を与えた。記号は、任意の点を０として、そこから方向を示すために東・西・南・北にＥ・Ｗ・Ｓ・Ｎを、距離を示すために数字を与え、両者の組合せによって表した。例えば、点０から南に３m、東に６mの地点は、Ｓ３Ｅ６と表される。なお、任意の点０の座標値は、第Ⅷ系のＹ＝-20100.0、Ｘ＝41730.0である(第１図)。このグリッドは、遺構の平面実測及び遺物取上げに使った。

４．遺構測量

遺構の平面実測は、前述のグリッドを基準に１／２０の作図を基本として行った。さらに、ラジコンヘリコプターによる測量用空中写真の撮影と図化作業を(株)写真測図に委託して実施した。

５．その他

調査における表土の除去は、主に重機を用いて行い、必要に応じて人力で行った。遺構の掘り上げはすべて人力で行った。遺物は、表土出土はグリッドごとに、遺構出土は層位と地点を留意して取上げた。

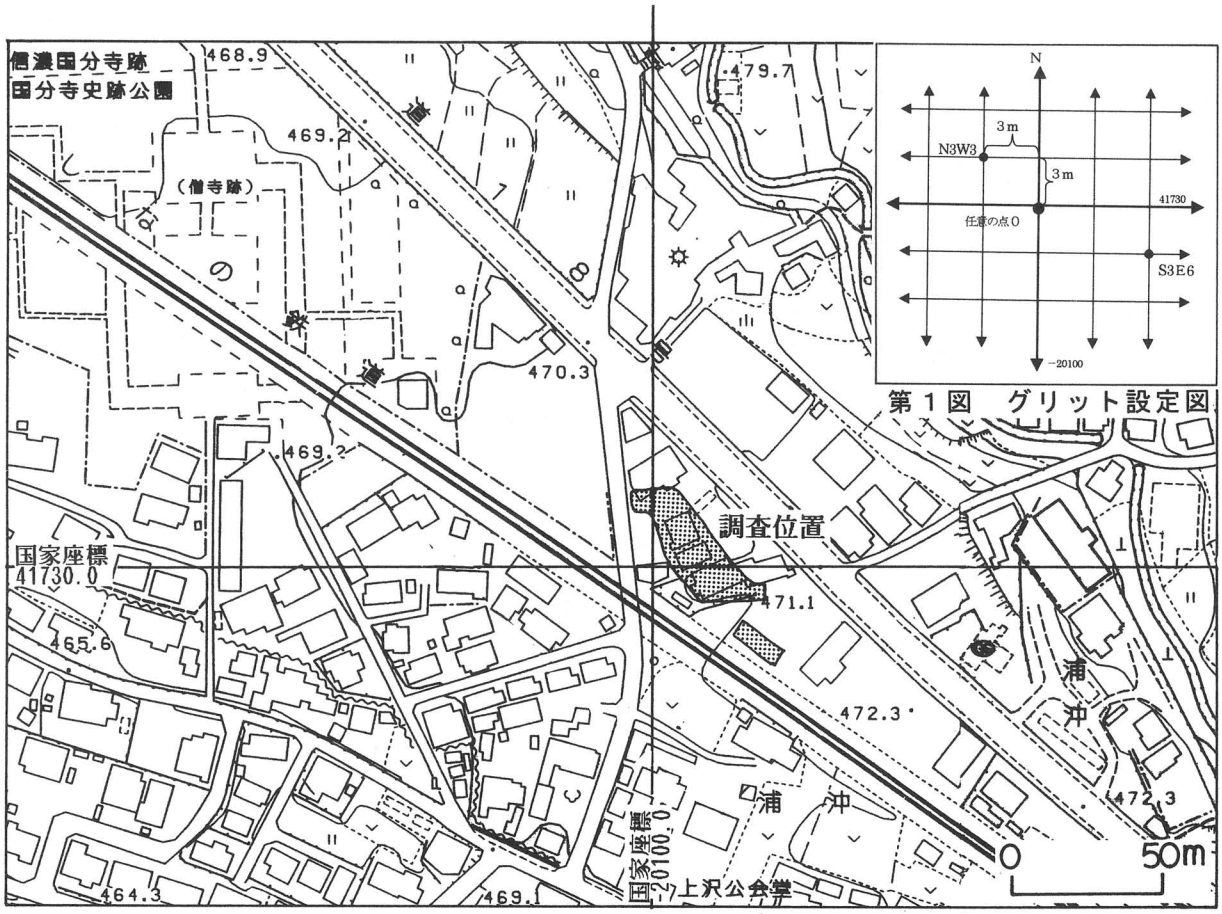
現地での調査担当及び本書の執筆は、久保田敦子が行った。第二章第１節は、山岸猪久馬先生に御指導をいただいた。第二章第２節は、五十嵐幹雄先生、市誌編纂室長川上元に御指導をいただいた。

第３節 調査日誌(抄)

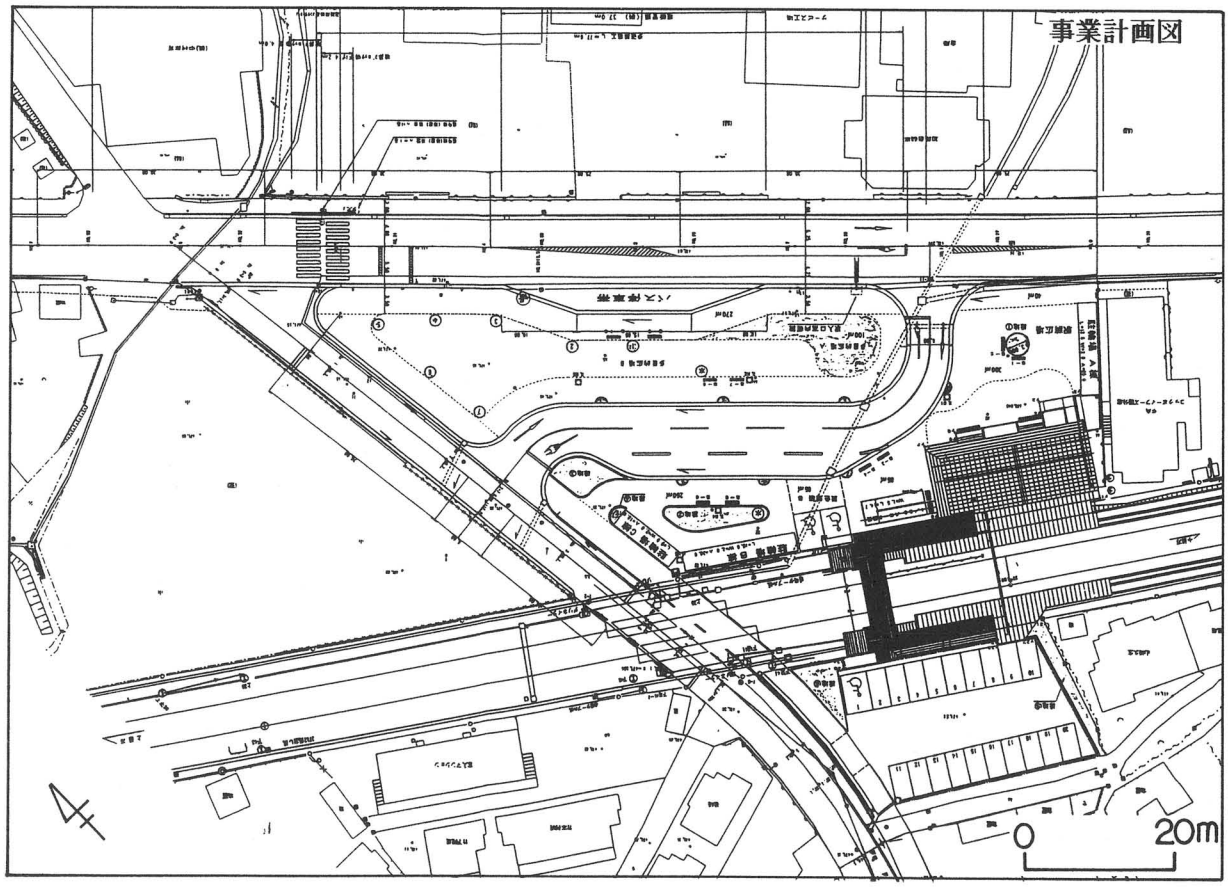
１０月２７日　重機による表土剥作業を開始する。
１１月８日　ガードフェンスを調査地区周辺に設置。
１１月２４日　遺構掘り上げ作業を開始する。
１１月２８日　駅舎建設部分(Ⅱ区)の表土剥作業を開始する。児玉卓文先生来訪する。
１月１５日　水道管移設のための掘削作業を行う。
１月１８日　仮設水道管の埋設。

1月２６日　　雪かき作業を行う。
1月２９日　　また雪かき作業を行う。
2月１日　　Ⅱ区の検出作業及び第４号溝跡と第７号竪穴住居址の掘り上げ作業。
2月１６日　　第７号竪穴住居址のセクション図作成。
2月２６日　　作業現場がぬかるんで、調査困難な日が続く。
3月９日　　現地説明会を実施する。
3月１４日　　調査地区内を清掃する。
3月１５日　　航空測量を行う。
3月１６日　　機材撤収作業。

以後、埋蔵文化財整理室において整理作業を実施し、平成13年度に本書である調査報告書の刊行を行い、調査事業を終了した。



第１図　グリット設定図



第２図　調査位置図及び事業計画図

第二章　遺跡の環境

第１節　　自然的環境

上田市は、上田盆地とその西方に接する塩田盆地を中心に展開している。これらの盆地は、ともに三角形で、周辺はそれぞれ第三系の基盤に囲まれている。また、両盆地の境界を千曲川が北西に流下している。

今回の調査地である国分寺周辺遺跡群が所在する上田盆地は、北方を底辺とする逆三角形で、一辺はほぼ10km である。北方の基盤は太郎山山地で、南面は急峻な斜面で上田盆地に接している。南西方の基盤は小牧山山地である。東方の高まりは基盤ではなく、第四系の烏帽子岳火山となっている。また、盆地の東縁には神川が南西に流下している。

上田盆地の平坦面および段丘面は、高位から虚空蔵山面、染屋面、上田城面が主なるもので、さらに低位に千曲川及び神川に沿った段丘面がある。虚空蔵山面から上田城面までは東方に高く、千曲川に向かって傾斜し、また、北方の太郎山山地からは南方に傾斜している。従って、現在の上田盆地は上田城を中心とする盆状の地形となっている。また、虚空蔵山面、染屋面は西方に傾斜し、上田城面はほとんど水平である。すなわち、古い面ほど勾配が大きい。これは古い面ほど上部が上昇したことを示している。

この内、遺跡が位置するのは、千曲川及び神川に沿った段丘面である。千曲川及び神川によって形成され、堆積物は砂層を挟む円礫層である。これらは大きく３面に区分され、調査地はその中で最も上位の面にある。この面は神川沿いをも平行に分布し、虚空蔵山面と染屋面を切っている。このことは神川の形成は染屋面の形成後の比較的新しい時期であることを示している。また、神川は上田城面も切っているが、このことが、即、神川が上田泥流の堆積後に形成されたことを意味していない。神川が流れている時期に上田泥流が発生し、神川を越えて上田盆地に達し、盆地を埋積したが、その後神川が更に上田泥流堆積物を切って流れて現在に至っていると考えられる。

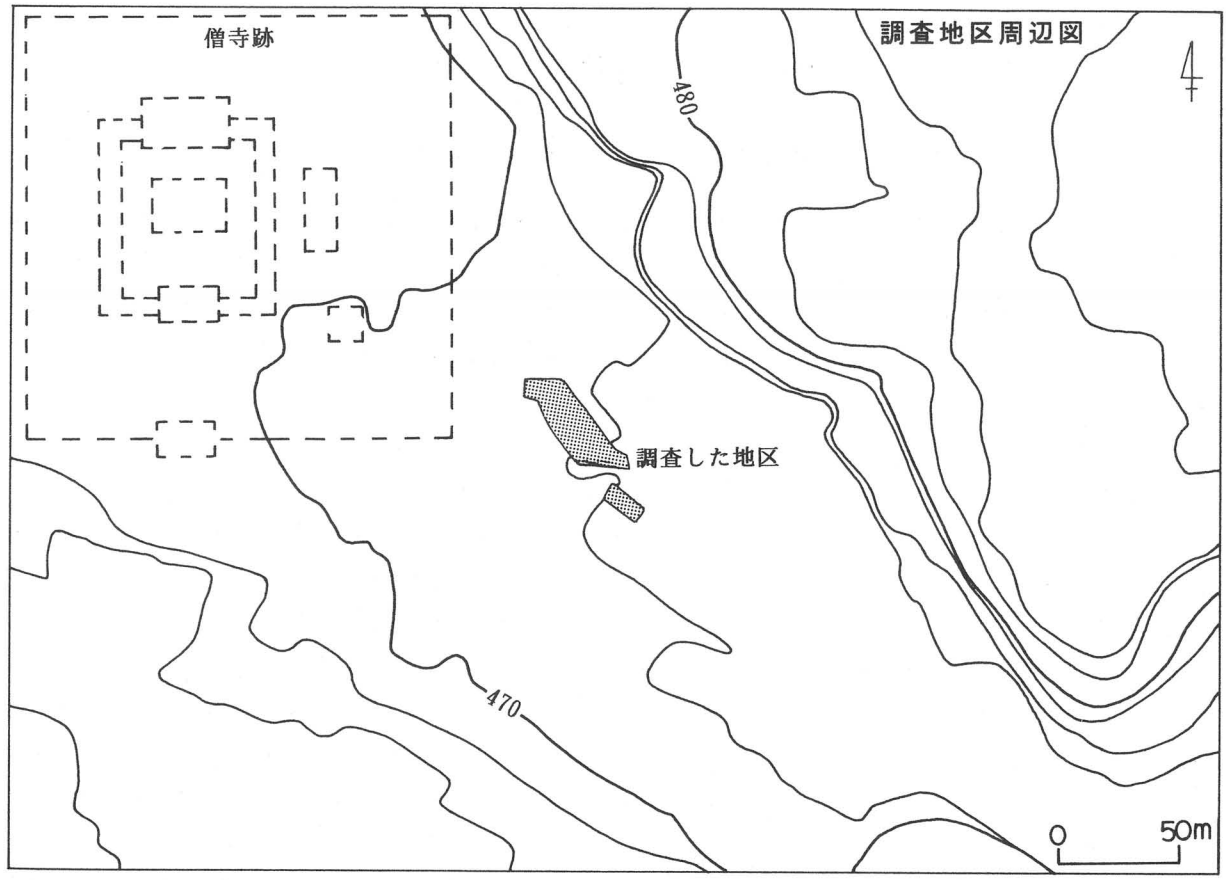
上田盆地付近の地質は、基盤の第三系が落ち込み、これを埋めて第四系が堆積したものである。また、第四紀の烏帽子岳火山の高まりがある（第３図）。

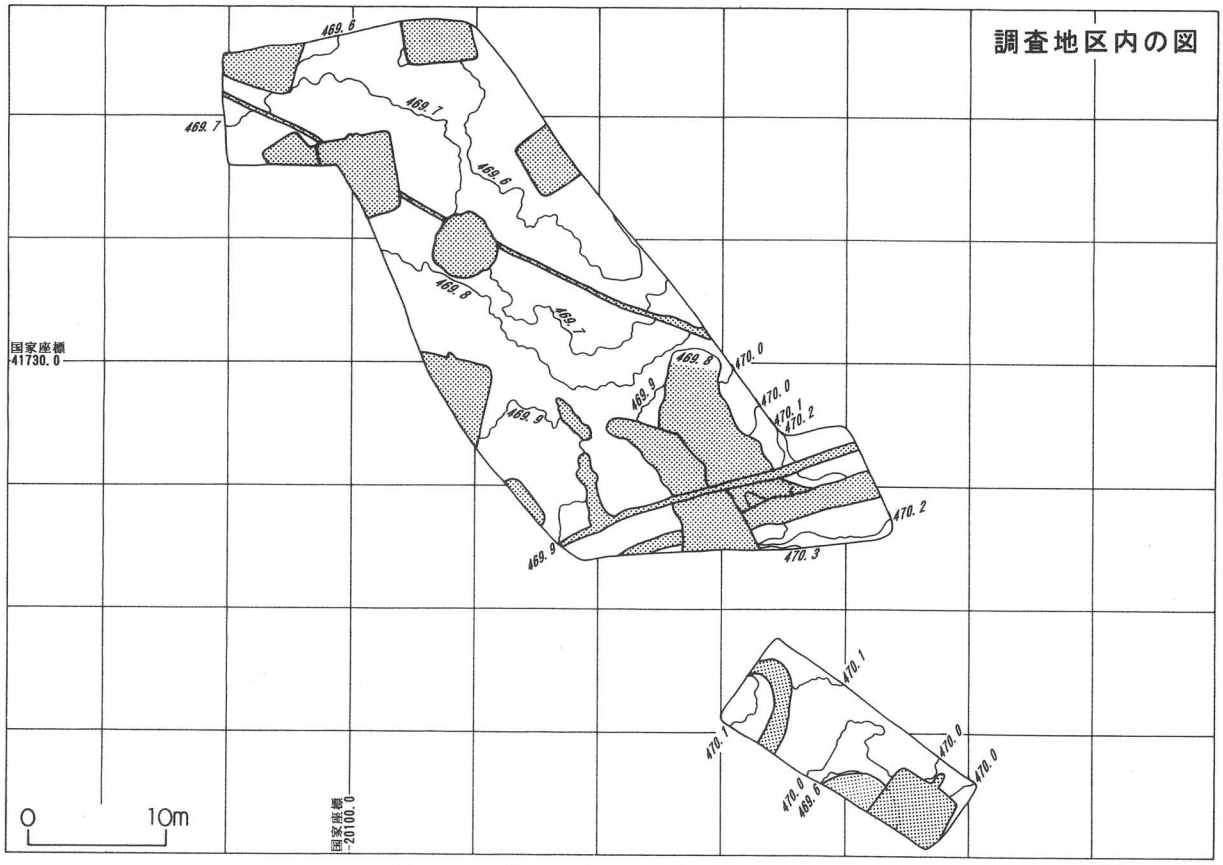
この付近の第三系は中新世の内村層・別所層・青木層及び鮮新世の小川層である。

北方の太郎山山地のものは、大部分は内村層で東部の伊勢山付近には別所層が分布する。黄金沢でよく観察される。沢の入口付近では緑色凝灰岩と黒色頁岩の互層で、上流では緑色凝灰岩及び緑色化した火山岩を主とした岩層である。小牧山山地の基盤は青木層及び小川層で、北西部に青木層が、また南東部に小川層が分布している。青木層は主に礫岩層・砂岩層で泥岩層を挟んでいる。小川層は礫岩層・砂岩層・泥岩層の互層で、白色凝灰岩と亜炭薄層を挟んでいる。泉田山塊を形成する基盤は、主に別所層の黒色頁岩であるが、このなかにヒン岩の岩脈が貫入している。

上田盆地の地下には別所層及び青木層が分布するものと推定される。

第四系は、虚空蔵山層、染屋層、上田泥流堆積物である。虚空蔵山層は、岩清水、虚空蔵山、太郎山の麓の尾根を構成して分布する。基盤の礫を含む礫層、烏帽子火山噴出物及びその礫を主とする礫岩層である。染屋層は、上田市の染屋台の平坦面下を構成する粘土層及び砂礫層の湖成層で、下部層と上部層に区分される。下部層は成層した粘土層及び砂礫層の湖成層で、上田盆地一帯に分布する。上部層は、虚空蔵山層と上田泥流堆積物の分布地域の間に分布し、礫層を主体とし、砂層を挟んでいる。また、最上部を砂状浮石層が覆っている。この層は千曲川、烏帽子火山山系から河川によって運ばれたものと考えられる。上田泥流堆積物は、上田城面を覆う火山性泥流堆積物（火山学名：岩屑なだれ）である。千曲川に沿って上流に分布する





第３図　調査地区及び周辺地形図

が、広い面を構成するのは上田盆地の中央部に限られている。安山岩の角礫がまばらに火山灰のマトリックス中に存在する。安山岩にはいろいろな種類がある。火山岩体の大崩壊によって大規模な泥流が発生し、途中の諸種の火山岩を取り込んだと思われる。

第２節　　遺跡とその周辺のこれまでの調査

「国分寺周辺遺跡群」は、現在の上田市神川地区に展開している。その周辺を含めたこの地域の地形は、平坦面である上田城面のほか、千曲川及び神川によって形成された複数の段丘面によって構成され、複雑な様相を呈している。そのような環境の中で、この地域には「国分寺周辺遺跡群」の他にも上田・小県地方屈指の大遺跡と呼ばれる幾つかの遺跡が存在する。当地が奈良時代から平安時代にかけて信濃の中心的な役割を果たす地域に発展した基盤は、これらの遺跡が大きく係わっていたものと考えられる。

「国分寺周辺遺跡群」は千曲川の形成した河岸段丘面に立地し、上田城面より一つ及び二つ下位の平坦面に所在している。この「国分寺周辺遺跡群」の北に隣接して、「国分遺跡群」がある。「国分遺跡群」は、遺跡群を構成する遺跡のうち信濃国分寺瓦窯址を除けば、上田城面に立地している。「国分遺跡群」と「国分寺周辺遺跡群」の範囲にまたがって、国指定史跡の「信濃国分寺跡」がある。僧寺と尼寺は、上田城面より下位の千曲川形成の河岸段丘面上に立地しているが、史跡範囲は、南西側は同じ面の河岸段丘崖上まで、北側は上位上田城面の現国分寺の所在地まで、東は上田城面にある国分八幡神社までとされている。また、「国分遺跡群」と同じ上田城面には、北西に隣接して「常入遺跡群」がある。その他、「国分遺跡群」の北方、一つ高位の染屋面には、「染屋台条里水田跡遺跡」がある（第４図、第１表）。

１．信濃国分寺跡

奈良時代に建立された信濃国分寺跡推定地の研究は、明治から大正時代になると小山真夫、重田定一、藤沢直枝らの研究によって現国分寺の位置ではなく、その南側段丘下の水田地帯に所在するという説が一般的になる。仁王堂地籍には、古くから一段高い部分が残っており、大きな礎石群が存在していた。この一帯に創建信濃国分寺が埋没していると想定され、昭和５年にはその部分が文部省指定史跡となる。

戦後、付近の開発が急速に進み、遺跡の破壊が懸念されるようになった。昭和 36 年発掘調査を国庫補助事業で申請したが、補助金が得られず実施に至らなかった。同年、上田小県誌刊行会、信州社会科研究会上小支部、八日堂復興会等の団体が県議会、県教育委員会、県知事に対し陳情を行った。「重要な遺跡が住宅、商店、工場等の建設により調査の機会を失い、わが国史学上の損失はもとより本県文化の歴史的あるいは考古学的究明に大損失であり、悔いを百年後にのこす結果となることを恐れるので、その遺跡の性格上から県事業として、貴重な埋蔵文化財である信濃国分寺跡の発掘調査を実施して欲しい」といった内容のものであった。

昭和 38 年に国庫補助と県費補助を得て第１次緊急発掘調査が行われた。一方、土地所有者等は信濃国分寺跡緊急発掘調査及び史跡指定反対同盟会を発足し、調査にあたっての要望事項 11 項目を提出した。しかし、昭和41 年に第２次緊急発掘調査、昭和 42 年に第３次緊急発掘調査が行われるなかで地域住民の関心は高まり、積極的な協力を得て史跡公園計画の構想が生まれた。さらに昭和 43 年には史跡の追加指定が行われた。

その後、昭和43 年から 46 年まで史跡保存環境整備の事前調査としての発掘調査を４回実施した。全部で７回にわたる調査の結果、伽藍の全貌と多くの出土資料を提供した。更にその所在がいくつか推定されていた尼寺跡についても、候補地の一つとなっていた僧寺跡の西側約 200m にあたる明神前地籍からその遺構を

発見した（第４図⑧）。

第１次緊急発掘調査では、金堂と推定されていた「仁王門跡」という場所を調査し、僧寺講堂跡であることが解明された。さらにその南側に金堂跡が発見され、軒丸瓦、軒平瓦、素文の鬼瓦、鉄釘、須恵器、土師器が出土した。一方、塔跡、中門跡、南大門跡、廻廊跡、僧坊跡の推定地を試掘したが、結論を出すには至らなかった⑥。

第２次緊急発掘調査では、尼寺の推定地となっていた道場から明神前地籍を調査し尼寺金堂跡の雨落溝が三方で検出された。多量の瓦類、鉄釘、古銭や円面硯等が発見された⑦。

第３次緊急発掘調査では、中門と講堂を結ぶ廻廊跡が発見された。尼寺では、金堂跡の再確認と講堂、東門跡や四至の調査が行われた。瓦窯跡の調査も行われた⑧。

第１次整備発掘調査（通称第４次調査）では、僧寺講堂の内部と北側雨落溝の確認などが行われ、特徴ある講堂跡の解明がなされた⑨。

第２次整備発掘調査（通称第５次調査）では、尼寺金堂跡を中心にこれまで確認できなかった個所を究明するための調査が行われた。金堂跡内部、講堂跡、中門跡、廻廊跡、尼坊跡、北門跡等の調査が行われた⑩。

第３次整備発掘調査（通称第６次調査）では、僧寺金堂跡内部の規模が明らかになり、塔跡、僧坊跡が確認された⑪。

第４次整備発掘調査（通称第７次調査）では、僧寺中門跡と廻廊、金堂南隅の雨落溝、尼寺跡の尼坊、経蔵等の遺構が確認された⑫。

これらの調査は、信濃の古代史解明に大きな役割を果たしたことは言うまでもなく、調査後の今日でも瓦や土器等の出土遺物、伽藍配置、寺の存続時期、さらには伽藍地周辺の遺跡、国府または条里的遺構との関係などについてあらゆる角度から活発な論議がなされている。

なお、その後も、史跡指定地内において現状変更申請や史跡整備による事前調査が実施されたが、これについては国分寺周辺遺跡群の仁王堂遺跡及び明神前遺跡の部分でまとめて述べたいと思う。

２．国分遺跡群

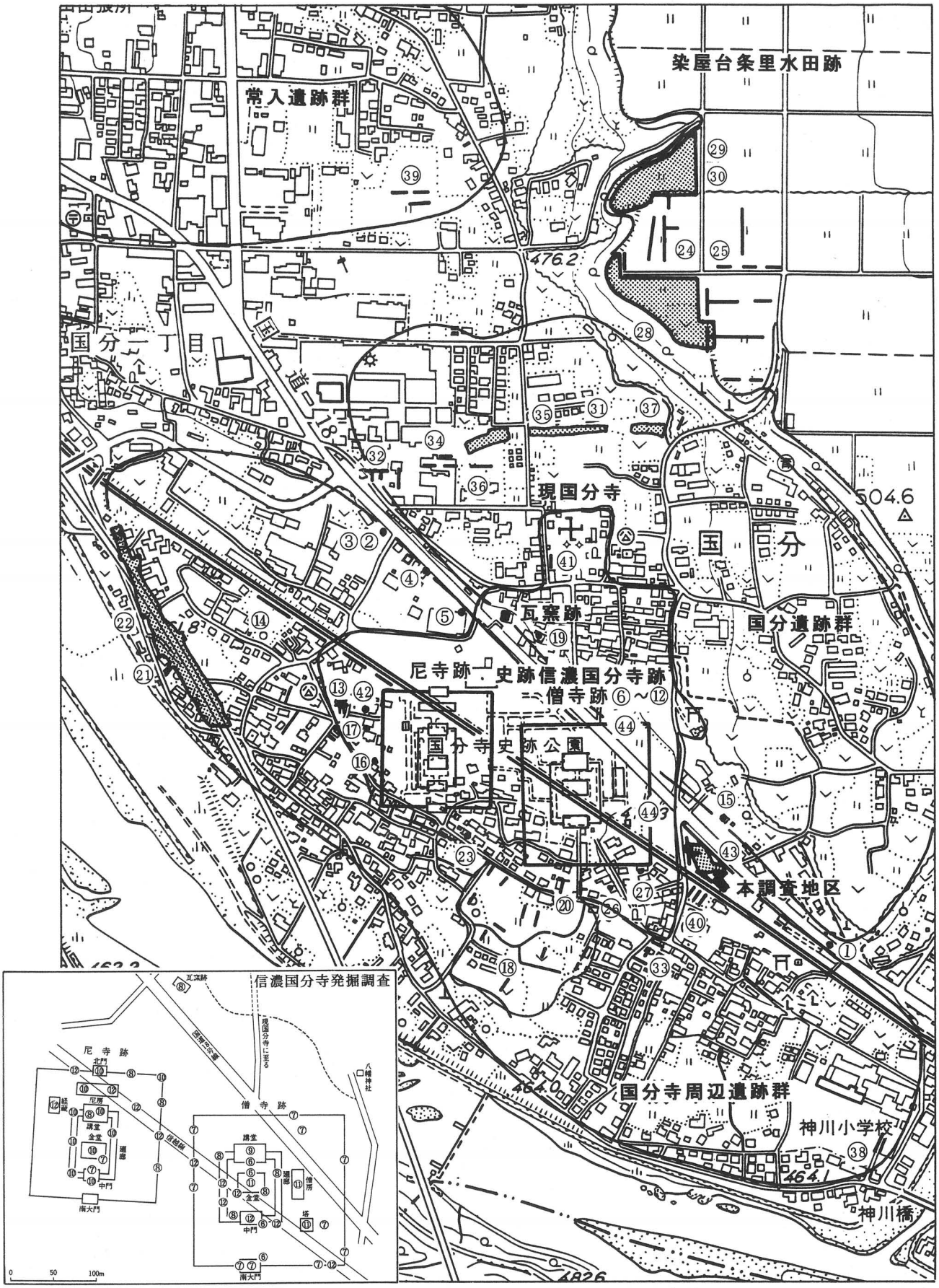
「国分遺跡群」は、上沢沖遺跡、古城遺跡、堂浦遺跡、屋敷遺跡、堂西遺跡、信濃国分寺瓦窯址からなる遺跡群である。今回の調査地は国分遺跡群中の堂浦遺跡に所在する。

国分八幡神社東方に広がる**上沢沖遺跡**は、弥生時代後期の箱清水土器、古墳時代後期以降の土師器及び須恵器が豊富に採集されている。

屋敷遺跡は現国分寺の西方にあたる国分集落内に広がり古墳時代後期以降の土師器や須恵器が採集され、堂浦遺跡同様に重要な遺跡と考えられる。平成 12 年に国分寺境内において参詣社休息施設を建設するとして、史跡指定地内の現状変更申請により事前調査が実施された。遺構は、掘立柱建物を構成すると思われるピット群が検出され、遺物は、古瓦、土師器、須恵器とともに土師質土器や陶器、磁器が出土し、現国分寺が創建されてから現代に至るまで断続的に建物が存在したことが分った㊶。

堂浦遺跡は現国分寺の北方に位置し、昭和 52 に刊行された年上田市教育委員会『上田市の原始・古代文化』によると、再建国分寺跡の伽藍の一部と推定される礎石群が水田地帯から確認されている。その東方の微高地からは土師器、須恵器及び施釉陶器が濃密に分布していることが確認されている。

平成９年度、市道川辺町国分線建設用地の遺構の有無を確認するために、現国分寺北西の堂西地籍から堂浦地籍においてトレンチ調査を行った㉜。続いて平成 11 年度、現国分寺北西から北東においてトレンチ調査を３回にわたって行った。ピット、溝跡及び道路状遺構と土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦等が検出された。また、道路状遺構は南側にまで伸びていることが確認された ㉟㊱㊲。この結果により、平成９年度と平成



第４図　国分寺周辺遺跡群とその周辺遺跡

No.	調査名	調査日	場所（小字名）	備考	参考文献
1	神川浦沖遺跡発掘調査	S24.1	浦沖	縄文時代の竪穴住居址と中期・後期の土器、石斧、石皿、石棒ほか	五十嵐幹雄 1985「浦沖遺跡と遺物覚書書」『上小考古』19、八幡一郎 1949「信濃小県郡沖浦遺跡の発見」『人文学舎報』1
2	尼寺推定地現地調査	S26	道場（名所「二寺のどう」）	僧寺と同じ宇瓦	宮下真澄 1963「国分尼寺趾考」『信濃』15－11
3	尼寺推定地現地調査	S26	道場から明神前周辺	八葉複弁蓮華文鐙瓦	東信史学会編集部 1982「大発掘をもたらした古瓦」『千曲』33、黒坂周平 1980「国分寺創建」『上田小県誌』第一巻歴史編上（二）古代中世、ほか
4	発掘調査(店舗改築工事立会い)	S36	道場 989（名所「正明寺」又は比丘尼井戸西）	十二葉素弁蓮華文鐙瓦、青磁碗、天目茶碗など（瓦、土師器、須恵器、青磁、白磁）	宮下真澄 1963「国分尼寺趾考」『信濃』15－11
5	道場廃寺趾発掘調査	S38.8	道場 1003（名所「比丘尼井戸」）	トレンチ調査　石積み、河原石の配列瓦、土師、須恵、陶器、青磁、古銭、ほか	宮下真澄 1963「国分尼寺趾考」『信濃』15－11、染谷丘高等学校歴史班 1965「上田市国分道場廃寺趾の調査」『あづまや』2
6	第１次緊急発掘調査	S38.3	仁王堂	僧寺講堂基壇、金堂跡雨落溝　鐙瓦、宇瓦、鬼瓦、鉄釘、須恵、土師	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、ほか
7	第２次緊急発掘調査	S41.3	仁王堂　道場明神前	僧寺伽藍地、尼寺金堂跡の雨落溝瓦、鉄釘、古銭、円面硯	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、上田市教育委員会 1966『信濃国分寺跡第二次緊急発掘調査概報』ほか
8	第３次緊急発掘調査	S42.3	仁王堂、明神前	僧寺中門と講堂を結ぶ廻廊、瓦窯跡、尼寺金堂及び講堂、尼寺東門及び四至	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、上田市教育委員会 1967『信濃国分寺跡第三次緊急発掘調査概報』ほか
9	第１次整備発掘調査（通称４次調査）	S43.11	仁王堂	僧寺講堂内部及び北側雨落溝	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、ほか
10	第２次整備発掘調査（通称５次調査）	S44.8.9,11~12	明神前	尼寺金堂内部及び講堂、中門、廻廊、尼坊、北門	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、ほか
11	第３次整備発掘調査（通称６次調査）	S45.11~12	仁王堂	僧寺金堂内部及び塔、僧坊	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、ほか
12	第４次整備発掘調査（通称７次調査）	S46.7~8	仁王堂、明神前	僧寺中門及び廻廊、金堂南西隅の雨落溝、尼寺の尼坊及び経蔵	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、ほか
13	明神前遺跡発掘調査	S46	明神前	八葉複弁蓮華文・ほか鐙瓦、竪穴式建物跡９軒、カマド７基、タタラ跡　須恵器、土師器、瓦、墨書土器、灰釉、羽口、鉄滓、釘、鍬、鎌、ほか	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、上田市教育委員会 1971『史跡信濃国分寺跡及び堂西遺跡調査報告書』
14	西沖遺跡 A･B･C･D 地区発掘調査	S46	西沖	竪穴式建物跡３軒、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉椀、人骨	上田市教育委員会 1974『信濃国分寺－本編－』、上田市教育委員会 1971『史跡信濃国分寺跡及び堂西遺跡調査報告書』
15	水野遺跡発掘調査	S41.8.18~20	仁王堂 1182～1188	トレンチ調査　建造物の遺跡と思われる配石群　土師器、瓦	五十嵐幹雄 1971「長野県上田市国分水野遺跡」『考古学年報』19、ほか
16	明神前遺跡発掘調査（史跡現状変更による事前調査）	S51.12.20~52.1.18	明神前	住居址（カマド跡）　瓦、釘、土師器、須恵器	川上元・林和男 1981「明神前遺跡と信濃国分寺」『千曲』31
17	史跡信濃国分寺跡（史跡現状変更申請による緊急発掘調査）	S63.4.4~5.19	明神前	住居址２軒、ピット、溝（平安時代後半～中世）土器、瓦、石製鋸	上田市教育委員会 1989『史跡信濃国分寺跡』
18	北陸新幹線代替地造成に係る国分寺周辺遺跡群の事前調査	H3.12.5,6	堀東沖 1509-1 1508-1 1508-2 1491 1482-1 1485 1456 1483	トレンチ調査 10 本　Tr-23A ２条の溝、Tr-23B １条の溝、Tr-30 土師器出土	上田市教育委員会 1992『市内遺跡』
19	史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H4.9.9	仁王堂 1115-8	トレンチ調査　遺構無し	上田市教育委員会 1993『市内遺跡Ⅱ』
20	史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H4.9.11 H5.2.11	堀東沖 1203 1512-6 1512-7	トレンチ調査　遺構無し	上田市教育委員会 1993『市内遺跡Ⅱ』
21	新幹線及び仮称下堀バイパス建設に係る国分寺周辺遺跡群事前調査	H5.12.20~21	西沖	トレンチ８本、高い密度で遺構、遺物が確認	上田市教育委員会 1994『市内遺跡Ⅲ』
22	北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査（国分寺周辺遺跡群）	H5.12.20,21 H6.9.~H7.1.31 8.1~9.29	西沖	弥生～平安等 206 軒　建物、土坑、溝ほか	(財)長野県埋蔵文化財センター1998『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書』2
23	史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H6.9.16	堀東沖 1515-2	トレンチ２本　遺構は存在しなかった	上田市教育委員会 1995『市内遺跡Ⅳ』

24	上田市立第一中学校建設に係る染屋台条里水田跡遺跡の事前調査	H6.11.7,8,10,11	古城・上沖・大沢	トレンチ調査15本　Tr01,04,07,11より遺構（住居址、溝、土坑等）遺物（土師など）	上田市教育委員会1995『市内遺跡Ⅳ』
25	上田市立第一中学校建設に係る染屋台条里水田跡遺跡の事前調査	H8.2.15,16	古城・上沖・大沢	トレンチ調査10本　住居址、ピット	上田市教育委員会1996『市内遺跡Ⅴ』
26	史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H7.10.9	仁王堂1198-2	トレンチ調査４本　Tr-1~3から奈良、平安、古墳時代の遺構、遺物	上田市教育委員会1996『市内遺跡Ⅴ』
27	史跡現状変更による信濃国分寺跡の事前調査	H7.12.4	仁王堂1200-8	トレンチ２本　奈良、平安の遺物・遺構	上田市教育委員会1996『市内遺跡Ⅴ』
28	古城遺跡発掘調査（上田市立第一中学校建設に係る）	H8.4.3~5.31	上沖	遺構（住居址７軒、ピット、土坑）遺物（九葉単弁蓮華文軒丸瓦、土師器、灰釉陶器、瓦など）	上田市教育委員会1997『古城遺跡』
29	国分産業団地造成工事に係る上沖遺跡の事前調査	H9.2.24~27	上沖	トレンチ調査24本　Tr-18～24から土壙、ピット、溝状遺構、竪穴住居址	上田市教育委員会1997『市内遺跡Ⅵ』
30	上沖（大沢）遺跡発掘調査（国分産業団地造成工事に伴なう）	H9.4.21~7.8	上沖	古墳中期、平安前期、平安終末期の集落跡及び墓跡　竪穴住居址３、掘立柱建物12、ピット、土坑、溝ほか、遺物は土師器、灰釉陶器、青磁など	上田市教育委員会1998『上沖(大沢)遺跡』
31	国分遺跡群発掘調査（市道川辺町国分線建設に伴なう）	H9~H11	堂浦	掘立柱建物跡、土坑、溝など　土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁、瓦、鋳型など	本書で報告
32	市道川辺町国分線建設に係る国分遺跡群の事前調査	H10.1.26,27	堂西　堂浦	トレンチ４本のうちTr-01から土師器Tr-04より遺構、土師器、須恵器、灰釉陶器	上田市教育委員会1998『市内遺跡』
33	共同住宅建設に係る国分寺周辺遺跡群の事前調査	H10.3.20 12.22	堀東沖1474-2ほか	トレンチ調査３本　遺構無し　遺物Tr-01,2より土師、須恵少量	上田市教育委員会1999『市内遺跡』
34	市道川辺町国分線建設に係る国分遺跡群の事前調査	H10.6.4	堂西　堂浦	トレンチ調査３本　Tr-05より須恵器片、遺構無し	上田市教育委員会1999『市内遺跡』
35	市道川辺町国分線建設に係る国分遺跡群の事前調査Ⅰ	H11.4.21	堂浦	トレンチ調査４本　Tr-8,9,11より掘立柱建物、溝及び奈良、平安の土師器、須恵器	上田市教育委員会2000『市内遺跡』
36	市道川辺町国分線建設に係る国分遺跡群の事前調査Ⅱ	H11.7.17	堂浦	トレンチ調査２本　溝出土	上田市教育委員会2000『市内遺跡』
37	市道川辺町国分線建設に係る国分遺跡群の事前調査Ⅲ	H11.7.6	堂浦　古城	トレンチ調査４本　Tr-13,14より溝、奈良・平安時代の土師器、須恵器、瓦、Tr-15より土師器、須恵器、灰釉陶器	上田市教育委員会2000『市内遺跡』
38	上田市立神川小学校屋内運動場改築工事に係る国分寺周辺遺跡群の事前調査	H11.11.8	加賀川原	トレンチ調査４本　遺構、遺物無し	上田市教育委員会2000『市内遺跡』
39	共同住宅建設に係る常入遺跡群の事前調査	H12.4.3	久保田	トレンチ調査３本　Tr-03から溝状遺構	上田市教育委員会2001『市内遺跡』
40	国分ふれあい・(仮称)国分新駅駅前広場整備事業に係る国分寺周辺遺跡群の事前調査	H12.5.11,12 6.19	仁王堂　浦沖1245-1ほか	トレンチ調査６本　遺構、遺物出土（縄文・奈良・平安）	上田市教育委員会2001『市内遺跡』
41	史跡現状変更による史跡信濃国分寺（国分遺跡群）事前調査	H12.7.31 8.7 9.1	仁王堂・屋敷1027（現国分寺境内）	遺構（ピット群）　遺物（土師器、須恵器、陶磁器、瓦など）	上田市教育委員会2001『市内遺跡』
42	史跡現状変更による史跡信濃国分寺（国分寺周辺遺跡群）の事前調査	H12.10.2,11	明神前1845-1 1846-2 1847-2	遺構（住居址、ピット、土坑）　遺物（墨書土器、須恵、土師、灰釉、瓦など）	上田市教育委員会2001『市内遺跡』
43	国分寺周辺遺跡群発掘調査（国分ふれあい・仮称国分新駅駅前広場整備事業に伴う）	H12.10.27~H13.3.15	仁王堂　浦沖	遺構（住居址、ピット、土坑、溝）遺物（土師、須恵、灰釉、縄文、弥生、瓦など）	平成13年度報告
44	史跡保存整備による信濃国分寺跡の事前調査	H12.12~H13.2	仁王堂	建物遺構の可能性がある扁平な石を敷いた遺構	

第１表　国分遺跡群とその周辺遺跡一覧表

11年度に発掘調査を行った。

古城遺跡は現国分寺東北方にあり、染屋面段丘崖下から古墳時代後期以降の土師器が採集されている。1997年には上田市立第一中学校建設工事に伴ってその段丘上が発掘調査された。これについては染屋台条里水田跡遺跡の部分で後述する。

堂西遺跡は、現国分寺の北西の方に存在する。ここからは縄文時代の石棒、弥生時代後期の箱清水土器、古墳時代後期以降の土師器、須恵器などが採集されているが、すべてが、連続した遺跡とされるか今のところ明確ではない。平成9年度、市道川辺町国分線建設用地の遺構の有無を確認するために、現国分寺北西の堂西地籍から堂浦地籍においてトレンチ調査を行った。4本のトレンチの内、1本から、土師器片が1点と別のトレンチ1本から遺構と土師器、須恵器、灰釉陶器が出土した。つづいて翌10年度、その西側について遺跡の有無を確認するためにトレンチが入れられたが、他所からの流れ込みと思われる少量の遺物が検出された㉞。

信濃国分寺瓦窯跡は昭和42年、尼寺金堂跡北東200mの地点の国道18号線北側で上田城面の崖下から2基並列して検出された。整地作業中に偶然発見されたものであるが、工事が中止され国分寺調査の一環として学術的な調査を行うことになった。瓦などを使って構築したロストル式平窯で、平安時代初期の国分寺の補修用瓦を焼いた窯跡と考えられる。

3．国分寺周辺遺跡群

「国分寺周辺遺跡群」は、浦沖遺跡、前田遺跡、堀東沖遺跡、仁王堂遺跡、明神前遺跡、堀遺跡、西沖遺跡、道場廃寺遺跡等からなる。

浦沖遺跡は、史跡信濃国分寺跡東方に隣接し、縄文時代中期から後期の土器や石器、弥生時代後期の箱清水式土器及び、古墳時代後期以降の土師器と須恵器の破片が豊富に採集されている。昭和24年に八幡一郎の指導のもとに上小地方における戦後最初の考古学的調査が行われている。「浦沖遺跡と遺物覚書」（五十嵐幹雄1985『上小考古』19及び八幡一郎1949「信濃小県郡沖浦遺跡の発見」『人文学舎報』1）によると、国道18号線の神川橋のすぐ西側で国道を開通させるために崖の傾斜面を切り取る工事をしている際に遺物等が発見されたものである。縄文時代の竪穴住居址と中期から後期の土器、石斧、石皿、石棒等が検出された①。

平成12年、しなの鉄道の大屋・上田間に新駅が建設されることが計画され、試掘調査を実施した㊵。その結果、遺構と縄文土器、弥生土器、土師器、灰釉陶器等が検出されたため、同年発掘調査が行われた㊸。

前田遺跡からは、縄文時代中期の土器片が採集されている。平成10年、堀東沖地籍と前田地籍の境界付近の旧道沿いにおいて共同住宅建設が予定され、事前に試掘調査を実施した。少量の遺物が出土したが、他所からの流れ込みと判断された㉝。平成11年、この遺跡に隣接する加賀川原地籍において、神川小学校屋内運動場改築工事予定され、事前に試掘調査を実施したが、この地点には遺跡が広がっていないことが確認された㊳。

堀東沖遺跡は、平成3年に北陸新幹線代替地造成が予定され、遺跡確認のため試掘調査が行われた。10本のトレンチのうち、旧道沿いの2本から1条もしくは2条の溝跡が確認され、その他の1本から僅かな土師器が出土した⑱。平成4年、僧寺南大門推定地の南側の段丘傾斜地付近を個人住宅建設のため、史跡現状変更により事前にトレンチによる試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった⑳。平成6年、尼寺南大門推定地の東側の段丘斜面付近を個人住宅建設のため史跡現状変更により、事前にトレンチによる試掘調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった㉓。

仁王堂遺跡は創建信濃国分寺跡内とその東南方に続き、国分寺跡の年代考証に欠くことができない重要な

遺跡と考えられている。この遺跡からは、弥生時代後期から古墳時代前期の土器、古墳時代、奈良時代、平安時代の土器等も豊富に出土している。ここを中心に昭和38年から46年にわたる調査が行われ、伽藍の全貌と多くの出土資料を提供した。

昭和41年、国分神社の東南の段丘下で国道18号線に沿った地点が上田小県誌刊行会によって発掘調査が行われ、建物の基盤に関係のあると思われる長方形の配石群が2基と少量の布目瓦と土師器等が検出された。この調査は「水野遺跡」と称されて五十嵐幹雄によって報告されている⑮。

平成4年、現国分寺参道の西側段丘下の地点を個人住宅建設のため、史跡現状変更により、事前に4本のトレンチ調査を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった⑲。

平成7年、僧寺南大門推定地の南東の段丘付近を個人住宅建設のため、史跡現状変更により、事前に試掘調査が実施された。3本のトレンチから、遺構と古墳時代、奈良・平安時代の遺物が検出された。これらは保護協議の結果、現状保存された㉖。

さらに同年、その場所から43mほど北東の地点も個人住宅建設のための史跡現状変更により試掘調査を行い、遺構と奈良・平安時代の遺物が多数出土した。これらは保護協議の結果、現状保存された㉗。

平成12年、しなの鉄道の大屋・上田間に新駅が建設されることが計画され、事前の調査を実施した。その結果、遺構と土師器、須恵器等が検出されたため、同年発掘調査が行われた㊵㊸。

同年、史跡保存環境整備の事前調査として国道18号線の北側と南側の用地買収地を調査した。この場所は、前述した国分寺発掘調査の結果によって僧寺跡の北築地塀と東築地塀が想定されている地域である。その想定ライン上に3×3mのグリッド列を直行するように設定して築地遺構の確認を行ったが、いずれのグリッドにおいても築地塀の存在を思わせる版築や土塀の崩れた痕跡は検出されず、板塀や堀の跡についても確認できなかった。北側地区の南端のグリッドにおいて、扁平な石を敷いた遺構が確認された。この遺構の所属時代は今のところ判然としていない。その形態から国分寺に伴う建物遺構の可能性があるが、この遺構の主軸方向は僧寺主軸方向よりやや西に振れており、時期的な差異が想起されている㊹。

明神前遺跡は、信濃国分尼寺とその西方に隣接する遺跡であり、大正14年の旧上田・丸子電鉄の施設工事によって大規模に破壊された。

昭和46年の信越線の複線化に伴う発掘調査が行われ、『史跡信濃国分寺跡及び堂西遺跡調査報告書』として刊行された後、『信濃国分寺－本編－』においては、堂西遺跡D地区は「明神前遺跡」として紹介されている。遺構は重複する9基の方形の竪穴遺構や創建国分寺の平瓦等をカマドに用いた遺構が発見されて、国分寺との関わりが論じられた。遺物は、国分寺創建期の八葉複弁蓮華文などの軒丸瓦、平瓦、土師器、灰釉陶器のほか多数の墨書土器が出土した。これらの遺構は土器の様相より平安時代のものとされた。また、鍛冶工房跡や羽口、鉄滓などの出土から国分寺営繕施設の修理院の可能性もあるとされている（上田市立信濃国分寺資料館 1995「Ⅱ信濃国分寺の関連遺跡」『東国の国分寺』）。墨書土器の解釈として、「講院」について平成12年刊行の『上田市誌』歴史編（3）では講師院の略称と考えられ講師の居場所を示す墨書とみている⑬。

更に昭和51年、尼寺金堂跡の西方約70mの地点で個人住宅新築工事が予定され、史跡現状変更が申請された。事前に発掘調査が実施され、「明神前遺跡と信濃国分寺」（川上元・林和男 1981『千曲』31）に報告された。国分寺創建期の平瓦をカマドに用いた竪穴住居址が検出された。遺物の様相から8世紀中頃のものと考えられ、国分寺造営に携わった人々の住居址であろうと推定された⑯。

昭和63年、史跡公園の南西隅に隣接する地点が、個人住宅新築による史跡指定地内における現状変更に伴って発掘調査された。平安時代後期の竪穴住居址2軒と土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、鉄釘、鉄滓などが確認された。この場所は尼寺の西限と推定される地点にあたっていたが、築地塀跡の痕跡は確認できなかった⑰。

平成 12 年、堀川神社と尼寺の西側築地塀推定地の中間にあたる地点において、個人住宅建設により史跡指定地内の現状変更申請による事前の発掘調査を実施した。調査は遺跡保護のため現状保存を目的としたため、詳細は不明であるが古墳時代から平安時代にかけてのものと思われる竪穴住居址５軒と土坑及びピットが検出された。遺物は墨書土器が７点出土したほか、古瓦や土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄滓が出土した㊷。

明神前遺跡の南方にあたる**堀遺跡**からは、弥生時代後期の箱清水式土器の破片等が出土している。

その西側の**西沖遺跡**は、昭和 46 年に信越線（現しなの鉄道）の複線化に伴う発掘調査が行われ、『史跡信濃国分寺跡及び堂西遺跡調査報告書』として刊行された後、『本編』においては、堂西遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｅ地区を「西沖遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ」として紹介している。平安時代の住居址とその内部から、ほぼ完全な人骨が出土している。その他、少量の弥生時代後期の箱清水式土器と土師器、須恵器及び施釉陶器等の豊富な遺物を出土している⑭。更に、平成５年に北陸新幹線及び市道踏入大屋線建設工事のため、僧寺と尼寺の西方で一段低い段丘面において試掘調査が行われた㉑。翌、平成６年度と７年度に（財）長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われ『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書２』に報告された。その結果、206 軒にも及ぶ弥生時代後期、古墳時代前･中・後期、奈良時代、平安時代等の竪穴住居址をはじめとする遺構、遺物を検出し、この地域における各時代に関する膨大な量の資料を提供した。特に、古墳時代中期・後期に属する遺構密度は最も高く、安定した生活域として占地していたことがわかった。また、奈良時代から平安時代については、国分寺の建立や運営される時期と集落の変容を合わせてみると、国分寺が建立される段階とされる８世紀後半は住居が極端に増加して、新たな集落が構成されていること、さらに国分寺が完成し管理運営され始める９世紀代にはその数が激減していることが明かとなった。このような集落の変容ぶりは、とくに信濃国分寺の建立という大工事に携わる人々の動向に関わる可能性が考えられ、そしてまた９世紀以降の遺構の希薄さは、当地が国分寺の運営施設のある「付属院地」にはあたらず、「伽藍地」と「付属院地」の周辺で栄えた集落「寺地」とする範囲からからも外れているか、「寺地」としてもその中心から離れているものと考えられることが明かになった㉒。

現国分寺の西側に広がる**道場廃寺跡遺跡**は、昭和 30 年代後半の調査等により中世寺院址であることが明らかとなった。それ以前までは、この遺跡が所在する道場地域は丸子町大狭説と並んで信濃国分尼寺跡の推定地の一つとして考えられていた。しかし、地名や伝承を拠りどころとしているのみであり、地域のどこと位置づけされる段階ではなかった。文献では、承応４年（1655）の「国分寺村田畑貫高帳」に「正明寺」「勝妙寺」などの記載がある。また、明治 14 年編集の「国分村誌」には、古跡の項に「村の西の方にあり。里俗伝は往古国分尼寺の跡と云う。今地名を正明寺と云う。古井あり之を尼井と云う。」とある。

昭和 19 年、山浦政を中心とした調査により、山越家文書の享保年間のものと推定されている文書に、「二寺之堂」という地名がありその畑から輪のある石が出たという内容の記載があることが発見された（黒坂周平 1980「国分寺創建」『上田小県誌』第一巻歴史編上（ニ）古代中世）。先に述べた貫高帳にも「二寺のどう」などの地名が記載されている。こうした文献にある二寺のどうや二寺之堂は「尼寺の堂」を意味していると推定され、輪のある石は礎石であろうと考えた。

昭和 26 年に上田･小県誌編纂会が現地調査を行い、この地籍から「信濃国分寺僧寺跡と同じ八葉複弁蓮華文の鐙瓦」、「僧寺と同じ宇瓦」を採集し、道場説に有力な手がかりを得たと考えられた（東信史学会編集部 1982「大発掘をもたらした古瓦」『千曲』33）、（宮下真澄 1963「国分尼寺趾考」『信濃』15－11）②③。さらに、明治時代の「本貫畑方番付帳」や土地台帳等と照合することにより「二寺のどう」と呼ばれる範囲の一部が道場地籍の畑に当たることが明らかとなった（宮下 1963）。

昭和 30 年代に入り、急速な開発により新たな資料が加わり、昭和 38 年、宮下はこれまでの研究の成果を整理し、道場地籍から明神前地籍あたりに注目した。その中で尼寺の創建当初の寺地として最も有力である

のは、明神前の濃厚な古瓦の出土地としている。道場地籍は文献記載の地名をもとに名所「二寺のどう」、名所「正明寺」、「比丘尼井戸」地域の３ケ所に細かく分けて以下のように考察している。

昭和 36 年に「正明寺」推定地付近の畑地を店舗建築のため基礎掘りした際、十二葉素弁蓮華文の軒丸瓦が単独出土し、ついで青磁の碗、黒釉の天目茶碗等が出土し中世寺院址の一部であることがほぼ明らかとなった④。

この東隣の「比丘尼井戸」地域は、昭和 38 年に新潟運輸（株）の上田営業所建設によって上田小県誌刊行会が緊急発掘調査を行った。「上田市国分道場廃寺趾の調査」（染谷丘高等学校歴史班 1965『あづまや』2）によるとその結果、2 基の基壇状の配石遺構とその中間に礎石状遺構と考えられる配石址が検出された。かつて国道 18 号線工事等の際に五輪塔や宝篋院塔等がこの付近から発見されたことなども総合して、遺構は中世寺院址の一部であるとしている。また、比丘尼井戸と呼ばれる井戸も調査され、廃寺趾に属することが明かとなった。遺物は総計 223 点で、そのうち 60%は平安時代の土師器、20%は須恵器が占めており、平瓦は 11 個、丸瓦は 1 個、そのほか灰釉陶器、青磁、天目茶碗、及び「天禧通宝」、「皇宋通宝」、「熙寧元宝」、「元祐通宝」、「慶元通宝」等の宋銭 9 枚などが出土したとされている⑤。

宮下はこれらの調査より、「二寺のどう」、「正明寺」、「比丘尼井戸」地域は一連の寺地として考え、貫高帳が記された近世初期には消失して地名のみを残した正明寺の廃寺跡であろうとした。『本編』では、このことにより信濃国分尼寺跡の可能性は消滅したとしており、昭和 41 年の国分寺第 2 次調査においてこの地域より南隣の明神前地籍に尼寺の金堂跡が発見された。

また、西沖地籍には**西沖１・２号墳**、道場地籍には**道場１・２・３号墳**が。存在した。西沖１・２号墳は、信越線（現しなの鉄道）付近に２基並列していた。１号墳は信越線施設時に破壊された。２号墳は円墳と思われるが、破壊され天井石と側壁が露出し直刀を出土している。道場１・２・３号墳は信濃国分寺跡の西方 300m の段丘崖下に 20m~30m の間隔で並列していた。ほとんどが破壊され、1 号墳からは直刀が出土し、2 号墳からは金環、勾玉などが出土した。

４．常入遺跡群

この遺跡群は、堀之内、上町田、西町田、下町田、中村、手筒山、東町田、藤ノ森遺跡に構成される。**信州大学敷地内遺跡**の名で知る人のほうが多いが、昭和 54 年発行の上田市教育委員会『上田市文化財分布図』では常入遺跡群としている。この遺跡は古くから豊富な土器を出土することが知られていた。大正時代から昭和初期には小山真夫氏や上小教育会の史料調査の委員によって弥生土器が採集、記録され、『上田市史』、『信濃史料』及び五十嵐幹雄の論考にも発見された土器の一部が掲載されるなど、上田・小県地方の弥生研究に重要な役割を果たしてきた。弥生時代後期以外にも、古墳、奈良、平安の各時代に属する遺物を多く出土している。採集された遺物の分布範囲と出土量から、当地方では屈指の大遺跡であると推測され、とくに堀之内遺跡は、創置の信濃国府、中世居館址の推定地として注目されてきた。昭和 41 年に上田小県誌刊行事業推進のため、信州大学繊維学部の桑園の一部が発掘調査された。昭和 45 年の「信大繊維学部敷地内遺跡調査概報」（小林幹男・川上元『長野県考古学会誌』第 9 号）によると、古墳時代中期・後期に属する竪穴住居址 2 軒と未確認遺構が検出され、遺物は、18 点もの完形品が出土するなど保存状態は良好であった。この地方の標識的土器として今日に至っている。

下町田遺跡において、平成 8 年に信州大学繊維学部構内における大学院棟建設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代後期に属する竪穴住居址 10 軒が検出された。

さらに平成 11 年には信州大学遺伝子実験施設の建設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代後期と古墳時代前期の竪穴住居址 25 軒が検出された。

平成12年度に信州大学繊維学部構内において産学官連携支援施設の建設に伴ない発掘調査が実施され、30軒近くの弥生時代後期の竪穴住居址等が検出された。これらの調査により、上田盆地における千曲川流域最大規模の弥生時代後期から古墳時代前期の集落がここに存在していることが裏付けられた。

また、平成12年、本遺跡群の南端に当たり、国分遺跡群に接近している久保田地籍において共同住宅建設が予定され、試掘調査を実施した。調査地の北西部のトレンチから溝状遺構が検出されたが、工事による影響はないことを確認した㊴。

5．染屋台条里水田跡遺跡

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部千曲川と神川に囲まれた段丘上に位置する。この条里水田跡がどの時代まで遡れるのか現在のところ結論が出ていない。また、条里水田跡として一括に括られた範囲の中にいくつかの集落址が存在していることがこれまでの発掘調査で確認されているが、範囲等については未だ明確ではない。昭和57年度から61年度まで、創置の信濃国府跡推定地確認調査が上田市教育委員会によって古里地区の西之手・東之手地籍を中心とした各所において発掘調査を行ったが、明確な手がかりは得られなかった。

最近では、平成7年、パチンコ・パゴパゴ店舗建設に伴ない**大畑遺跡**が調査され、竪穴住居址1軒、掘立柱建物址1棟、溝址7条と青磁蓮弁文碗の破片と宋銭「嘉祐通宝」等が検出された。

平成8年、上田市立第一中学校建設に伴ない**古城遺跡**が発掘調査され、平安時代の竪穴住居址7軒と土坑及びピット群が確認され、黒色土器の坏や長胴甕が検出された。包含層からは、九葉単弁蓮華文軒丸瓦の一部が出土している。これは、『本編』に所収されている現国分寺本堂東南隅から出土したものと同笵と考えられている ㉕㉘。

平成8年・9年にやおふく新店舗建設に伴ない**西之手遺跡**が発掘調査され、古墳時代中期と後期の掘立柱建物38棟と溝址9条等が確認された。同年、この東側に隣接した地域において、市道西野竹14号線代替地取得事業に伴い発掘調査を実施した。掘立柱建物群と溝址等が確認され、遺跡の東側縁辺部が確認された。

平成9年、**上沖遺跡**が国分産業団地造成工事に伴って発掘調査され、古墳時代中期と平安時代前期、終末期の竪穴住居址3軒、掘立柱建物12棟、土坑等が確認された㉚。

第3節　基本層序

調査地の基本層序は、Ⅰ層からⅣ層は、盛土層で宅地及び店舗等の建設の際に耕作地の上に客土されたものである。Ⅴ層からⅧ層は、耕作土であると思われる。Ⅳ層は遺物を包含する。その下の遺構検出面は黒褐（7.5YR2/2～2/3）～暗褐（10YR3/4）色の砂質土である。基本層序模式図と採集地点は第5図に示した。

Ⅰ　7.5YR2/1 黒　3～10cmの砂利を多量に含む。しまりがない。砂質。

Ⅱ　7.5YR6/8 橙　10cm大の礫を多く含む砂利層。鉄分を多く含む。

Ⅲ　7.5YR5/4 にぶい褐～4/6 褐　10cm大の礫、鉄分ブロックを多く含む。ややしまりのある砂質。

Ⅳ　7.5YR5/6 明赤褐～5/4 にぶい褐　3～5cmの砂利、10cmの礫を含む。ややしまりあり、やや粘性。

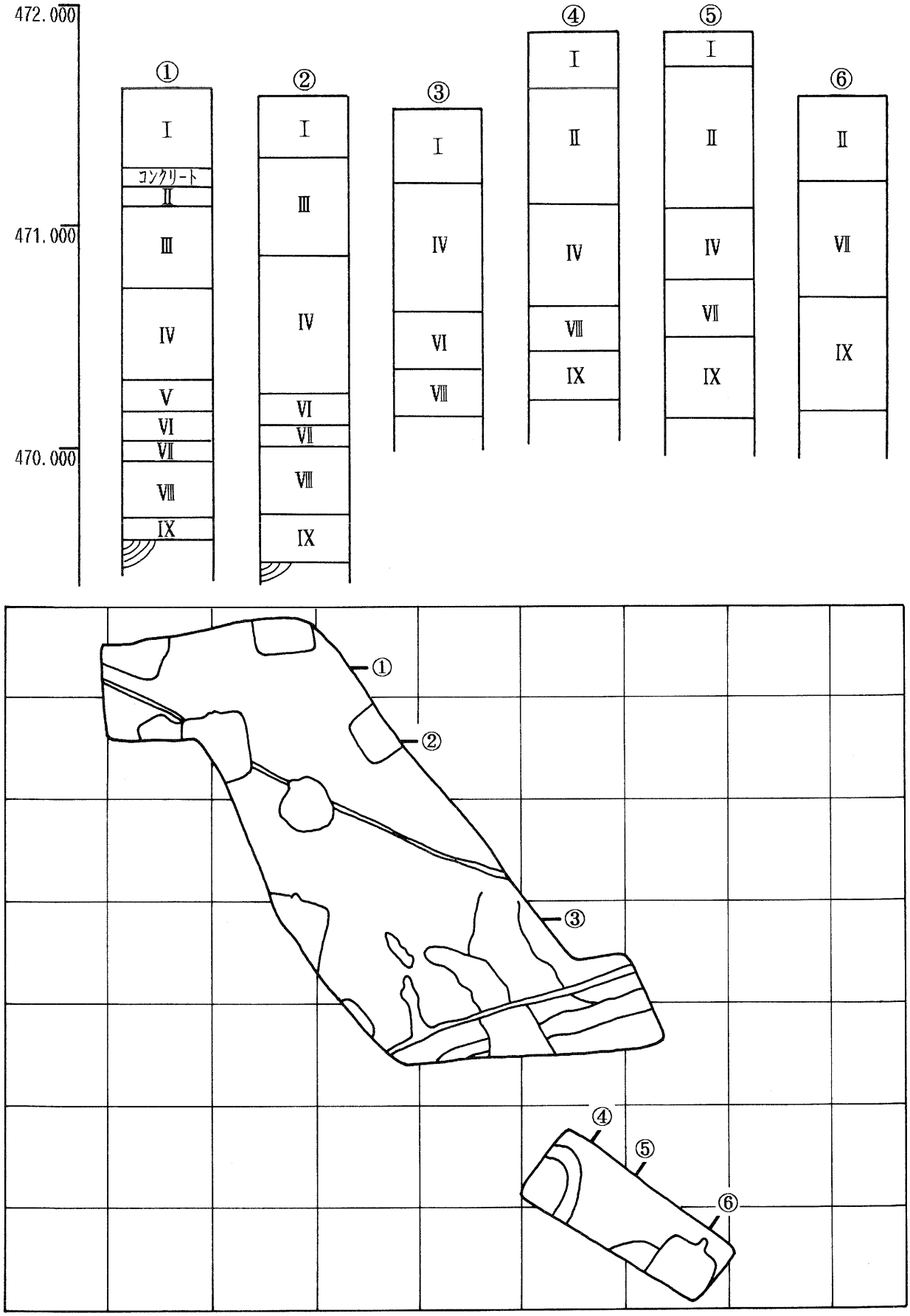
Ⅴ　7.5YR5/3 にぶい褐　4/6 褐～4/1 褐灰色土含む。

Ⅵ　7.5YR4/1 褐灰　しまりある。やや粘性。

Ⅶ　7.5YR5/2 灰褐　しまりある。やや粘性。

Ⅷ　7.5YR3/4 暗褐　しまりある。やや粘性。

Ⅸ　7.5YR2/2～3/2 黒褐　しまりある。やや粘性。


472.000
471.000
470.000
①
②
③
④
⑤
⑥
I
コンクリート
II
III
IV
V
VI
VII
VIII
IX

第５図　基本層序

第三章　調査の結果

第１節 調査の概要

本調査は、北西区と南東区の２つの調査地区を設けて実施された。検出された遺構は、第６図の遺構配置図のとおり、竪穴住居跡10軒、掘立柱建物跡４軒、土壙11基、溝跡９条、配石遺構１基、集石２基である。出土した遺物は、土師器、須恵器、弥生土器、縄文土器等の土器、紡錘車、硯、瓦、土偶、石製円盤、土偶、石器等である。

以下第２節にこれらの検出された個々の遺構と遺物について報告を行う。また、実測図は、遺構については第９図から27図に、観察表は第２表から15表に各遺構ごとに示した。遺物については、実測図は第28図から57図に、観察表は第16表から38表に土器、石器、土偶、土製円盤、紡錘車、硯、瓦、に分類して順に示した。

第２節 遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

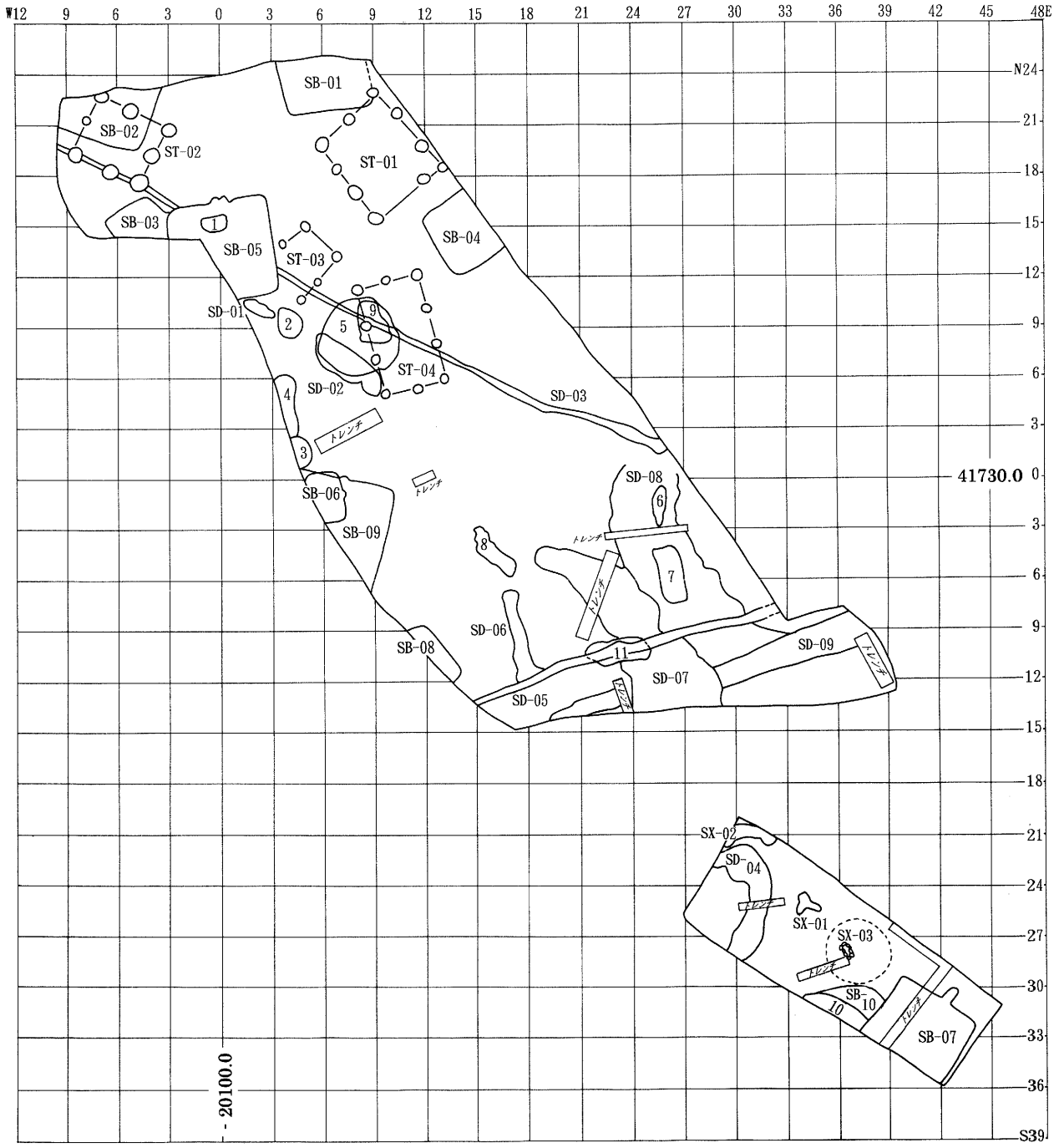
第１号竪穴住居跡〈ＳＢ０１〉 遺構（第９図）、遺物（第28図）

本遺構は、北西区の北東隅、N27Ｅ６、N27Ｅ９、N24Ｅ６、N24Ｅ９、N24Ｅ12グリッドから検出された。遺構の北側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形か或いは隅丸方形を呈していると思われる。第145号ピットに切られている。また、第１号掘立柱建物跡に切られていると思われるが、確かではない。主軸方向は不明であるが、南壁はほぼ東西を指す。南壁の長さは5.25mである。壁は、西壁が50㎝と深く残り、垂直に掘りこまれている。壁下の床面には周溝が巡っている。床は地山をたたき締めたものであるが、全体的にあまり締まっていない。床面は凹凸が少なく平坦である。南西の隅の床面に莚状の敷物が押し付けられた跡が残っていた。図の網点で示した部分がそれで、約75㎝×70㎝の広がりで確認された（写真図版２）。ピットは西側１基だけある。

遺物は、主に覆土中から出土した。１と２が土師器の坏である。１は体部に丸みをもち口縁部が素直に開く形態の内黒で、２は平底を呈する。両方とも外面には体部から底部にかけて手持ちヘラ削りを施し、内面はミガキが施されている。10は須恵器の坏で、丸底で蓋受け部分をもち受け部から口縁部にかけて立ちあがりをもつものである。３から９は須恵器の坏蓋である。３から５は内面にかえりがつくもので、６から８は口縁の端部で折れるものである。11・12は無高台の須恵器の坏である。底部はヘラ切りの後ヘラ削りが施されていると思われる。13から15は高台を付す須恵器の坏である。15は底部が高台底面より飛び出している。13と15の底部は回転ヘラ削りがなされている。16の須恵器は、浅く皿状の形態を呈し、体部下位から底部にかけて回転ヘラ削りが施されている。17は須恵器の平瓶である。肩の部分で緩く屈曲している。18は横瓶である。胴部外面にタタキ目文が施されている。このほか、土師器及び須恵器の甕や須恵器の壺の破片等が出土している。また、このほか鉄製品が２点出土した（写真図版22）。

第２号竪穴住居跡〈ＳＢ０２〉 遺構（第10図）、遺物（第29図）

本遺構は、北西区の北西隅、N24W６、N24W９、N24W12、N21W６、N21W９、N21W12グリッドか



数字のみは土壙

0 10m

第６図　遺構配置図

ら検出された。遺構の北側と西側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形か或いは隅丸方形を呈していると思われる。第3号ピットを切り、第148号ピットに切られている。第2号掘立柱建物跡と重複して切るとみられるが、確かではない。主軸方向は不明である。東壁はN－73°－Wを指す。壁は、東壁が36cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。南壁と東壁の下の床面には周溝が巡っている。床は地山をたたき締めたものであるが、全体的にあまり締まっていない。床面は凹凸が少なく平坦である。ピットは4基確認されたが、そのうち、P2とP3は主柱穴の可能性がある。

遺物は主に覆土から出土した。1から4は土師器の坏である。丸底で、1・2及び4は口縁部が素直に開き、3はやや直立気味である。体部外面にヘラ削りが施され、内面に黒色処理が施されている。5から7は土師器の高坏である。5の坏部は緩く折れて開いている。8は須恵器の坏で、蓋受部分を有し受け部から口縁部にかけて立ちあがりをもつものである。9から12は土師器の甕である。9の胴部外面にはヘラ削りが施されている。12の胴部外面にはヘラミガキが施されている。このほか箱清水系の甕等が出土したが、これらは他から混入した遺物と考えられる。

第3号竪穴住居跡〈SB03〉 遺構（第11図）、遺物（第30図）

本遺構は、北西区の北東隅、N15W3、N15W6、N15W9、N18W6、N18W9グリッドから検出された。遺構の南東側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形か或いは隅丸方形を呈していると思われる。第59・197・198号ピットと第5号竪穴住居跡に切られている。主軸方向はN－32°－Wを指す。北西壁の長さは30mである。壁の深さは40cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。床は地山をたたき締めたものである。全体的にあまり締まっていないが、中央部は硬化している。床面は凹凸が少なく平坦である。ピットは5基ある。

カマドは北東の壁に確認された。住居壁から半円形に張り出した形態を呈する。袖石の抜き跡痕がみられ、右袖には河原石が据えられて残っている。火床面は床面より高く、壁側にいくにしたがって緩やかに高まっている。カマドの上部の覆土からは、遺物が多量に集中して出土した。

遺物は覆土中及び床面上から出土した。1は土師器の坏である。丸底で口縁部が素直に開くもので、体部外面にヘラ削りが施され、内面に黒色処理が施されている。2と3は土師器の高坏で、坏部は丸みをもつ。4と5は須恵器の杯蓋で、4は内面にかえりをもつもので、5は口縁端部で折れ曲がるものである。6・8は土師器の甕で、胴部が強く張り、外面にはヘラ削りの後にヘラミガキが施されている。9から16は土師器の長胴甕で、胴部外面にヘラ削りが施されている。10は器壁が薄く、14は最大径を胴部にもつ形態である。7は土師器の小型の甕である。胴部外面と口縁部内面にヘラミガキが施されている。これらのうち、8・9・13はカマドの北東の床面から、5はP2から、4は覆土中から出土し、それ以外はカマドの直上の覆土から出土した。

第4号竪穴住居跡〈SB04〉 遺構（第12図）、遺物（第31図）

本遺構は、北西区の北東、N15E12、N15E15、N15E18、N18E12、N18E15、N18E18グリッドから検出された。遺構の北東側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形か或いは隅丸方形を呈していると思われる。主軸方向は不明であるが、南西壁はほぼN－32°－Wを指す。南西壁の長さは43mである。壁は、西壁が28cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。床は礫を多く含む層に掘りこまれ、凹凸が著しい。ピットは2基あり、主柱穴の可能性がある。本遺構の覆土には人の頭よりやや大きめの礫が多く含まれていた。

遺物は覆土中から僅かに出土した。１は須恵器の坏蓋である。口縁部端部が小さく折れる。２は小型の甕で、口縁部は横ナデ、胴部外面はヘラ削りが施される。このほか、非ロクロ調整で体部に手持ちヘラ削りを施し、内面が黒色処理された坏の破片が出土した。また、弥生時代の赤色塗彩の土器や波状文の甕も出土したが、後から覆土に混入したものと思われる。

第５号竪穴住居跡〈ＳＢ０５〉 遺構（第13図）、遺物（第32図）

本遺構は、北西区の北部、N12Ｅ３、N12Ｅ６、N15Ｅ３、N15Ｅ６、N18Ｅ３、N18W３、N15W３グリッドから検出された。遺構の南西側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸方形を呈していると思われる。第１号土壙、第33・34・35・36・63・68・144号ピットに切られ、第３号溝跡、第３号掘立柱建物跡、第３号竪穴住居跡を切っている。主軸方向はN－５°－Wを指す。規模は、東壁と北壁の長さで5.95m×5.80mである。壁の深さは32cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。床は地山をたたき締めたものであるが、全体的にあまり締まっていない。床面は凹凸が少なく平坦である。ピットは３基あり、主柱穴であると思われる。周溝が北と東及び南壁の下の床に巡っている。

カマドは北壁に確認された。住居壁から半円形に張り出した形態を呈する。左袖は第36号ピットの撹乱を受けて失われている。右袖には河原石が据えられて残っている。カマドの覆土からは、遺物が集中して出土した。

遺物は、１が須恵器の坏で口径は10.2cm程と推測される。体部は丸みを持ち、口縁部は内弯する。底部外面はヘラによる調整がなされている。２も須恵器の坏で、体部は直線的に開く。４は土師器の甕で、カマドから出土した。長胴で、外面は縦方向のヘラ削りが行われている。３も土師器の甕で、胴部外面にナデが施されており、小型である。５は須恵器の甕で、胴部外面にタタキ調整を持つ。この他、内面を黒色処理した非ロクロ調整の坏の破片、須恵器の瓶及び、縄文時代中期の深鉢の破片等が出土した。また、覆土中より鉄製品が出土した。このほか、磨石が覆土から出土した。（写真図版21）

第６号竪穴住居跡〈ＳＢ０６〉 遺構（第14図）、遺物（第33図）

本遺構は、北西区の西、Ｎ３Ｅ６、Ｎ３Ｅ９、Ｓ３Ｅ６、Ｓ３Ｅ９グリッドから検出された。遺構の西側は調査地区の外にあり、未調査である。第９号竪穴住居跡を切っている。隅丸長方形を呈していると思われる。主軸方向は不明であるが、東壁はN－９°－Wを指す。東壁の長さは3.08mである。壁は、東壁が10cmと浅く残り、垂直に掘りこまれている。床面は地山をたたき締めたものである。覆土に炭化物が多く含まれていた。

遺物は覆土中から僅かに出土した。１は土師器の坏である。浅い体部で、口縁部は立ち上がっている。調整は磨耗が著しく不明である。この他、須恵器の坏蓋、土師器甕で外面にヘラ削りがなされているもの、焼きのあまい布目瓦等の破片等が出土した。また、縄文土器中期の深鉢の破片も出土した。また、覆土中より鉄製品が出土した（写真図版22）。

第７号竪穴住居跡〈ＳＢ０７〉 遺構（第15図）、遺物（土器－第34図、石器－第54図、紡錘車・円面硯－第55図）

本遺構は、南東区の南東部、Ｓ30Ｅ42、Ｓ33Ｅ39、Ｓ33Ｅ42、Ｓ33Ｅ45、Ｓ36Ｅ39、Ｓ36Ｅ42、Ｓ36Ｅ45グリッドから検出された。遺構の南西側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸方形を呈していると思われる。主軸方向はN－35°－Wを指す。北東壁の長さは、5.10mである。壁の深さは58cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。床は地山をたたき締めたものである。全体的に硬化しているが、北西壁の付近の

一部に締まりが無い。床面は細かい凹凸が多くみられるが、全体的に平坦である。拳ほどの大きさの礫が床上に多く散在していた。南東の床面に莚状の敷物が押し付けられた跡が残っていた。図の網点で示した部分がそれで、約2.7m×2.4mの広がりで確認された。ピットは、Ｐ１からP3は柱を構成するものと思われる。Ｐ１の断面形は袋状を呈する。Ｐ４は浅く、覆土に炭化物が多くみられた。周溝が北西と南東の壁下の床に巡っている。

カマドは北東壁に確認された。右袖の芯石は、２つの扁平の河原石がやや内側に傾斜して並列して据えられている。河原石から壁に向かって若干粘性のある砂質土で構築されている。同質の土は左袖部分にも僅かにみられる。左袖は、壁と床の２ヶ所に抜け穴痕がみられ、芯石が抜かれたものと思われる。袖の内側から壁まで広く良く焼け、堅く締まる。燃焼部の覆土には、拳よりやや小さめの礫と土器片が焼土ブロックと伴に多く含まれている。また、2 つの扁平の河原石が重なって奥壁に寄りかかるように出土した。これらは、元位置を保っておらず、芯石に使用されていた礫が抜かれたものと思われる。底面は煙道に向かって傾斜している。煙道は、住居壁から外へ向かって、幅 0.5m×長さ 1.0mに掘りこまれ、内部の両側に扁平の河原石が並列に埋置されている。その上部に２つの扁平の河原石が並列して架けられ、天井部を構成している。拳ほどの大きさの礫がその隙間を埋めて構築されている。煙道口は床面から 38 cm程の高さにあり、そこから煙出口まで緩やかに傾斜している。

遺物は、覆土、床面及びカマドの内の等から出土した。第34図１・２は土師器の坏で、丸底で、口縁部は素直に開き、体部外面から底部にかけて手持ちヘラ削りが施されている。内面は黒色処理されている。１はカマドから出土した。３から６は土師器の高坏で、４・６はカマドから出土した。３・４の坏部は丸みをもち、5 の脚部は長脚である。３・４・５の内面は黒色処理されている。７・８は須恵器の坏蓋で、内面に返りが付き、７のつまみは宝珠形である。８はカマドから出土した。９は須恵器の坏で、Ｐ１から出土した。底部外面にヘラによる調整が行われている。10・11 は須恵器の坏で、10 はカマドから出土した。箱形の体部に高台を付すものである。底部外面に回転ヘラ削りが施される。10 の高台は比較的に中寄りに入る。12 から 21 は土師器の甕である。12 から 16 は長胴甕で、体部外面にヘラ削りが施されている。14・15 の口縁部は「く」の字状に折れて外反し、13 の器壁は薄い。12・13・19 はカマドから出土し、17 は床着である。17・18 の内外面の調整は、ヘラ削りとナデが施されている。17 は胴部下半が欠損した状態で住居跡床面より正位に出土した。19・20 はカマドから出土した。19 は頸部が窄まって口縁部が強く外反する形態で、胴部外面にヘラ削りが施されている。22 から 24 は須恵器の壺か瓶で、22・24 はカマドから出土した。22 は緩い口縁帯をもち、胴部下位にタタキ目がみられる。23 は肩の部分で屈曲している。24 の口縁部はラッパ状に開いている。このほか数個体分の長胴のケズリ甕が破片で出土している。

そのほか、覆土からは紡錘車（第55図６）、円面硯の破片（同図７）が出土した。紡錘車は土製で重量は 195 g である。円面硯は硯面の外縁に沿って墨だめの凹みをつけ脚を付すもので、外縁の径はおよそ 21.2 cm と推定される。カマド内の覆土からは小動物のものと思われる骨片が僅かに出土した。なお、覆土中から出土した遺物の大部分は縄文時代中期と弥生時代後期の土器であり、混入したものと考えられる。その総量は点箱約４ケース分に及ぶ。そのうちの一部である 25 と 26 は焼町土器で、中期中葉末に属するものと思われる。

石器も多く出土した。本遺構の覆土からは打製石鏃６点、打製石斧 20 点、磨製石斧１点、凹石３点、磨石１点、石匙１点、砥石１点等が出土した。このうち、完形及び残存の大きいものを図化して第54図（打製石鏃１～６、打製石斧 29～37、凹石 78～80、石匙 87、砥石 84～85）に掲載した。このほか、使用痕がみられる平石の破片や、水晶の原石も出土した。また、鉄製品が出土した（写真図版 22）

第８号竪穴住居跡〈ＳＢ０８〉 遺構（第16図）

本遺構は、北西区の南西、Ｓ９Ｅ12、Ｓ９Ｅ15、Ｓ12Ｅ12、Ｓ12Ｅ15グリッドから検出された。遺構の南西側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸長方形か或いは隅丸方形を呈していると思われる。主軸方向は不明であるが、北東壁はN－73°－Wを指す。北東壁の長さは4.0mである。壁は14cmと浅く、垂直に掘りこまれている。床は凹凸がなく、締まりがない。ピットは１基確認された。

遺物は僅かに出土した。土師器の甕、弥生土器の後期の甕及び壺、縄文時代中期の浅鉢等の破片が出土したが、本書には掲載しない。

第９号竪穴住居跡〈ＳＢ０９〉 遺構（第17図）、遺物（土器－第35図、瓦－第56図）

本遺構は、北西区の西、Ｎ３Ｅ６、Ｎ３Ｅ９、Ｓ３Ｅ６、Ｓ３Ｅ９、Ｓ３Ｅ12、Ｓ６Ｅ９、Ｓ６Ｅ12、Ｓ９Ｅ９グリッドから検出された。第６号竪穴住居跡に切られている。遺構の南西側は調査地区の外にあり、未調査である。隅丸方形を呈していると思われる。主軸方向は不明であるが、東壁はN－12°－Eを指す。壁は、東壁が40cmと深く残る。床面は地山をたたき締めたもので、堅く、締まりがあり、凹凸がある。特にカマドとピットの周辺は、緩やかに傾斜して低くなっている。壁近くの床面には周溝が巡っている。東側の一部は壁の直下に設けられている。壁の立ち上がりは、床からおよそ20cmは直立しているが、その先は緩やかに開いている。覆土より炭化物が多く出土した。

カマドは、北壁に確認された。平面形は、壁を張り出してつくられている。袖部は確認されなかった。周辺の覆土からは、床から浮いた状態で芯石に使われたと推定される礫の破片と焼土ブロックが集中して出土した。住居廃絶時以降に破壊されたと思われる。ピットは２基確認され、北東コーナーのピットは貯蔵穴かと思われる。

遺物は、第35図の１から３は土師器の坏で、形態は丸底で口縁部は小さく外反する。１と３は土師器の内面に黒色処理を施す。体部外面から底部にかけて手持ちヘラ削り、内面にヘラミガキが施されている。２の内外両面は黒色を呈しているようにみえるが、内外面に付着物が広くみられることから漆等が塗られていた可能性がある。底部外面はヘラ削り、口縁部はミガキが施されている。２は床面から、３はカマドから出土した。４から６は高坏である。４の坏部内面には黒色処理が施されている。６はＰ２から出土した。７・８は鉢である。体部外面にヘラ削り、内面にヘラミガキが施される。７の体部は直線的に開き、８は丸みを持った体部に口縁部が外反している。９は須恵器の坏蓋で、内面に返りをもつものである。10から13は土師器の長胴甕である。成形の後外面をヘラ削りしている。10・11は器壁が厚く口縁部は緩やかに外反するが、12・13は薄く、12の口縁部は「く」の字状に折れて外反する。14は須恵器の瓶か長頸壺の頸部と思われる。第56図２は平瓦で、凹面に布目が凸面に押し型文が施されている。このほか、土師器の甕や須恵器の甕等が出土した。また、床面とカマド周辺の覆土から骨片が検出された。

第10号竪穴住居跡〈ＳＢ１０〉 遺構（第18図）、遺物（土器－第36図、石器－第54図）

本遺構は、南東区の南西、Ｓ33Ｅ36、Ｓ33Ｅ39、Ｓ33Ｅ42、Ｓ36Ｅ39、Ｓ36Ｅ42グリッドから検出された。第７号竪穴住居跡と第10号土壙に切られている。遺構の南西側は調査地区の外にあり、未調査である。平面形態は不明であるが、円形を呈していると思われる。壁は、西壁が38cmと深く残り、垂直に掘りこまれている。床面は、場所によってまちまちであるが全体的に堅く締まりがある。壁近くには、粘性のある砂質土を貼ったと思われる痕跡がみられる。表面が赤く焼けた部分が広く分布し、、炭化した木材や細かい焼土ブロッ

クが覆土から多く出土していることから、何らかの燃焼があったと想定される。。凹凸は少なく平坦であるが、ピットの周辺は緩やかに傾斜して窪んでいる。壁近くの床面には部分的に周溝が巡っている。ピットは1基確認された。

遺物は、縄文中期中葉の土器が僅かに出土した。第36図の1は深鉢の口縁部で、文様構成は隆帯とそれに沿う半裁竹管による沈線文からなる。2は深鉢の突起部で、刻みが施された隆帯と沈線の文様構成である。3は深鉢の口縁部で無文である。4から6は深鉢の胴部で、沈線文が施されている。また、打製石斧が2点覆土中から出土した（第54図38・39）。

2. 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡〈ＳＴ０１〉 遺構（第19図）、遺物（第37図）

本遺構は、北西区の北東、N18E９、N18E12、N18E15、N21E６、N21E９、N21E12、N21E15、N24E９、N24E12グリッドから出土した。第1号竪穴住居跡を切る。平面形は2間×3間の側柱式で、規模は桁行5.60m、梁行4.70mを測る。主軸はN－39°－Wを指す。柱間は桁行1.70～2.40m、梁行1.20～3.70mを測り、柱穴の平面形は円形で、直径は0.45～0.90mである。深さは、0.20～0.38mである。

遺物は、1はP－172から出土した土師器の高坏の坏部で、体部外面にヘラ削り、内面にヘラミガキが施されている。2はP－164から出土した土師器の高坏の脚である。また、P－80から縄文土器が、P－76・21・164・174から土師器甕の破片等が出土した。

第2号掘立柱建物跡〈ＳＴ０２〉 遺構（第20図）、遺物（第38図）

本遺構は、調査地区の北西、N18W６、N18W９、N21W３、N21W６、N21W９、N24W３、N24W６、N24W９グリッドから出土した。第2号竪穴住居跡と重複する。平面形は2間×2間の側柱式で、規模は桁行4.40m、梁行3.80mを測る。主軸はN－63°－Wを指す。柱間は桁行2.00～2.50m、梁行1.70～2.10mを測り、柱穴の平面形は円形か隅丸方形を基本とすると思われる。直径は0.40～1.00mである。深さは、0.48～0.80mである。

遺物は、1はP－149から出土した土師器の坏か高坏で、体部は丸みをもち口縁部は緩く外反する。外面にヘラ削り、内面にヘラミガキが施されている。2は内面に黒色処理を施した土師器の坏で、P－116から出土した。丸みをもった形態で、体部外面にヘラ削りが、内面にヘラミガキが施されている。3は須恵器の坏蓋で、P－116から出土した。口縁部先端が折れる形態のものと思われる。5は須恵器の甕で、P－149から出土した。4はP－116から出土した土師器の甕で、内面にヘラミガキが施されている。6は箱清水系の甕で、外面に波状文が施されている。このほか、P－84・201・115・203から外面にヘラ削りがなされている土師器の甕や、非ロクロで内面に黒色処理を施した坏、外面にヘラミガキが施されている土師器の甕、箱清水の甕及び壺等の破片が出土した。

第3号掘立柱建物跡〈ＳＴ０３〉 遺構（第21図）

本遺構は、北西区の北西、N12E６、N15E６、N15E９、N18E６グリッドから出土した。第5号竪穴住居跡に切られる。平面形は2間×1間の側柱式で、規模は桁行3.30m、梁行3.00mを測る。主軸はN－47°－Wを指す。柱間は桁行1.40～1.90m、梁行3.30mを測り、柱穴の平面形は円形を呈する。直径は0.34～0.47mである。深さは、0.16～0.48mである。

遺物は、Ｐ－43から土師器の甕、波状文を施した箱清水系の甕、黒曜石のフレイクが出土したが、本書では掲載しなかった（写真図版11）。

第４号掘立柱建物跡〈ＳＴ０４〉 遺構（第22図）、遺物（第39図）

本遺構は、北西区の中央、Ｎ６Ｅ12、Ｎ６Ｅ15、Ｎ９Ｅ９、Ｎ９Ｅ12、Ｎ９Ｅ15、N12Ｅ９、N12Ｅ12、N12Ｅ15、N15Ｅ12グリッドから出土した。第５号土壙を切る。平面形は２間×３間の側柱式で、規模は桁行6.50m、梁行3.80mを測る。主軸はＮ－13°－Ｗを指す。柱間は桁行2.00～2.20m、梁行1.70～2.10mを測り、柱穴の平面形は円形を呈する。直径は0.40～0.68mである。深さは、0.16～0.38mである。

遺物は、１はＰ－154から出土した土師器の坏である。体部は浅く、口縁は先端で折れて立ちあがる形態のものである。体部外面にヘラ削りが施されている。このほか、Ｐ－45・48・109・114から外面にヘラ削りがなされている土師器の甕や、外面にヘラミガキが施されている土師器の甕、箱清水の甕及び壺等の破片が出土した。

3. 土壙

第１号土壙〈ＳＫ０１〉 遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の中央、N15Ｅ３、N15W３、N18Ｅ３、N18W３グリッドから出土した。第５号竪穴住居跡を切る。平面形は楕円形で、規模は長径1.60m、短径1.00m、深さ0.30mを測る。断面形は、底面は平坦でたらい状を呈する

遺物は、１は須恵器の椀の蓋で、環状つまみを付す。２は須恵器の坏で箱形の体部に高台を付すものである。高台は底部の端に付き、外側で接地する。底部は回転ヘラ削りが施される。このほか、土師器の坏や甕、須恵器の坏、壺及び甕の破片が出土した。

第２号土壙〈ＳＫ０２〉 遺構（第23図）、遺物（土器－第40図、瓦－第56図）

本遺構は、北西区の中央、Ｎ９Ｅ６、N12Ｅ６グリッドから出土した。平面形は変形楕円形で、規模は長径1.92m、短径1.45m、深さ0.66mを測る。断面形は、すり鉢状を呈している。底面は堅く締まっている。

遺物は、第40図の１は須恵器の甕である。第56図の３は平瓦で、凹面には布目、凸面には押型文が施されている。このほか、土師器の甕及び灰釉陶器の鉢或いは何か別なものの破片等が出土している。

第３号土壙〈ＳＫ０３〉 遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の中央、Ｎ３Ｅ６グリッドから出土した。第４号土壙を切る。平面形は楕円形を呈すると思われ、規模は長径1.93m、深さ0.92mを測る。断面形は、すり鉢状を呈している。底面は堅く締まっている。覆土に人の頭ほどの大きさの礫が多量に含まれる。また、炭化物も多く含まれている。

遺物は、僅かに出土した。１は須恵器の坏である。このほか、土師器の甕の破片が出土した。

第４号土壙〈ＳＫ０４〉 遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の中央、Ｎ３Ｅ６、Ｎ６Ｅ６、Ｎ９Ｅ６グリッドから出土した。第３号土壙に切られる。深さ0.33mを測る。平面形は不明である。断面形は、底面は平坦で壁は緩やかに傾斜して立ちあがる。

遺物は僅かに出土した。１は須恵器の甕である。このほか、土師器の坏及び甕等の破片が出土した。また、

覆土中より金属製品が出土した（写真図版22）。

第5号土壙〈ＳＫ０５〉 遺構（第23図）、遺物（土器ー第40図、石器ー第54図）

本遺構は、北西区の中央、Ｎ９Ｅ９、Ｎ９Ｅ12、N12Ｅ９、N12Ｅ12グリッドから出土した。第3号掘立柱建物跡に切られる。規模は長径4.64m、短径4.62m、深さ0.46mを測る。平面形は円形を呈し、断面形は底面に凹凸があり壁は緩やかに傾斜して立ちあがる。遺構の中央の覆土から遺物が集中して出土した。その直下の底面は、一部に熱を受けて橙褐色を呈し焼き締まっていた。底面は締まりが無く、軟らかい。

遺物は縄文時代中期中葉から後葉の初めころの土器が出土した。1の深鉢は無文で口縁部に装飾文がつき、狢沢から新道式期のものと考えられる。２から４は焼町系の深鉢の口縁部で、沈線文又は沈線と隆帯による文様構成がみられる。５は勝坂系の深鉢の胴部で、連続した刻みが施された隆帯と沈線による文様がみられる。７は口縁部に縦位の縄文が施されるもので、井戸尻Ⅲから後葉の初めころのものと考えられる。８の外面にはＲＬ縄文が回転施文されている。９と10は深鉢の底部から胴部である。表面の剥落が著しいが、無文であると思われる。また、打製石鏃が1点（第54図7）、打製石斧が2点（40・41）、凹石が1点（81）。砥石（86）及び黒曜石の剥片等が出土した。

第6号土壙〈ＳＫ０６〉 遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の南東Ｓ３Ｅ27グリッドから検出された。第８号溝跡を切っている。平面形は楕円形を呈する。規模は長径2.38m、短径0.88m、深さ0.30mを測る。断面形は、底面が平坦で、たらい状を呈している。

遺物は、１は内面に黒色処理された土師器の皿で、遺構の底から出土した。底部はナデて調整されている。２は両面に黒色処理が施されている椀であると思われる。このほか、須恵器の坏の破片及び縄文土器片が出土している。

第7号土壙〈ＳＫ０７〉 遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の南東Ｓ６Ｅ27、Ｓ９Ｅ27グリッドから検出された。第８号溝跡を切っている。平面形は不定形を呈する。規模は長径3.42m、短径1.48m、深さ0.38mを測る。断面形は、底面が平坦で、たらい状を呈している。

遺物は、１は内面に黒色処理を施した土師器の坏か椀である。２と３は土師器の坏で底部に回転糸切りがみられる。このほか、須恵器の破片、箱清水の高坏、縄文土器が出土した。４と５は縄文土器の深鉢の破片である。４の文様は沈線文と連鎖状に押圧した隆帯と沈線文からなり、５は沈線文からなる。

第8号土壙〈ＳＫ０８〉 遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の南部、Ｓ３Ｅ15、S3Ｅ18、S6Ｅ15、S6Ｅ18グリッドから検出された。平面形は溝状の不定形を呈する。規模は長径3.52m、短径0.92m、深さ0.20mを測る。断面形は、底面が平坦で、たらい状を呈している。覆土に僅かな焼土がブロック状に含まれている。

遺物は、１は須恵器の坏蓋である。このほか、土師器の甕、箱清水系の甕及び高坏の破片が出土した。

第9号土壙〈ＳＫ０９〉 遺構（第23図）、遺物（土器ー第40図、石器ー第54図）

本遺構は、北西区の中央、N12Ｅ９、N12Ｅ12、Ｎ９Ｅ９、Ｎ９Ｅ12グリッドから検出された。第5号土

壙と重複する。検出段階において不明瞭であったが、こちらが切っていると思われる。平面形は不定形を呈する。規模は長径2.88m、短径1.42m、深さ0.37mを測る。断面形は凹凸のあるすり鉢状を呈している。

遺物は覆土から縄文土器の破片が多く出土した。第40図の1は深鉢のミニチュアで胴部の文様は隆帯によって区画された中に縄文が施文されている。2は深鉢の突起部である。また、打製石鏃1点が出土した（第54図8）。

第10号土壙〈ＳＫ１０〉 遺構（第23図）、遺物（土器ー第40図、土偶ー第55図、石器ー第54図）

本遺構は、南東区の南西、S33E36、S33E39グリッドから検出された。第7号竪穴住居跡に切られ、第10号住居跡を切っている。遺構の南西部は調査地区外にあたり、未調査である。平面形は、楕円形を呈すると思われる。底面は平坦である。覆土に小礫を多量に含む。また、土器片及び黒曜石の破片が多量に出土した。底面は軟らかく締まりがない。床上に礫が集中して出土した。ピットはＰ１～３で、底部から壁は軟らかく締まりがない。

遺物は、覆土より縄文時代中期中葉末から後葉の土器が多く出土した。第40図の1と2は焼町系の土器で、胎土は他の土器と比べて白っぽく、軽い。1は口縁部が刻まれ、胴部に平行沈線が施されている。2は濃密な沈線文が施されている。これらは、北信・上越地方から搬入された土器の可能性がある。3は地文に縄文が施されて半裁竹管文と隆帯による構成である。4と5は浅鉢と思われ、朱が塗られていた痕跡がある。4の文様は隆帯を沈線で割って隆線を作り出している。6は勝坂系の土器の口縁部である。7は台付き鉢の脚部で、これは円形の透かしが入り、外面に縄文が施されている。また、土偶の腕と思われる部分の破片が出土した。2条の沈線による文様が施されている（第55図1）。また、打製石斧3点が出土し、そのうちの1点を掲載した（第54図42）。

第11号土壙〈ＳＫ１１〉 遺構（第23図）、遺物（第40図）

本遺構は、北西区の南、S12E24、S12E27グリッドから検出された。第5号溝跡に切られる。平面形は溝状の不定形を呈する。規模は長径3.72m、短径1.42m、深さ0.22mを測る。断面形は、底面が平坦で、たらい状を呈している。

遺物は、土師器の坏、須恵器の甕（1）、箱清水系の壺、縄文土器（2～4）の破片等が出土した。また、水晶の原石1点が覆土から採集された。

4. 配石

第1号配石〈ＳＸ０３〉 遺構（第24図）、遺物（土器ー第41図、石器ー第54図）

本遺構は南東区の中央、S30E39グリッドより検出された。規模は長さ0.93m×幅0.51m、深さ0.25mである。検出状態が不良だったため不明瞭な点が多く現場では配石遺構として扱ったが、住居の石囲炉であろう。平面形は長方形である。垂直に掘りこまれ、底部は平坦である。縁辺に扁平の河原石を並べて立てている。これらの礫は熱を受けて、変色している。覆土には僅かに焼土が含まれていた。また、小動物のものと思われる骨片が出土した。これらの重量はあわせて約50gで、熱を受けたあとがみられるものもある。

遺物は覆土からは縄文土器の破片が僅かに出土した。第41図1から4は深鉢の胴部の破片である。1は隆帯と隆帯に連続した刻目が施されている文様から成る。2は隆帯及び沈線文が施されている。3は縄文及び隆帯がみられ、4は小型の深鉢の底部である。これらは資料が少ないため明確ではないが、中期後葉の初め

頃のものと考えられる。また、打製石斧の破片が1点出土した（第54図43）。

5. 集石

第1号集石〈SX01〉 遺構（第24図）、遺物（第42図）

本遺構は南東区の中央、S27E36グリッドより検出された。規模は長さ1.50m×幅0.88m、深さ0.06mである。堅く締まる黄褐色の土と10～20cm程の円礫の集まりからなる。平面形は不定形で、浅く掘り込まれている。

遺物は須恵器の甕と縄文中期の土器片が出土した（1～4）。これらは、後に本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。

第2号集石〈SX02〉 遺構（第24図）、遺物（第42図）

本遺構は南東区の北西、S24E30、S24E33、S21E30、S21E33グリッドより検出された。規模は幅0.82m、深さ0.18mである。検出段階で1～3cm程の礫が集中しているのが確認された。平面形は長く伸びた楕円形で、断面形はU字形に掘りこまれる。一部に深い落ち込みがある。

遺物は覆土より縄文時代中期の土器片等が出土した。これらは、後に本遺構の覆土に流れ込んだ可能性がある。土器の表面は摩滅が著しい。1の文様は隆帯と縄文によって成り、2と3は縄文が施文されている。

6. 溝跡

第1号溝跡〈SD01〉 遺構（第25図）、遺物（第43図）

本遺構は、北西区の南西，N12E3グリッドから検出された。平面形は細長い不定形を呈する。浅く、底は平坦である。規模は長さ2.00m、幅0.72m、深さ0.08mを測る。第2号溝跡に連なっていた可能性がある。流水の状況は不明である。

遺物は覆土より僅かに出土した。これらは、後に本遺構の覆土に流れ込んだ可能性がある。1から5は縄文時代中期の深鉢の口縁部及び胴部である。6と7は箱清水系の壺及び甕である。いずれも表面が著しく磨耗していること等から、本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。また、覆土から、欠損した打製石斧が1点出土した。

第2号溝跡〈SD02〉 遺構（第25図）、遺物（土器－第44図、石器－第54図）

本遺構は、第1号溝跡の南東に検出された。第5号土壙を切る。平面形は細長の不定形を呈している。北西－南東の方向にのびる。浅く、底面は平坦である。規模は長さ5.30m、幅1.90m、深さ0.24mを測る。流水の状況は不明である。

遺物は、縄文時代中期と箱清水系の土器の破片が覆土より出土した。そのうち、第44図1から3は縄文時代中期中葉の深鉢である。1は胴部の文様は、隆帯による楕円系区画文が横位に配され、区画内部に縦位の沈線が施されている。2は口縁部で、内弯し、無文である。3は深鉢の口縁部で連鎖状に押圧が加えられた隆帯が横位に配され、口縁部の文様帯には隆帯区画文の内部を縦位沈線が施されている。胴部は沈線が沿う隆帯が垂下していると思われる。4と5は弥生時代のもので、4は甑で、5は甕か壺の底部である。これらは、本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。また、石鏃1点（第54図9）、磨製石斧1点（72）、磨石2

点、石製円盤1点（91）及び黒曜石剥片等が出土した。

第3号溝跡〈SD03〉 遺構（第26図）、遺物（第45図）

本遺構は、北西区を北西から南東に横切るように検出された。第5号及び9号土壙を切り、第2号及び第4号掘立柱建物跡及び第5号竪穴住居跡に切られる。長さは39.00mで、調査区を越えて更に続くと思われる。幅0.30m、深さ0.20mを測る。幅、深さは小さいが、ほぼ均一である。また、直線的である。底も多少凹凸はあるが、一定した様相がみられる。人工的な掘り込みといえる。

遺物は覆土より僅かに出土した。1と2は縄文時代中期中葉の深鉢の口縁部で、1は焼町系の土器と考えられる。このほか、箱清水系の高坏と甕の破片が出土した。これらは、本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。いずれも表面が著しく磨耗している。

第4号溝跡〈SD04〉 遺構（第26図）、遺物（土器ー第46図、石器ー第54図）

本遺構は南東区の北西に検出された。北西部と南西部は調査地区の外で、未調査である。平面形は緩やかに弧を描いて掘り込まれている。断面形はV字状を呈している。人為的に掘られた可能性が高い。流水はなかったものと思われる。規模は、長さ6.80m、幅1.50m、深さ0.50mを測る。

遺物は、覆土より弥生時代後期の遺物が多く出土した。第46図の1は高坏で、口縁部に山形突起を有し、脚部に透かしが入る。2は甕などの蓋である。4は壺の胴部で、外面に赤色塗彩されている。3も壺の底部と思われる。このほか、縄文時代中期中葉と後葉の土器片が出土した。また、打製石鏃2点（第54図10・11）、打製石斧2点（44）が出土した。

第5号溝跡〈SD05〉 遺構（第25図）、遺物（土器ー第47図、瓦ー第56図）

本遺構は北西区の南部に検出された。現在使用されている排水路よりおよそ1メートル下で、数十センチ南に平行して存在する。この一帯が宅地化の際に盛土されるまで使用されていた水路と思われる。長さは18.60mを測るが、調査区の境を越えて続くものと思われる。、幅0.60m、深さ0.60mを測る。

遺物は覆土より僅かに出土した。第47図1はロクロ整形の土師器の坏で、底部には回転糸切り痕がみられる。2は須恵器の壺と思われる。3から6は縄文時代中期中葉の土器である。3と4はの文様は沈線からなり、5の口縁部は内面と外面の両面に文様がある。6はミニチュアで手捏ねでできている。第56図4は厚さ約2.3㎝の平瓦である。凹面には布目とケズリがみられ、凸面には押型文施されている。これらは、後に本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。

第6号溝跡〈SD06〉 遺構（第25図）、遺物（第48図）

本遺構は、北西区の南部に検出された。第5号溝跡に切られる。南北に長く歪んだ形状を呈する。深く掘りこまれており、先端はほぼ垂直に立ちあがっている。長さは検出された分で5.30mで、調査区の境を越えて更に続くと思われる。幅1.00m、深さ0.28mを測る。覆土には僅かに炭化物が含まれていた。不明な点が多いが、人為的な掘り込みの可能性があり、流水はなかったと思われる。

遺物は覆土より僅かに出土した。1と2は土師器の坏で、内面が黒色処理されている。2の底部は回転糸切痕がみられる。3は土師器の皿で、内面に黒色処理されている。4は両面が黒色処理された椀である。5は両面が黒色処理された皿である。このほか、土師器の甕、須恵器の甕、箱清水系の甕及び壺、縄文時代中期及び後期の土器の破片が出土した。これらは、本遺構の覆土に流れ込んだものと思われる。また、打製石

斧が1点出土した（45）。

第7号溝跡〈ＳＤ０７〉 遺構（第25図）、遺物（土器－第49図、石器－第54図）

本遺構は、北西区の南部に検出された。第5号溝跡に切られる。長く歪んだ形状を呈する。緩やかに西に曲がり、先端は細くなって途絶えている。比較的浅く、底部は平坦である。人の頭ほどの大きさの河原石を覆土に多く含む。長さは13.20mで、調査区の境を越えてさらに続くと思われる。幅5.10m、深さ0.08mを測る。不明な点が多いが、検出面の層までを削って一時的に流れたものと思われる。

遺物は、覆土から縄文土器中期及び後期、弥生時代後期、平安時代の土師器等が出土したが、本址伴出遺物といえるものではない。第49図1は沈線文、刺突文及び交互刺突文が施され、中期初頭のものと考えられる。2から5は中期中葉に属する思われる土器で、2には沈線文が施され、3の口唇部には鋸歯状に刻まれている。4は楕円形区画文の中に沈線文が施されている。5は隆帯とそれに沿う沈線による曲線的な文様が施されている。6から12は中期後葉に属すると思われる土器で、6は文様に太い隆帯がが貼付されている。8は隆帯と沈線文が、9は縄文と隆帯が施されている。10は地文縄文に蛇行沈線が垂下している。11と12は中期後葉に属すると思われる土器で、11は雨だれ状の沈線文が施され、12の口縁下に狭い無文の部分をもち、胴部に縦位に刷毛目状の条線文が施されている。13から15は縄文時代後期に属するもので13と15には「8」字状貼付文が施されている。14は薄手の浅鉢である。15は刺突文が施されている。16は土師器で、体部は浅く大きく開く皿状の形態を呈する。底部外面は切り離しの後、粗く削って調整されている。また、打製石鏃1点（第54図12）、打製石斧1点（46）が出土した。このほか、黒曜石の剥片、水晶及び蛋白石の原石が覆土から採集された。

第8号溝跡〈ＳＤ０８〉 遺構（第25図）、遺物（第50図）

本遺構は、北西区の南部に検出された。第5及び7号溝跡に切られる。南北に長く歪んだ形状を呈する。緩やかに東に曲がり、先端は細くなって途絶えている。部分的に深く、底部は平坦である。人の頭ほどの大きさの河原石を覆土に少し含む。長さは15.60mを測るが調査区の境を越えて続くものと思われる。幅は3.60mを測る。不明な点が多いが、検出面の層を削って一時的に流れたものと思われる。

遺物は、覆土より縄文縄文時代中期中葉、中期後葉、後期の土器及び土師器を出土したが、本址伴出遺物といえるものではない。1の文様は、連鎖状に押圧を加えられた隆帯とそれに平行する細い沈線が文様帯を口縁部と胴部に分ける。口縁部の文様帯は3本の平行沈線によって4つに区画され、その内を縦位の沈線文が施されている。この区画する沈線の左端は、隆帯を伴って渦巻き状の緩い曲線を描く。口縁に4単位の波状を呈し、波頂部から垂下した隆帯が口縁部から胴部を4分割する。隆帯の先端は巻かれ、波状に胴部を巡る別の隆帯と接する。これらの胴部に施された隆帯は両脇に2本または3本の沈線が平行に沿う。2は深鉢で、口縁部は4単位の波状を呈すると思われる。文様は隆帯と細い沈線文によって成り、胴部は縄文が施される。1と同じく連鎖状に押圧された隆帯が文様帯を分け、口縁部は波頂部から垂下した隆帯によって4分割される。口縁部の文様帯には隆帯による区画文が設けられ、内部には3本1組の平行沈線が上と下に施され、その中間に玉抱三叉文等が彫られている。胴部は、口縁部から垂下した隆帯とその両脇に沿う3本の平行沈線が緩やかに弧を描いて先端を丸め、直線や曲線を描く別の平行沈線文と連結している。3は浅鉢で、口縁部が内弯する。口縁部にラッパ状の突起が付く。その突起の左右から出た幅の広い隆帯の端は渦を巻き、それが連続して口縁部付近を巡る。幅の広い隆帯は沈線によって2条の半隆起線がつくられ、その隆線上に連続した細い沈線による刻み目や交互刺突文が施される。井戸尻式期に併行するものと考えられる。4は浅

鉢で底部は台付き状になっており、中期中葉末から後葉の初め頃のものと考えられる。文様は、口縁部に3本の太い沈線と隆帯が組みになって曲線的に施されている。5・6は深鉢の胴部で、井戸尻式期に併行するものと思われる。5は沈線文が施され、沈線が沿った2本の隆帯が垂下している。6は胎土の色調が灰白色ぎみで、他のものと異なる趣がある。沈線が脇に沿う隆帯が頸部近くの胴部に横位に巡り、その先端は渦巻き状を呈する。胴部には密で深い沈線が縦横に刻まれる。胴部は横位の沈線によって上と下に分割される。図に示した部分の裏側は隆帯によるP字状の区画文が施されている。上山田・天神山式の影響を受けた土器で、北信から上越地方より搬入されたものの可能性がある。7は曽利系の深鉢の口縁部である。沈線が沿った隆帯によって区画がなされ、その中を横位の沈線が施されている。8は加曽利E或いは大木系の深鉢の口縁部付近で、沈線による区画の中に縄文が埋められている。9の口縁部は波状を呈し、文様は沈線で成り、藤内式期に併行するものと考えられる。10から12は井戸尻式期に併行すると考えられる。10の口縁部は波状を呈し、口縁部文様帯に楕円形区画文が施され、その内部に縦位の沈線が施されている。11は焼町土器で、区画文の内部に刺突文が施されている。12は勝坂系の浅鉢で、口縁部は屈曲内弯した形態である。口縁部には隆帯による区画文がなされ、その内部に縦位の沈線文が施されている。13は唐草文系の土器で、口縁部文様帯に区画文がみられ中に沈線と交互刺突文が施されている。14はミニチュアである。また、15は土師器の坏で内面に黒色処理が施され、底部は回転糸切り痕がみられる。このほか、須恵器の坏蓋で、内面に返りが付くものの破片等が出土した。また、磨石が2点及び黒曜石の剥片等が出土した。

第9号溝跡〈SD09〉 遺構（第25図）、遺物（土器－第51図、瓦－第56図、石器－第54図）

本遺構は、北西区の南部に検出された。第7号溝跡に切られる。長さは19.20mを測るが調査地区を越えて更に続くと思われる。幅2.00m、深さ0.40mを測る。平面形はほぼ直線であるが、断面形は凹凸が著しい。人の頭ほどの大きさの河原石が覆土に含まれる。コビが底に溜まっている。何度かの大きな流れにより底が削られたり、土砂が堆積したりしたと思われる跡がみられる。人為的な溝と思われる。

遺物は覆土から縄文時代中期、弥生時代後期、奈良時代の土器が出土したが、本址伴出遺物といえるものではない。第51図1と2は縄文時代中期の土器である。1は浅鉢で内面に交互刺突文及び連続刺突文が施されている。2は深鉢の胴部で、縄文に縦位沈線で胴部を区画し蛇行沈線が垂下している。3と4は弥生時代後期の甕で、3の外面には櫛描文が格子状に施され、4の底部外面には木葉痕がみられる。5と6は須恵器の坏で、箱形の体部に高台を付すものである。5の底部外面は高台周辺に回転ヘラケズリが施され、中央部はナデられている。6の底部は回転ヘラ削りが施されている。7は土師器の甕で胴部外面にヘラ削りがなされている。8は須恵器の壺の口縁部で、ラッパ状に開き、内面に稜を有する形態を呈し、内外両面に自然釉が掛かる。9は須恵器の甕で、胴部の内面と外面にはタタキと押さえの痕がみられる。また、第56図5は平瓦で、凹面に布目、凸面に押型文が施されている。また、打製石斧が1点出土した（第54図47）。

7. ピット〈P－01～315〉 遺構（第27図）、遺物（土器－第52図、土製円盤－第55図、石器－第54図）

本調査では、北西区で231基、南東区で45基のピットが検出された。これらは掘立柱建物跡等を構成していない。これらの覆土からは、土器等の遺物を出土しているものがあるが、明らかに遺構に伴うとみられるような出土状況のものは無かった。その中から形態が推測できるもの及び文様が明瞭に残存しているもの等を選んで第27図に掲載した。

第52図の3と6は須恵器の坏で、3はP－71から、6はP－175から出土した。蓋受け部分をもち、受け

部から口縁部にかけて立ちあがりをもつものである。P－71からはこのほか底部にヘラ削りが施されている須恵器の坏や土師器甕が出土した。4はP－150から出土し、須恵器の坏蓋で口縁部の内面に返りをもつ。1と2はP－14から出土した須恵器の坏蓋と坏である。1は内面に返りが付くもので、2の底部は回転ヘラ切りが施されている。9はP－234 出土の須恵器の坏で、浅く皿状の形態を呈している。底部外面は回転ヘラ切りが施され、内面に付着物がみられる。7と10は土師器の高坏で、7はP－198から、10はP－248から出土した。5はP－156 から出土した縄文土器の深鉢の口縁部で、文様は沈線文と交互刺突文から成る。8は縄文土器の深鉢の口縁部で、P－222 から出土した。文様は縄文と隆帯からなり、断面形は内弯する。11から13はP－281から出土し、11と12の文様は沈線文が施される。13は台付き鉢の脚と思われる。14から19はP－300、301及び304から出土した縄文土器である。15と16はP－301から出土し、文様は半裁竹管による平行沈線が施され、16には縄文がみられる。17は口縁部で断面形は屈曲し、文様は連続して沈線が加えられた隆帯による区画文が施されている。18は曽利系の深鉢で、無文帯の口縁部に胴部は筒状を呈する。文様は胴部に沈線文と押引き文が縦位に施される。19は曽利系の深鉢の頸部から口縁部にかかる部分の破片で、沈線文と紐状の隆帯を貼付して波状文を施している。

また、P－272から打製石鏃が出土し（第54図13）、P－218・271・278・289から打製石斧が1点づつ出土した（48～51）。P－173の覆土中より鉄製品が出土した（写真図版22）。

8. 遺構外

土器 出土分布図（第7・8図）、遺物（第53図）

包含層等からも縄文土器、、土偶、弥生土器、土師器、須恵器、瓦等の遺物が出土した。特に縄文土器の総重量は114.78kg、てん箱22箱に及ぶ。第7図はグリッドごとに出土した縄文土器の重量を示したものである。本調査で採集された縄文土器の多くが南東区から出土した。これらの中から、比較的残存状況が良く形態が復元できるもの、または文様が特徴的で明瞭なもの等を選んで第53図に掲載した。

（1）縄文土器

1は台付きの深鉢で、脚部には2ヶ所の切り込みがある。口縁部は屈曲外反して開き、内面に受け状に断面三角形の隆帯を付す。口縁部は4単位の波状を呈し、波頂部には突起が付き、この波頂部の下には橋状把手が付いていたと推測される。文様は、細い平行沈線、隆帯及び縄文からなる。口縁部には沈線が連続して刻まれた隆帯が口縁の波に沿って巡らされる。また、太いしっかりとした隆帯が胴部を横位に巡り、これによって文様帯は分けられている。口縁部の文様帯は平行沈線による区画文が施され、沈線文によって渦巻き状の文様が施される。胴部の隆帯には沈線によって刻み目が加えられ、装飾文が付けられている。2条の平行沈線が脇に沿った隆帯が垂下して胴部を4つに分けている。胴部から口縁部にかけて縄文が施文されている。2は深鉢で、口縁部は外反し、胴部は緩く括れている。口縁部は4単位の橋状把手を有し、その上に4単位の突起が付くと推定される。太い隆帯が横位に胴部を巡り、これにより文様帯が分けられている。口縁部の文様帯は、刻み目が連続して加えられた隆帯が口縁下に巡り、細い平行沈線文と縄文が施文されている。文様帯を分ける横位の隆帯に4単位の装飾文が付され、そこから出た2条の隆帯がに胴部に垂下する。この隆帯の区画内のほかは、胴部は縄文が施されている。中期中葉から後葉の初め頃のものと考えられる。3は台付きの深鉢で、脚部には切り込みが入れられている。文様は沈線文と隆帯から成る構成で、隆帯の脇に沈線が沿って曲線的に施されている。また添付文から出た隆帯が胴部を垂下している。井戸尻式期に併行するものと考えられる。4は胴部から口縁部にかけて短く外反する形態の深鉢で、底部には台が付されていたと

推測される。口縁部は鋸歯状に刻みが入れられ、胴部に縄文が施されている。頸部には隆帯が巡る。5は深鉢の胴部から底部で、縦位の沈線が施されている。6と7は台付き鉢の脚部で円形の透かしが入っている。6には全体的に縄文が施文されている。8は無文の浅鉢で、口縁部の先端が内側に折れた形態を呈している。9から13は焼町土器で、井戸尻式期に併行するものと考えられる。14から16は他の土器と異なる様相がみられ、胎土が軽くて白っぽい。沈線文と隆帯による文様がなされ、井戸尻式期に併行するものと考えられる。14は隆帯に区画された中に刺突文が施され、15・16は濃密に沈線が施されている。14は焼町土器、15・16は文様に北信或いは上越地方の特色がみられる。

17は唐草文系の土器で、胴部から口縁部にかけて緩やかに外反して開く形態である。口縁部は欠落しているため詳細は明らかではないが、4単位の波状を呈すると推測され、波頂部には2種類の突起が交互に付すと思われる。文様は口縁部と胴部を横位隆帯が分割しており、そこから垂下する4単位の腕骨文が胴部を縦に分割する。胴部はさらに腕骨文によってそれぞれが縦に2分割されると推測され、文様間には「ハ」の字状の沈線文を施している。口縁部の文様帯には、「ハ」の字状の沈線文が横位に施されている。18・19は深鉢の口縁部及び頸部で、キャリパー形を呈する形態のものと推測される。18は曽利系の口縁部で褶曲文が施され、19は細い帯状の粘土を波状に貼りつけている。20は加曽利E系の深鉢の口縁部で、形態は胴部から口縁部にかけて緩やかに移行して括れが無い。文様は僅かに隆起する隆帯によって口縁部と胴部を分割し、胴部の区画内に縄文を施している。

21は口縁部で、波状を呈する。内面と外面は丁寧に磨かれ、文様は平行に刻まれた沈線による区画の中を縄文が充填される。22は把手の部分で、内外両面は丁寧に磨かれている。文様は沈線で区画された中に縄文と刺突文が施されている。23の底部外面には網代文がみられる。

（2）弥生土器

24は弥生土器の甕で、頸部に簾状文が、口縁部と胴部上位に櫛描き波状文が粗く施されている。胴部下半の外面と内面にはヘラ削りが施される。25は弥生土器の台付き甕の脚部で、外面には斜位方向に刷毛調整が施され、内面にケズリとナデが施されている。

（3）土師器・須恵器等

26は土師器の坏で内面に黒色処理を施している。底部外面は回転糸切りの痕がみられる。27から29は黒色土器の皿か椀の底部で、27は内面を黒処理し、28と29は内外両面を黒色処理している。底部外面は、26と27は回転糸切り、28は切り離しの後に高台に沿ってナデ消されている。

30と31は須恵器の坏蓋で、30には扁平のつまみが付され、31の口縁部の先端は小さく折れる形態を呈している。32は須恵器の坏で、箱形の体部に高台を付すものである。33は近世の陶器の椀とみられる。34は須恵器の甕の口縁部で、外反して大きく開く形態である。

石器　遺物（第54図）

また、石器類も包含層及び遺構の覆土中から多く出土した。これらの多くは遺構外から出土しているが、第7号竪穴住居跡等の遺構の覆土からも多く出土している。第8図の上はグリッドごとに出土した石器を器種ごとに数を示したものである。打製石鏃、磨石、打製石斧、磨製石斧、石錐、凹石、石匙、刃器、石製円盤、石棒が採集された。とくに打製石斧は総数72点出土し、調査面積が小さい割に出土数が多い。これらのうち、完形及び残存部の大きいものを実測して第54図に掲載した。第8図の下はグリッドごとに出土した黒曜石の剥片及び石屑の数を示したものである。この中には縁の一部に調整痕が見られるものが十数点含まれ、削器や石鏃等の未製品または使用時に壊れたものの破片である可能性のあるものもある。これら剥片等につ

いては本書に実測して掲載しなかった。なお、石器の石材の産地については甲田先生のご教示によると、多くは遺跡の近辺（例えば千曲川河川敷及びその周辺）でごく一般的にみられるものである。例外としては、緑泥変岩、絹雲母変岩及び大きめのチャートは南佐久地方、水晶は真田町傍陽地区、玄武岩は真田町角間渓谷が最も近い産出地であり、これらは遺跡の周辺で容易に得られるものではなく他地域から搬入された可能性があるものである。

土偶 遺物（第55図の2～4）

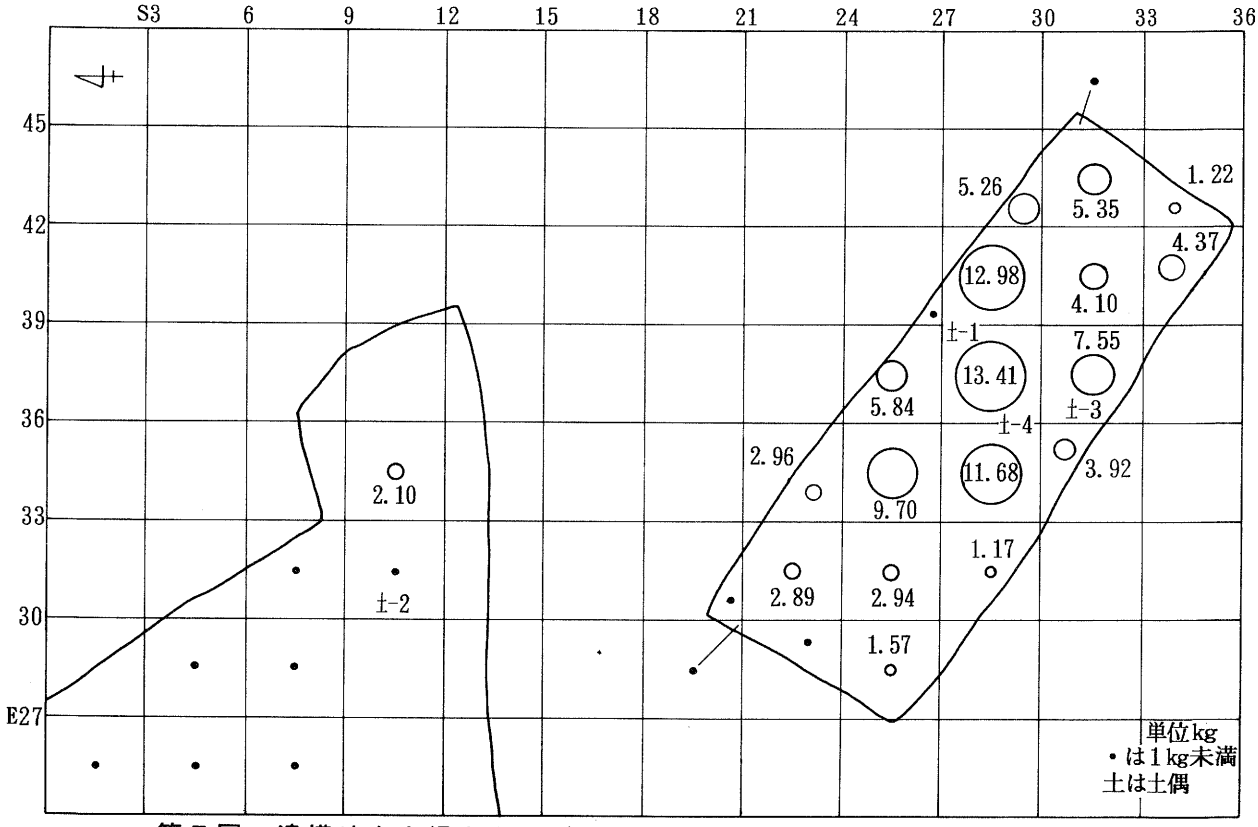
土偶は4点出土したうち3点が包含層から出土しており、出土地点は第7図に示した。2は胴部から左腕が残存しており、両乳房の間から腹にかけての部分と背中から脇にかけての部分に沈線文が施されている。頭部及び胴部下半の欠損部に心棒の痕が認められる。また、喉の付近に凹みをもつ。3は胴部の一部とみられ、乳房及び背中に沈線文が施されている。欠損部には心棒の痕がみられる。4は足にあたる部分と思われ、沈線文によって文様が施されている。足の裏にあたる部分の中心に心棒の痕と思われる孔がみられる。

瓦 遺物（第56図）

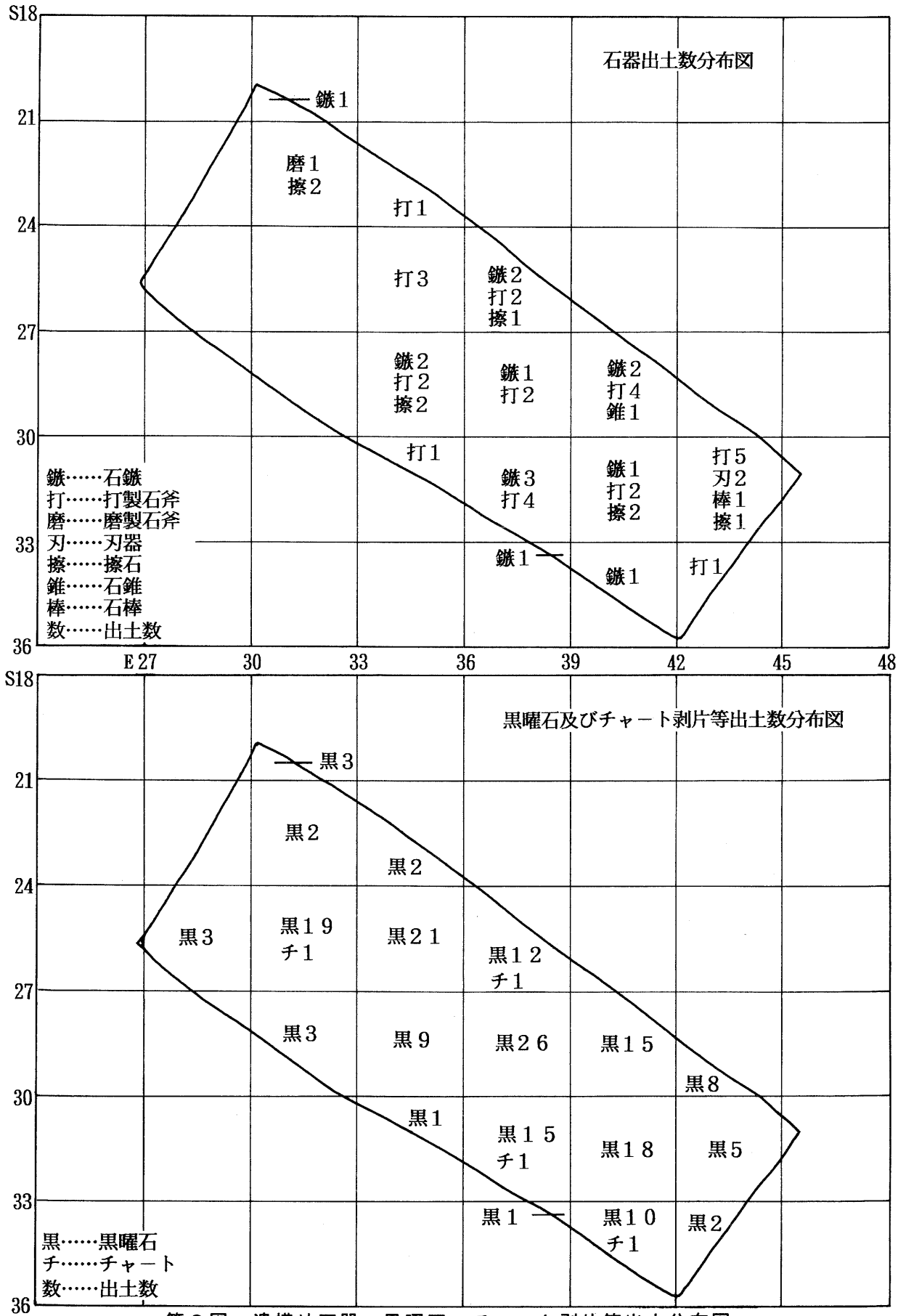
また、丸瓦が出土した（第56図の1）。丸瓦は小破片で、大きさや形態は明らかでない。凸面は無文で側縁は削られて面が取られ、凹面には布目の痕がみられる。

銭 遺物（第57図）

そのほか、寛永通宝銭2点が出土した（第57図）。また、鉄製品及び鉄滓が僅かに出土した（写真図版23）。



第7図　遺構外出土縄文土器グリット別総重量及び土偶出土地点分布図



第８図　遺構外石器・黒曜石・チャート剥片等出土分布図

9．まとめ

本報告をまとめるにあたって、検出された遺構について出土遺物の様相等をもとに考えてみようと思う。また、遺構に伴わない縄文土器が多く出土したが、それについてもあわせて簡単に考えてみたい。縄文土器の多くは破片であり今後の詳細な検討を必要とするものであるが、この期の既存の資料にみられないものが含まれている。ある程度形態が復元できる遺物が存在するので、それらついてとりあげてみたいと思う。

各遺構と出土遺物について

竪穴住居跡のうち第８及び第10号竪穴住居跡を除けば、これらは主に古墳時代後期から奈良時代頃の７世紀から８世紀前半のものであることがわかる。第10号竪穴住居跡は、縄文時代中期中葉に属すると考えられる。また、住居跡の可能性のある第１号配石は、遺物により縄文時代中期中葉末か後葉のものと推定される。生憎、竪穴住居跡はすべて調査地区の端に位置し、未調査の部分を残している。このため、カマド内部及び床着出土遺物等の資料が極めて少なく、かつ未調査の遺構等の遺物が混入している可能性が充分考えられる。このような状態においての調査結果を基にしているため、大概に述べることでとどめたい。

掘立柱建物跡については、竪穴住居跡等との切り合い関係から、第１号掘立柱建物跡は第１号竪穴住居跡より新しく、第３号掘立柱建物跡は第５号竪穴住居跡より古いということになる。これら柱穴の覆土からは、僅かな破片資料であるが竪穴住居跡群と同時期間に属する土器と弥生時代後期の遺物が出土し、第１号掘立柱建物跡からはこれらに加えて縄文土器が出土している。しかし、柱穴の覆土から出土した遺物を決定資料として捉えることはやや短絡的過ぎると言えよう。また、遺構付近のグリッドから出土した遺物は、調査以前に既に動いている可能性があると言え、当然ながら資料に加えることは適切ではない。不充分ではあるが、竪穴住居跡群と同じ７世紀から８世紀前半か或いはその前後のものと仮に考えておくこととする。

土壙も遺構に伴う遺物を明確に捉えられたものは無いが、第５号土壙の出土土器は、第40図の１を除くと縄文時代中期中葉末から後葉の初め頃に属する土器を出土している。第10号土壙も縄文時代中期中葉末から後葉の初め頃の遺物が出土している。また、第１号土壙、第３、４、８号土壙は７世紀から８世紀代、第２号土壙、第６号土壙、第７号土壙は９世紀代の遺物を出土している。

第１号及び第２号集石は、出土量が少なく不明である。

溝跡のうち、第３号から６号及び９号溝跡は人工的な掘り込みと推定されたものである。第４号溝跡は出土遺物の様相から弥生時代後期の箱清水式期に属すると思われる。その他は遺構に伴うと考えられる遺物を捉えられず、時期不明である。第６号溝跡は９世紀代と思われる遺物を出土している。

第１号・２号・７号・８号溝跡は自然流の跡で、覆土層の様相から何回かにわたって短期的に流れたものと推定される。第１号・２号溝跡は、７号・８号溝跡と覆土や形態及び方向において共通性がみられ、一連のものであった可能性がある。本調査地区の地形は、南東の調査地区から北西の調査地区へ向かって低く傾斜しており、南東地区の縄文土器を多量に含んだ土砂を巻き込んで流れたものと推定される。これらから出土した遺物はいずれも遺構に伴うものと考え難く、どの時期において流れたかは不明であるが、第８号溝跡は、少なくとも第６号・７号土壙より古い時期に流れたものである。遺物は縄文時代中期中葉、後葉、古墳時代後期及び奈良・平安時代等の土器が出土し、特に縄文土器を多く出土した。

各々のピットについても明確に時期が分かるものは無い。覆土から出土した遺物で本書に掲載したものでは、Ｐ－14とＰ－150からは７世紀後半から８世紀初めにみられる須恵器の杯蓋が出土し、Ｐ－71とＰ－175は古墳時代からの伝統的な系譜をひいた坏が出土した。Ｐ－198とＰ－248からは土師器の高坏が出土し、これらは古墳時代後期のものと思われる。その他、縄文時代中期中葉から後葉に属する土器が出土した。

以上のことから本調査で検出された遺構群のうち竪穴住居跡の主なものは、7世紀から8世紀前半に属し、掘立柱建物跡等も含めて集落を構成していた可能性が考えられる。調査地区は信濃国分寺僧寺跡に隣接しているが、これらの遺構はその建立以前に営まれていたものと考えられる。続く9世紀代の遺物は、明確に遺構に伴う形ではない状態で土壙や溝跡及び包含層等から僅かに出土している。この集落が継続して平安時代まで存在していたかどうかはこの範囲の中では捉えられていないが、少なくとも調査地区の周辺にこの期の何らかの遺構が存在している可能性は考えられる。特に第7号竪穴住居跡の覆土からは円面硯が出土しており、この場所が信濃国分寺跡との関係を覗わせる地域である可能性を示している。縄文時代の遺構については、第10号竪穴住居跡及び住居跡の可能性のある第1号配石は、縄文時代中期中葉末か後葉の初めのものと推定される。また、明確には捉えられなかったが、第5号土壙及び第10号土壙も縄文時代中期中葉末から後葉の初め頃に属する可能性がある。その他、弥生時代後期の箱清水式期に属すると思われる第4号溝跡があり、本調査区の周辺にこの期の遺構が存在している可能性は考えられる。

遺構外及び第8号溝跡出土の縄文土器について

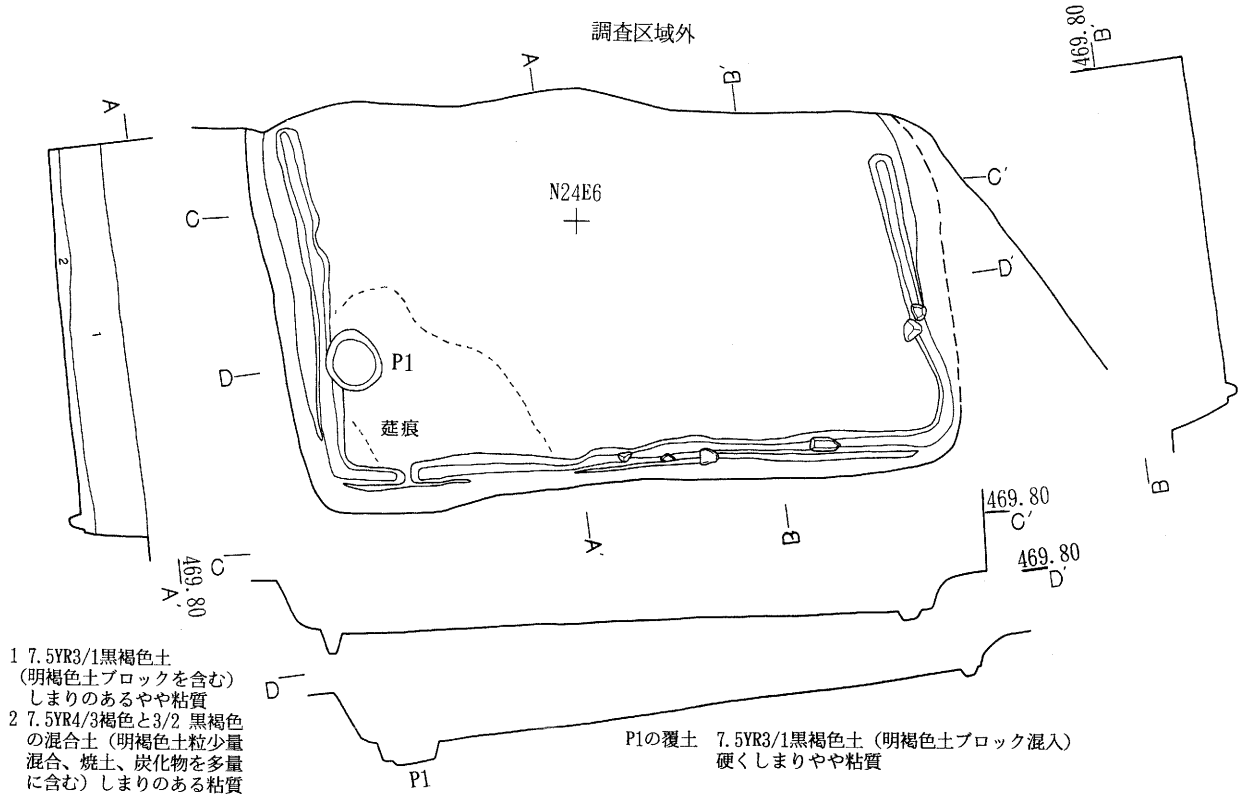
出土した遺物は中期初頭、中期中葉、中期後葉、後期前葉に属するものがみられ、調査地区及びその周辺にこれらの各時期において生活等の行為があったことが推測される。採集された縄文土器のほとんどが第10号竪穴住居跡及び住居跡の可能性のある第1号配石が存在する南東区から出土している。北西・南東両地区を隔てる距離は僅か6mほどで、縄文土器の出土量の違いはこの近辺を境としている。調査面積が非常に狭いため断定的なことは言えないが、縄文時代の集落の主体部は地形的に若干低い北西地区には及んでいなかった可能性があり、この場所より昭和24年の調査地点が存在する南東方向に展開するものと推測される。

遺物は中期中葉から後葉にあたる土器が多く出土し、これらには勝坂系、焼町系、曽利系、加曽利E系、唐草文系土器及び北信・越後地方から搬入されたと考えられる土器等がみられる。特に井戸尻I式、III式から曽利I式併行期に属すると考えられる土器が多く出土している。その中で、口縁部から胴部までの形態がある程度分かるものとして、第8号溝跡出土の1から4及び遺構外出土の1・2が上げられる。

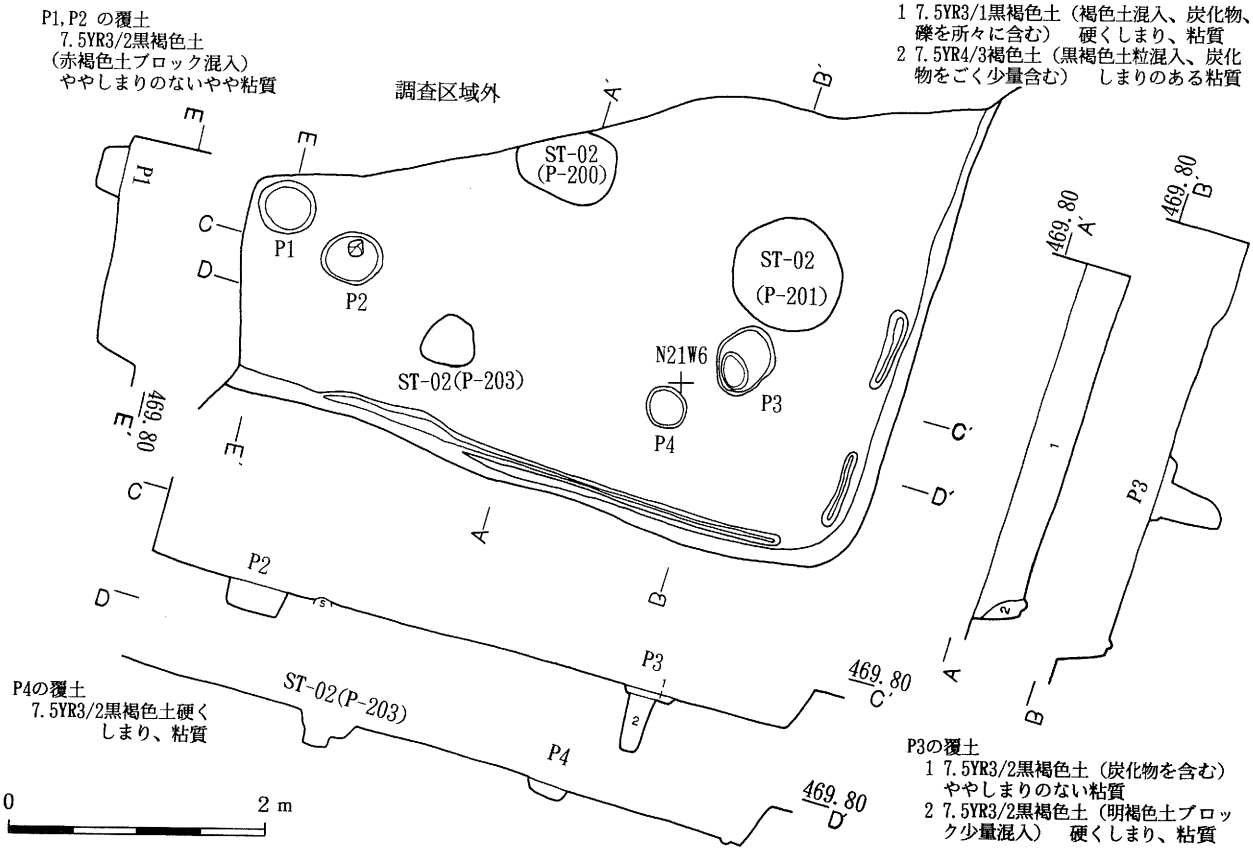
このうち第8号溝跡の第50図1と2は、4単位の波状口縁を呈するもので、口縁部は胴部へ移行する手前の部分で強く張り出し、胴部の中位は若干膨らんでいる。文様は口縁部の波頂部を起点に分割され、その中に区画文が施される。連鎖状隆線によって文様帯が口縁部と胴部に分けられ、胴部には半裁竹管による沈線が脇に沿う隆帯が垂下してその先端が巻かれている。2の胴部には縄文が施されているが、1にはみられない。これらは、隆線脇に平行沈線が沿う焼町土器に共通する特徴を持った土器である。これらは、井戸尻式に併行すると考えられる。1は器形の特徴等から櫛形文土器の影響を受けていると考えられる。また、遺構外出土の第53図1は4単位の波状口縁を呈した台付で、同図2は大型の深鉢である。これらは口縁部が4単位に分けられ、橋状把手が付される。口縁部の文様帯には刻みが加えられた隆帯と半裁竹管による平行沈線からなる文様が施され、口縁部から胴部に縄文が施されている。2の器形には、強いて言えば三原田式土器の影響が若干みられる。この二点は、井戸尻IIIから曽利I式に併行すると考えられる。但し、これらの資料は重複関係及び層位等の裏付けに欠けることから、資料の増加を待って実証的な検討を行う必要がある。

本稿を執筆するにあたり以下の報告等を参考にした。また、縄文土器については（財）長野県埋蔵文化財センターの寺内隆夫氏の御指導を頂いた。

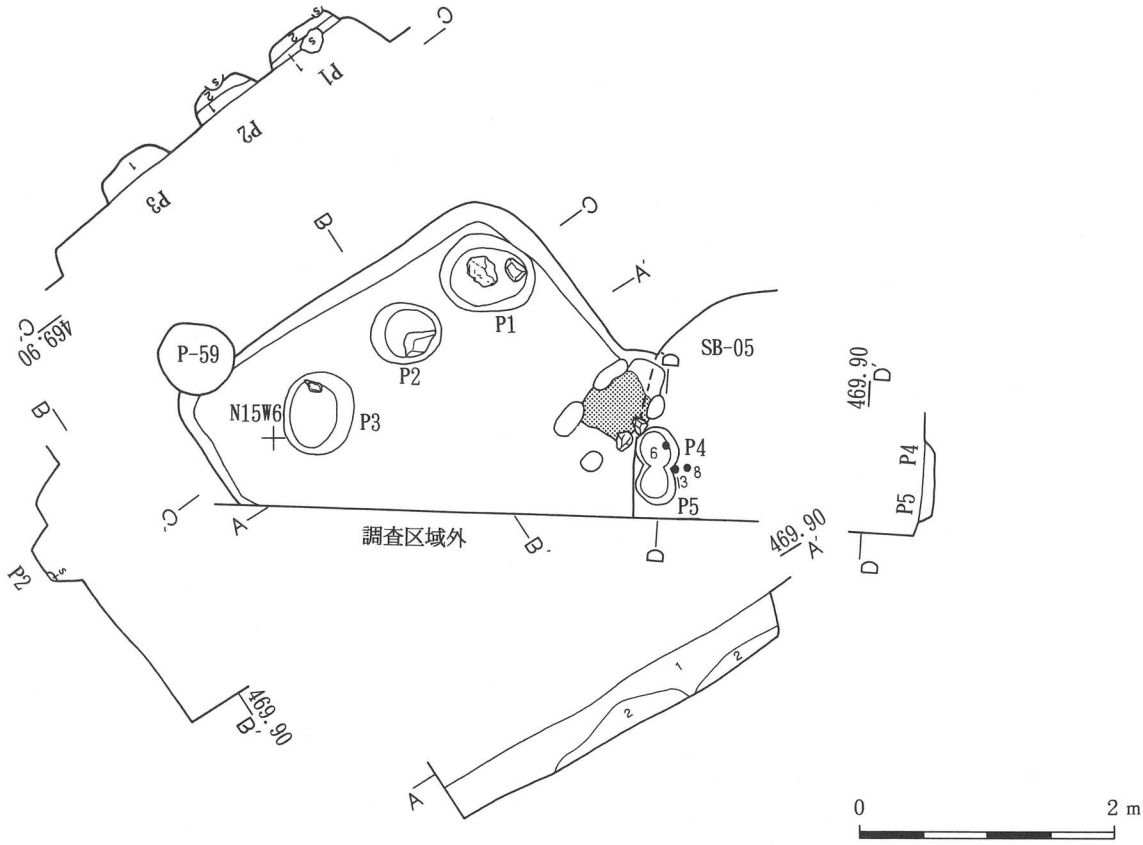
長野県埋蔵文化財センター2000『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 28－更埴市内その7－更埴条里遺跡・屋代遺跡群（含む大境遺跡・窪河原遺跡）－総論編－』、小諸市教育委員会1994『東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原』、小林真寿1987「上小地方における様相」『長野県考古学会誌』55・56号、東部町教育委員会1982『真行寺』、御代田町教育委員会1997『川原田遺跡－縄文編－』、岡谷市教育委員会1996『花上寺遺跡』等



第９図　第１号竪穴住居跡実測図



第１０図　第２号竪穴住居跡実測図



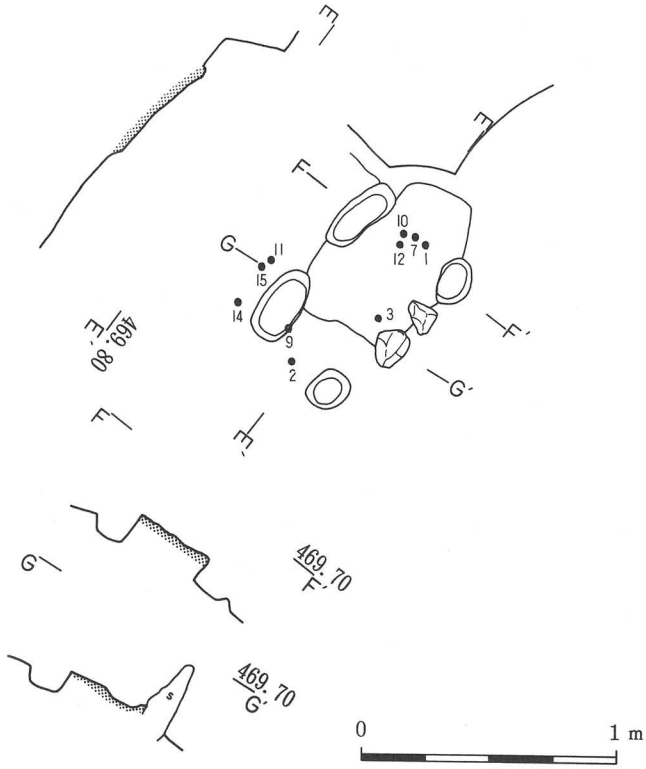
1 7.5YR3/3暗褐色土（褐色土混じり、砂利を多量に含む）
やや砂質
2 7.5YR4/3褐色土（黒褐色土ブロック少量混入）
しまりあり、やや粘質

竈

P1,P2 の覆土
1 7.5YR3/1黒褐色土　やや砂質
2 7.5YR4/4褐色土　やや砂質

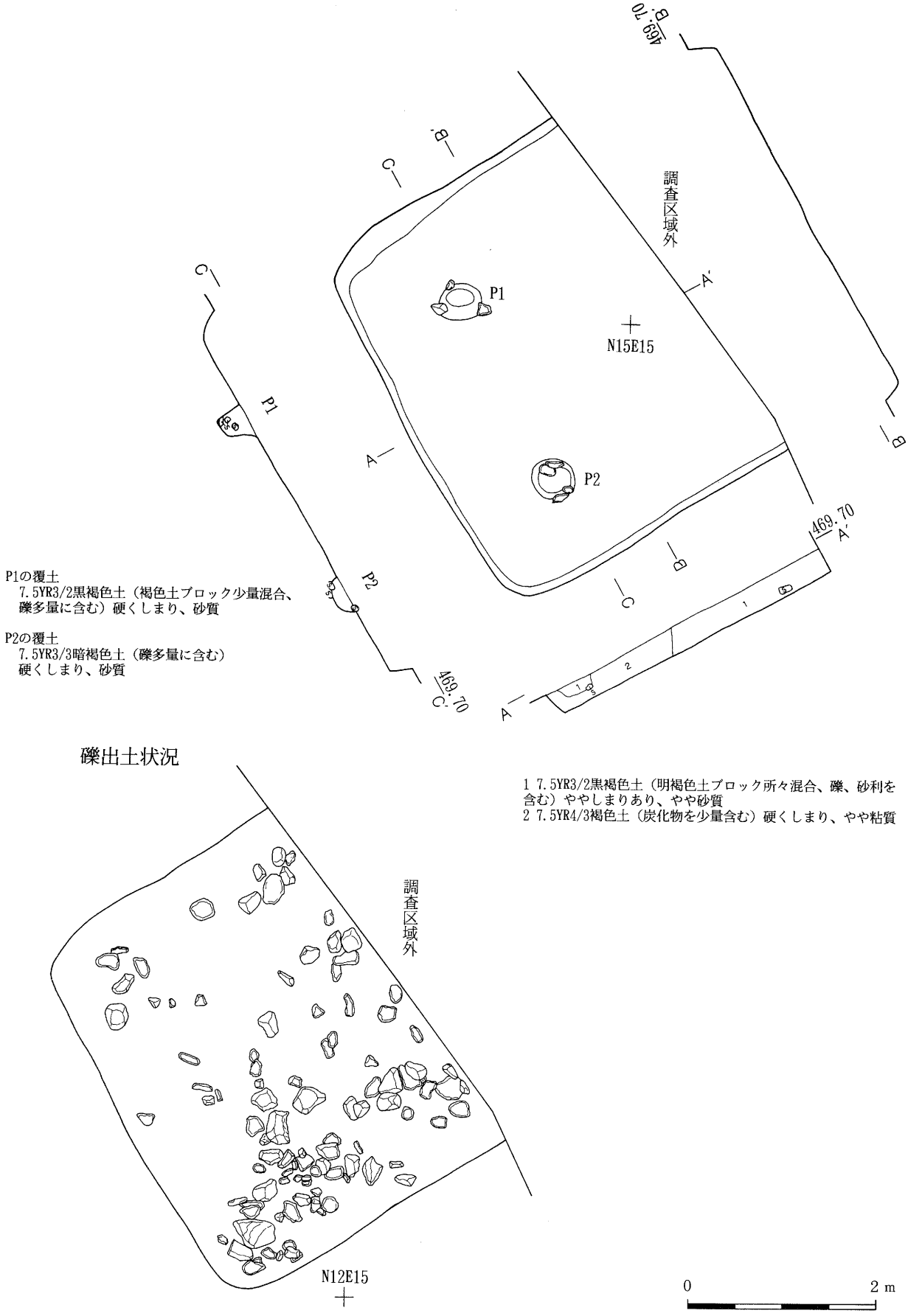
P3の覆土
7.5YR3/1黒褐色土

P4,P5 の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（褐色土混じり、焼土、炭化物を少量含む）
しまりなく砂質

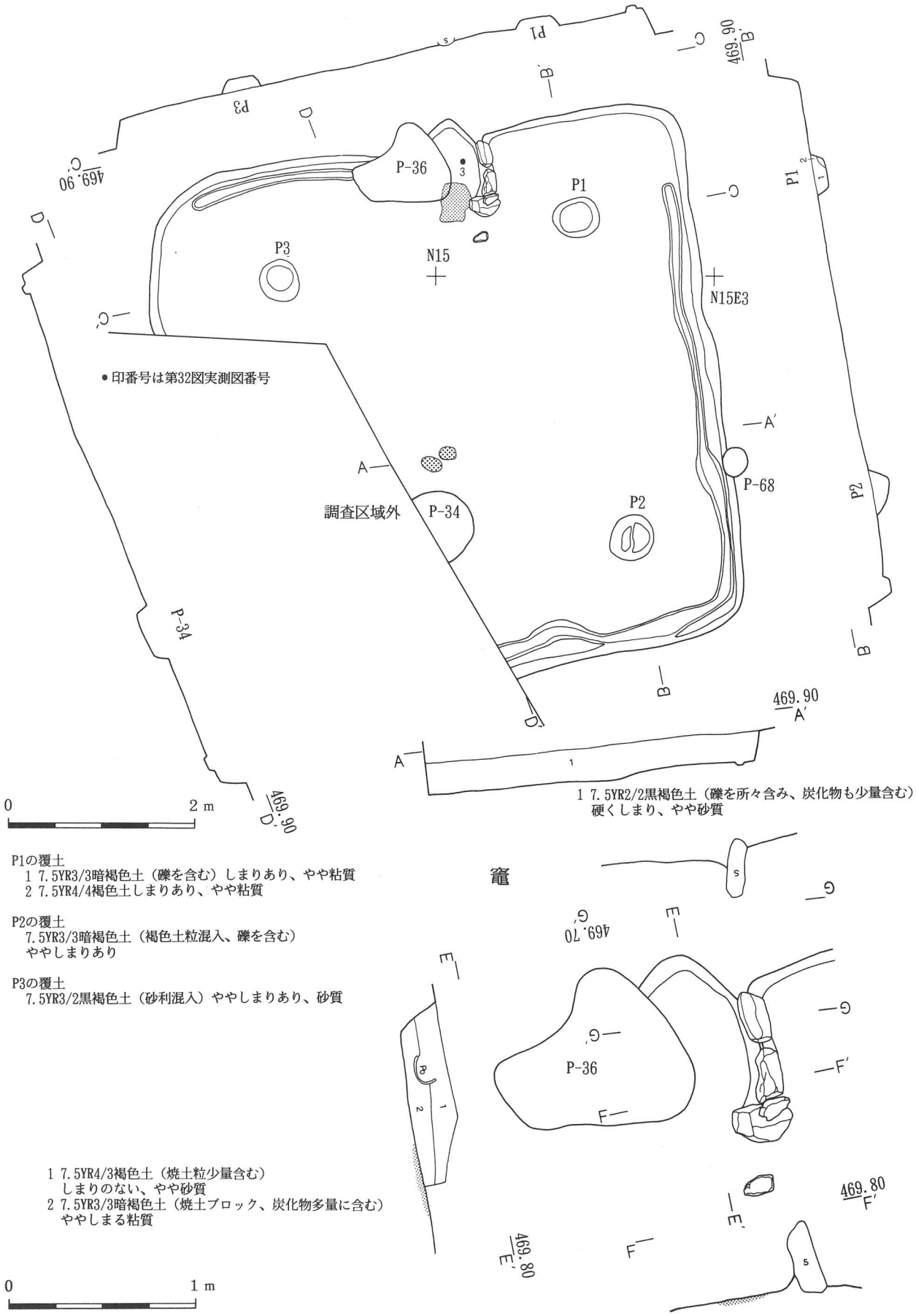


● 印番号は第30図実測図番号

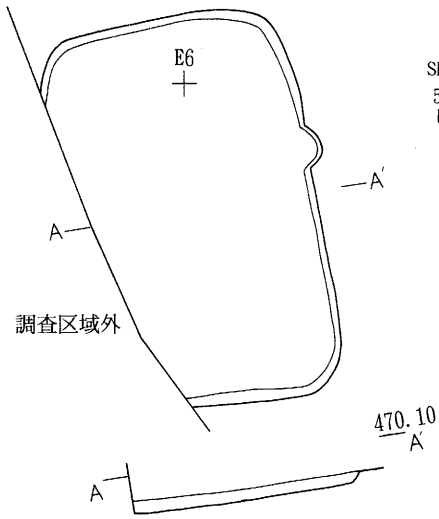
第１１図　第３号竪穴住居跡実測図



第１２図　第４号竪穴住居跡実測図



第１３図　第５号竪穴住居跡実測図



SB-06 の覆土
5YR4/1褐灰色（鉄分と炭化物を多量に含む）
しまりのない、やや粘質土

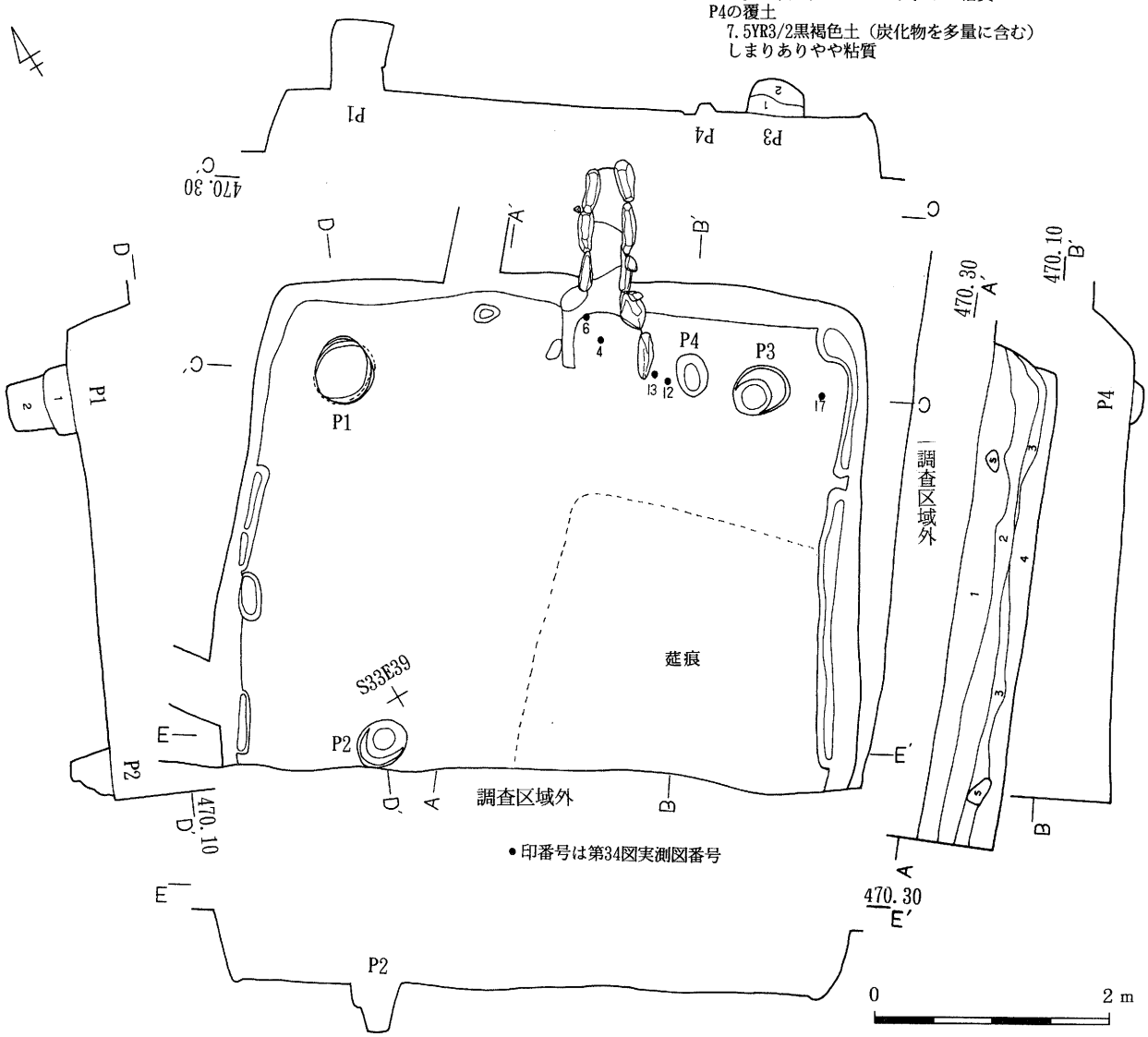
SB-07 の覆土
1 7.5YR2/1黒色土（明褐色土ブロック少量混入、炭化物、砂利を含む）しまりあり粘質
2 7.5YR3/1黒褐色土（褐色土混入、炭化物少量含む）しまりあり粘質
3 7.5YR3/2黒褐色土　しまりあり粘質
4 7.5YR3/2黒褐色土（褐色土混入）しまりあり粘質

P1,P3 の覆土
1 7.5YR3/3暗褐色土（焼土多量に含む）しまりのない、やや砂質
2 7.5YR4/1褐灰色土　砂質

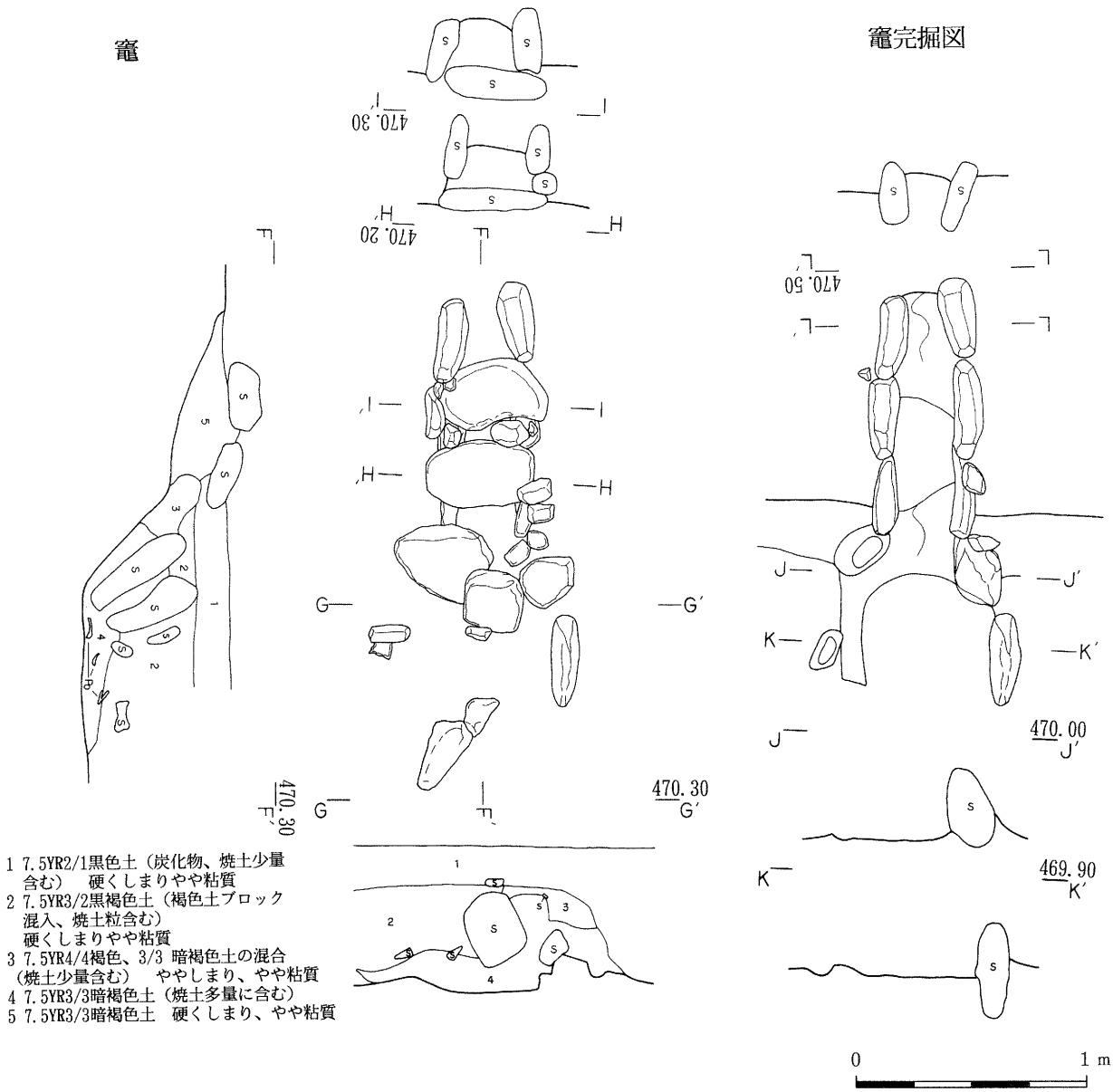
P2の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（褐色土混入、炭化物を少量含む）ややしまり、やや粘質

P4の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（炭化物を多量に含む）しまりありやや粘質

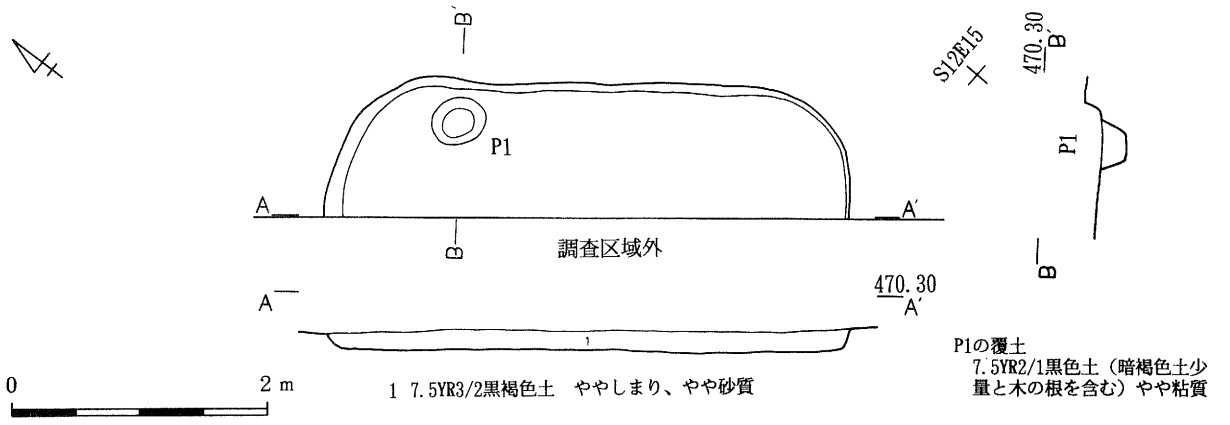
第１４図　第６号竪穴住居跡実測図



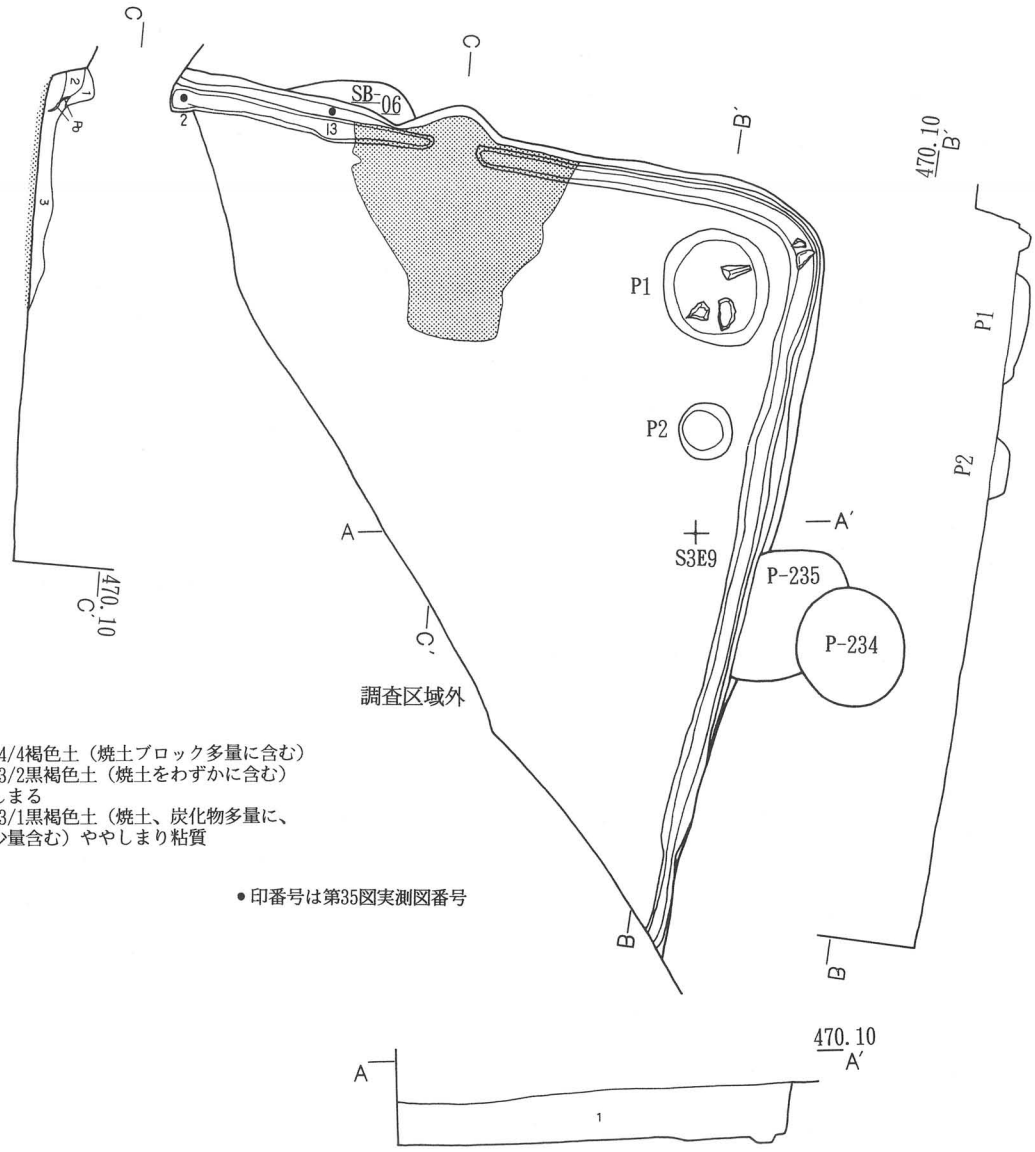
第１５図　第７号竪穴住居跡実測図（１）



第１５図　第７号竪穴住居跡実測図（２）



第１６図　第８号竪穴住居跡実測図



1 7.5YR4/4褐色土（焼土ブロック多量に含む）
2 7.5YR3/2黒褐色土（焼土をわずかに含む）
硬くしまる
3 7.5YR3/1黒褐色土（焼土、炭化物多量に、
砂利少量含む）ややしまり粘質

●印番号は第35図実測図番号

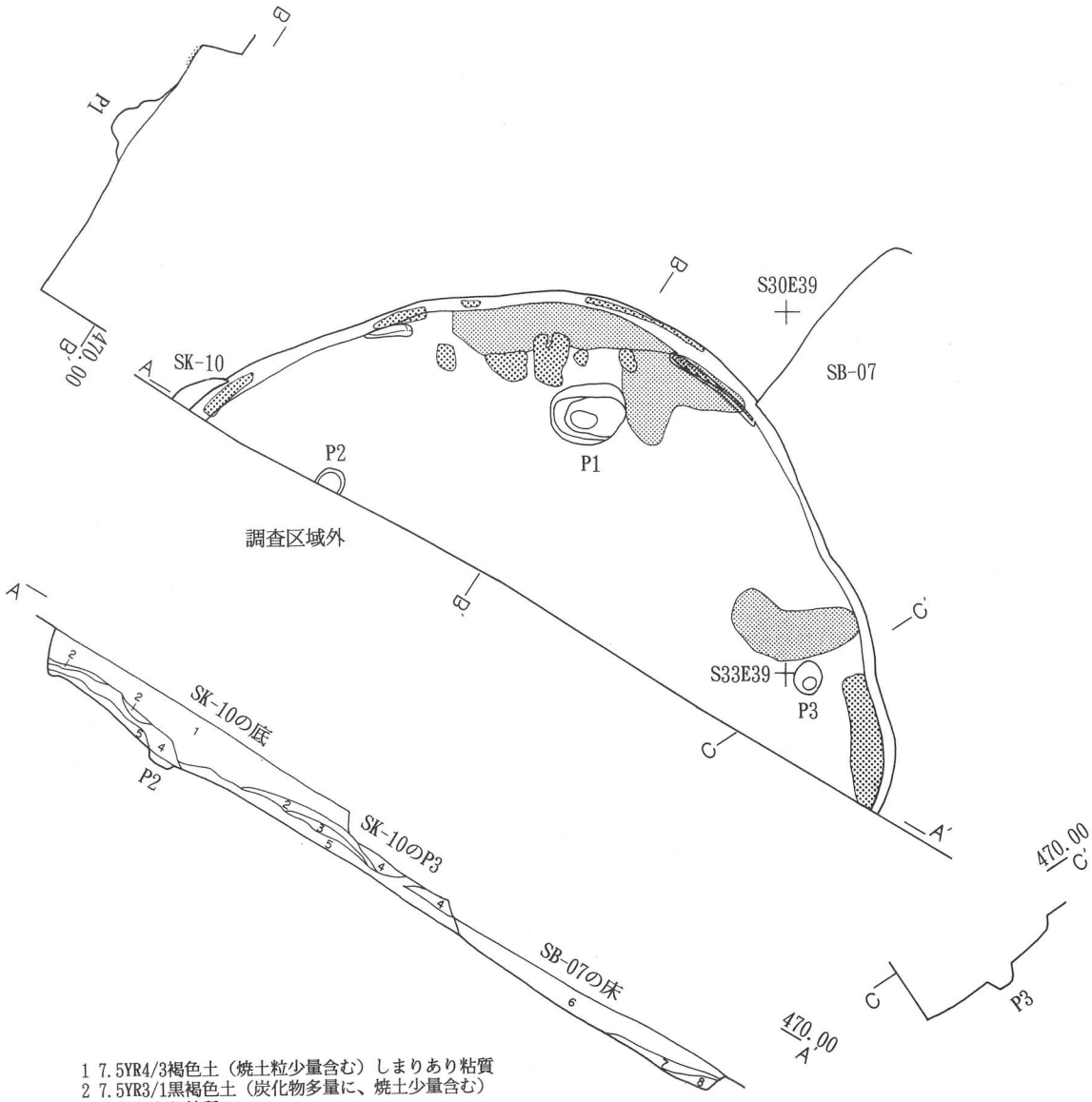
1 7.5YR3/3暗褐色土（褐色土ブロック少量混入、炭化物、
砂利少量含む）ややしまり、やや粘質

P1の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（焼土ブロック少量含む）
ややしまり粘質

P2の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（焼土少量含む）

0　2 m

第１７図　第９号竪穴住居跡実測図

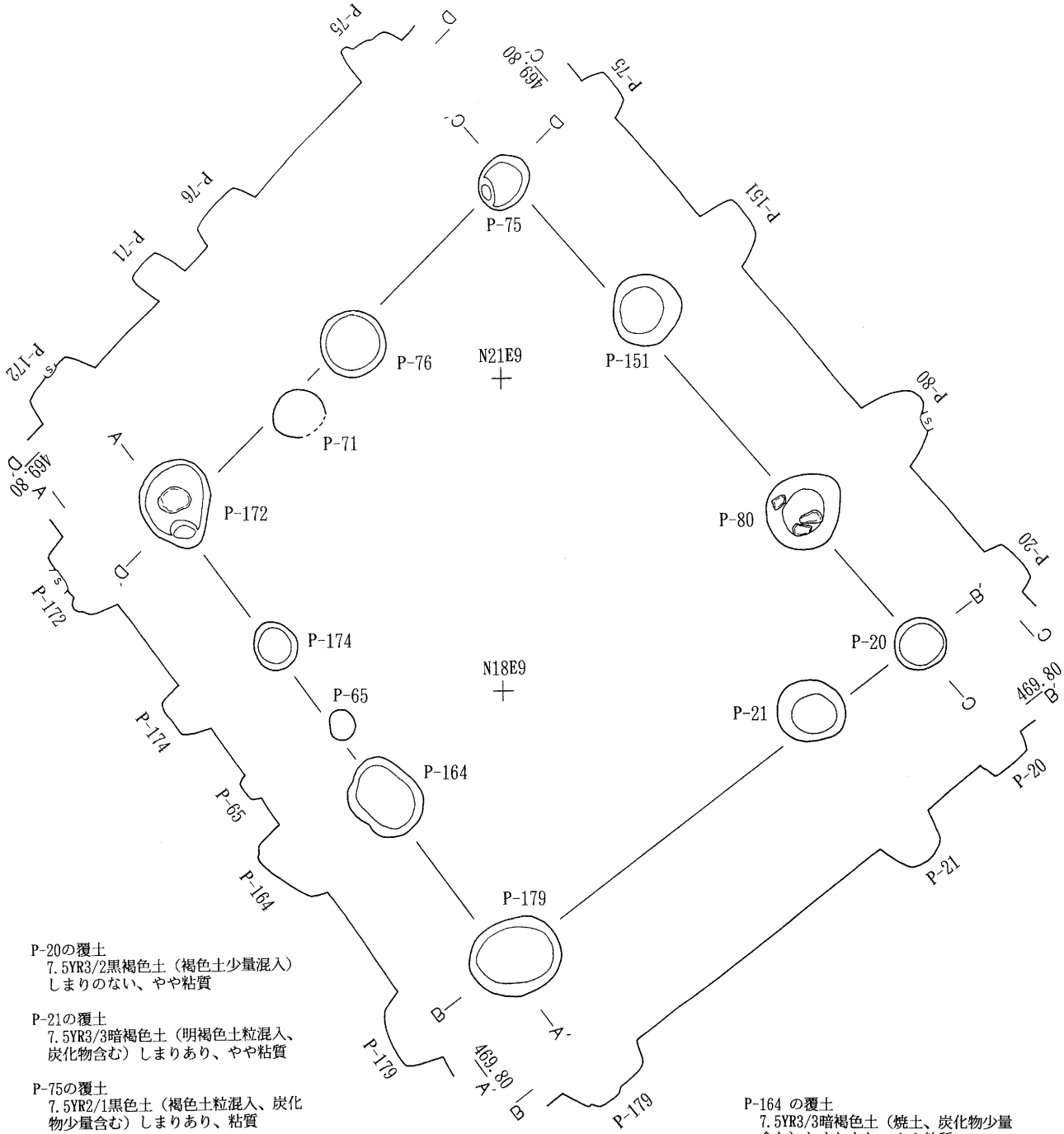


1 7.5YR4/3褐色土（焼土粒少量含む）しまりあり粘質
2 7.5YR3/1黒褐色土（炭化物多量に、焼土少量含む）
しまりあり粘質
3 2.5YR4/6赤褐色土　焼土層（炭化物少量含む）
4 7.5YR4/3褐色土　しまりあり粘質
5 7.5YR3/3暗褐色土（炭化物多量に含む）しまりあり粘質
6 7.5YR3/2黒褐色と4/4 褐色土の混合　しまりあり粘質
7 7.5YR3/2黒褐色土（焼土、炭化物含む）しまりあり粘質
8 7.5YR3/3暗褐色土（焼土少量、炭化物多量に含む）
しまりあり粘質

P1の覆土
7.5YR3/3暗褐色土（焼土ブロック含む）
ややしまり、やや粘質

0　2 m

第１８図　第１０号竪穴住居跡実測図



P-20の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（褐色土少量混入）
しまりのない、やや粘質

P-21の覆土
7.5YR3/3暗褐色土（明褐色土粒混入、
炭化物含む）しまりあり、やや粘質

P-75の覆土
7.5YR2/1黒色土（褐色土粒混入、炭化
物少量含む）しまりあり、粘質

P-76の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（明褐色土ブロック
混入）ややしまり、砂質

P-80の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（褐色土混入）
ややしまり、やや粘質

P-151 の覆土
7.5YR4/3褐色土（明褐色土少々混入）
しまりあり、粘質

P-164 の覆土
7.5YR3/3暗褐色土（焼土、炭化物少量
含む）しまりあり、やや粘質

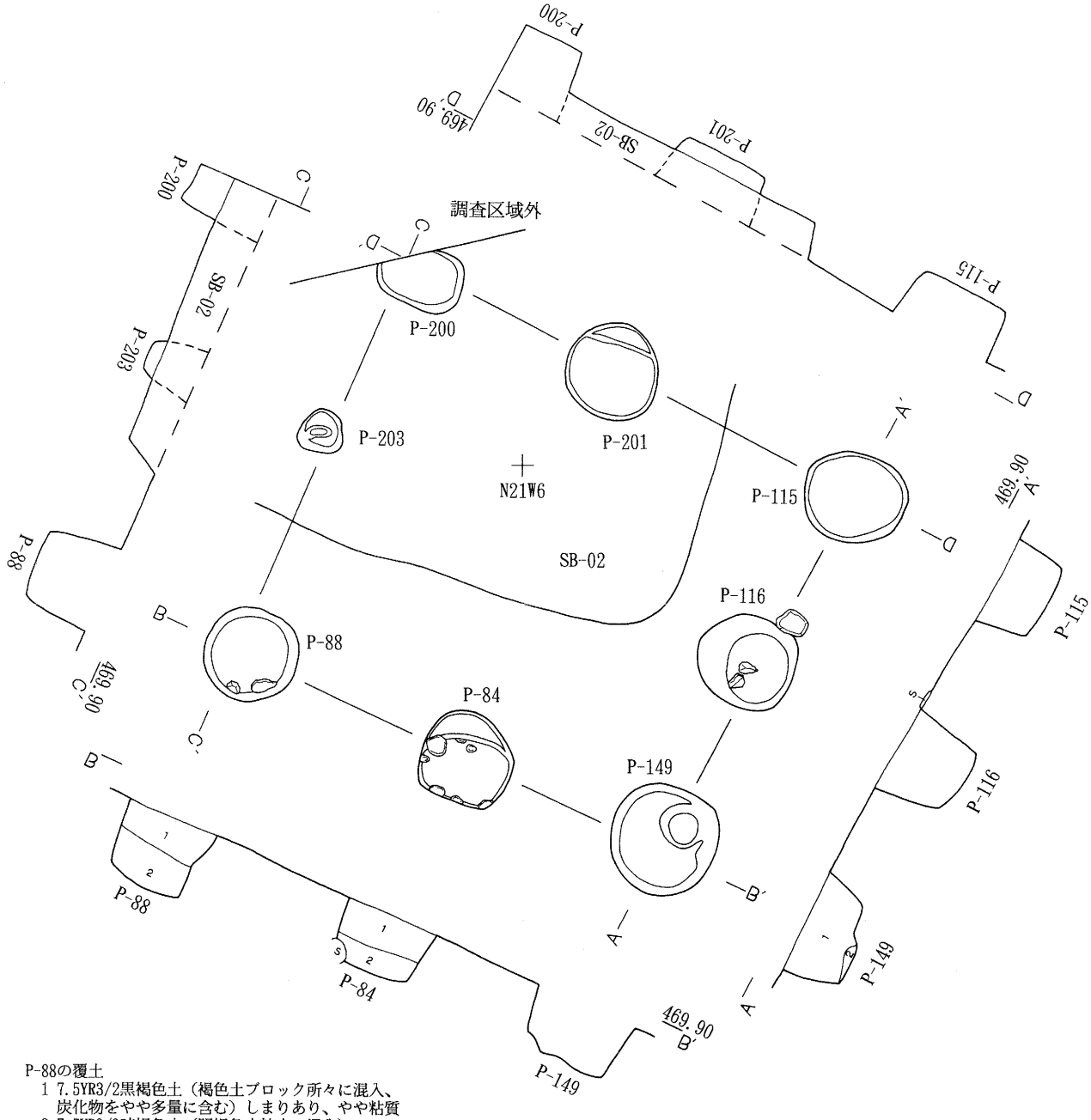
P-172 の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（礫含む）硬くしまり、
砂質

P-174 の覆土
7.5YR4/3褐色土　硬くしまり、やや粘質

P-179 の覆土
7.5YR3/3暗褐色土（黒褐色土混入、礫
多量に含む）しまりのない、やや粘質

0　　2 m

第１９図　第１号掘立柱建物跡実測図



P-88の覆土
1 7.5YR3/2黒褐色土（褐色土ブロック所々に混入、炭化物をやや多量に含む）しまりあり、やや粘質
2 7.5YR3/3暗褐色土（明褐色土粒少々混入）ややしまりのない、やや砂質

P-84の覆土
1 7.5YR3/2黒褐色土（褐色土ブロック混入、砂利多量に含む）硬くしまり、やや粘質
2 7.5YR3/3暗褐色土（明褐色土粒少々混入）ややしまりのない、やや砂質

P-200 の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（褐色土ブロック混入、焼土、炭化物多量に含む）しまりあり、やや粘質

P-115 の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（褐色土粒混入、砂利、炭化物少量含む）しまりあり、やや砂質

P-116 の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（褐色土混入、炭化物、礫含む）しまりあり、やや砂質

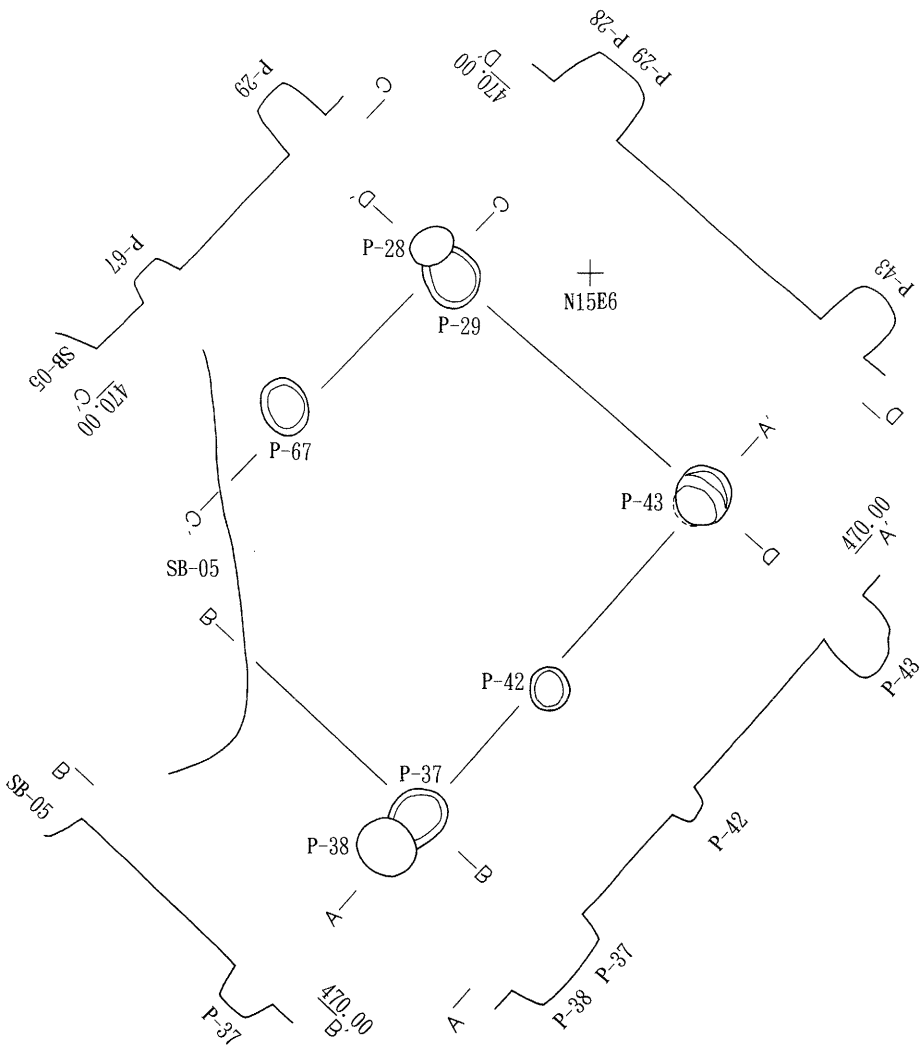
P-149 の覆土
1 7.5YR3/2黒褐色土（褐色土粒混入、炭化物、砂利少量含む）しまりあり、やや砂質
2 7.5YR4/4褐色土（炭化物少々含む）しまりのない、粘質

P-201 の覆土
7.5YR3/3暗褐色土（明褐色土混入、炭化物、砂利多量に含む）硬くしまり、やや粘質

P-203 の覆土
7.5YR4/3褐色土（にぶい褐色土粒混入、炭化物少量含む）

0　2 m

第２０図　第２号掘立柱建物跡実測図



P-29の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（上層に褐色土混入）
硬くしまり、やや粘質

P-37の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（明褐色土混入）やや粘質

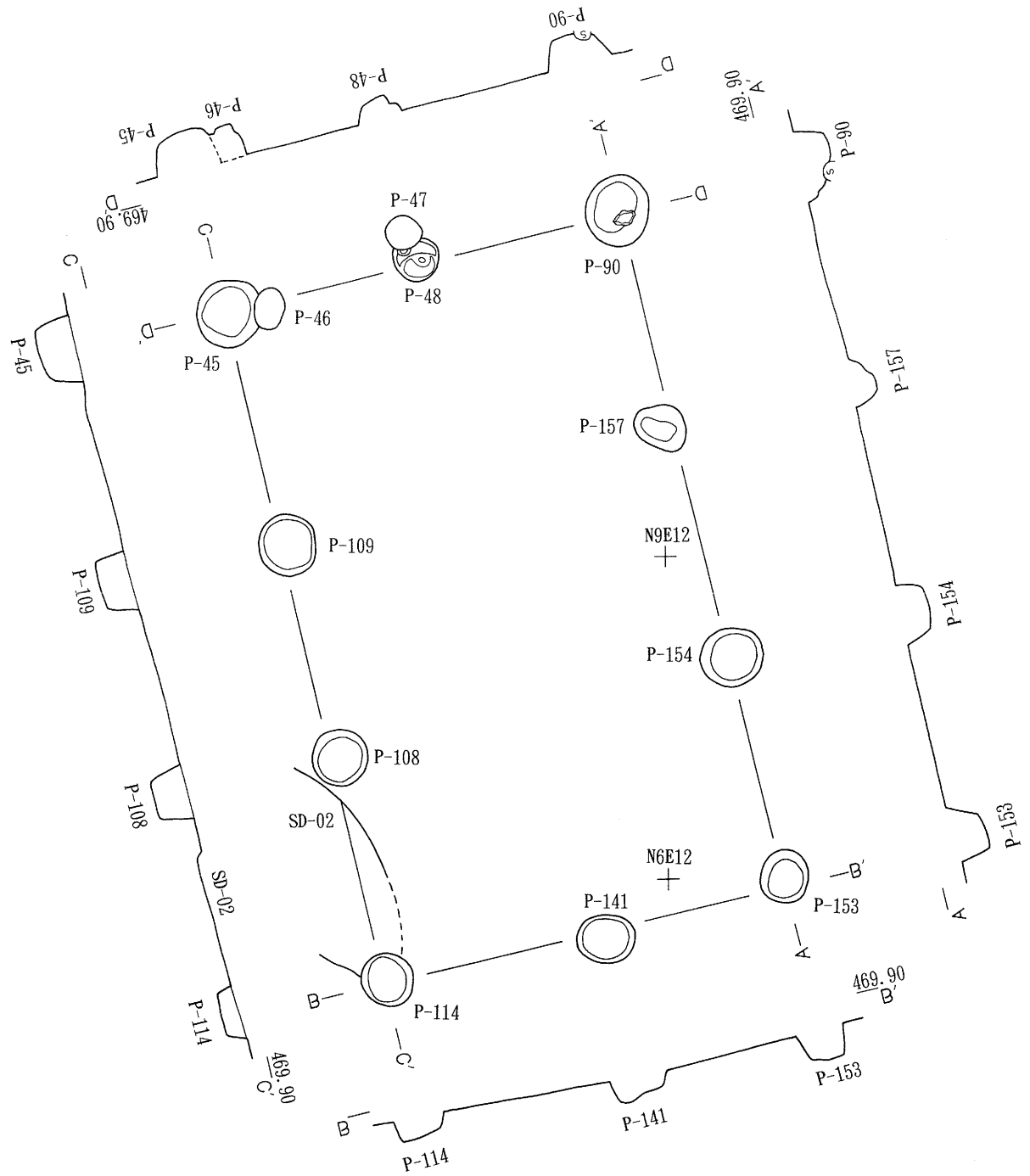
P-42の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（礫含む）粘質

P-43の覆土
7.5YR3/3暗褐色土（礫含む）硬くしまり、やや粘質

P-67の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（褐色土少量混入）
しまりなく、やや砂質

0　　2 m

第２１図　第３号掘立柱建物跡実測図



P-45の覆土
7.5YR3/2黒褐色粘質土と7.5YR4/3褐色砂質土の混合

P-48の覆土
7.5YR4/4褐色土（礫含む）やや粘質

P-90の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（砂利混入）ややしまり、砂質

P-108 の覆土
7.5YR4/3褐色土（暗褐色土、礫混入）やや砂質

P-109 の覆土
7.5YR3/3暗褐色土（砂利少量含む）しまりない

P-114 の覆土
7.5YR4/3褐色土（にぶい褐色土少量混入）

P-141 の覆土
7.5YR2/2黒褐色土（明褐色土粒混入）やや粘性

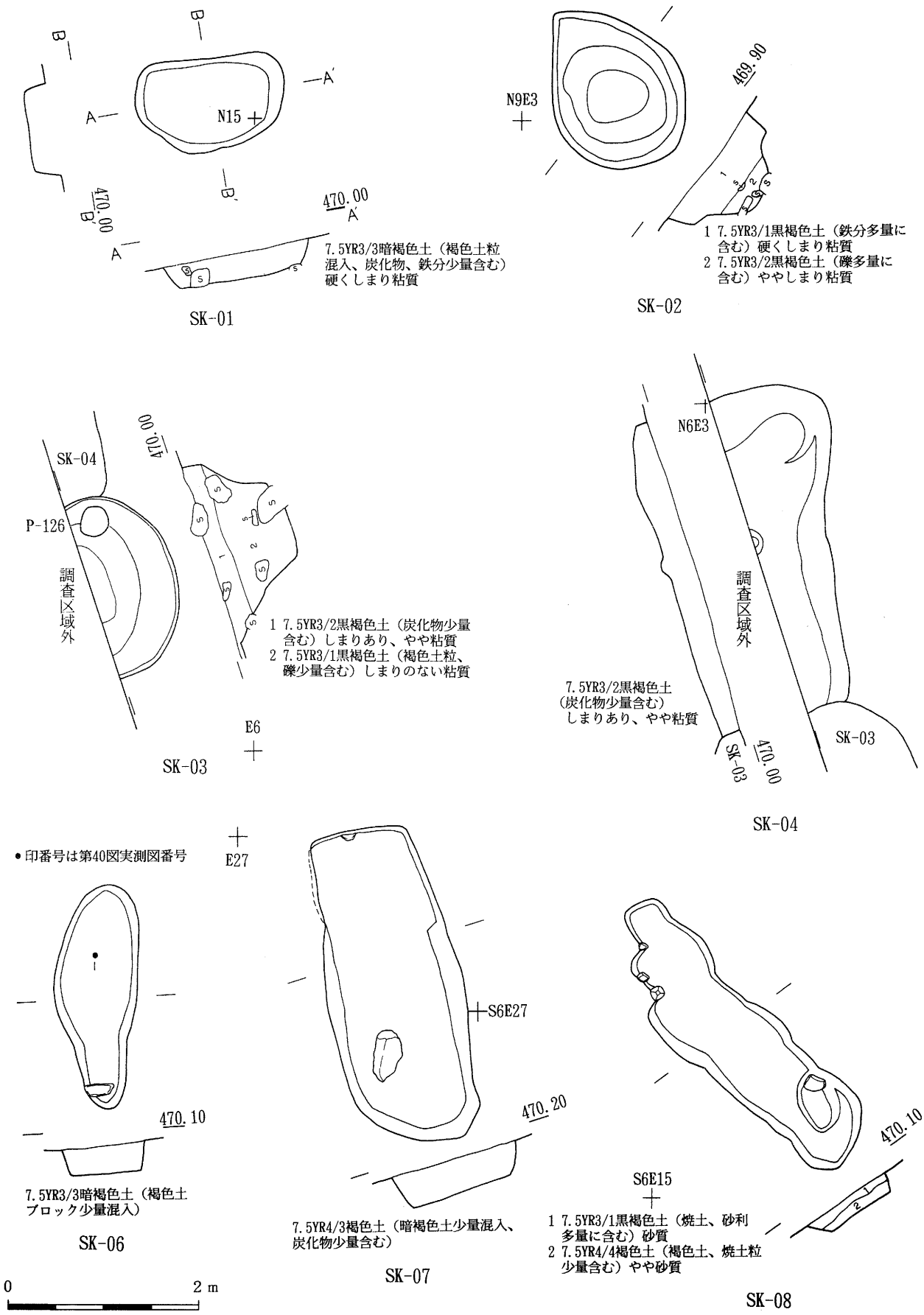
P-153 の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（褐色土混入）ややしまりあり

P-154 の覆土
7.5YR3/1黒褐色土（褐色土混入、褐色の細砂粒含む）しまりあり

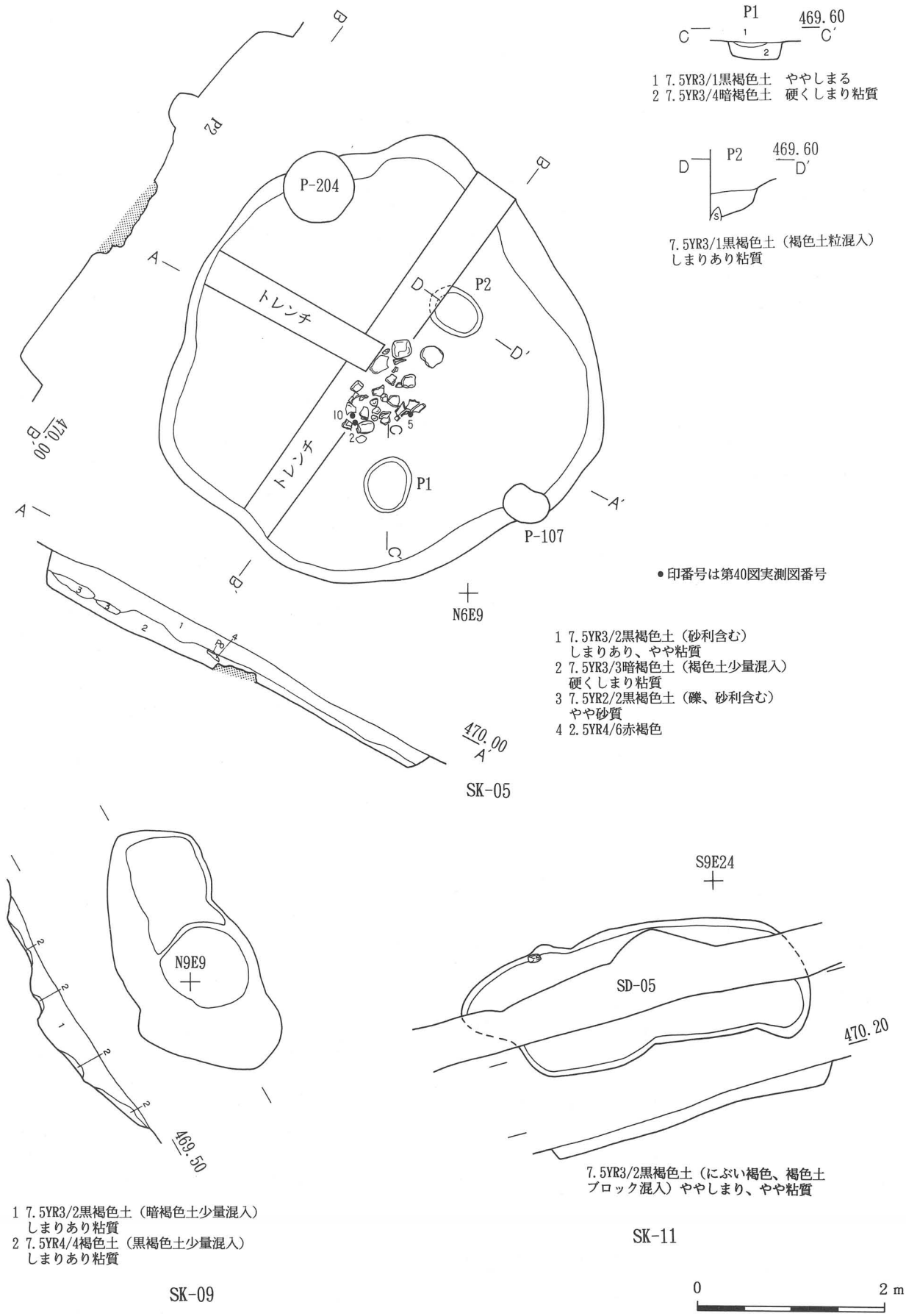
P-157 の覆土
7.5YR3/2黒褐色土（明褐色土ブロック、炭化物混入）やや粘質

0　2 m

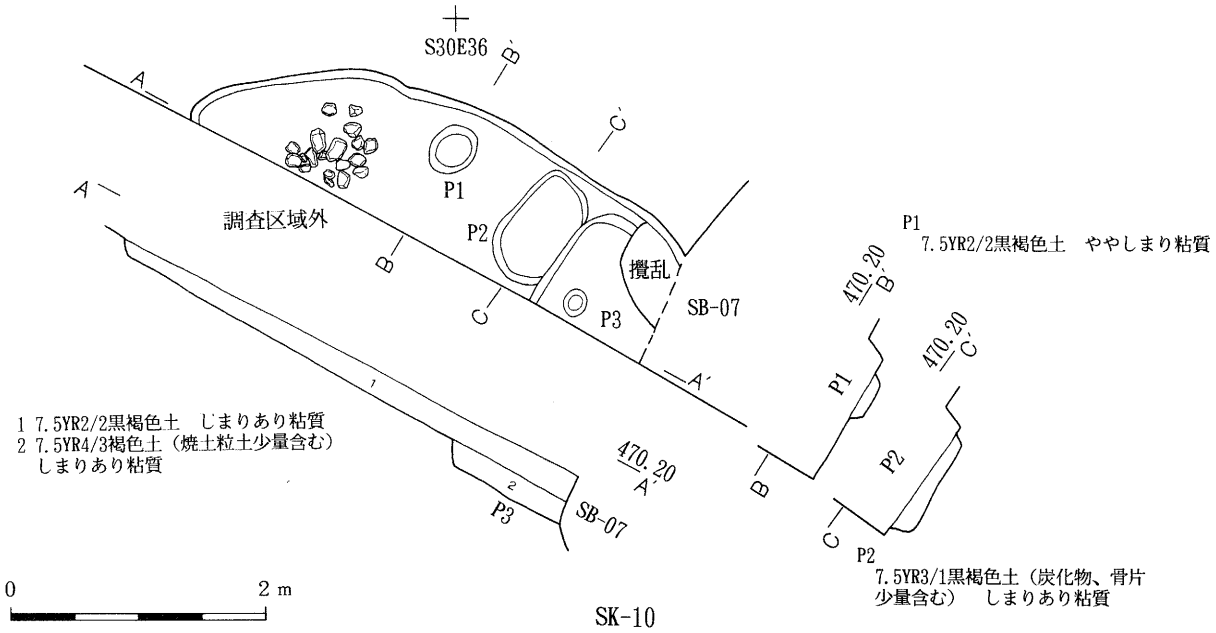
第２２図　第４号掘立柱建物跡実測図


B
B'
A
A'
N15
470.00
470.00
7.5YR3/3暗褐色土（褐色土粒混入、炭化物、鉄分少量含む）硬くしまり粘質
SK-01
N9E3
469.90
1 7.5YR3/1黒褐色土（鉄分多量に含む）硬くしまり粘質
2 7.5YR3/2黒褐色土（礫多量に含む）ややしまり粘質
SK-02
SK-04
470.00
P-126
調査区域外
1 7.5YR3/2黒褐色土（炭化物少量含む）しまりあり、やや粘質
2 7.5YR3/1黒褐色土（褐色土粒、礫少量含む）しまりのない粘質
E6
SK-03
N6E3
調査区域外
7.5YR3/2黒褐色土（炭化物少量含む）しまりあり、やや粘質
SK-03
470.00
SK-03
SK-04
●印番号は第40図実測図番号
E27
470.10
7.5YR3/3暗褐色土（褐色土ブロック少量混入）
SK-06
S6E27
470.20
7.5YR4/3褐色土（暗褐色土少量混入、炭化物少量含む）
SK-07
470.10
S6E15
1 7.5YR3/1黒褐色土（焼土、砂利多量に含む）砂質
2 7.5YR4/4褐色土（褐色土、焼土粒少量含む）やや砂質
SK-08
0
2 m

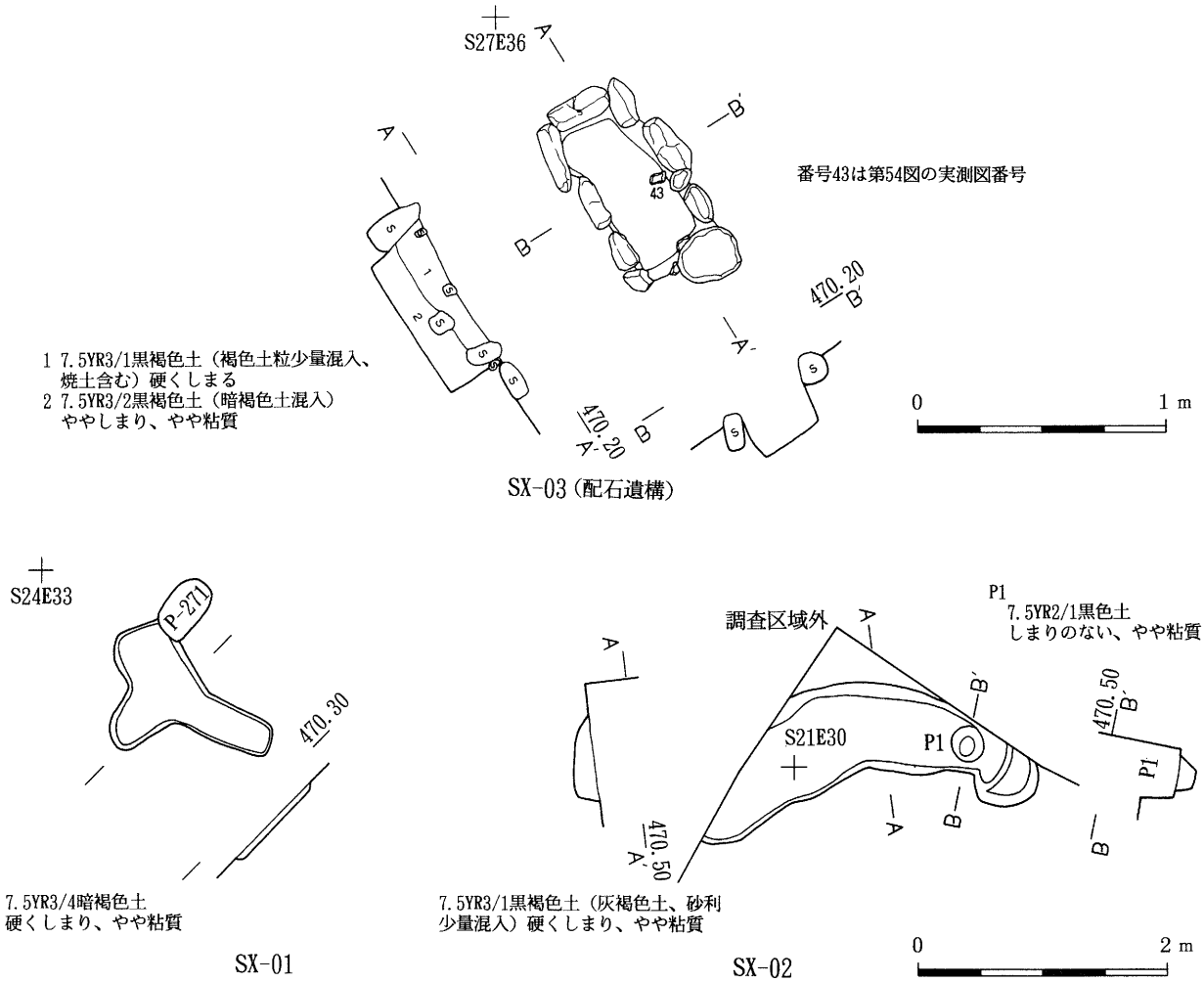
第２３図　土壙実測図（１）


P1
469.60
C
C′
1
2
1 7.5YR3/1黒褐色土　ややしまる
2 7.5YR3/4暗褐色土　硬くしまり粘質
P2
469.60
D
D′
7.5YR3/1黒褐色土（褐色土粒混入）
しまりあり粘質
P-204
トレンチ
トレンチ
P2
P1
P-107
470.00
B
B′
A
A′
N6E9
●印番号は第40図実測図番号
1 7.5YR3/2黒褐色土（砂利含む）
しまりあり、やや粘質
2 7.5YR3/3暗褐色土（褐色土少量混入）
硬くしまり粘質
3 7.5YR2/2黒褐色土（礫、砂利含む）
やや砂質
4 2.5YR4/6赤褐色
470.00
A′
SK-05
N9E9
469.50
1 7.5YR3/2黒褐色土（暗褐色土少量混入）
しまりあり粘質
2 7.5YR4/4褐色土（黒褐色土少量混入）
しまりあり粘質
SK-09
S9E24
SD-05
470.20
7.5YR3/2黒褐色土（にぶい褐色、褐色土
ブロック混入）ややしまり、やや粘質
SK-11
0
2 m

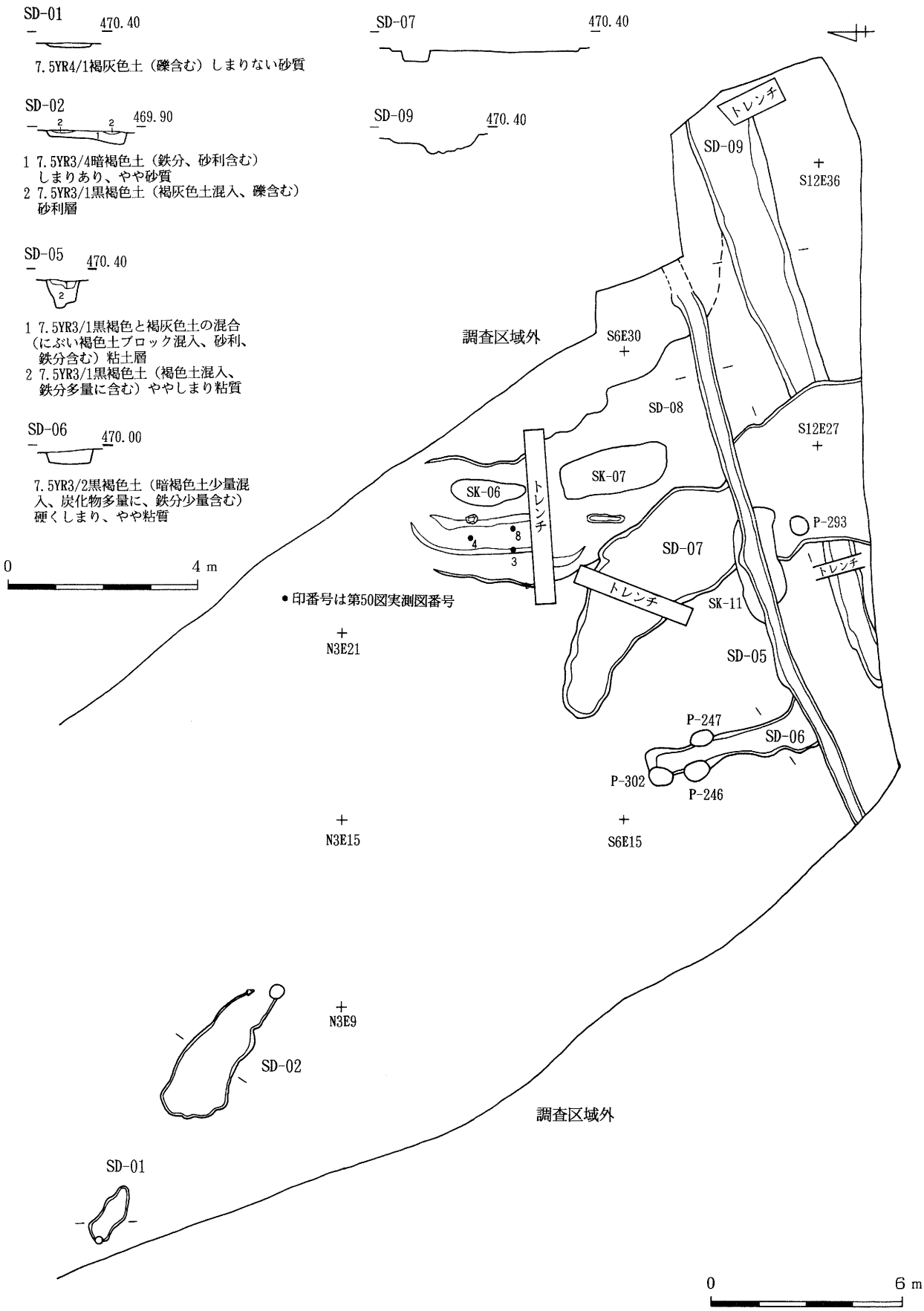
第２３図　土壙実測図（２）



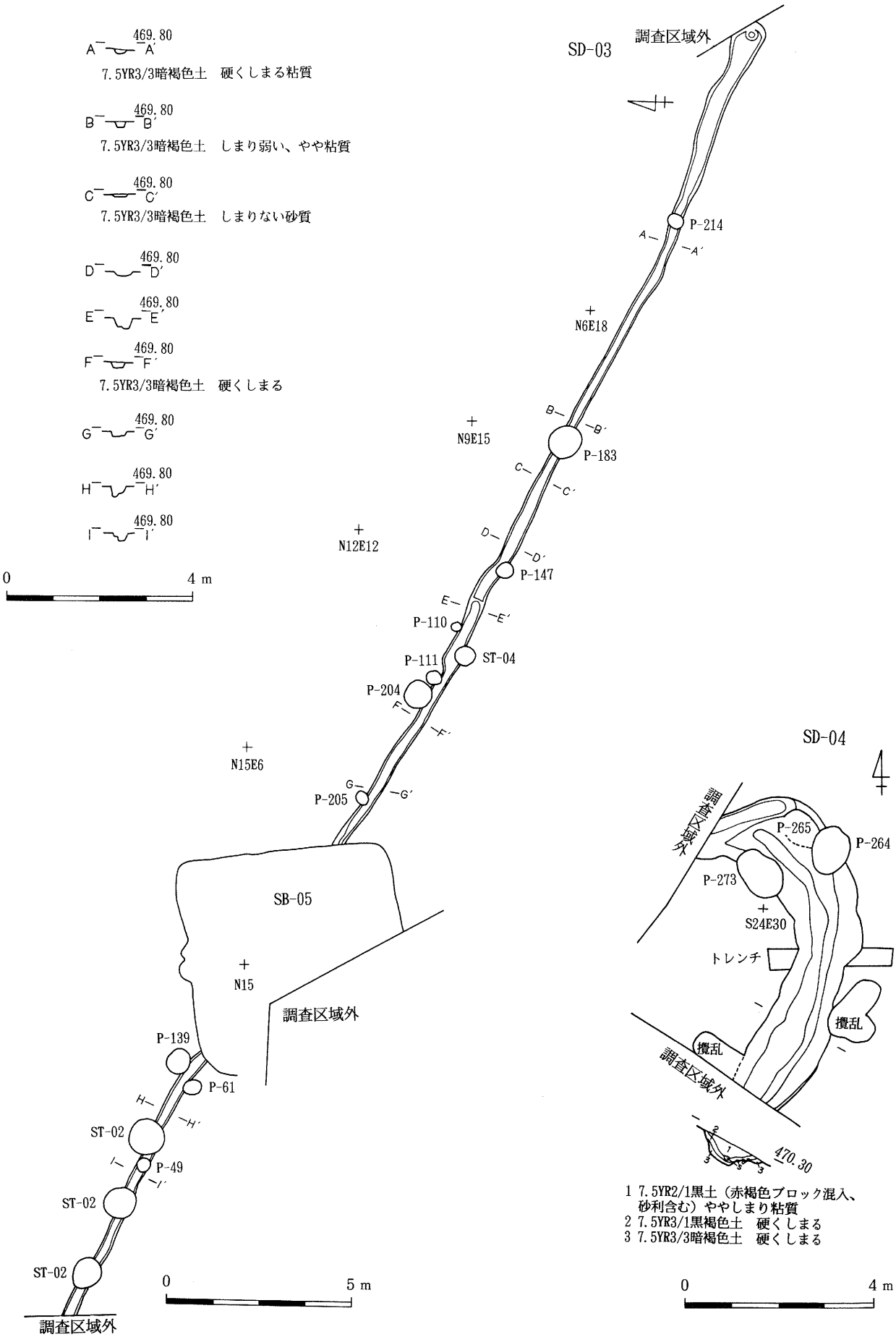
第２３図　土壙実測図（３）



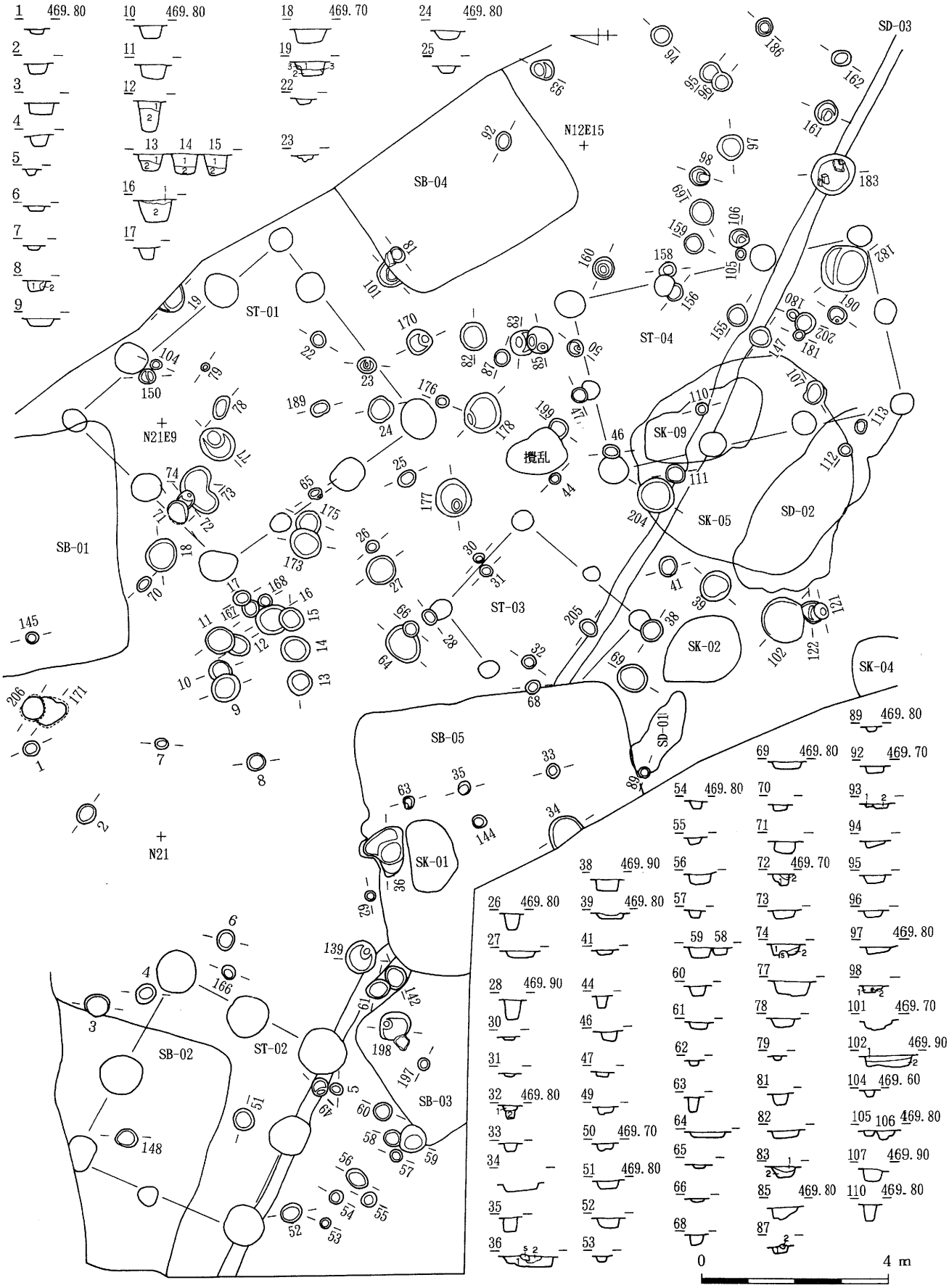
第２４図　配石・集石実測図



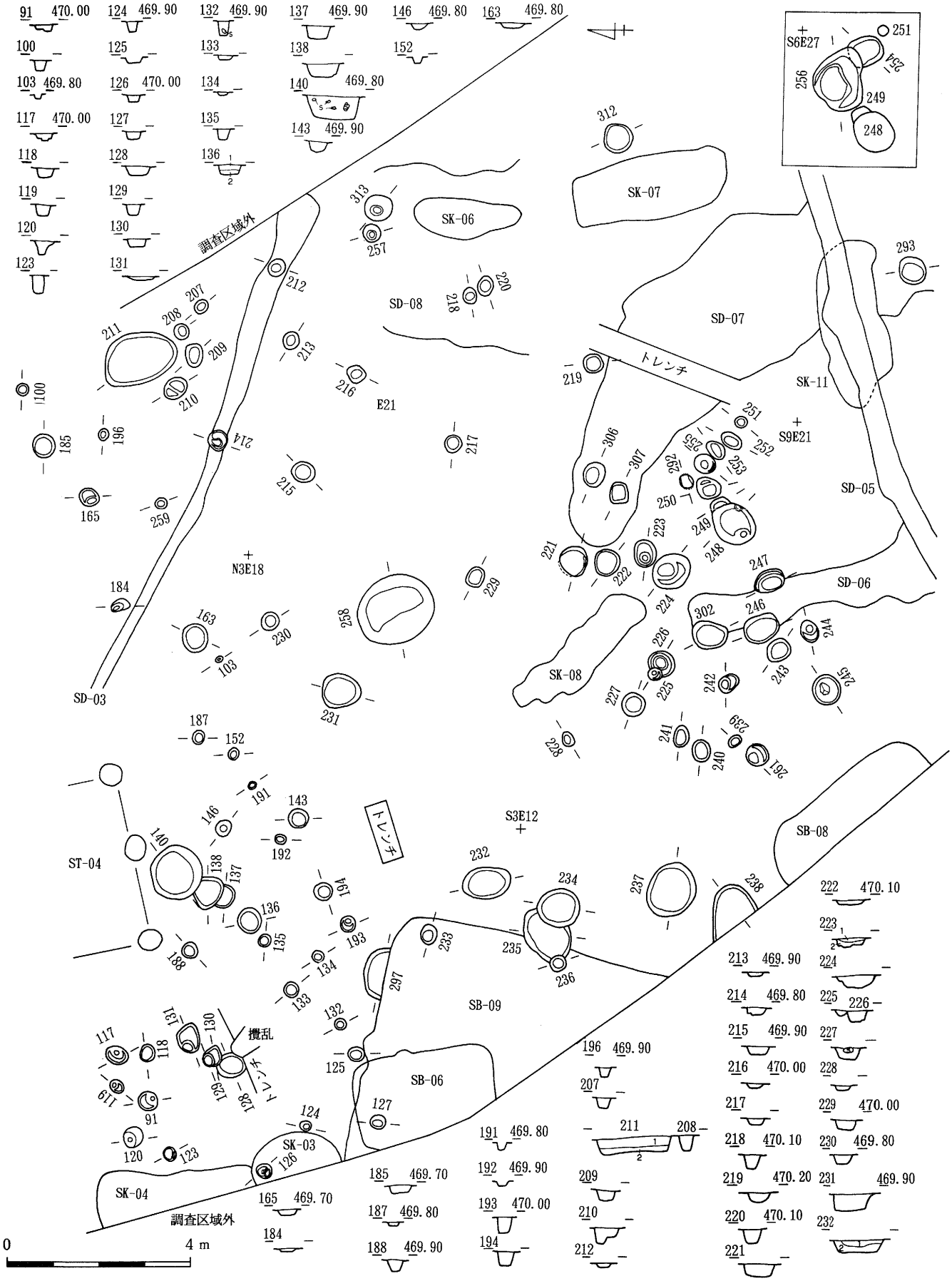
第２５図　第１・２・５・６・７・８・９号溝跡実測図



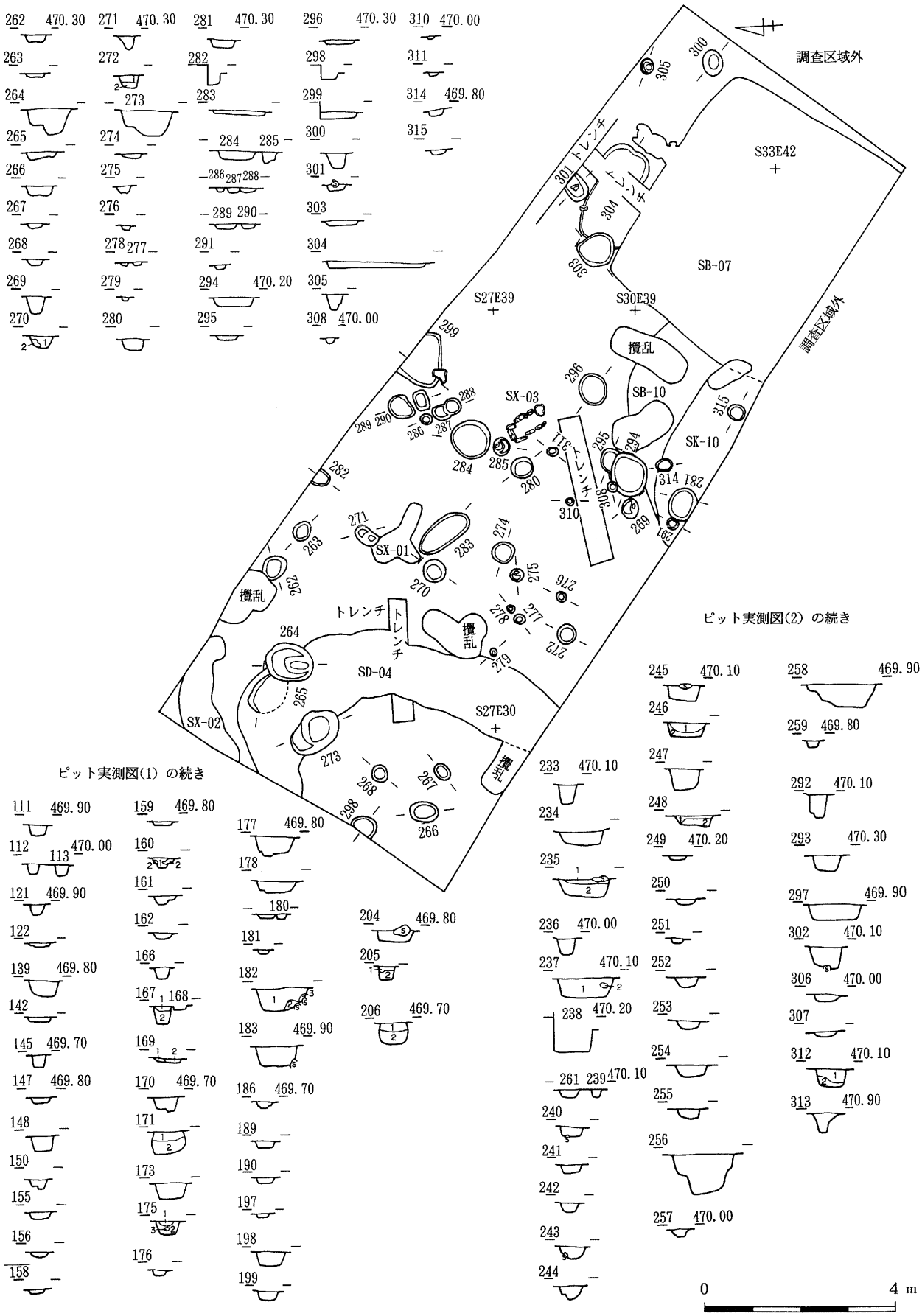
第２６図　第３・４号溝跡実測図



第２７図　ピット実測図（１）



第２７図　ピット実測図（２）



第２７図　ピット実測図（３）

第１号住居跡　遺構実測図（第９図）　　遺物実測図（第28図）　　（規模の単位はｍ）

位置	グリッド	N24E6, N24E9, N24E12, N27E6, N27E9			その他	柱穴	P1(0.46×0.42×0.20)		
	標高	469.06～469.16				竈	位置		規模
規模	規模	5.25×?	床面積	不明			覆土		
	壁高	西壁0.50　南壁0.40					形態		
覆土	1 7.5YR3/1黒褐色（明褐色土ブロックを含む）　しまりのあるやや粘質土 2 7.5YR4/3褐色と3/2 黒褐色の混合（明褐色粒少々混じる）　焼土、炭化物も多くしまりのある粘質土					備考	北半分は調査区域外 壁下の床面に周溝が巡っている 南西隅の床に莚状敷物の跡		
形態	平面形態	隅丸（長）方形	主軸方位	N-5°-W ?					
	その他								

第２号住居跡　遺構実測図（第10図）　　遺物実測図（第29図）

位置	グリッド	N21W6, N21W9, N21W12, N24W6, N24W9, N24W12			その他	柱穴	P1(0.45×0.42×0.18)　P2(0.47×0.41×0.21) P3(0.58×0.44×0.51)　P4(0.33×0.32×0.10)		
	標高	469.24～469.36				竈	位置		規模
規模	規模	不明	床面積	不明			覆土		
	壁高	東壁0.36　南壁0.33					形態		
覆土	1 7.5YR3/1黒褐色（褐色土混）　炭化物、礫を含む、かたくしまる粘質土 2 7.5YR4/3褐色土（黒褐色粒混）　炭化物をごくずかに含み、しまりある粘質土					備考	北側、西側は調査区域外 ST-02 に切られる 南、東壁下の床面に周溝が巡っている		
形態	平面形態	隅丸（長）方形	主軸方位	N-73°-W ?					
	その他								

第３号住居跡　遺構実測図（第11図）　　遺物実測図（第30図）

位置	グリッド	N15W3, N15W6, N15W9, N18W3, N18W6, N18W9			その他	柱穴	P1(0.76×0.60×0.17)　P2(0.56×0.50×0.20) P3(0.66×0.54×0.18)		
	標高	469.34～469.48				竈	位置	北東壁	規模
規模	規模	不明	床面積	不明			覆土		
	壁高	北東壁0.40　南西壁0.20					形態		
覆土	1 7.5YR3/3暗褐色（褐色土混）　小砂利多く含み、ややしまりのあるやや砂質土 2 7.5YR4/3褐色（黒褐色土をブロック状に含む）しまりのあるやや粘質土					備考	SB-05 に東側を切られる 南側は調査区域外		
形態	平面形態	隅丸（長）方形	主軸方位	N-32°-W					
	その他								

第４号住居跡　遺構実測図（第12図）　　遺物実測図（第31図）

位置	グリッド	N15E15, N15E18, N18E12, N18E15, N18E18			その他	柱穴	P1(0.42×0.38×0.29)　P2(0.45×0.42×0.15)		
	標高	469.28～469.32				竈	位置		規模
規模	規模	4.30×?	床面積	不明			覆土		
	壁高	西壁0.28　南壁0.20					形態		
覆土	1 7.5YR3/2黒褐色（明褐色土ブロック混り）礫、小砂利を含む　ややしまりのある砂質土 2 7.5YR4/3褐色　炭化物少量含む　かたくしまるやや粘質土					備考	北東部分は調査区域外		
形態	平面形態	隅丸（長）方形	主軸方位	N-32°-W ?					
	その他								

第２表　竪穴住居跡観察表（１）

第５号住居跡　遺構実測図（第13図）　遺物実測図（第32図）　（規模の単位はｍ）

位置	グリッド	N12E3, N12E6, N15W3, N15E3, N15E6, N18W3, N18E3			その他	柱穴	P1(0.48×0.40×0.14)　P2(0.50×0.48×0.18) P3(0.45×0.42×0.13)		
	標高	469.36～469.46					位置	北壁中央	規模 1.13×?
規模	規模	5.95×5.80	床面積	33.7㎡（推定）		竈	覆土	1 7.5YR4/3褐色　焼土粒をわずかに含み、しまりのないやや砂質土 2 7.5YR3/3暗褐色　焼土ブロックと炭化物を多量に含み、やや締まりのある粘質土	
	壁高	東壁0.32　北壁0.24					形態	石組	
覆土	1 7.5YR2/2黒褐色土（礫を所々含み、炭化物少量含む）かたくしまりやや砂質								
形態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-5°-W	備考	南西部分は調査区域外 北、東、南壁下の床に周溝を巡らす			
	その他								

第６号住居跡　遺構実測図（第14図）　遺物実測図（第33図）

位置	グリッド	N3E6, N3E9, S3E6, S3E9			その他	柱穴			
	標高	469.77~469.82				竈	位置		
規模	規模	3.08×2.00?	床面積	不明			覆土		
	壁高	東壁0.10					形態		
覆土	1 5YR4/1褐灰色　にぶい赤褐色（鉄分）と炭化物を多量に含み、しまりのないやや粘質土								
形態	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N- 9°-W ?	備考	西部分は調査区域外			
	その他								

第７号住居跡　遺構実測図（第15図）　遺物実測図（第34図，第　図）

位置	グリッド	S30E42, S33E39, S33E42, S33E45, S36E39 S36E42, S36E45			その他	柱穴	P1(0.56×0.48×0.58)　P2(0.49×0.37×0.48) P3(0.48×0.40×0 27)　P4(0.36×0.26×0.10)		
	標高	469.46～469.52				竈	位置	北東壁中央	
規模	規模	5.10×?	床面積	不明			規模	1.86×0.78(煙道1.00×0.50)	
	壁高	南東壁0.58　北東壁0.42					覆土	1 7.5YR2/1黒　炭化物、焼土を少々含み、かたくしまるやや粘質土 2 7.5YR3/2黒褐色　褐色土をﾌﾞﾛｯｸ状に含みかたくしまる　やや粘質土　焼土粒含む 3 7.5YR4/4褐色と3/3 暗褐色の混合　焼土わずかに含み、ややしまる、やや粘質土 4 7.5YR3/3暗褐色　焼土を多量に含む 5 7.5YR3/3暗褐色　かたくしまりやや粘質	
覆土	1 7.5YR2/1黒（明褐色土ブロックを含む）炭化物砂利を含む　しまりあり、粘質土 2 7.5YR3/1黒褐色（褐色混じり）炭化物を少量含む　しまりあり、粘質土 3 7.5YR3/2黒褐色、しまりあり、粘質土 4 7.5YR3/2黒褐色（褐色混）粘質土						形態		
形態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-35°-E	備考	南西部は調査区域外　南東、北西壁下の床面に周溝 南東の床面に莚状の敷物の跡			
	その他								

第８号住居跡　遺構実測図（第16図）

位置	グリッド	S9E12, S9E15, S12E12, S12E15			その他	柱穴	P1(0.42×0.38×0.20)		
	標高	469.84～469.88				竈	位置		規模
規模	規模	4.00×?	床面積	不明			覆土		
	壁高	南東壁0.14　北西壁0.12					形態		
覆土	1 7.5YR3/2黒褐色　ややしまりあり　やや砂質								
形態	平面形態	隅丸（長）方形	主軸方位	N-73°-W ?	備考	南西側は調査区域外			
	その他								

第３表　竪穴住居跡観察表（２）

第９号住居跡　遺構実測図（第17図）　　遺物実測図（第35図）　　（規模の単位はｍ）

位置	グリッド	N3E6, N3E9, S3E6, S3E9, S3E12, S6E9, S6E12, S9E9			
	標　高	469.35～469.43			
規模	規模	不明	床面積	不明	
	壁高	東壁0.40　北壁0.30			
覆土	1 7.5YR3/3暗褐色（褐色土ブロックを少量含む）炭化物、小砂利を少量含む　ややしまりあり、やや粘質土				
形態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-12°-E?	
	その他				

その他	柱穴	P1(0.92×0.86×0.12)　P2(0.44×0.42×0.10)		
	竈	位置	北壁	規模	1.80×1.70(焼土範囲)
		覆土	1 7.5YR4/4褐色土　焼土をブロックに多量に含む 2 7.5YR3/2黒褐色土　焼土をわずかに含むかたくしまる 3 7.5YR3/1黒褐色土　焼土、炭化物を多量に含む、ややしまりある粘質土	
		形態		
備考	南西部分は調査区域外 周溝が巡っている			

第10号住居跡　遺構実測図（第18図）　　遺物実測図（第36図）

位置	グリッド	S33E36, S33E39, S33E42, S36E39, S36E42			
	標　高	469.40～469.50			
規模	規模	不明	床面積	不明	
	壁高	北西壁0.38　北壁0.30			
覆土	1 7.5YR4/3褐色　焼土をわずかに含む　しまりのある粘質土 2 7.5YR3/1黒褐色　炭化物を多量に、焼土を少量含む　しまりのある粘質土 3 2.5YR4/6赤褐色　焼土層　炭化物をわずかに含むしまりのある粘質土 4 7.5YR4/3褐色　しまりのある粘質土 5 7.5YR3/3暗褐色　炭化物を多量に含む　しまりのある粘質土 6 7.5YR3/2黒褐色（褐色混）しまりのある粘質土 7 7.5YR3/2黒褐色　焼土、炭化物混じり　しまりのある粘質土 8 7.5YR3/3暗褐色　焼土わずかに、炭化物多量に含み、しまりのある粘質土				
形態	平面形態	円形？	主軸方位	不明	
	その他				

その他	柱穴	P1（0.60×0.50×0.28）P2(0.20×?×0.06) P3(0.29×0.25×0.12)		
	竈	位置	規模	
		覆土		
		形態		
備考	南西部分は調査区域外 SB-07 に切られる 部分的に周溝が巡っている			

第４表　竪穴住居跡観察表（３）

第１号掘立柱建物跡（遺構実測図　第19図　　遺物実測図　第37図）　　（規模の単位はｍ）

位置	グリッド	N18E9, S18E12, N18E15, N21E6, N21E9, N21E12, N21E15, N24E9, N24E12				
規模	桁行３間×梁行２間（5.60×4.70）		柱間寸法	桁行1.87　梁行2.35	主軸方向	N-39°-W

柱						穴					
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物等	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物等
20	0.51	0.48	0.20	円形		151	0.70	0.64	0.35	円形	
21	0.68	0.59	0.38	楕円形	土師甕	164	0.76	0.61	0.36	楕円形	土師甕・高坏(2)
75	0.54	0.46	0.38	楕円形		172	0.85	0.64	0.38	楕円形	土師高坏(1) 等
76	0.64	0.62	0.23	円形	土師甕・坏・等	174	0.45	0.42	0.28	楕円形	土師甕
80	0.80	0.72	0.52	円形	縄文深鉢	179	0.90	0.70	0.38	楕円形	

第２号掘立柱建物跡（遺構実測図　第20図　　遺物実測図　第38図）

位置	グリッド	N18W6, N18W9, N21W3, N21W6, N21W9, N24W3, N24W6, N24W9				
規模	桁行２間×梁行２間（4.20×3.80）		柱間寸法	桁行2.10　梁行1.90	主軸方位	N-63°-W

柱						穴					
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物等	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物等
84	0.82	0.82	0.56	不定形	土師甕	149	1.00	1.00	0.56	楕円形	土師坏(1)・甕　須恵甕(5) 等
88	0.88	0.86	0.66	円形	弥生甕（6）・壺 土師甕・坏	200	(0.75)	0.58	0.38	楕円形	
115	0.92	0.82	0.50	楕円形	内黒坏　土師甕　弥生壺	201	0.88	0.86	(0.48)	円形	土師甕　弥生壺
116	0.90	0.82	0.64	円形	内黒坏(2) 須恵坏蓋(3) 土師甕(4)	203	0.40	0.40	(0.53)	円形	弥生壺　土師甕

第３号掘立柱建物跡（遺構実測図　第21図）

位置	グリッド	N12E6, N15E3, N15E6, N15E9, N18E6				
規模	桁行２間×梁行１間（3.30×3.00）		柱間寸法	桁行1.65　梁行3.00	主軸方位	N-47°-E

柱						穴					
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物等	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物等
29	(0.46)	0.40	0.42	楕円形		43	0.46	0.44	0.48	円形	土師甕　弥生甕 黒曜石フレーク
37	(0.50)	0.43	0.26	楕円形		67	0.47	0.38	0.20	楕円形	
42	0.34	0.28	0.16	楕円形							

第４号掘立柱建物跡（遺構実測図　第22図　　遺物実測図　第39図）

位置	グリッド	N6E9, N6E12, N6E15, N9E9, N9E12, N9E15, N12E9, N12E12, N12E15, N15E12				
規模	桁行３間×梁行２間（6.24×3.80）		柱間寸法	桁行2.08　梁行1.90	主軸方位	N-13°-W

柱						穴					
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物等	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物等
45	0.62	0.60	0.38	円形	土師甕	114	0.52	0.46	0.14	楕円形	土師甕
48	0.42	0.40	0.20	円形	土師不明	141	0.56	0.45	0.24	楕円形	
90	0.65	0.60	0.28	円形	須恵甕　土師甕・坏	153	0.48	0.42	0.29	楕円形	
108	0.52	0.50	0.32	円形		154	0.58	0.54	0.30	円形	土師坏(1)・甕
109	0.56	0.56	0.28	円形	縄文深鉢　弥生甕・壺 土師甕　軽石	157	0.48	0.40	0.22	楕円形	

第５表　掘立柱建物跡観察表

遺構実測図　第23図　　遺物実測図　土器－第40図　石器－第54図　土偶－第55図　瓦－第56図

遺構No.	位　置	長径	短径	深さ	平面形態	断面形態	遺　物	備　考
SK-01	N15W3, N15E3 N18W3, N18E3	1.43	1.00	0.30	楕円形	たらい状	須恵椀蓋(1)・坏(2)　須恵甕・壺　土師坏・甕　弥生壺	
SK-02	N9E6, N12E6	1.92	1.45	0.66	変形楕円形	すり鉢状	須恵甕(1)　土師甕 灰釉陶器　弥生甕　縄文 瓦 (3)	
SK-03	N3E6	1.93	?	0.92	楕円形	すり鉢状	須恵坏(1)　土師甕　須恵	南半分は調査区域外
SK-04	N3E6, N6E6 N9E6	?	?	0.33	不明	底面平坦	須恵甕(1)　内黒坏　土師甕	SK-03 に切られる 南半分は調査区域外
SK-05	N9E6, N9E9 N9E12, N12E9 N12E12	4.64	4.62	0.46	円形	底面凹凸あり	縄文深鉢(1～6. 8～10)・浅鉢(7)　石器(7, 40, 41, 81)	ST-03 に切られる
SK-06	S3E27	2.38	0.88	0.30	楕円形	たらい状	内黒皿(1)・椀 (2)　須恵坏 縄文	
SK-07	S6E27, S9E27 S6E30	3.42	1.48	0.38	不定形	たらい状	内黒坏(1) 土師坏(2, 3) 縄文深鉢(4, 5)　須恵　弥生	
SK-08	S3E15, S3E18 S6E15, S6E18	3.52	0.92	0.20	溝状の不定形	たらい状	須恵坏蓋(1)　弥生高坏・甕 土師甕	
SK-09	N9E9, N9E12 N12E9, N12E12	2.88	1.42	0.37	不定形	すり鉢状	縄文深鉢(1. 2) 石器(8)	
SK-10	S33E36 S33E39	?	?	0.20	楕円形？	底面平坦	縄文深鉢(1~3. 6)・浅鉢(4. 5) 土偶(1) 石器(42)	SB-07 に切られる
SK-11	S12E24 S12E27	3.72	1.42	0.22	溝状の不定形	たらい状	須恵甕(1) 縄文深鉢(2, 3)・浅鉢(4) 内黒坏　弥生壺 土師甕	SD-05 に切られる

第６表　土壙観察表

遺構実測図　第24図　　遺物実測図　土器－第41図　石器－第54図

遺構No.	位　置	長径	短径	深さ	平面形態	断面形態	遺　物	備　考
SX-03	S30E39	0.93	0.51	0.25	長方形	底面平坦 垂直に掘る	縄文深鉢(1～4) 石器(43)　骨片	配石遺構１

第７表　配石観察表

遺構実測図　第24図　　遺物実測図　土器－第42図

遺構No.	位　置	長径	短径	深さ	平面形態	断面形態	遺　物	備　考
SX-01	S27E36	1.50	0.88	0.06	不定形	たらい状	縄文深鉢(1～3)　須恵カメ(4)	
SX-02	S21E30, S21E33 S24E30, S24E33	?	0.82	0.18	楕円形	U字形	縄文深鉢(1～3)	

第８表　集石観察表

No.	図版No.	長軸	短軸	深さ	覆　　土　（色相はすべて7.5YR）	遺　物　等
1	27-1	0.35	0.32	0.12	3/4 暗褐色土（礫、鉄分少量含）硬くしまり、砂質	箱清水高坏
2	27-1	0.45	0.38	0.20	3/3 暗褐色土（褐色土粒、礫、鉄分少量含）しまりあり、やや砂質	
3	27-1	0.54	0.46	0.27	3/2 黒褐色土（明褐色土粒混）しまりあり、やや粘質	
4	27-1	0.44	0.36	0.22	3/4 暗褐色土（礫、鉄分少量含）硬くしまり、やや砂質	内黒坏（ロクロつくり）
5	27-1	0.28	0.23	0.12	3/3 暗褐色土（炭化物少量含）しまり弱く、やや砂質	土師坏
6	27-1	0.43	0.38	0.12	3/3 暗褐色土（褐色土粒、礫、少量含）ややしまり、砂質	
7	27-1	0.30	0.24	0.10	3/3 暗褐色土　しまりあり、砂質	
8	27-1	0.40	0.38	0.23	1 3/3 暗褐色土　2 3/1 黒褐色土、しまりあり、やや砂質	
9	27-1	0.62	0.54	0.16	3/2 黒褐色土　硬くしまり、やや砂質	土師坏（糸切）　須恵坏蓋
10	27-1	0.50	?	0.27	3/2 黒褐色土（炭化物、砂利含）硬くしまり、やや粘質	内黒坏
11	27-1	0.62	0.58	0.30	3/2 黒褐色土（礫含）	内黒坏　土師カメ
12	27-1	?	0.44	0.63	1 3/2 黒褐色土、しまりあり粘質 2 4/3 褐色土（礫含）しまりあり、粘質	
13	27-1	0.52	0.49	0.35	1 2/2 黒褐色土（明褐色粒混） 2 4/4 褐色土　硬くしまりやや粘質	
14	27-1	0.60	0.52	0.45	1 2/2 黒褐色土（明褐色粒混） 2 4/4 褐色土　硬くしまりやや粘質	須恵坏蓋（52図1,2）　須恵坏 土師カメ
15	27-1	0.52	0.50	0.47	1 2/2 黒褐色土（明褐色粒混） 2 4/4 褐色土　硬くしまりやや粘質	
16	27-1	?	0.60	0.46	1 3/2 黒褐色土、しまりあり、やや粘質 2 3/3 暗褐色土、しまりあり、やや粘質	土師カメ　箱清水カメ・ツボ
17	27-1	0.36	0.32	0.24	3/3 暗褐色土（褐色土少量混）やや粘質	
18	27-1	0.70	0.62	0.29	3/2 黒褐色土、硬くしまり、やや砂質	土師カメ
19	27-1	0.72	?	0.30	1 7.5YR3/2黒褐色土（礫含）ややしまりやや粘質 2 7.5YR3/3暗褐色土（褐色土混）ややしまり粘質 3 7.5YR4/2灰褐色土　しまりあり、やや粘質	
22	27-1	0.35	0.35	0.13	3/1 黒褐色土（褐色土、炭化物混）硬くしまりやや粘質	
23	27-1	0.39	0.32	0.14	3/3 暗褐色土、しまりのないやや粘質	
24	27-1	0.56	0.54	0.20	3/2 黒褐色土（褐色ブロック混）ややしまり粘質	
25	27-1	0.40	0.32	0.17	4/3 褐色土（にぶい橙ブロック混）しまりあり、粘質	
26	27-1	0.29	0.26	0.37	3/2 黒褐色土硬くしまり粘質	土師カメ
27	27-1	0.64	0.61	0.16	4/3 褐色土（明褐色粒混）硬くしまりやや粘質	土師カメ
28	27-1	0.34	0.28	0.43	2/2 黒褐色土（明褐色ブロック混）硬くしまりやや粘質	土師カメ
30	27-1	0.25	0.20	0.07	3/3 暗褐色土（明褐色土粒混）やや砂質	
31	27-1	0.26	0.24	0.07	3/3 暗褐色土　しまりのないやや砂質	
32	27-1	0.30	0.28	0.28	1 7.5YR3/2黒褐色土（炭化物、鉄分少量含）硬くしまりやや粘質 2 7.5YR3/3暗褐色土（鉄分少量含）しまる	
33	27-1	0.30	0.30	0.18	3/2 黒褐色土（礫含）しまりあり、砂質	
34	27-1	?	0.78	0.17		
35	27-1	0.30	0.29	0.30	3/3 暗褐色土（礫、鉄分少量含）ややしまり砂質	
36	27-1	1.08	0.97	0.22	1 7.5YR3/4暗褐色土（焼土、砂利、鉄分多量含）ややしまる 2 7.5YR3/1黒褐色土（鉄分少量含）しまり弱くやや砂質	土師カメ
38	27-1	0.51	0.44	0.26	2/2 黒褐色土（明褐色土粒混）やや粘質	
39	27-1	0.70	0.60	0.12	3/4 暗褐色土（鉄分多量含）ややしまり砂質	
41	27-1	0.42	0.38	0.10	4/4 褐色土（黒褐色土混）やや砂質	
44	27-1	0.23	0.21	0.26	3/2 黒褐色土　硬くしまりやや粘質	

第９表　ピット観察表（１）

No.	図版No.	長径	短径	深さ	覆　　土　（色相はすべて7.5YR）	遺　物　等
46	27-1	0.38	0.29	0.20	3/2 黒褐色土　硬くしまり、粘質	
47	27-1	0.32	0.31	0.10	4/4 褐色土（黒褐色土少量混）硬くしまりやや粘質	
49	27-1	0.38	0.36	0.15	3/4 暗褐色土（褐色土、鉄分、砂粒少量混）しまりあり、やや粘質	
50	27-1	0.36	0.33	0.15	3/2 黒褐色土（褐色土混）しまりのない砂質	
51	27-1	0.50	0.45	0.17	3/2 黒褐色土（砂利、鉄分含）しまりあり、砂質	
52	27-1	0.46	0.40	0.22	3/2 黒褐色土（褐色土、砂利少量混）硬くしまり砂質	
53	27-1	0.22	0.21	0.12	3/3 暗褐色土　しまり弱く砂質	
54	27-1	0.30	0.29	0.16	3/2 黒褐色土（砂利混）しまりなく砂質	
55	27-1	0.32	0.32	0.16	3/2 黒褐色土　しまり弱く砂質	
56	27-1	0.52	0.40	0.21	3/3 暗褐色土（鉄分少量含）しまりあり、やや砂質	
57	27-1	0.26	0.24	0.17	3/4 暗褐色土　ややしまり、やや砂質	
58	27-1	0.35	0.35	0.13	3/3 暗褐色土（褐色土混）しまりあり、やや砂質	
59	27-1	0.60	0.60	0.23	3/4 暗褐色土（鉄分少量含）しまりあり、やや砂質	内黒坏　須恵坏　縄文
60	27-1	0.41	0.40	0.22	3/1 黒褐色土（砂利少量含）しまりあり、砂質	
61	27-1	0.52	0.40	0.13	3/1 黒褐色土（礫少量含）しまりやや弱く、砂質	土製円盤（55図5）　土師カメ
62	27-1	0.22	0.21	0.12	3/2 黒褐色土　ややしまり、やや砂質	
63	27-1	0.26	0.23	0.32	4/2 灰褐色土（炭化物含）硬くしまり粘質	
64	27-1	0.82	0.68	0.13	3/3 暗褐色土（礫、鉄分含）しまりあり、砂質	
65	27-1	0.28	0.25	0.10	4/4 褐色土　しまりのない、やや砂質	
66	27-1	0.34	0.32	0.06	3/2 黒褐色土　しまりのない砂質	
68	27-1	0.30	0.30	0.22	3/3 暗褐色土（明褐色土粒含）しまりあり、やや砂質	
69	27-1	0.62	0.60	0.15	3/4 暗褐色土（礫少量含）ややしまり、砂質	
70	27-1	0.35	0.22	0.14	4/2 灰褐色土　やや砂質	
71	27-1	0.52	0.44	0.36	3/2 黒褐色土（褐色土、炭化物混）硬くしまり砂質	須恵坏（52図3）　土師カメ
72	27-1	?	0.34	0.27	1 3/3 暗褐色土　2 3/2 黒褐色土（鉄分少量含）しまりあり、砂質	土師カメ　内黒坏
73	27-1	?	0.50	0.18	3/3 暗褐色土（褐色土粒混）しまりあり、やや砂質	内黒坏　土師カメ
74	27-1	?	0.58	0.26	1 7.5YR3/3暗褐色土（炭化物少量含）やや砂質 2 7.5YR3/4暗褐色土（褐色土粒含）しまりあり、やや砂質	
77	27-1	0.70	0.67	0.32	4/2 灰褐色土（明褐色土粒混）硬くしまり、粘質	土師カメ 内黒坏　須恵坏
78	27-1	0.58	0.32	0.20	3/2 黒褐色土（炭化物少量混）ややしまりのない粘質	須恵カメ　土師カメ
79	27-1	0.18	0.16	0.10	3/2 黒褐色土　しまりのないやや砂質	土師坏（付着物）
81	27-1	0.35	?	0.25	3/2 黒褐色土（明褐色土粒混）やや粘質	
82	27-1	0.62	0.55	0.16	3/3 暗褐色土（明褐色土混）しまりあり、砂質	
83	27-1	?	0.52	0.23	1 3/3 暗褐色土　2 4/4 褐色土（木根混）硬くしまり、やや粘質	
85	27-1	0.60	0.58	0.26	1 3/3 暗褐色土(炭化物少量含）やや粘質 2 5/2 灰褐色土　やや硬くブロック状	
87	27-1	0.34	0.32	0.16	1 3/3 暗褐色土　やや粘質 2 5/2 灰褐色土　やや硬くブロック状	
89	27-1	0.25	0.22	0.10	4/1 褐灰色土　しまりのない砂質	土師カメ
91	27-2	0.42	0.43	0.15	3/3 暗褐色土　ややしまり、やや粘質	土師カメ
92	27-1	0.41	0.30	0.17	3/3 暗褐色土（炭化物、礫少量含）やや粘質	
93	27-1	0.52	0.42	0.09	1 3/3 暗褐色土(褐色土混）しまりなし 2 3/2 黒褐色土（炭化物、灰含）しまり弱い	
94	27-1	0.44	0.44	0.13	3/3 暗褐色土　しまりのない砂質	

第１０表　ピット観察表（２）

No.	図版No.	長軸	短軸	深さ	覆　　土　（色相はすべて7.5YR）	遺　物　等
95	27-1	0.45	0.43	0.18	3/2 黒褐色土（明褐色土混）硬くしまり粘質	
96	27-1	0.46	0.42	0.16	3/3 暗褐色土　ややしまり、粘質	
97	27-1	0.58	0.54	0.16	3/3 暗褐色土（焼土、炭化物含）しまりあり、粘質	
98	27-1	0.43	0.41	0.14	1 3/2 黒褐色土　ややしまる　2 5/4 にぶい褐色のブロック状	
100	27-1	0.25	0.24	0.20	3/2 黒褐色土　しまりのない砂質	内黒坏等
101	27-1	0.58	?	0.20		
102	27-1	1.18	0.92	0.25	1 4/2 灰褐色土（礫含)砂質　2 3/3 暗褐色 ややしまる粘質	箱清水カメ　土師カメ
103	27-2	0.14	0.10	0.10		
104	27-1	0.24	0.21	0.13	4/3 褐色土　しまりあり、やや粘質	
105	27-1	0.22	0.20	0.12	3/3 暗褐色土　しまり弱い砂質	
106	27-1	0.46	0.38	0.20	4/3 褐色土　しまりのない、やや砂質	
107	27-1	0.50	0.38	0.28	4/3 褐色土（暗褐色土混）硬くしまりやや粘質	縄文中期
110	27-1	0.28	0.26	0.37	3/2 黒褐色土（礫混）やや粘質	
111	27-1	0.40	0.39	0.23	3/3 暗褐色土（褐色土少量混）硬くしまる	
112	27-1	0.35	0.34	0.22	3/3 暗褐色土（礫含）砂質	
113	27-1	0.28	0.25	0.24	4/3 褐色砂質土	
117	27-2	0.50	0.39	0.14	3/2 黒褐色土（褐色土ブロック少量混）ややしまり、やや砂質	
118	27-2	0.38	0.32	0.20	4/3 褐色土　ややしまり、やや砂質	
119	27-2	0.32	0.26	0.24	3/3 暗褐色土（明褐色土ブロック、砂利混）しまりのあるやや粘質	
120	27-2	0.43	0.43	0.31	3/2 黒褐色土（炭化物少量混）ややしまり、粘質	
121	27-1	0.38	0.30	0.22	3/4 暗褐色土（炭化物少量混）ややしまり、粘質	
122	27-1	?	0.43	0.08	3/4 暗褐色土　しまりのない、やや粘質	
123	27-2	0.29	0.27	0.40	3/2 黒褐色土（明褐色土粒混）しまりあり、粘質	
124	27-2	0.24	0.22	0.24	3/2 黒褐色土　硬くしまり、やや粘質	土師カメ
125	27-2	0.35	0.31	0.11		
126	27-2	0.32	0.28	0.13	3/1 黒褐色土（炭化物、礫混）しまり弱い粘質	箱清水カメ　内黒坏
127	27-2	0.32	0.30	0.17	3/2 黒褐色土　しまりのある、やや粘質	土師坏等
128	27-2	0.63	0.53	0.20	3/2 黒褐色土（褐色土粒混）ややしまり、やや粘質	
129	27-2	0.28	0.23	0.24	3/2 黒褐色土（炭化物少量混）しまりあり、粘質	
130	27-2	0.47	0.42	0.16	3/2 黒褐色土（炭化物少量混）ややしまり、やや粘質	
131	27-2	0.64	0.40	0.07	4/3 褐色土　しまりのない、やや砂質	
132	27-2	0.25	0.23	0.32	3/2 黒褐色土　硬くしまり粘質	
133	27-2	0.34	0.33	0.10	4/3 褐色土　しまりある、粘質	
134	27-2	0.24	0.22	0.06	3/2 黒褐色土　しまりのない砂質	
135	27-2	0.30	0.28	0.22	3/2 黒褐色土（炭化物少量混）しまりのない粘質	
136	27-2	0.53	0.50	0.22	1 3/2 黒褐色土（礫混）しまりなし　2 4/3 褐色土　硬くしまる	土師カメ
137	27-2	?	0.52	0.30	3/2 黒褐色土（古木混）硬くしまる粘質	
138	27-2	0.71	?	0.30	3/2 黒褐色土（礫混）しまりあり、やや粘質	土師カメ
139	27-1	0.72	0.65	0.35	3/3 暗褐色土（砂利混）しまりあり、やや砂質	箱清水カメ　須恵坏 内黒坏 縄文中期
140	27-2	1.20	1.14	0.48	3/2 黒褐色土（礫、砂利混）ややしまり、やや粘質	須恵坏　内黒坏　縄文中期
142	27-1	0.55	0.46	0.12	3/3 暗褐色土（砂利多量混）しまりのない砂質	箱清水カメ・高坏 土師カメ　縄文中期
143	27-2	0.42	0.40	0.23	3/2 黒褐色土（焼土少量混）しまりのない砂質	須恵カメ・坏　箱清水カメ　土師カメ

第１１表　ピット観察表（３）

No.	図版No.	長軸	短軸	深さ	覆　　土　（色相はすべて7.5YR）	遺　　物　　等
144	27-1	0.32	0.26	?		
145	27-1	0.27	0.24	0.28	3/3 暗褐色土　硬くしまる粘質	土師カメ
146	27-2	0.36	0.32	0.13	3/2 黒褐色土　しまりのない砂質	
147	27-1	0.48	0.43	0.12	3/4 暗褐色土　ややしまり、やや粘質	
148	27-1	0.47	0.41	0.32	2/1 黒褐色土（焼土粒、炭化物、礫混）しまりあり、砂質	土師ｶﾒ(未ﾛｸﾛ) 内黒坏 土師ｶﾒ 縄文中期
150	27-1	0.36	0.32	0.21	4/3 褐色土（炭化物少量混）しまりある粘質	須恵坏蓋（52図4）
152	27-2	0.26	0.25	0.14		
155	27-1	0.46	0.44	0.13	3/1 黒褐色土（炭化物少量混）ややしまり、やや粘質	
156	27-1	0.39	?	0.10	3/2 黒褐色土（明褐色土混）やや砂質	内黒坏　縄文（52図5）
158	27-1	?	0.32	0.10	3/2 黒褐色土（炭化物、焼土少量混）砂質	
159	27-1	0.44	0.43	0.07	4/4 褐色土（暗褐色土混）しまり弱い、やや粘質	
160	27-1	0.46	0.43	0.21	1 3/2 黒褐色土、ややしまり、粘質　2 4/4 褐色土、ややしまり、粘質	
161	27-1	0.54	0.50	0.18	3/2 黒褐色土（砂利混）ややしまる砂質	内黒坏（付着物）
162	27-1	0.40	0.32	0.12	3/2 黒褐色土　ややしまる砂質	
163	27-2	0.64	0.56	0.12	3/3 暗褐色土（焼土少量混）しまりのない砂質	土師カメ
165	27-2	0.42	0.40	0.11	3/2 黒褐色土（褐色土混）しまりのない砂質	
166	27-1	0.32	0.26	0.24	3/3 暗褐色土（砂利少量混）しまりあり、砂質	
167	27-1	0.38	0.36	0.40	1 3/3 暗褐色土（褐色土粒混）硬くしまり、やや粘質 2 2/2 黒褐色土（褐色土、炭化物少量混）ややしまり、粘質	土師カメ
168	27-1	0.30	0.29	0.09	3/2 黒褐色土（褐色土混）しまりあり、やや砂質	
169	27-1	0.58	0.52	0.07	1 3/3 暗褐色土（褐色土混）しまり弱く、やや粘質 2 4/4 褐色土（黒褐色土混）しまり弱く、やや粘質	
170	27-1	0.52	0.52	0.31	3/3 暗褐色土（明褐色土粒少量混）しまりのない、やや粘質	
171	27-1	0.68	0.66	0.50	1 3/3 暗褐色土（砂利少量混）しまりあり、やや粘質 2 2/2 黒褐色土（褐色土、炭化物少量混）ややしまり、粘質	内黒椀　土師カメ
173	27-1	0.68	0.63	0.34	3/1 黒褐色土（褐色土粒、礫混）しまりあり、やや砂質	須恵坏（高台付）
175	27-1	?	0.52	0.28	1 3/2 黒褐色土（砂利少量混）しまりあり 2 3/3 暗褐色土（鉄分少量混）硬くしまり粘質 3 4/2 灰褐色土ブロック 硬くしまり砂質	須恵坏（52図6）
176	27-1	0.28	0.26	0.10	3/3 暗褐色土　しまりのない砂質	土師カメ　縄文中期
177	27-1	0.83	0.79	0.42	3/2 黒褐色土（褐色土粒少量混）硬くしまり粘性	土師カメ・坏　縄文中期
178	27-1	0.86	0.80	0.23	3/2 黒褐色土（明褐色土ブロック、焼土少量混）ややしまり、粘性	土師カメ
180	27-1	?	0.20	0.12	3/3 暗褐色土　ややしまり、やや粘質	縄文
181	27-1	0.23	0.22	0.09	3/2 黒褐色土　ややしまる	
182	27-1	1.10	1.00	0.48	1 3/2 黒褐色土（砂利、炭化物混）しまりあり、やや粘質 2 3/1 黒褐色土（砂利混）しまりある砂質 3 4/4 褐色土ブロック、ややしまり粘質	土師カメ　内黒坏　箱清水カメ
183	27-1	0.91	0.88	0.43	3/1 黒褐色土（礫、砂利、炭化物混）しまりあり、やや粘質	土師カメ　箱清水ツボ等
184	27-2	0.42	0.26	0.06	3/2 黒褐色土　しまりのない砂質	
185	27-2	0.48	0.48	0.18	3/2 黒褐色土　しまりのない砂質	
186	27-1	0.39	0.36	0.12	3/2 黒褐色土　しまりのない砂質	
187	27-2	0.28	0.25	0.07	4/2 灰褐色土　ややしまり、砂質	
188	27-2	0.36	0.35	0.24	3/3 暗褐色土（黒褐色土少量混）しまりあり、やや粘質	
189	27-1	0.43	0.30	0.13	3/2 黒褐色土（炭化物少量混）しまりのない粘質	
190	27-1	0.38	0.37	0.12	3/2 黒褐色土　ややしまる	土師カメ

第１２表　ピット観察表（４）

No.	図版No.	長軸	短軸	深さ	覆　　土　（色相はすべて7.5YR）	遺　　物　　等
191	27-2	0.17	0.16	0.14		
192	27-2	0.25	0.20	0.10		
193	27-2	0.34	0.31	0.36	3/3 暗褐色土　ややしまり、やや粘質	
194	27-2	0.39	0.39	0.33	4/3 褐色土　ややしまり、やや粘質	
196	27-2	0.25	0.21	0.22	3/2 黒褐色土　しまりのない砂質	
197	27-1	0.28	0.26	0.08	3/3 暗褐色土　硬くしまり、やや粘質	
198	27-1	0.66	0.60	0.31	3/2 黒褐色土（砂利、鉄分少量混）硬くしまり、砂質	土師カメ 内黒坏・高坏(52図7)箱清水カメ 縄文中期等
199	27-1	?	0.41	0.18	3/3 暗褐色土（褐色土混）しまり弱く、砂質	
202	27-1	?	0.42	0.06	3/3 暗褐色土　ややしまり、やや粘質	
204	27-1	0.77	0.76	0.22	3/3 暗褐色土（砂利少量混）硬くしまり、やや粘質	
205	27-1	0.40	0.32	0.27	1 3/3 暗褐色土、硬くしまる 2 3/1 黒褐色土（炭化物少量含）しまりあり、やや粘質	箱清水高坏
206	27-1	0.60	0.50	0.45	1 3/3 暗褐色土（褐色土粒混）しまりあり、やや粘質 2 2/2 黒褐色土（砂粒少量含）しまりあり、粘質	
207	27-2	0.29	0.24	0.22	3/1 黒褐色土	土師カメ等
208	27-2	0.34	0.31	0.32	3/3 暗褐色土	縄文
209	27-2	0.50	0.37	0.22	3/3 暗褐色土（焼土混）	
210	27-2	0.53	0.44	0.35	3/2 黒褐色土（褐色ブロック混）	
211	27-2	1.65	1.14	0.34	1 3/2 黒褐色土（鉄分少量含） 2 4/3 褐色土（暗褐色土少量混）	
212	27-2	0.39	0.36	0.08	3/2 黒褐色土	
213	27-2	0.36	0.35	0.08	3/3 暗褐色土	縄文
214	27-2	0.45	0.41	0.15	3/2 黒褐色土（褐色土混）	
215	27-2	0.46	0.45	0.17	3/3 暗褐色土（焼土少量混）	
216	27-2	0.40	0.36	0.09	3/2 黒褐色土（褐色土混）	
217	27-2	0.38	0.36	0.14	3/3 暗褐色土	土師カメ　縄文
218	27-2	0.36	0.32	0.30	3/2 黒褐色土	土師カメ　縄文
219	27-2	0.45	0.44	0.22	2/2 黒褐色土（黒色土混）	土師カメ
220	27-2	0.39	0.37	0.32	3/3 暗褐色土　やや砂質	縄文中期等
221	27-2	0.66	0.63	0.28	3/1 黒褐色土（褐色土粒、炭化物、砂利混）しまりあり、やや粘質	縄文中期　箱清水ツボ　土師等
222	27-2	0.58	0.56	0.06	3/3 暗褐色土（褐色土混）ややしまり、やや粘質	箱清水カメ・ツボ 縄文中期（52図8）等
223	27-2	0.60	0.49	0.19	1 2/1 黒色土（暗褐色土少量混）ややしまり、粘質 2 4/4 褐色土（黒色土少量混）	
224	27-2	0.86	0.74	0.30	1 3/1 黒褐色土（褐色土粒混）しまりあり、やや粘質 2 5/6 明褐色土（砂利混）ブロック状少量	縄文　箱清水カメ等
225	27-2	0.27	0.26	0.09	3/3 暗褐色土（褐色土混）しまりあり、粘質	土師
226	27-2	0.62	0.56	0.24	2/2 黒褐色土　しまりあり、粘質	内黒坏　土師カメ　縄文中期
227	27-2	0.53	0.48	0.27	3/4 暗褐色土（褐色土粒混）ややしまり、やや粘質	須恵坏蓋　土師
228	27-2	0.34	0.25	0.10	3/3 暗褐色土　しまりあり、やや粘質	
229	27-2	0.42	0.34	0.20	3/4 暗褐色土　やや粘質	
230	27-2	0.40	0.38	0.20	3/2 黒褐色土（褐色土少量混）	
231	27-2	0.84	0.75	0.37	3/3 暗褐色土（褐色土ブロック、焼土、炭化物少量混）	土師カメ等
232	27-2	1.06	0.71	0.26	1 4/2 灰褐色土（焼土、炭化物多量混）　2 4/4 褐色土	
233	27-2	0.46	0.36	0.42	3/4 暗褐色土（鉄分少量含）しまりあり、やや粘性	

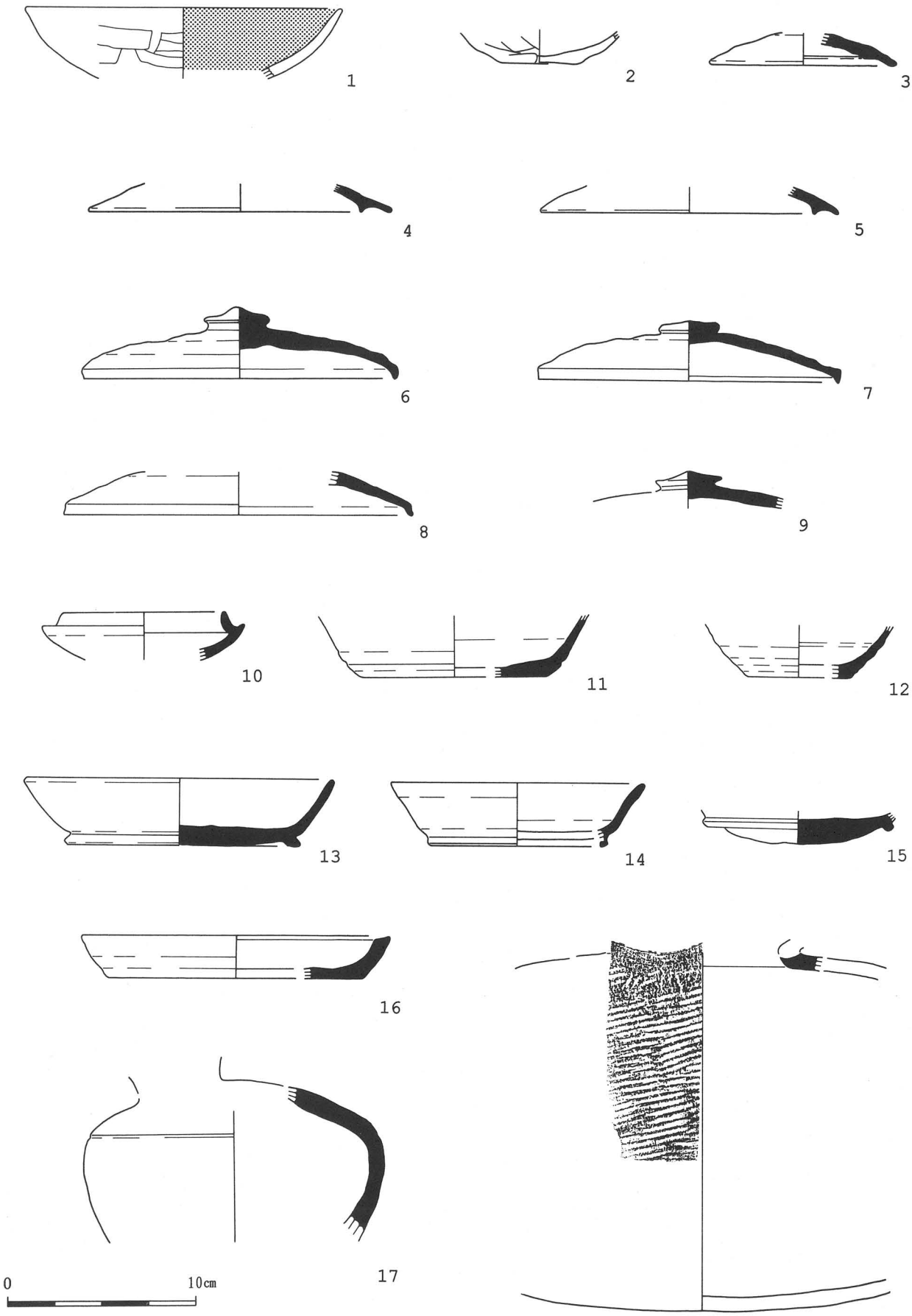
第１３表　ピット観察表（５）

No.	図版No.	長軸	短軸	深さ	覆　　土　（色相はすべて7.5YR）	遺　物　等
234	27-2	0.93	0.86	0.30	4/4 褐色土（焼土、炭化物少量含）	須恵皿（52図9） 土師カメ等
235	27-2	1.28	?	0.36	1 3/2 黒褐色土（焼土含） 2 4/4 褐色土（黒褐色土混）硬くしまり、やや粘性	土師カメ等
236	27-2	0.38	0.34	0.32	3/3 暗褐色土（褐色土、焼土少量混）	土師カメ等
237	27-2	1.25	1.03	0.42	1 3/3 暗褐色土（黒褐色土ブロック混） 2 4/6 褐色土ブロック　しまりあり、粘性	
238	27-2	?	0.85	0.46		箱清水カメ
239	27-2	0.30	0.20	0.25	3/3 暗褐色土（褐色土混）しまりあり、やや粘性	
240	27-2	0.48	0.40	0.18	3/3 暗褐色土（褐色土混）しまりあり、やや粘質	
241	27-2	0.47	0.31	0.17	3/4 暗褐色土　しまりあり、粘質	
242	27-2	0.44	0.34	0.20	3/3 暗褐色土（褐色土混）やや粘質	
243	27-2	0.54	0.50	0.25	3/2 黒褐色土（褐色土、礫混）ややしまり、粘質	縄文中期等
244	27-2	0.50	0.37	0.31	3/3 暗褐色土（褐色土、礫、鉄分混）ややしまり、やや砂質	土師カメ　縄文中期　箱清水カメ
245	27-2	0.66	0.62	0.34	3/4 暗褐色土（褐色土、褐灰、にぶい褐色粘土混） しまりあり、粘質	
246	27-2	0.77	0.60	0.30	1 5/1 灰褐、明褐色粘土（砂利、炭化物少量含） 2 3/4 暗褐色土（炭化物少量混）しまりあり、やや粘質	土師カメ等
247	27-2	0.70	0.48	0.46	3/2 黒褐色土（褐色土粒、炭化物少量混）	土師カメ 箱清水カメ 縄文中期等
248	27-2	0.98	0.80	0.22	1 4/4 褐色土（黒褐色土粒少量含）しまりあり、やや粘質 2 3/1 黒褐色土（褐色土粒、炭化物少量混）	箱清水ツボ　内黒坏　土師カメ・坏（52図10）等
249	27-2	?	0.44	0.10	3/3 暗褐色土　しまりあり、やや粘質	
250	27-2	0.52	0.46	0.12	3/3 暗褐色土（褐色土粒少量混）しまりあり、やや粘質	
251	27-2	0.26	0.23	0.08	3/4 暗褐色土　しまりあり、やや粘質	
252	27-2	0.46	0.32	0.22	3/4 暗褐色土（黒褐色土粒含）やや粘質	縄文　土師
253	27-2	0.48	0.32	0.14	3/4 暗褐色土（明褐色土ブロック混）ややしまり、粘質	箱清水ツボ等
254	27-2	0.80	0.62	0.22	3/3 暗褐色土（黒褐色土少量混）しまりあり	
255	27-2	0.46	0.44	0.20	3/4 暗褐色土（明褐色土ブロック混）しまりあり、やや粘質	土師カメ 箱清水ツボ 縄文中期等
256	27-2	1.40	1.05	0.83	3/2 黒褐色土（褐色土ブロック多量混）硬くしまり、やや粘質	土師カメ　箱清水ツボ 内黒坏等
257	27-2	0.40	0.36	0.16	3/2 黒褐色土（灰褐色土少量混）	
258	27-2	1.70	1.45	0.48	3/3 暗褐色土（黒褐色土混、黒色土帯状に所々混）	
259	27-2	0.25	0.22	0.12	2/1 黒色、3/4 暗褐色土の混合　しまりなく、やや粘質	
261	27-2	0.48	0.44	0.14	3/4 暗褐色土　しまりあり、やや粘質	
262	27-3	?	0.46	0.15	3/3 暗褐色土	縄文中期等
263	27-3	0.47	0.35	0.06	3/3 暗褐色土	縄文中期等
264	27-3	1.03	0.82	0.56	2/2 黒褐色土（暗褐色土粒多量、木根混）しまりあり	縄文中期　土師カメ等
265	27-3	?	0.68	0.15	3/1 黒褐色土（にぶい褐色土ブロック少量混）	縄文中期　土師
266	27-3	0.59	0.42	0.20	3/3 暗褐色土	
267	27-3	0.38	0.28	0.08	3/3 暗褐色土	土師等
268	27-3	0.36	0.34	0.12	3/3 暗褐色土	
269	27-3	0.43	0.36	0.38	3/2 黒褐色土（褐色土ブロック粒、焼土粒混）	縄文中期　土師カメ　須恵カメ
270	27-3	0.50	0.48	0.24	1 3/2 黒褐色土（焼土粒混）　2 5/6 明褐色土	縄文中期　箱清水ツボ等
271	27-3	0.49	0.32	0.28	3/2 黒褐色土	縄文中期　箱清水ツボ等
272	27-3	0.44	0.41	0.27	1 3/3 暗褐色土（炭化物少量混） 2 5/6 明褐、3/3暗褐色土の混合	縄文中期　箱清水ツボ・カメ等
273	27-3	1.16	0.80	0.54	3/3 暗褐色土（褐色土ブロック混）ややしまり、粘質	縄文中期　箱清水ツボ等

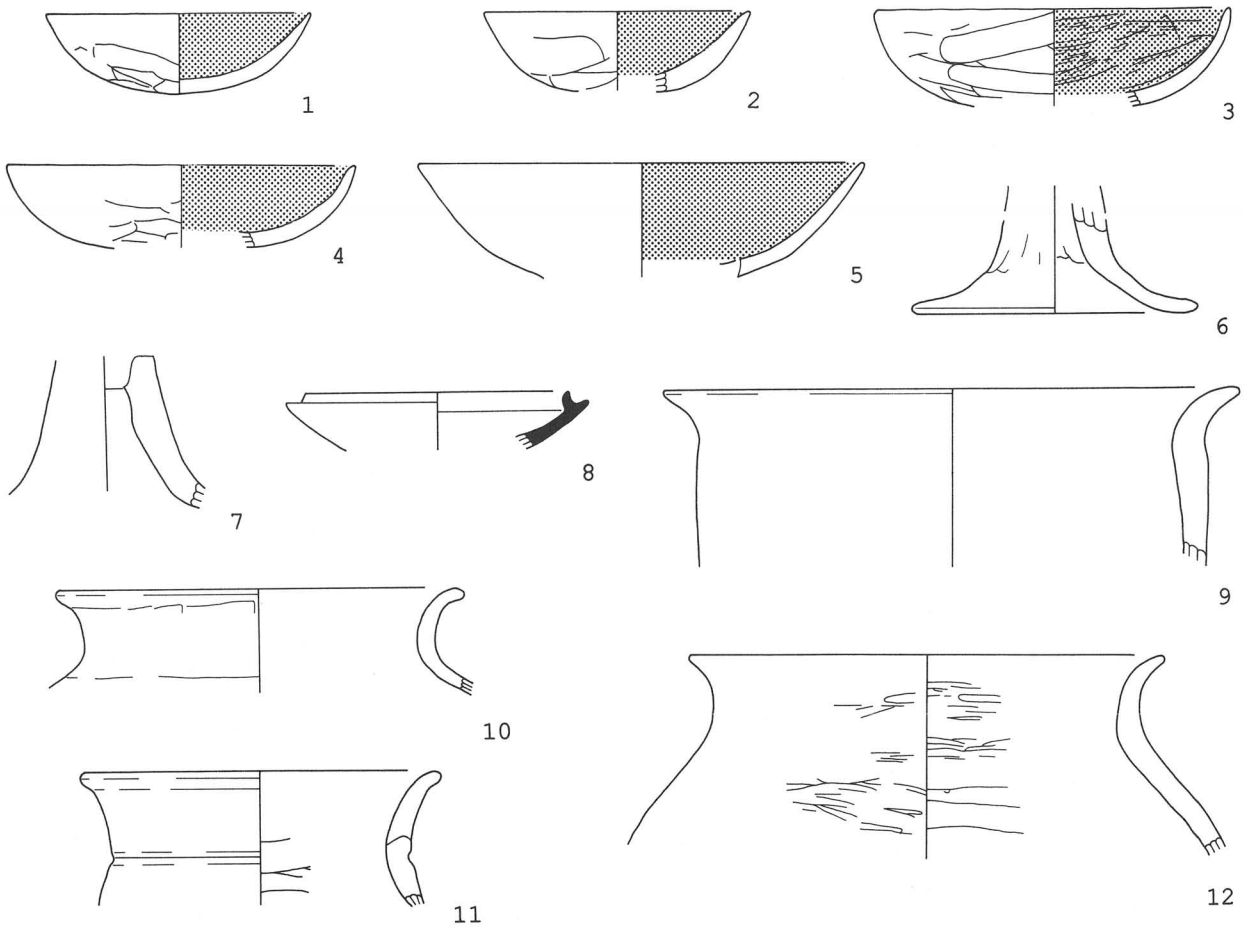
第１４表　ピット観察表（６）

No.	図No.	長軸	短軸	深さ	覆　　土　（色相はすべて7.5YR）	遺　　物　　等
274	27-3	0.47	0.47	0.09	4/3 褐色土　しまりあり	
275	27-3	0.28	0.27	0.14	3/2 黒褐色土	
276	27-3	0.22	0.21	0.08	3/2 黒褐色土	箱清水高坏
277	27-3	0.22	0.20	0.06	3/2 黒褐色土	
278	27-3	0.15	0.14	0.06	3/2 黒褐色土	
279	27-3	0.16	0.13	0.06	3/2 黒褐色土	
280	27-3	0.48	0.45	0.23	3/3 暗褐色土（炭化物少量含）硬くしまり、やや粘質	縄文中期等
281	27-3	0.69	?	0.15	3/1 黒褐色土（褐色土ブロック少量混）	縄文中期(52図11~13) 内黒坏 箱清水
282	27-3	?	0.36	0.22		
283	27-3	1.22	0.56	0.06	3/4 暗褐、2/1 黒、5/3 にぶい褐色土の混合土、硬くしまる	縄文中期　箱清水ツボ等
284	27-3	0.84	0.82	0.17	3/2 黒褐色土（暗褐色土、礫混）硬くしまる	縄文中期　箱清水ツボ・高坏・カメ等
285	27-3	0.36	0.32	0.23	3/1 黒褐、3/3 暗褐色土の混合土（焼土粒少量含）硬くしまる	箱清水カメ・ツボ等
286	27-3	0.26	0.22	0.08	3/2 黒褐色土（暗褐色土混）	
287	27-3	?	0.33	0.12	3/2 黒褐色土（暗褐色土混）	縄文中期　箱清水カメ・ツボ等
288	27-3	0.38	0.36	0.10	3/2 黒褐色土（暗褐色土混）	縄文中期　箱清水ツボ等
289	27-3	0.61	0.50	0.12	3/2 黒褐色土（礫含）硬くしまる	縄文中・後期　箱清水ツボ等
290	27-3	0.44	0.28	0.10	3/2 黒褐色土　硬くしまる	縄文中期　土師　箱清水高坏等
291	27-3	0.23	0.22	0.09	3/1 黒褐色土　硬くしまる	
292	27-2	0.37	0.29	0.50	2/2 黒褐色土（褐色土粒混）しまりあり、粘質	箱清水ツボ等
293	27-2	0.60	0.59	0.33	3/2 黒褐色土（砂利、砂粒多量含）硬くしまり、粘質	縄文中期等
294	27-3	0.94	0.80	0.19	3/2 黒褐色土（褐色土粒混）硬くしまり、やや粘質	
295	27-3	?	0.52	0.08	3/3 暗褐色土	縄文中期等
296	27-3	0.68	0.58	0.06	3/3 暗褐色土（砂利含）硬くしまり、やや粘質	
297	27-2	1.18	?	0.32	3/2 黒褐色土（暗褐色土混）硬くしまり、粘質	土師カメ
298	27-3	0.53	?	0.12		縄文中期
299	27-3	1.20	?	0.14	3/2 黒褐色土（暗褐色土混）硬くしまり、やや粘質	須恵カメ 縄文中期 箱清水カメ・ツボ 土師カメ等
300	27-3	0.53	0.43	0.32	3/2 黒褐色土　硬くしまり、粘質	縄文中期（52図14）箱清水ツボ等
301	27-3	?	0.41	0.15	3/2 黒褐色土（焼土粒、砂利少量含）ややしまり、やや粘質	縄文中期（52図15,16)等
302	27-2	0.73	0.62	0.45	3/2 黒褐色土（褐色土混）しまりなく、やや粘質	
303	27-3	0.78	0.71	0.08	3/2 黒褐色土（礫少量含）硬くしまる	縄文中期　土師カメ等
304	27-3	2.14	?	0.14	3/2 黒褐色土（焼土粒、礫少量含）硬くしまる	縄文中期（52図17～19)
305	27-3	0.29	0.27	0.32		
306	27-2	0.52	0.48	0.14	3/3 暗褐色土（黒褐色土少量混）ややしまり、やや砂質	縄文中期　土師カメ等
307	27-2	0.45	0.39	0.09	3/2 黒褐と3/3 暗褐色の混合土（焼土粒少量含）しまりある	
308	27-3	0.22	0.21	0.10		縄文中期　箱清水高坏等
310	27-3	0.15	0.15	0.06		
311	27-3	0.22	0.18	0.06		
312	27-2	0.63	0.61	0.40	1 3/3 暗褐色土　しまりあり、粘質 2 4/3 褐色土（黒褐色土ブロック、鉄分含）しまりあり、粘質	縄文　土師カメ
313	27-2	0.58	0.56	0.38	3/2 黒褐色土（褐色土ブロック、砂利混）	縄文　土師カメ
314	27-3	0.34	0.25	0.12	2/1 黒と3/3 暗褐色の混合土（炭化物、焼土多量含）硬くしまり、粘質	
315	27-3	0.36	0.35	0.08	3/1 黒褐色土　しまりのない、やや粘質	

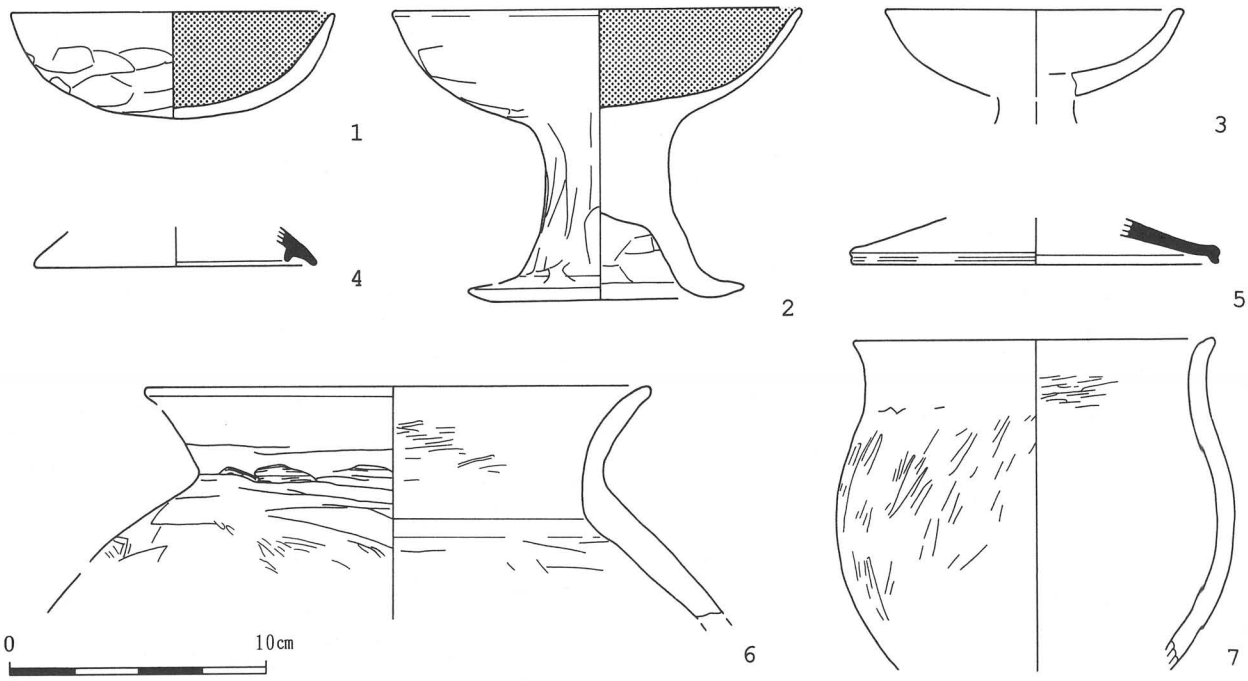
第１５表　ピット観察表（７）



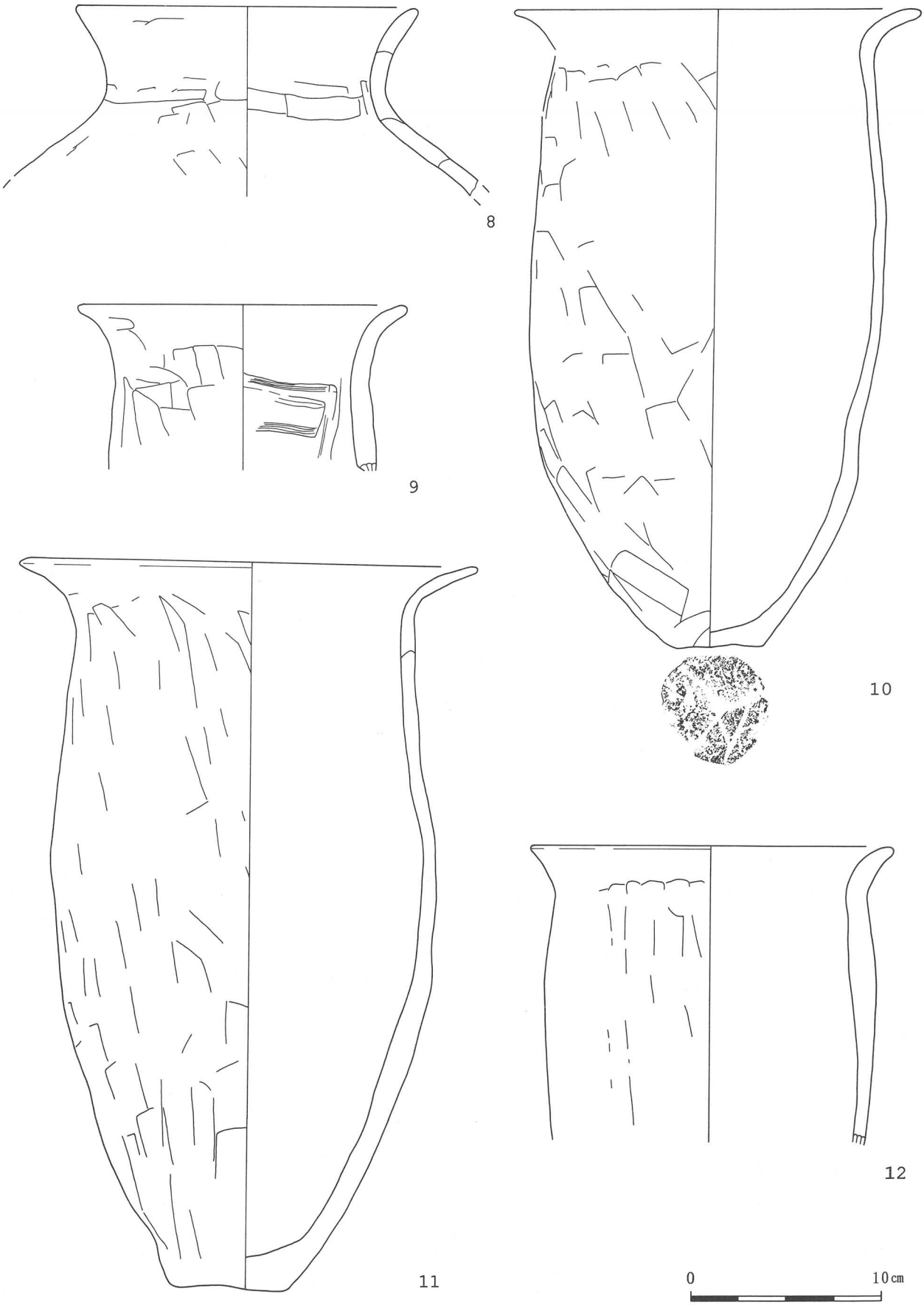
第２８図　第１号竪穴住居跡出土土器実測図



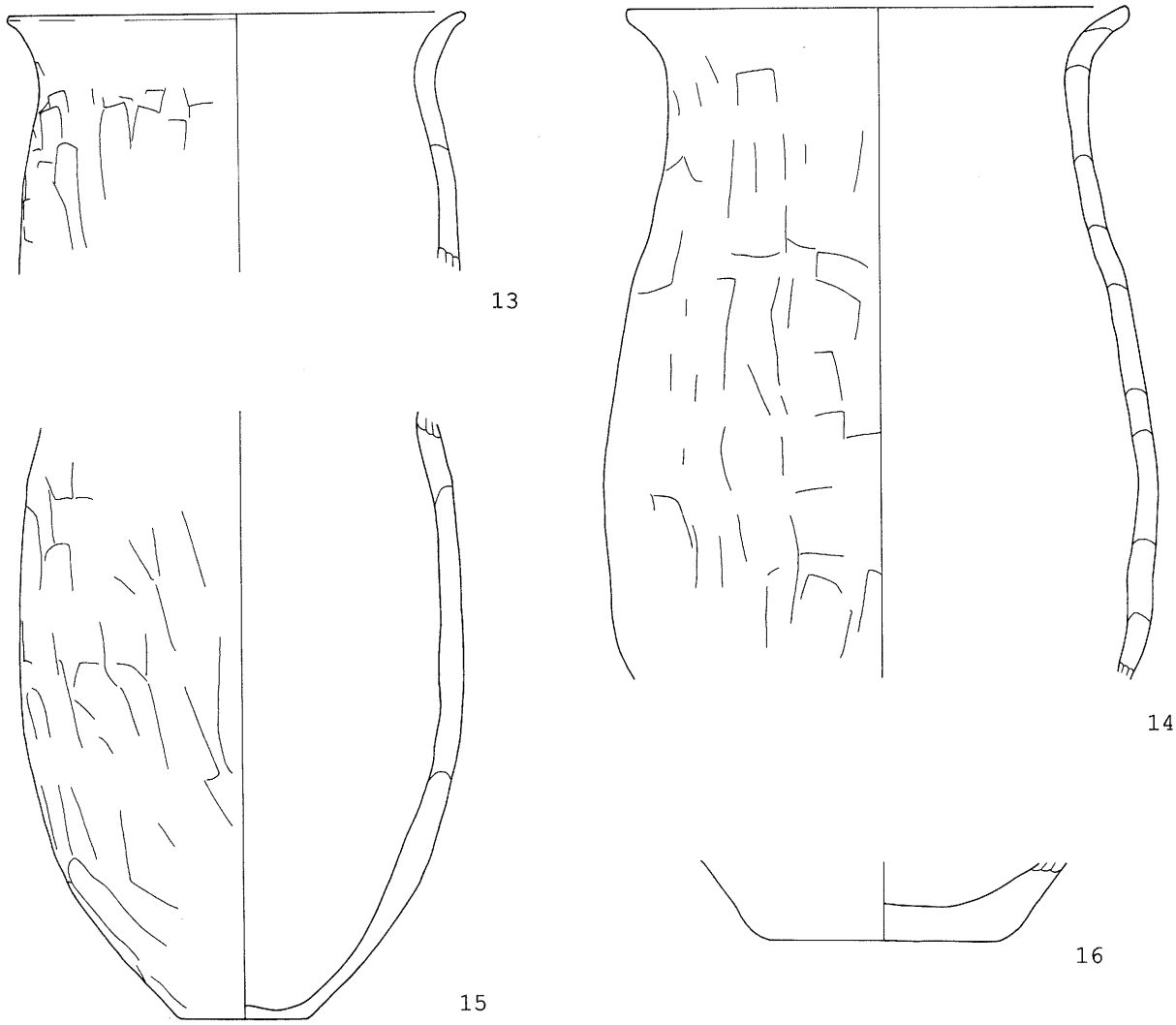
第２９図　第２号竪穴住居跡出土土器実測図



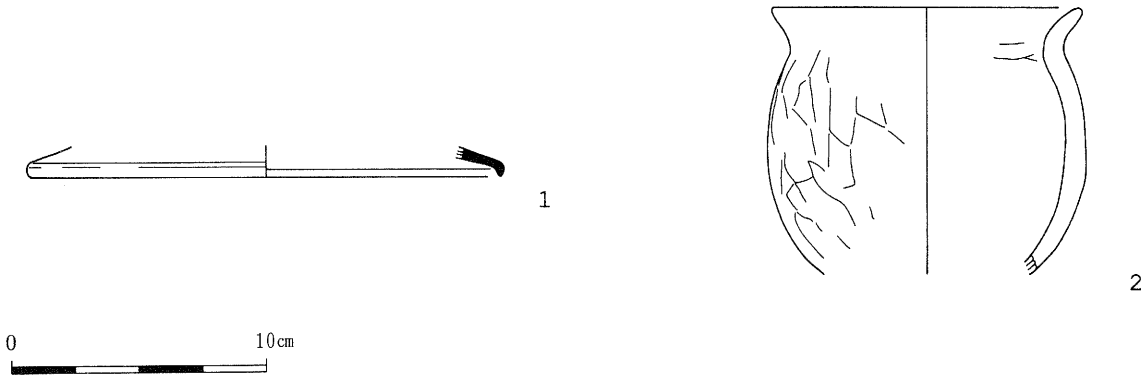
第３０図　第３号竪穴住居跡出土土器実測図（１）



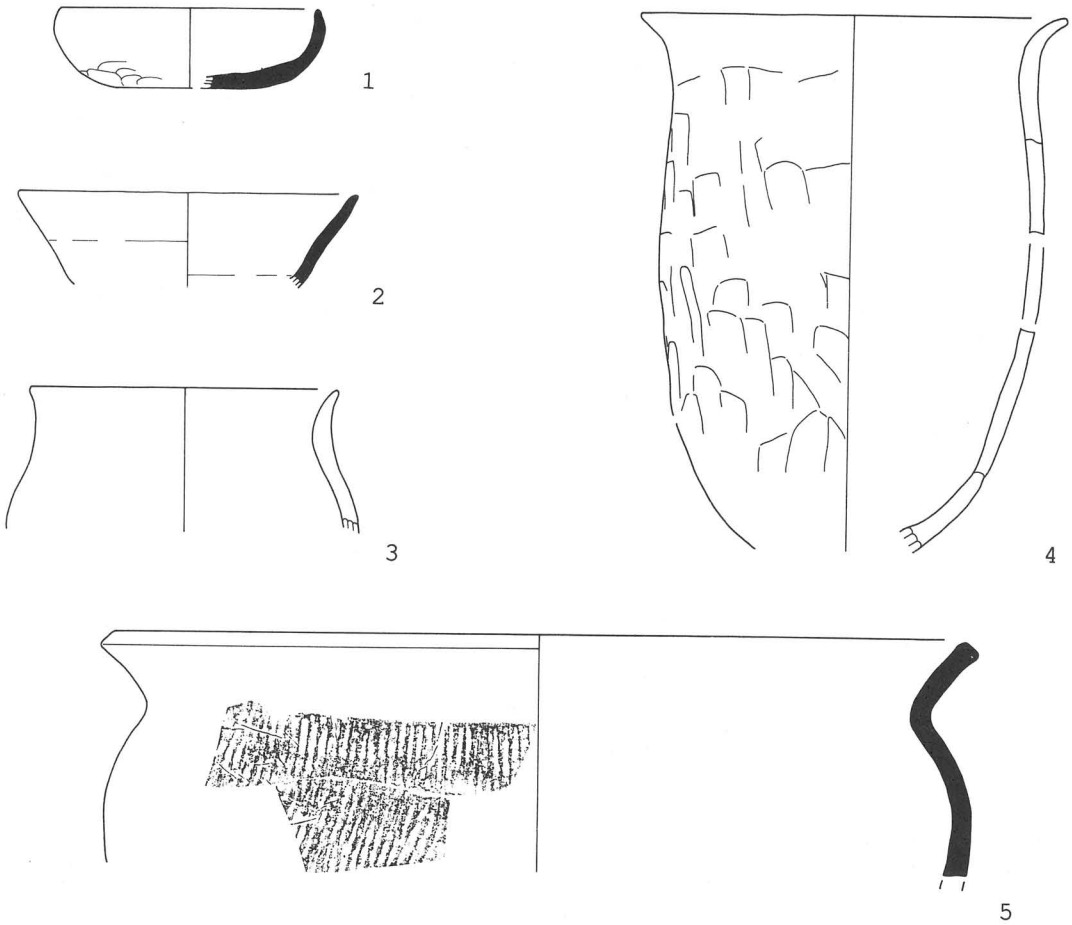
第３０図　第３号竪穴住居跡出土土器実測図（２）



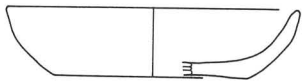
第３０図　第３号竪穴住居跡出土土器実測図（３）



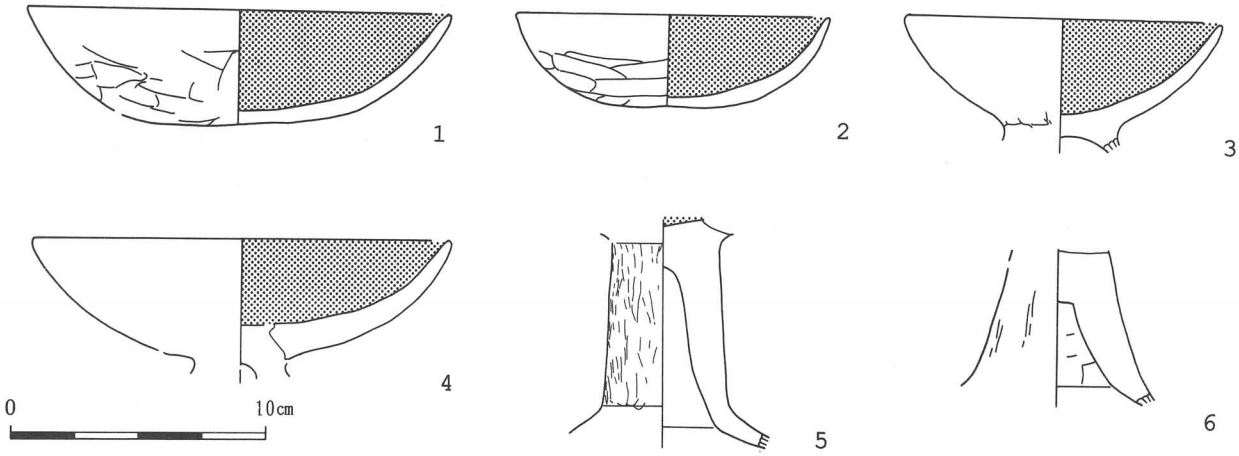
第３１図　第４号竪穴住居跡出土土器実測図



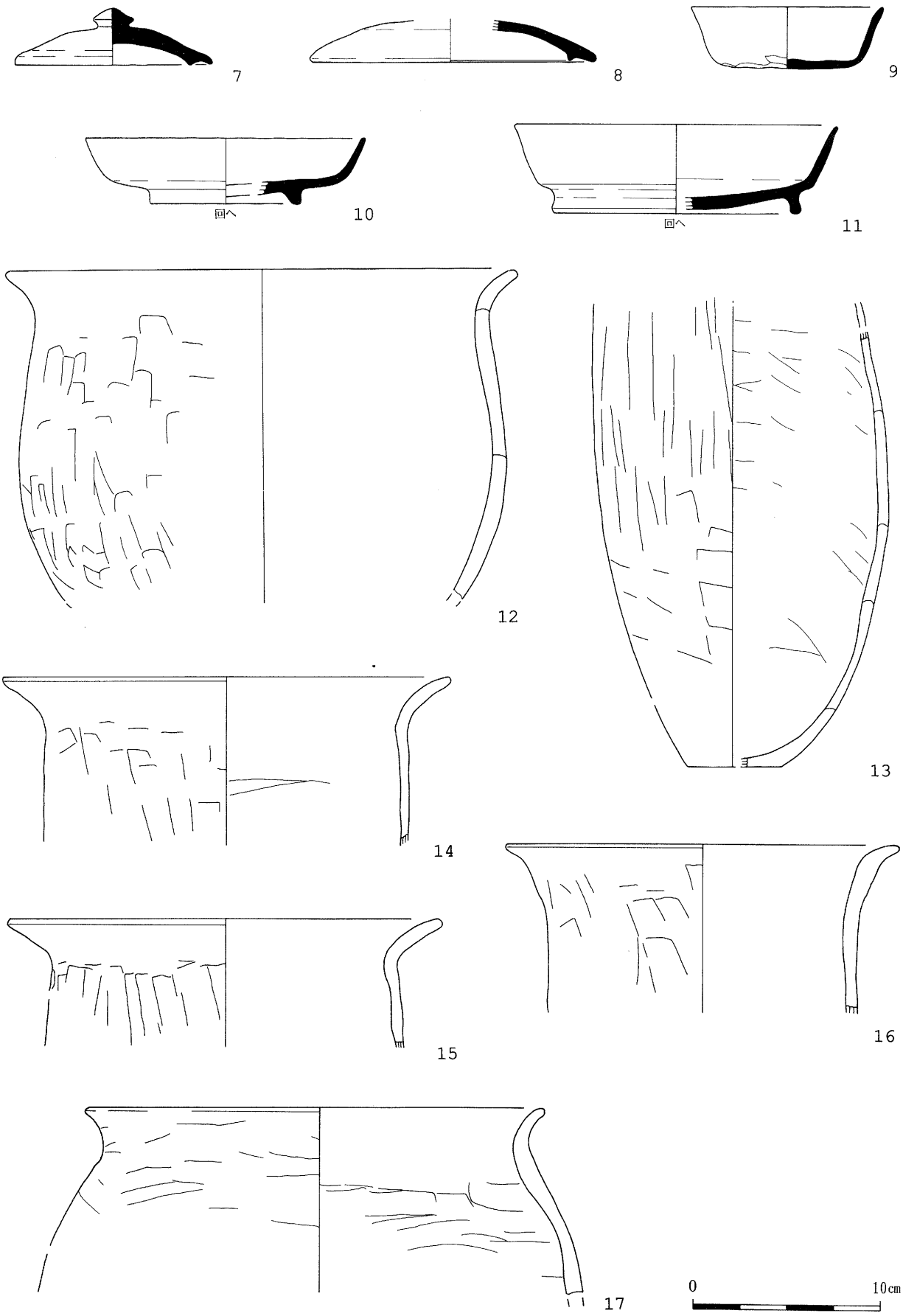
第３２図　第５号竪穴住居跡出土土器実測図



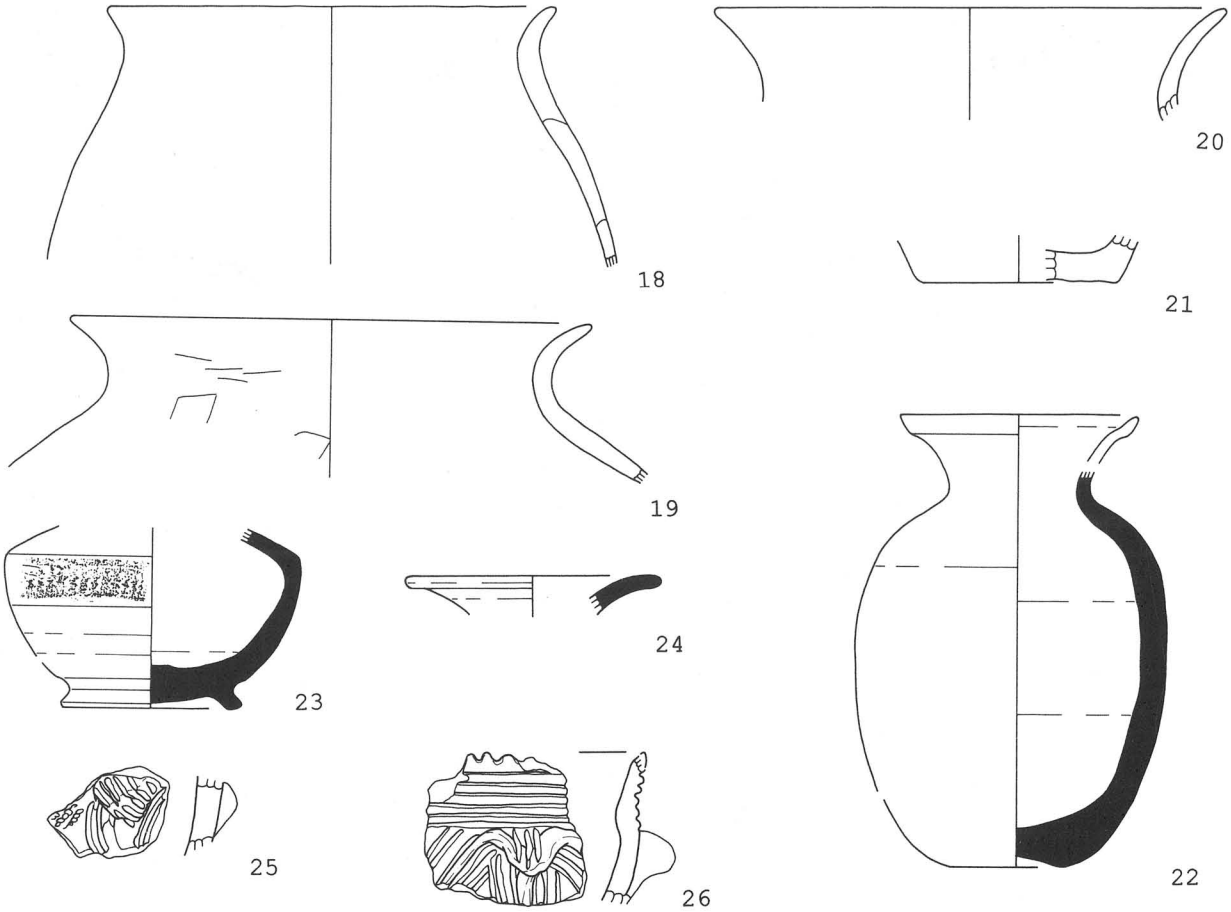
第３３図　第６号竪穴住居跡出土土器実測図



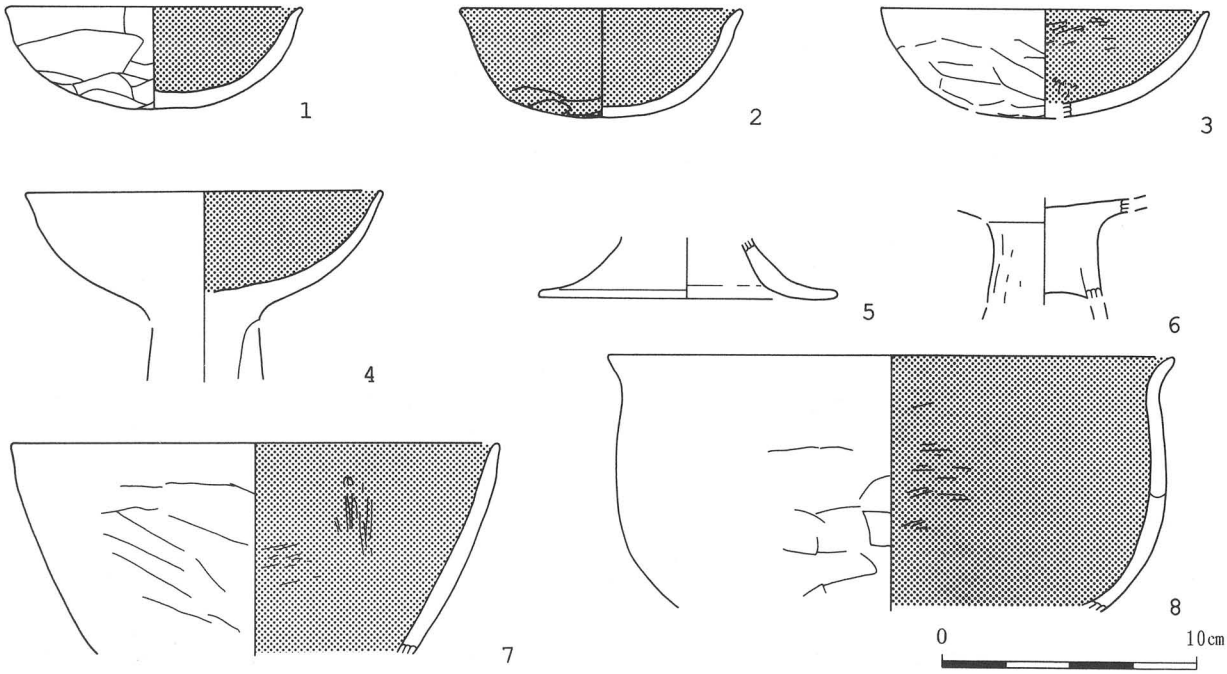
第３４図　第７号竪穴住居跡出土土器実測図（１）



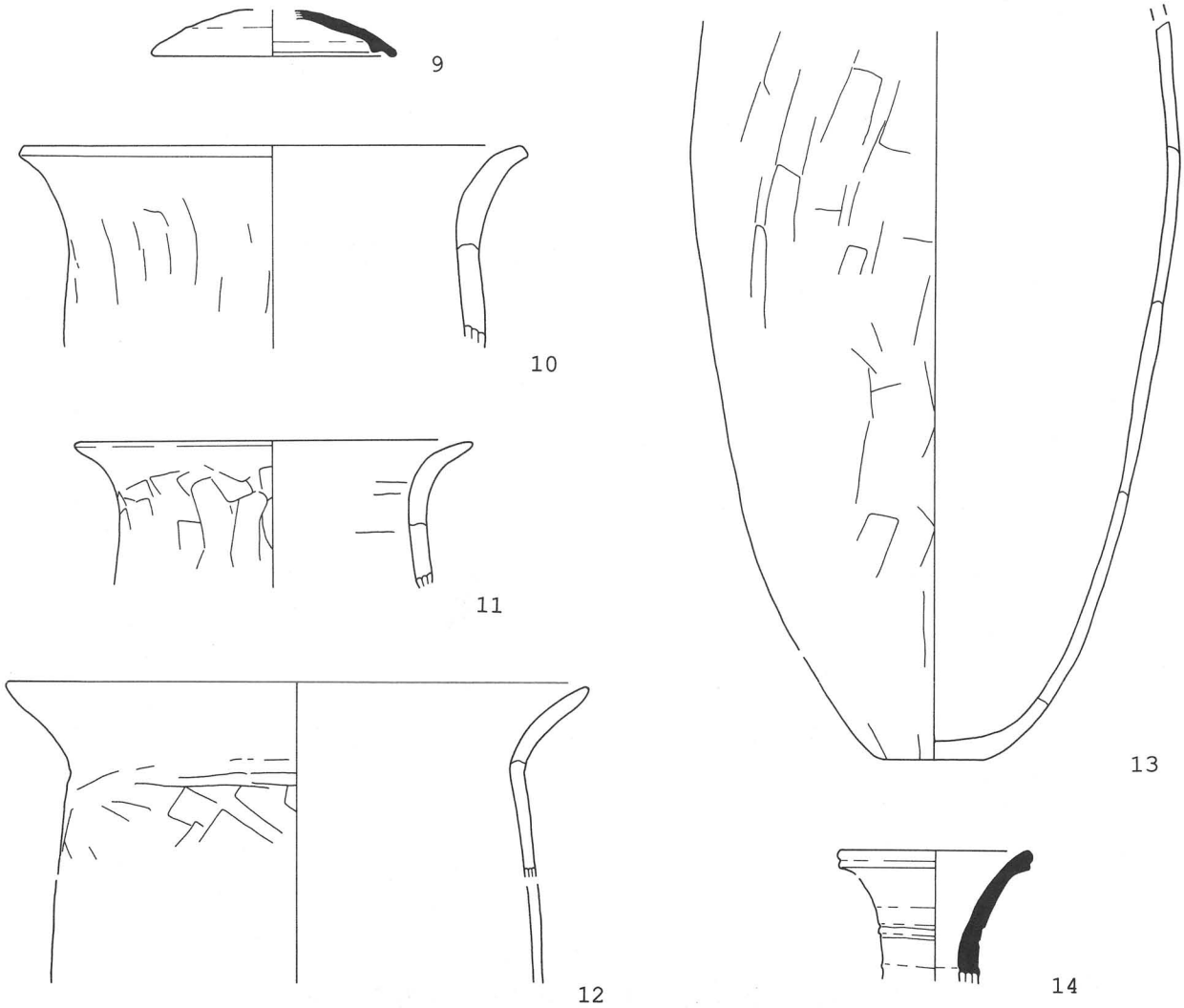
第３４図　第７号竪穴住居跡出土土器実測図（２）



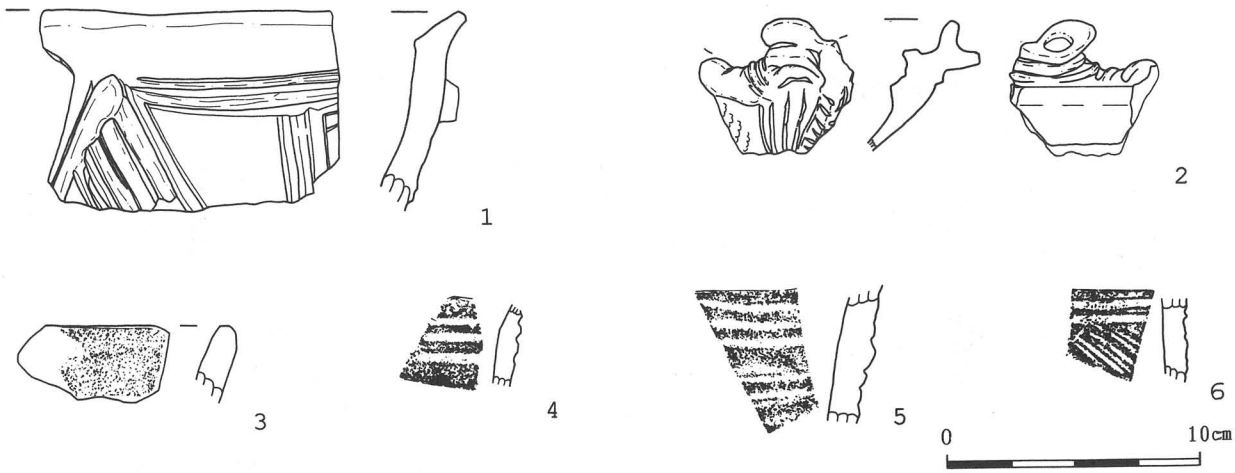
第３４図　第７号竪穴住居跡出土土器実測図（３）



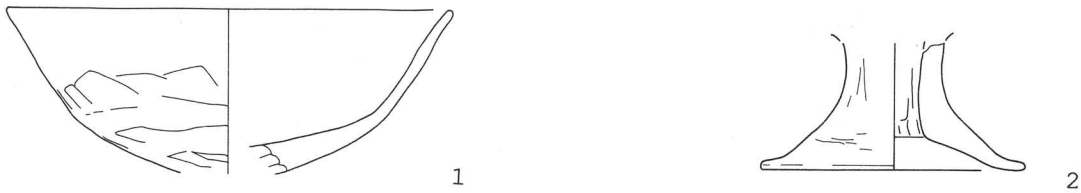
第３５図　第９号竪穴住居跡出土土器実測図（１）



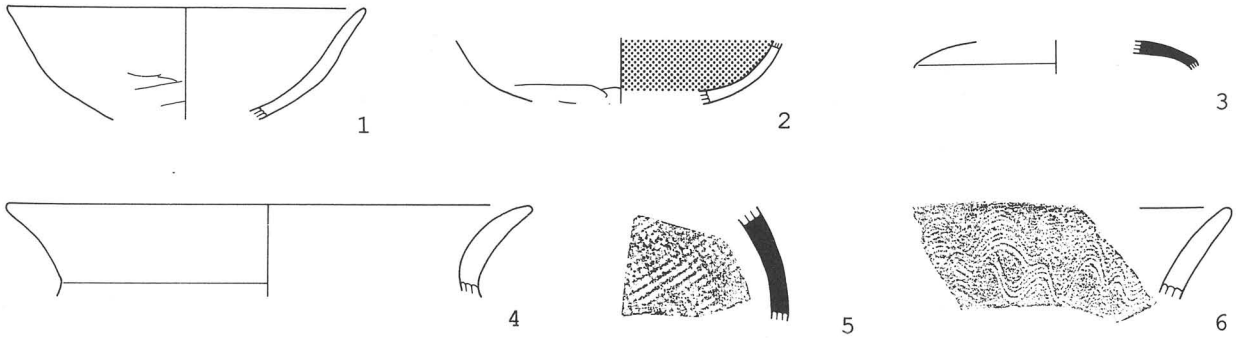
第３５図　第９号竪穴住居跡出土土器実測図（２）



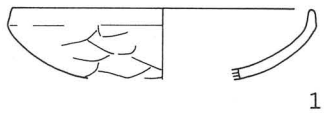
第３６図　第１０号竪穴住居跡出土器土実測図



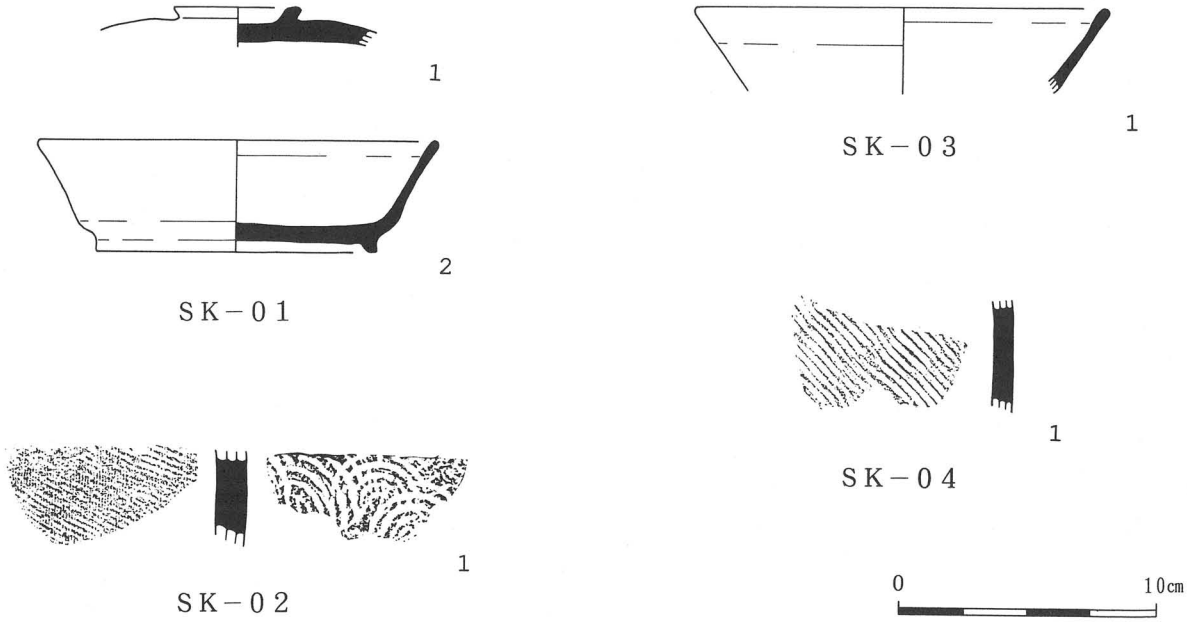
第３７図　第１号掘立柱建物跡出土土器実測図



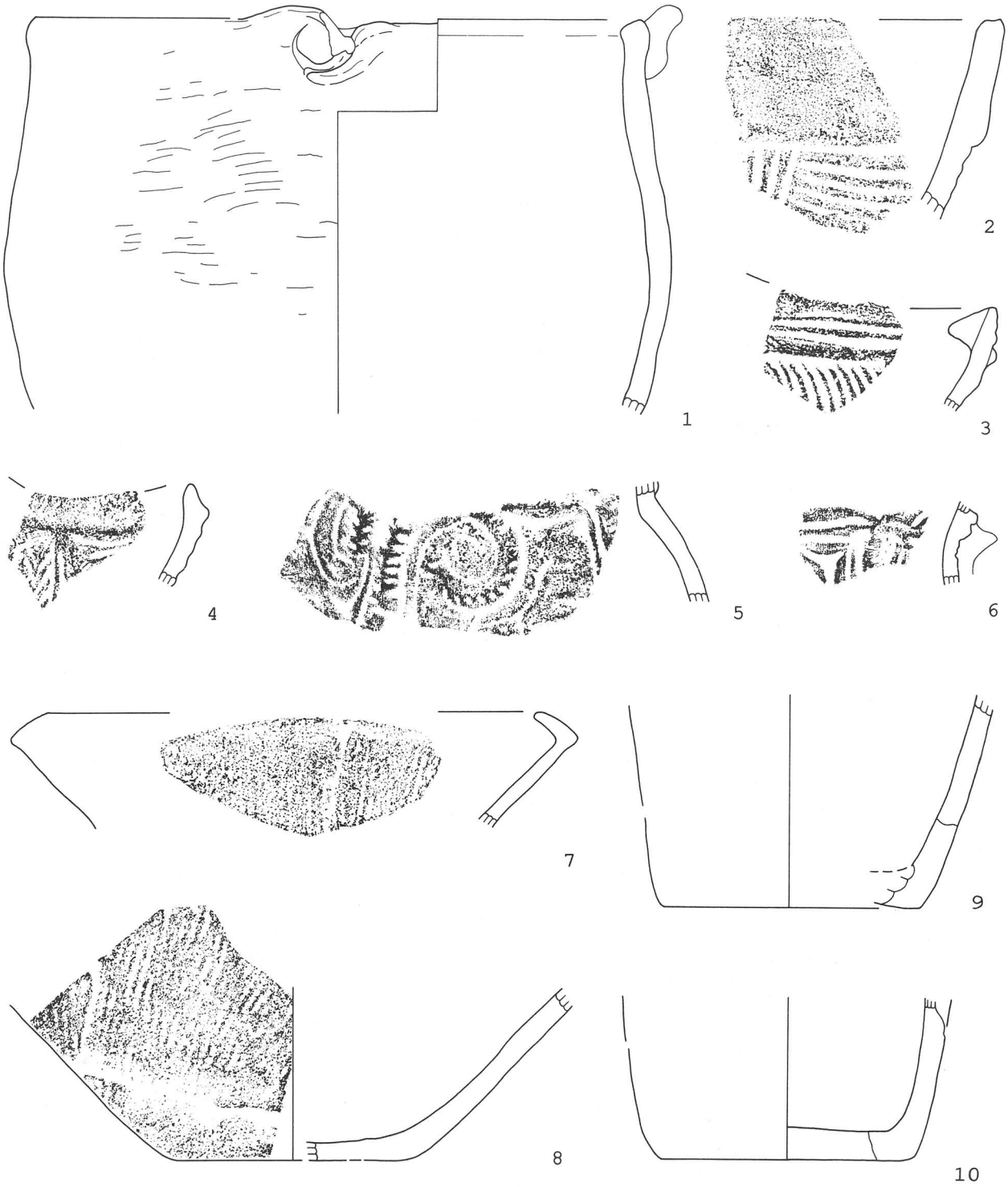
第３８図　第２号掘立柱建物跡出土土器実測図



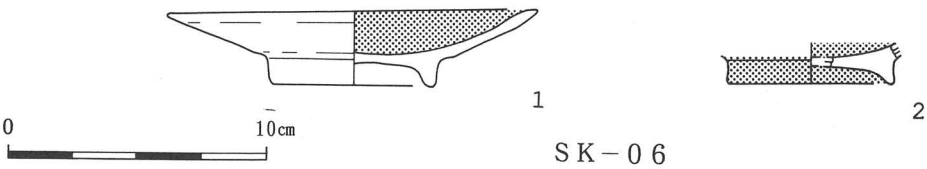
第３９図　第４号掘立柱建物跡出土土器実測図



第４０図　土壙出土土器実測図（１）

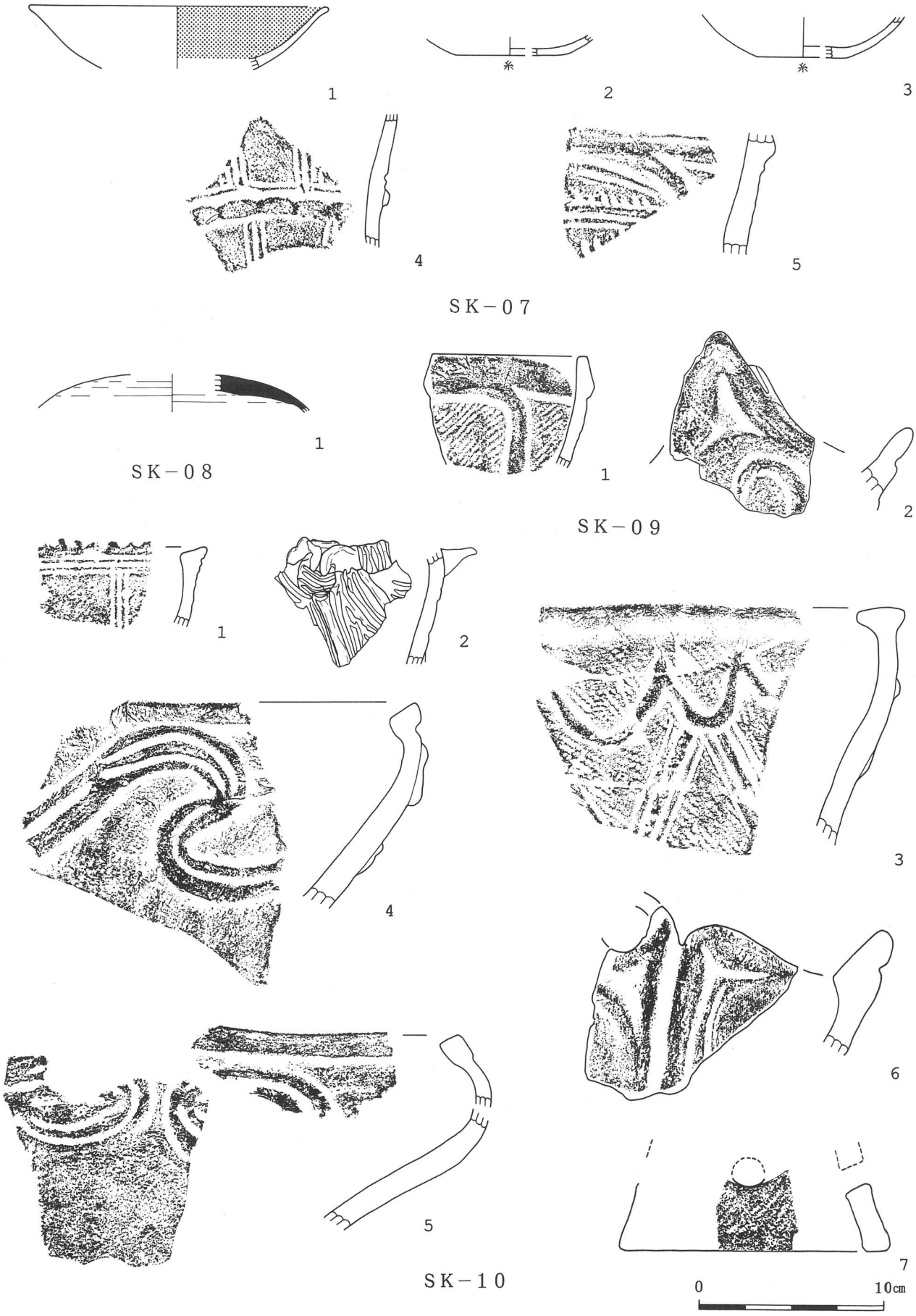


SK－05

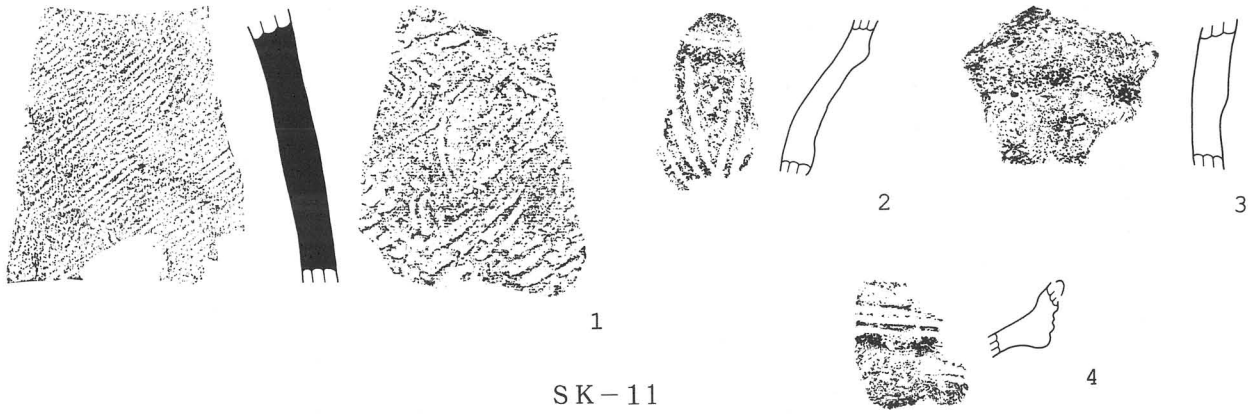


SK－06

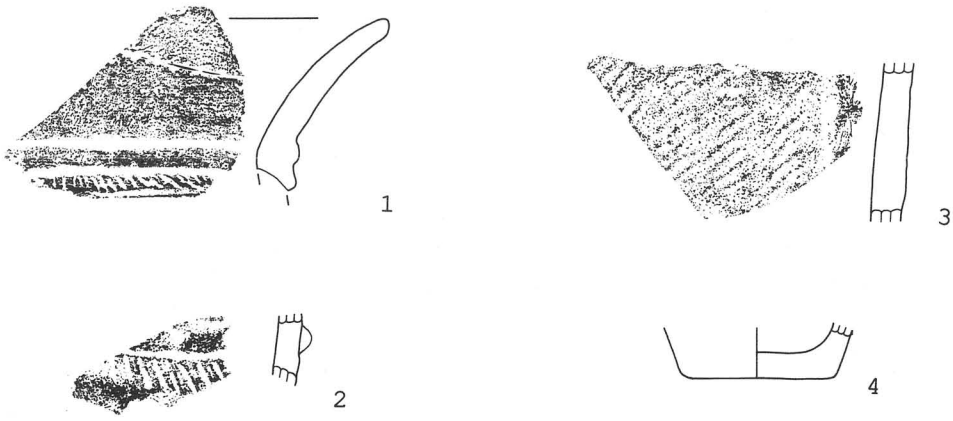
第４０図　土壙出土土器実測図（２）



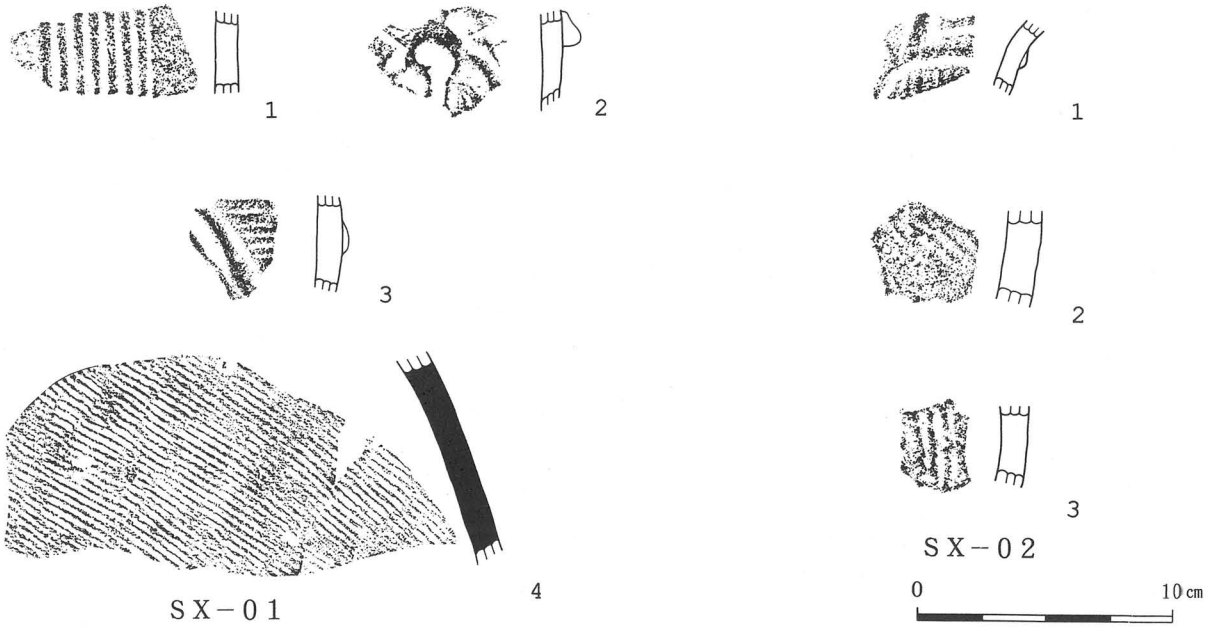
第４０図　土壙出土土器実測図（３）



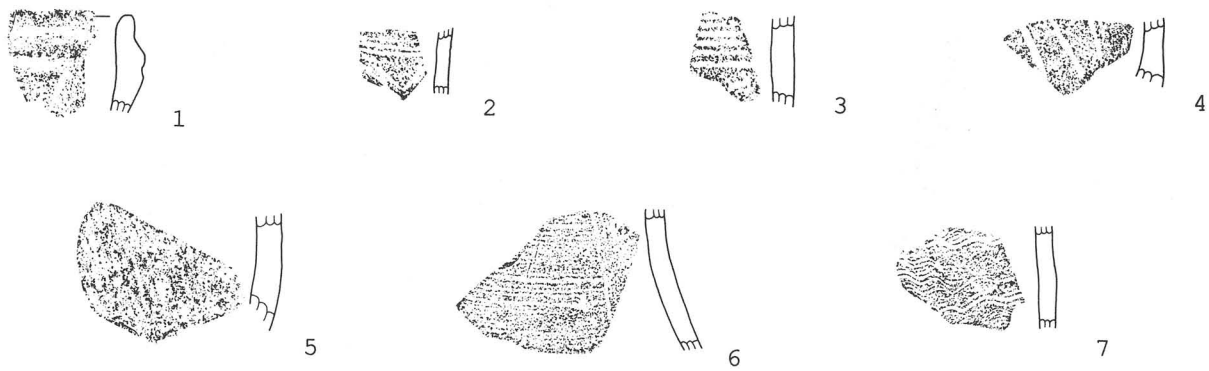
第４０図　土壙出土土器実測図（４）



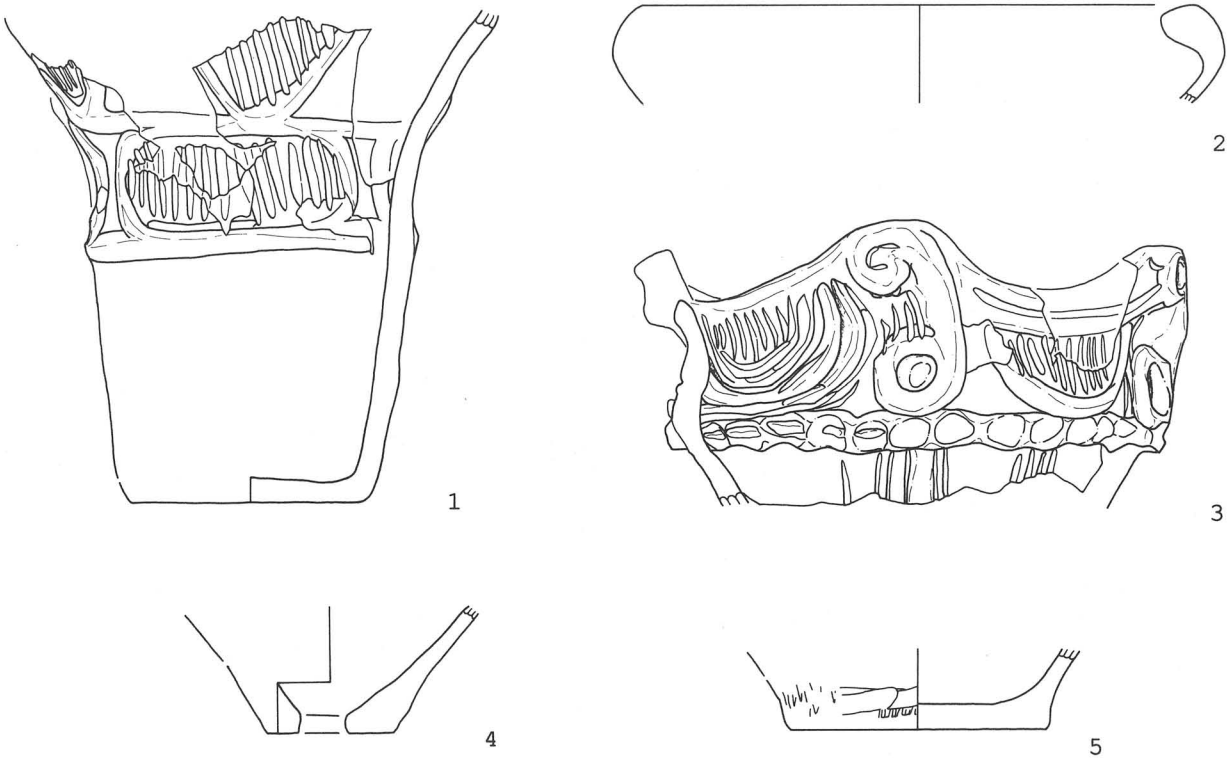
第４１図　第１号配石遺構出土土器実測図



第４２図　集石遺構出土土器実測図

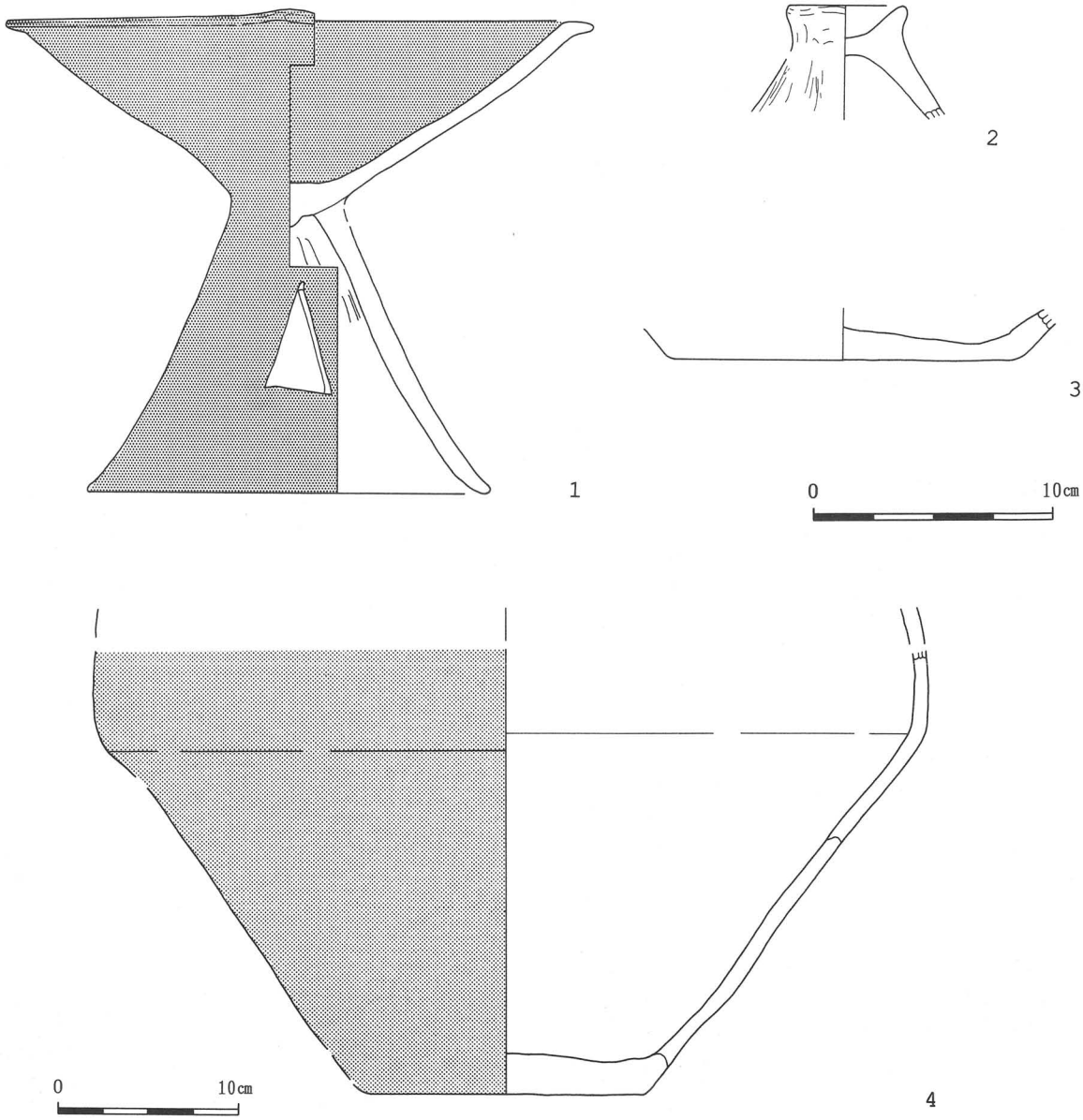


第４３図　第１号溝跡出土土器実測図

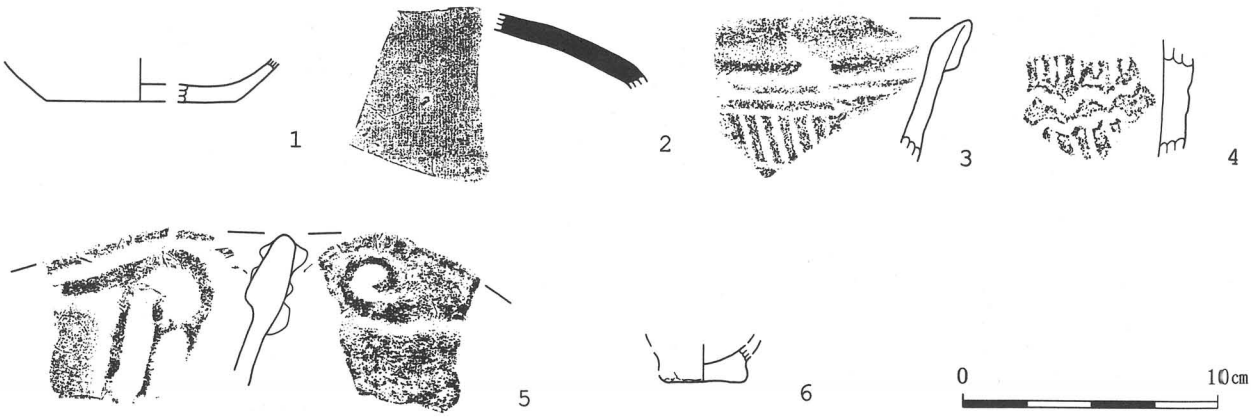


第４４図　第２号溝跡出土土器実測図

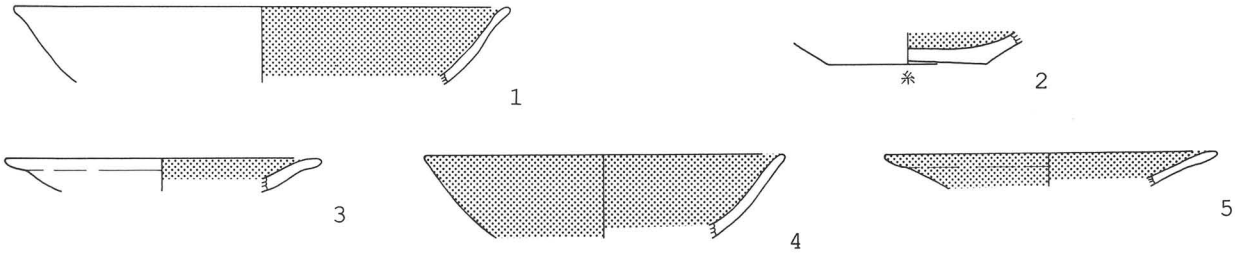
第４５図　第３号溝跡出土土器実測図



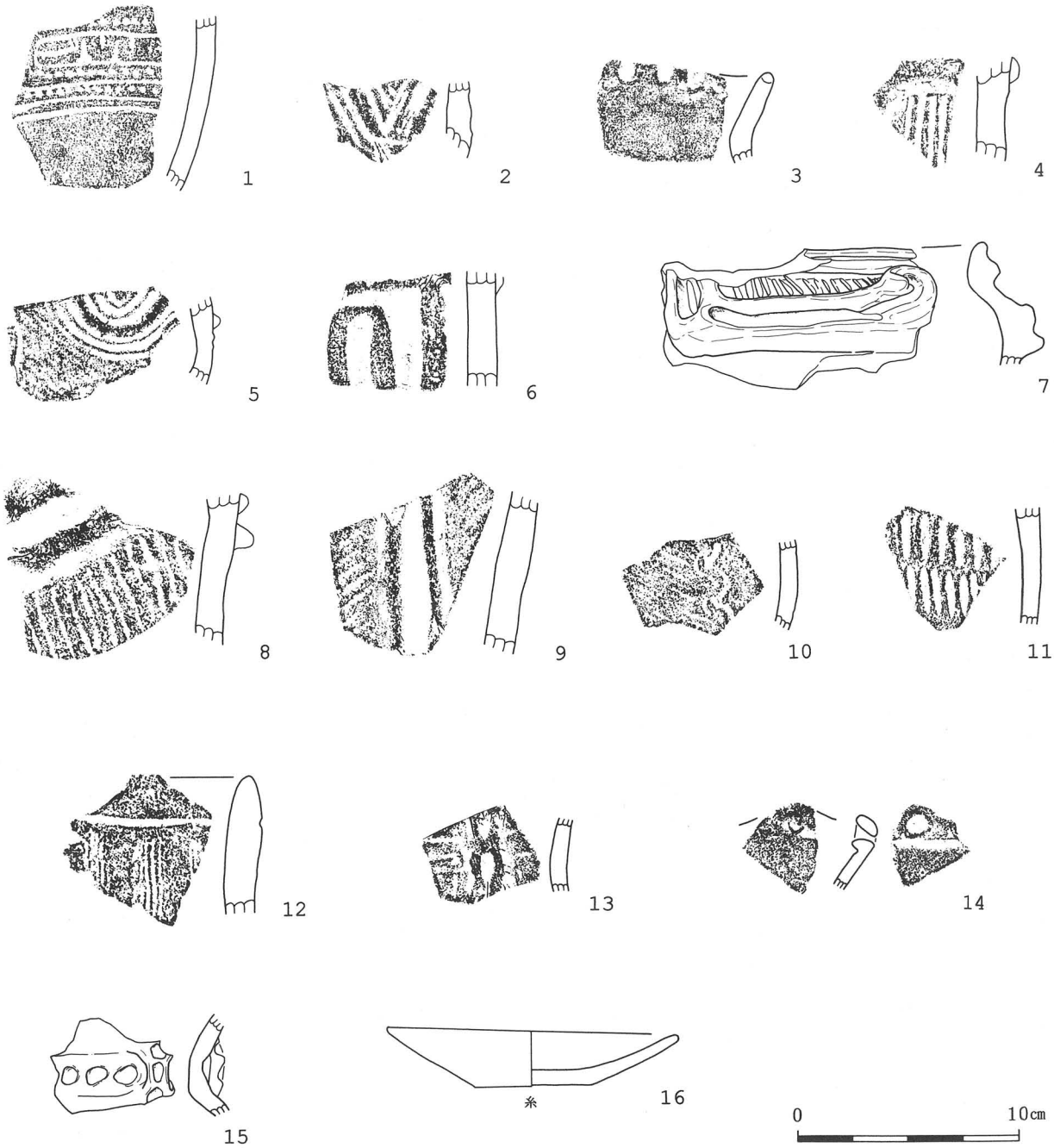
第４６図　第４号溝跡出土土器実測図



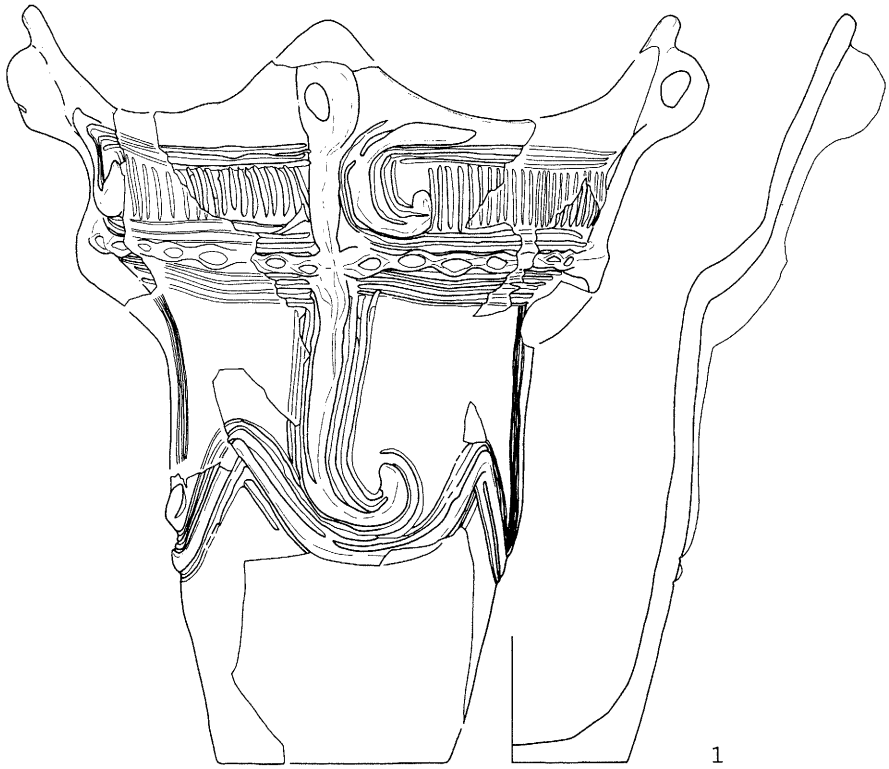
第４７図　第５号溝跡出土土器実測図

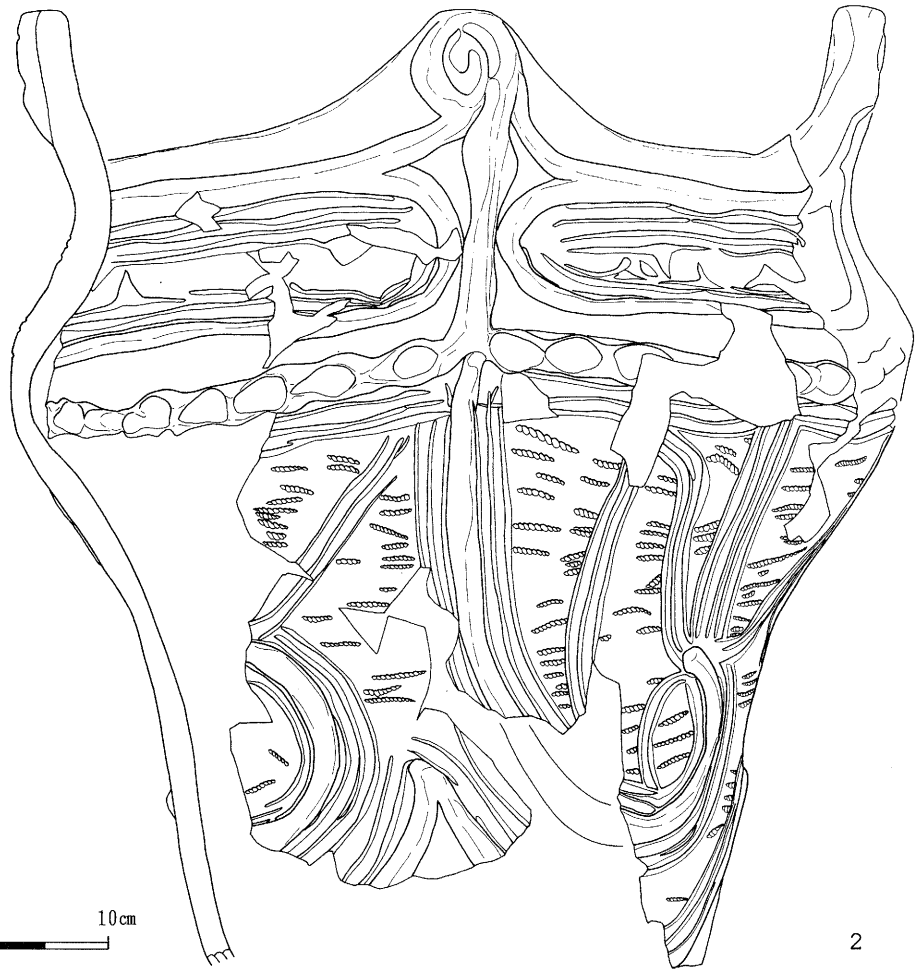


第４８図　第６号溝跡出土土器実測図

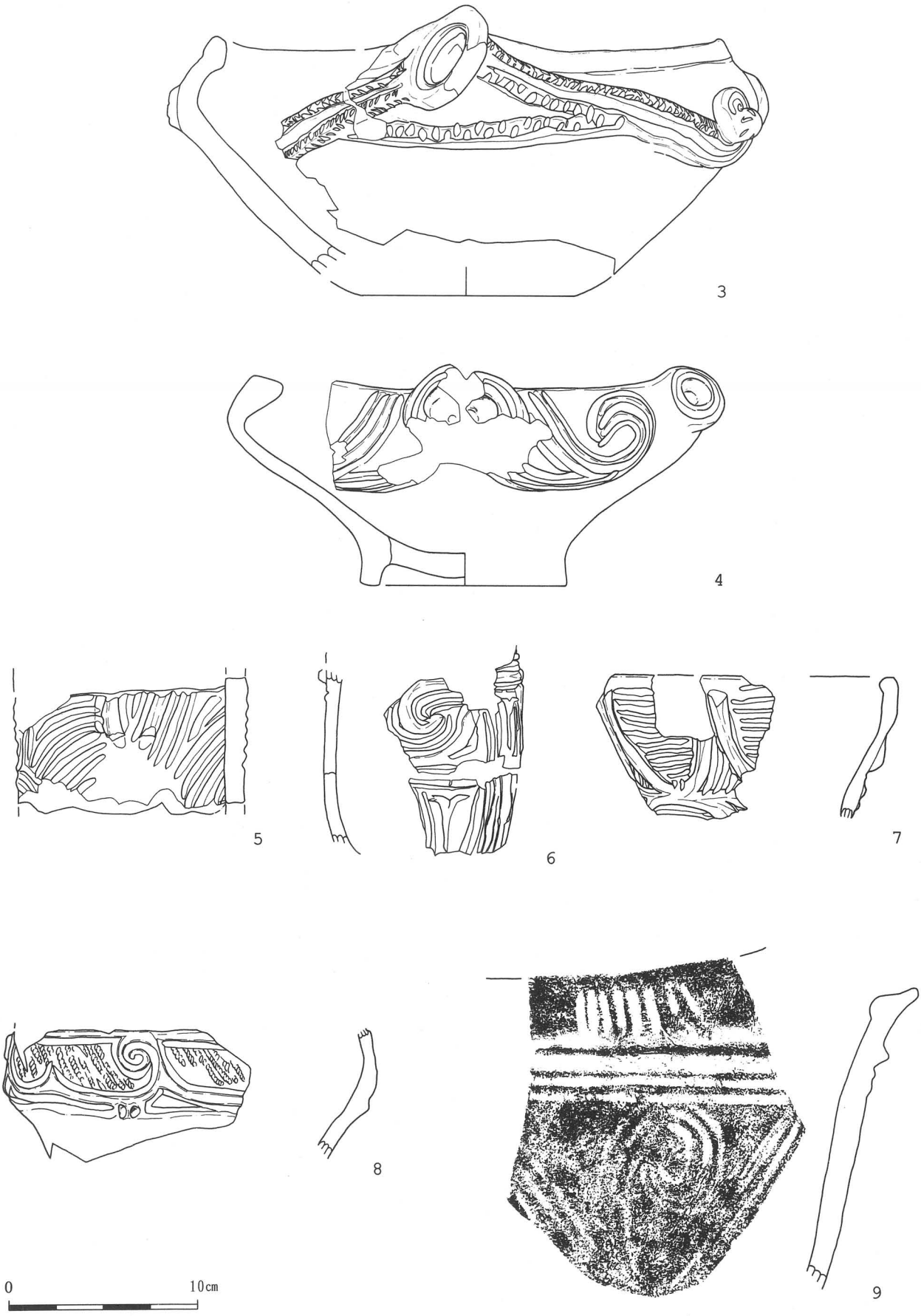


第４９図　第７号溝跡出土土器実測図

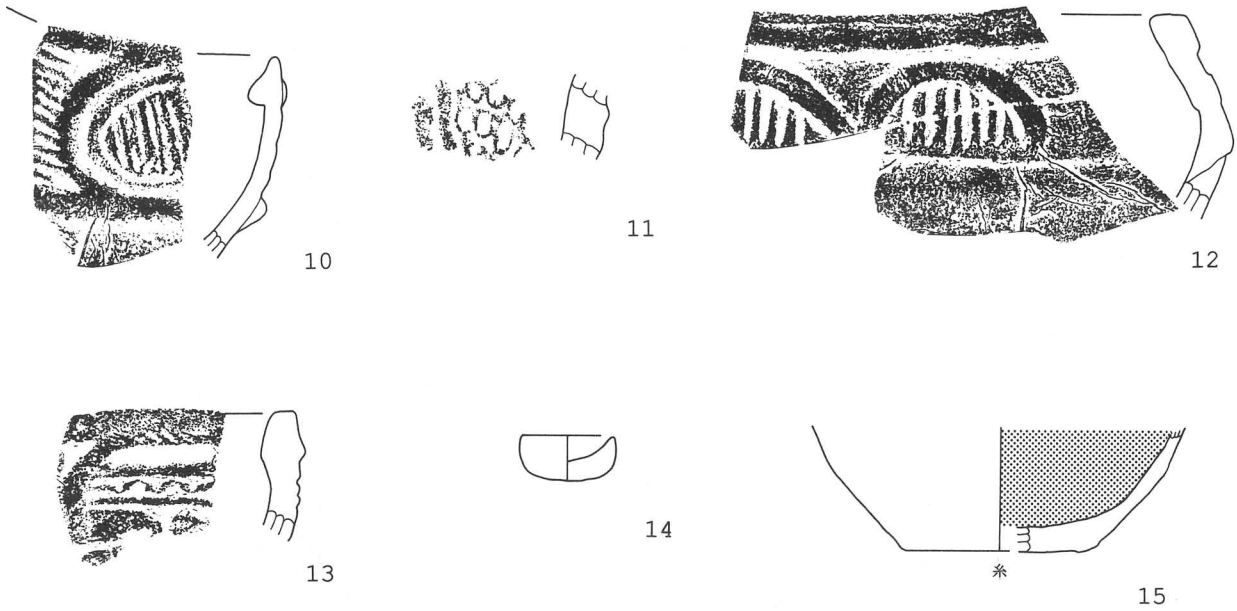




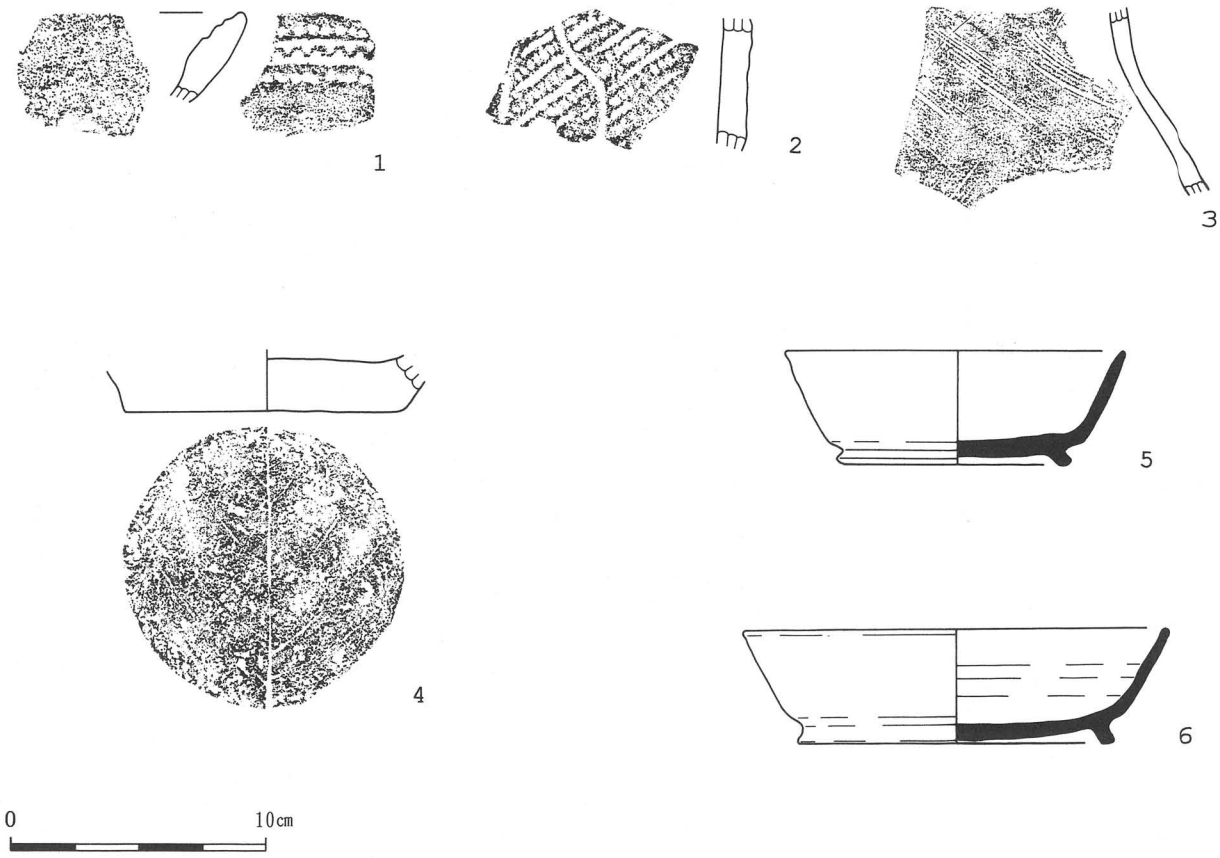
第５０図　第８号溝跡出土土器実測図（１）



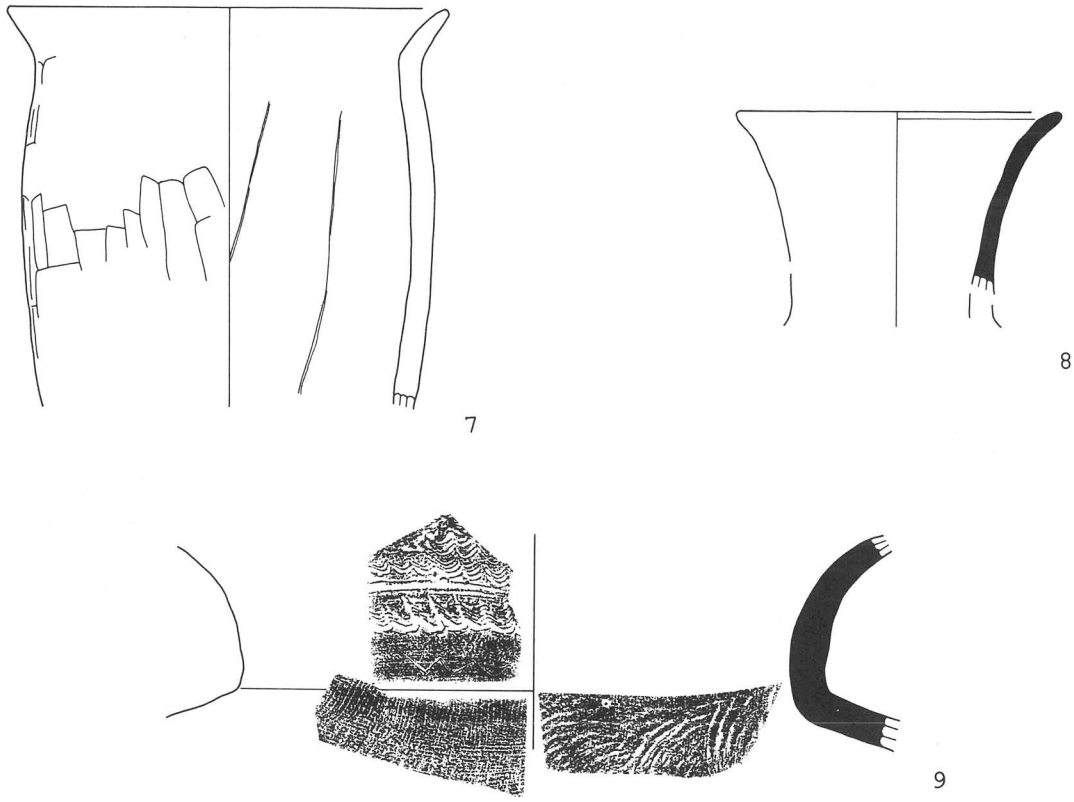
第５０図　第８号溝跡出土土器実測図（２）



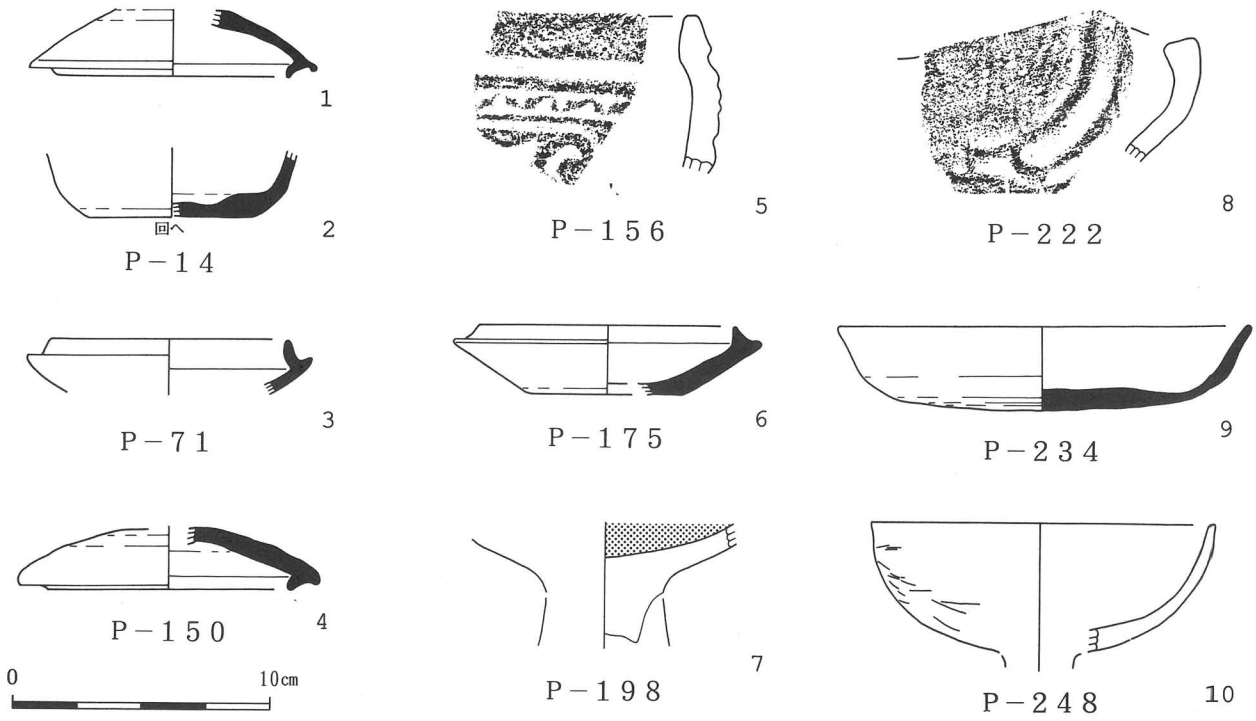
第５０図　第８号溝跡出土土器実測図（３）



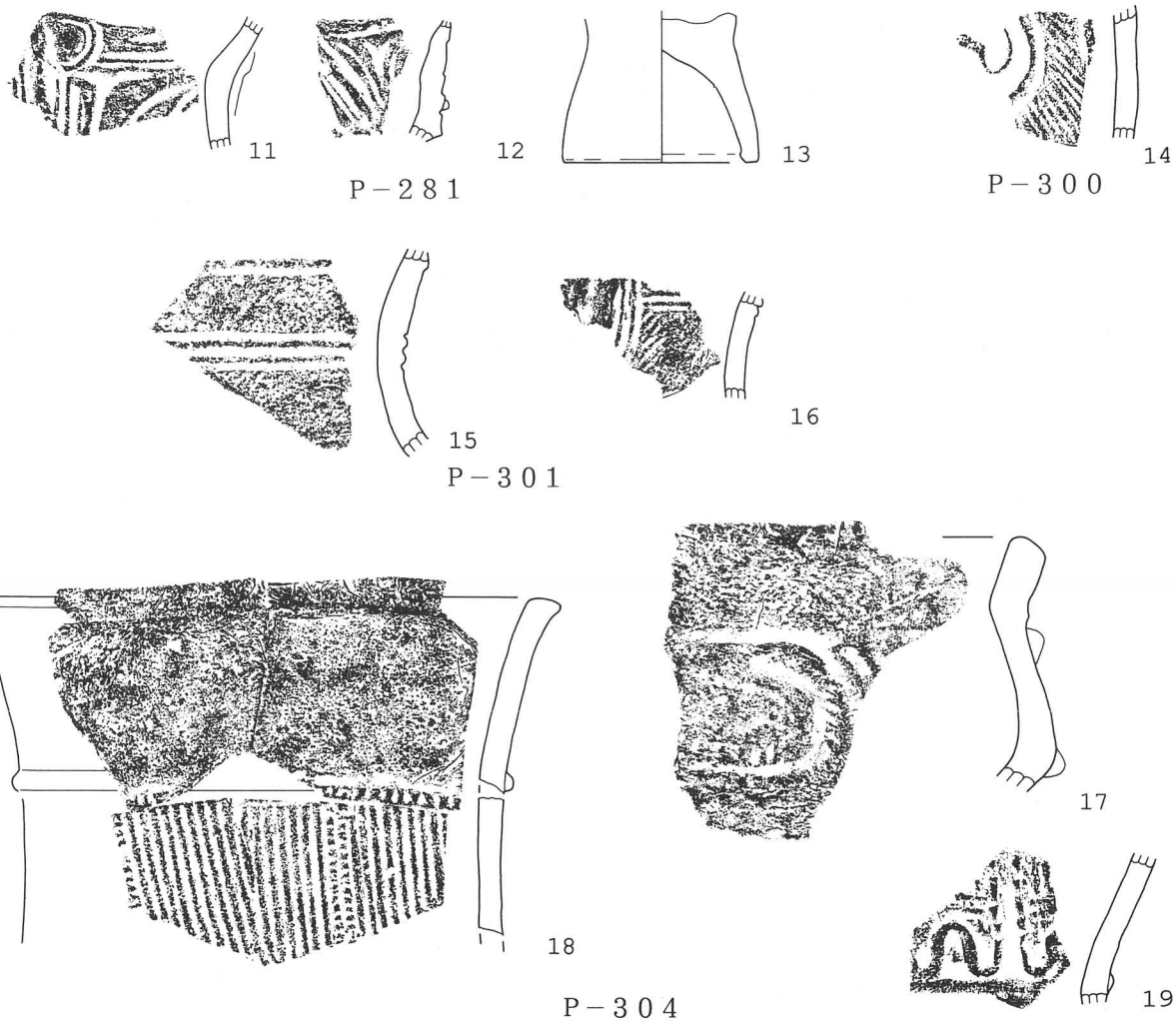
第５１図　第９号溝跡出土土器実測図（１）



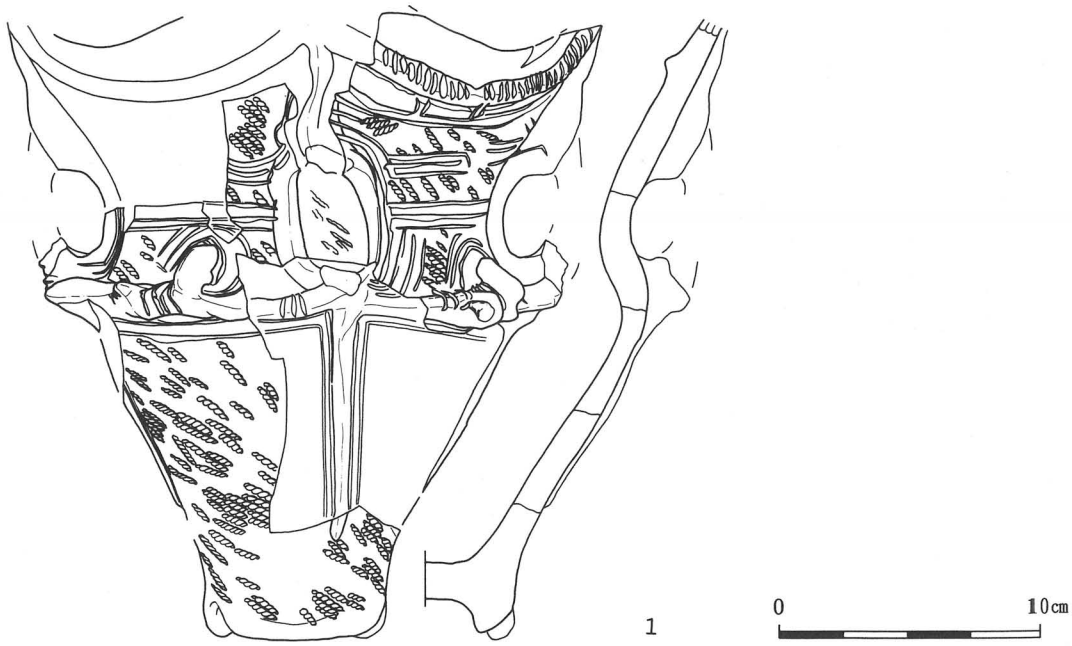
第５１図　第９号溝跡出土土器実測図（２）



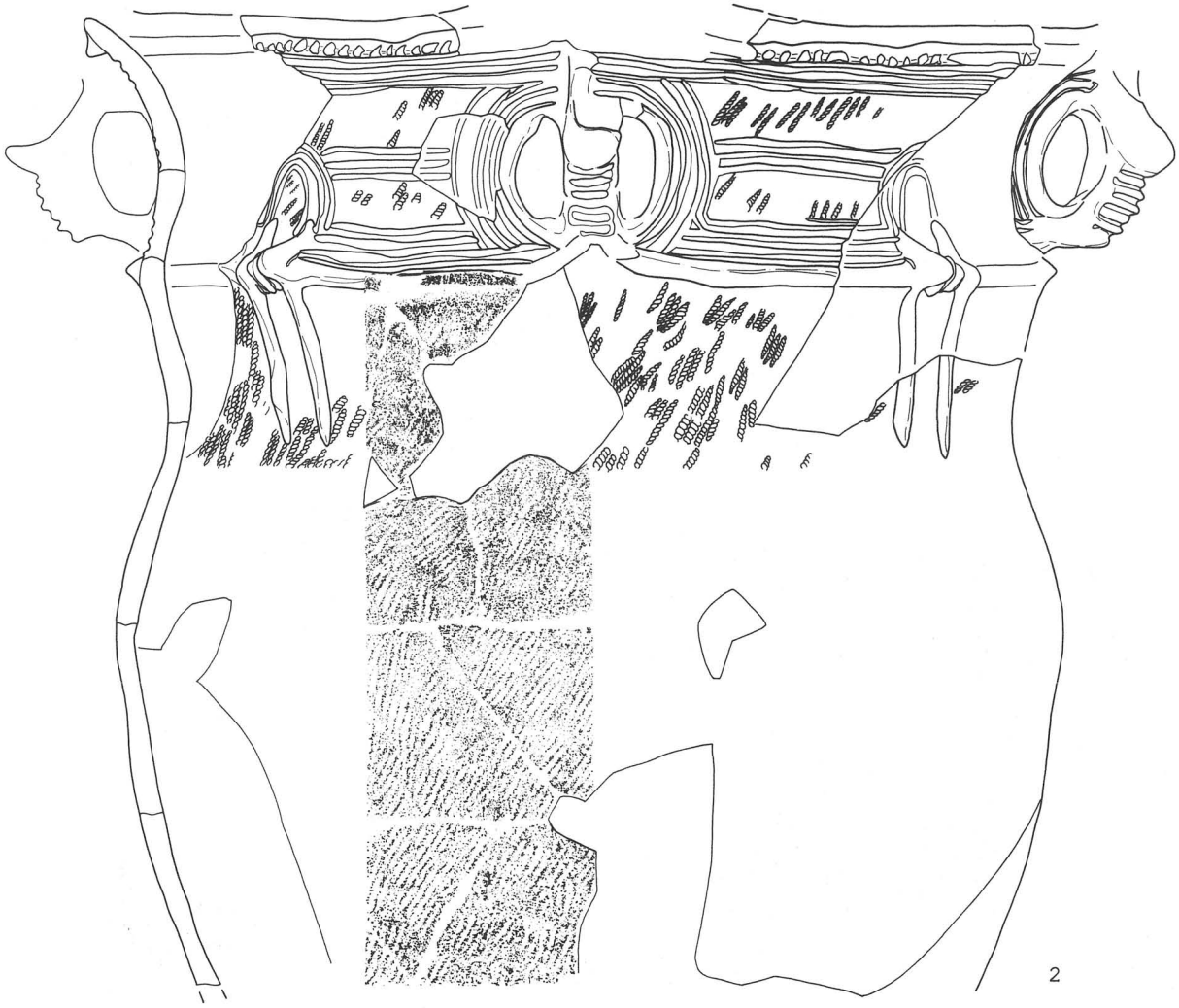
第５２図　ピット出土土器実測図（１）

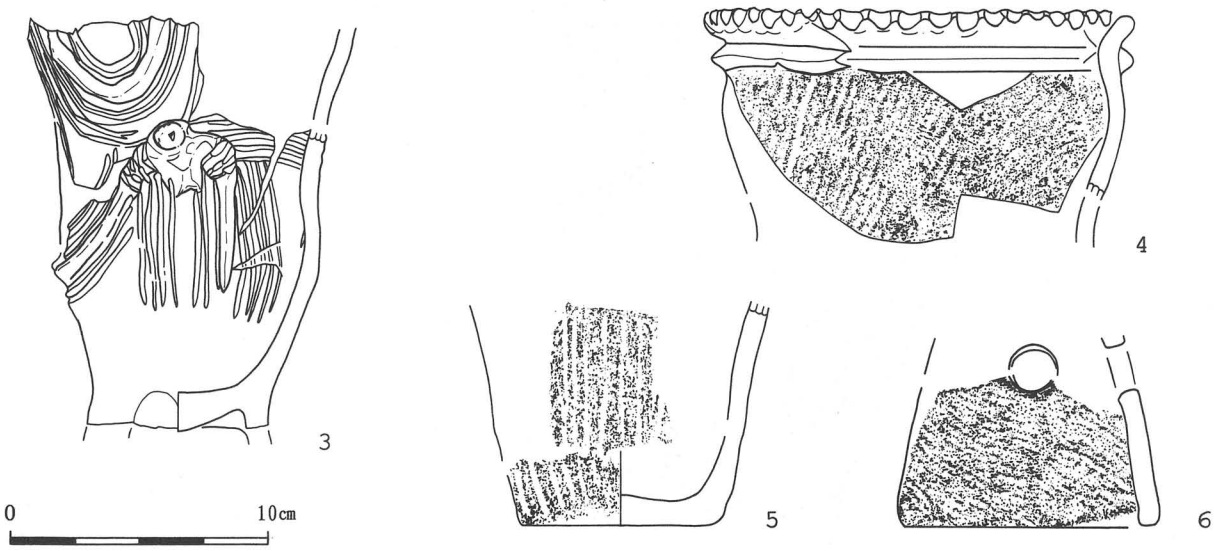


第５２図　ピット出土土器実測図（２）

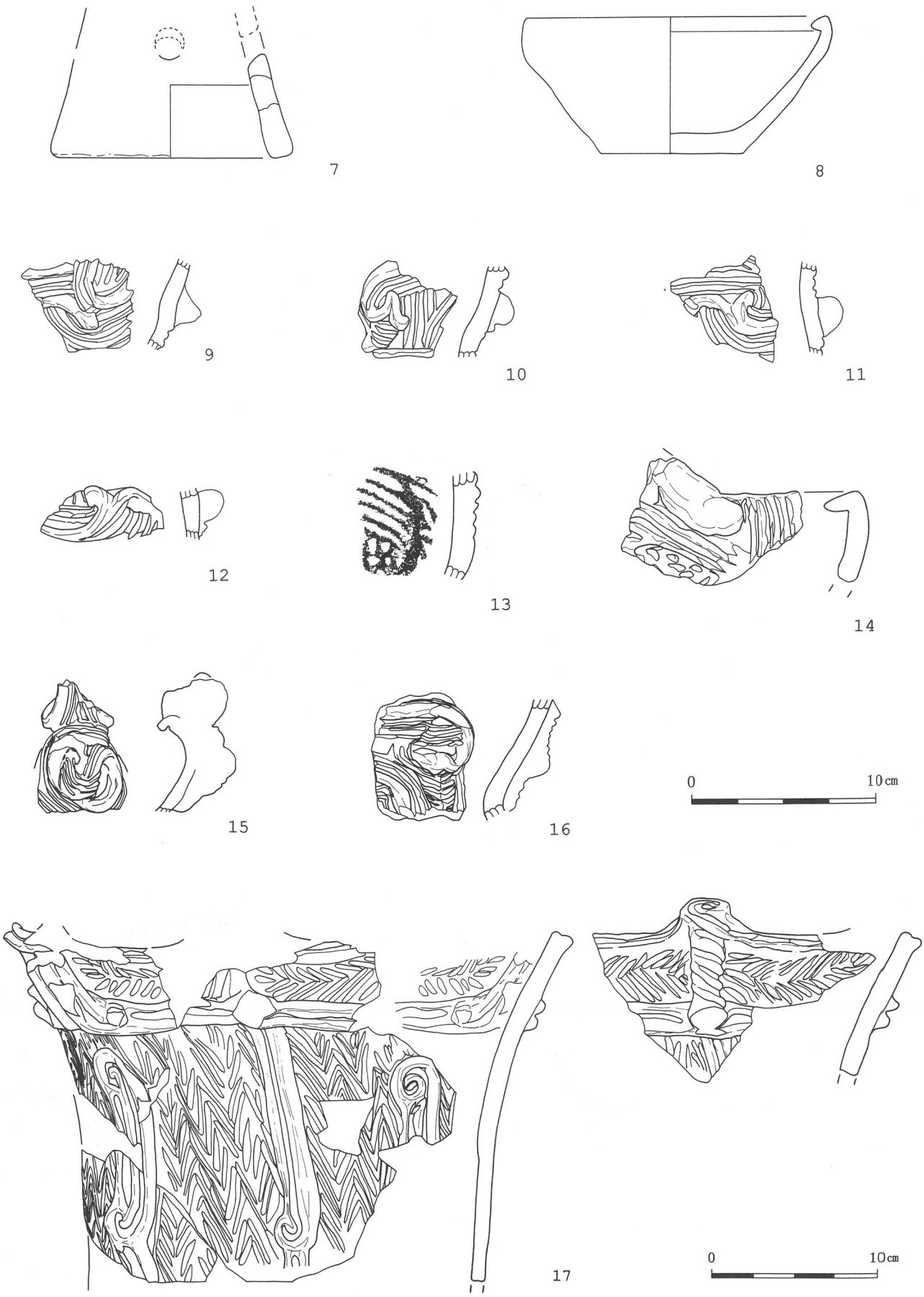


第５３図　遺構外出土土器実測図（１）

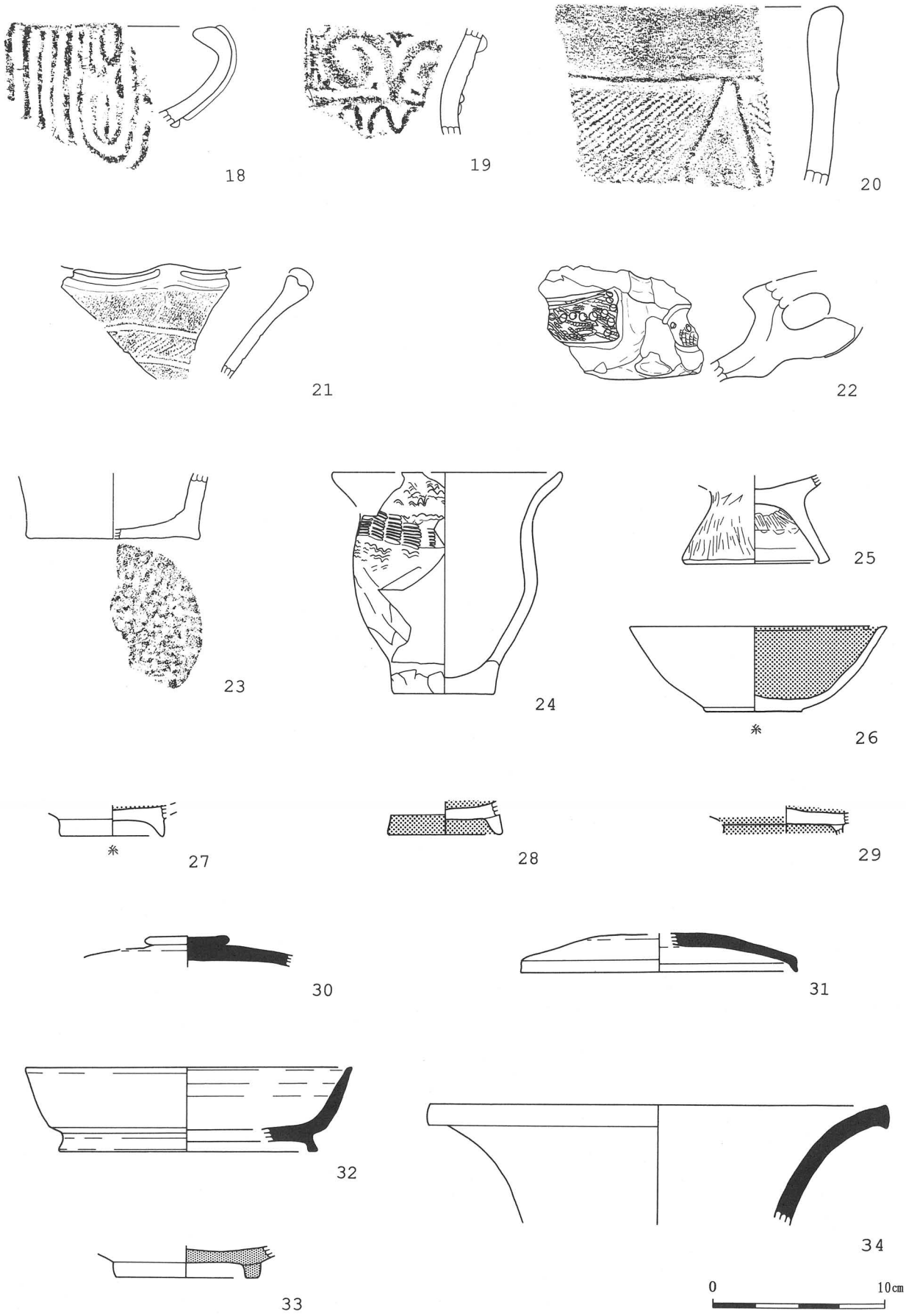




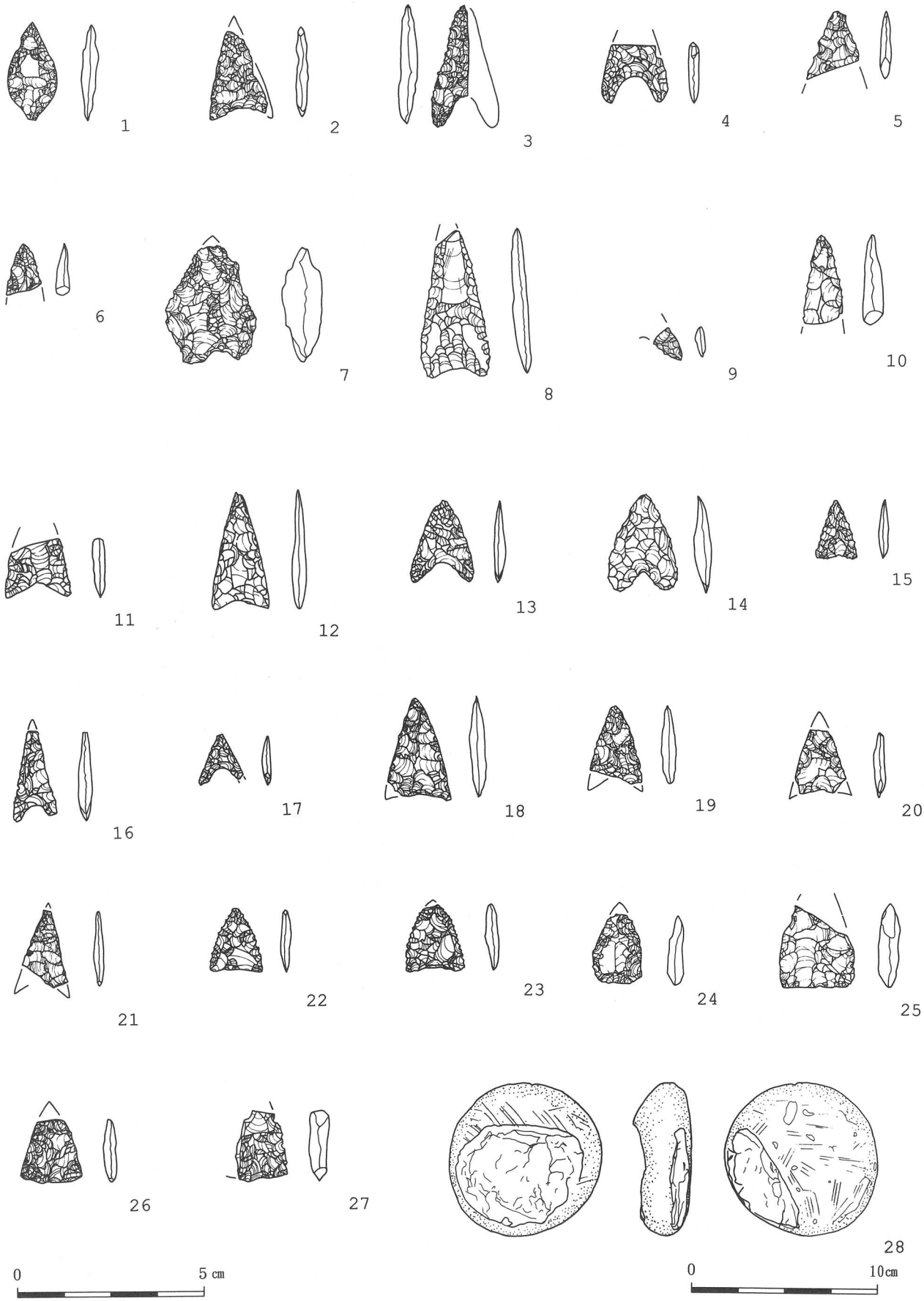
第５３図　遺構外出土土器実測図（２）



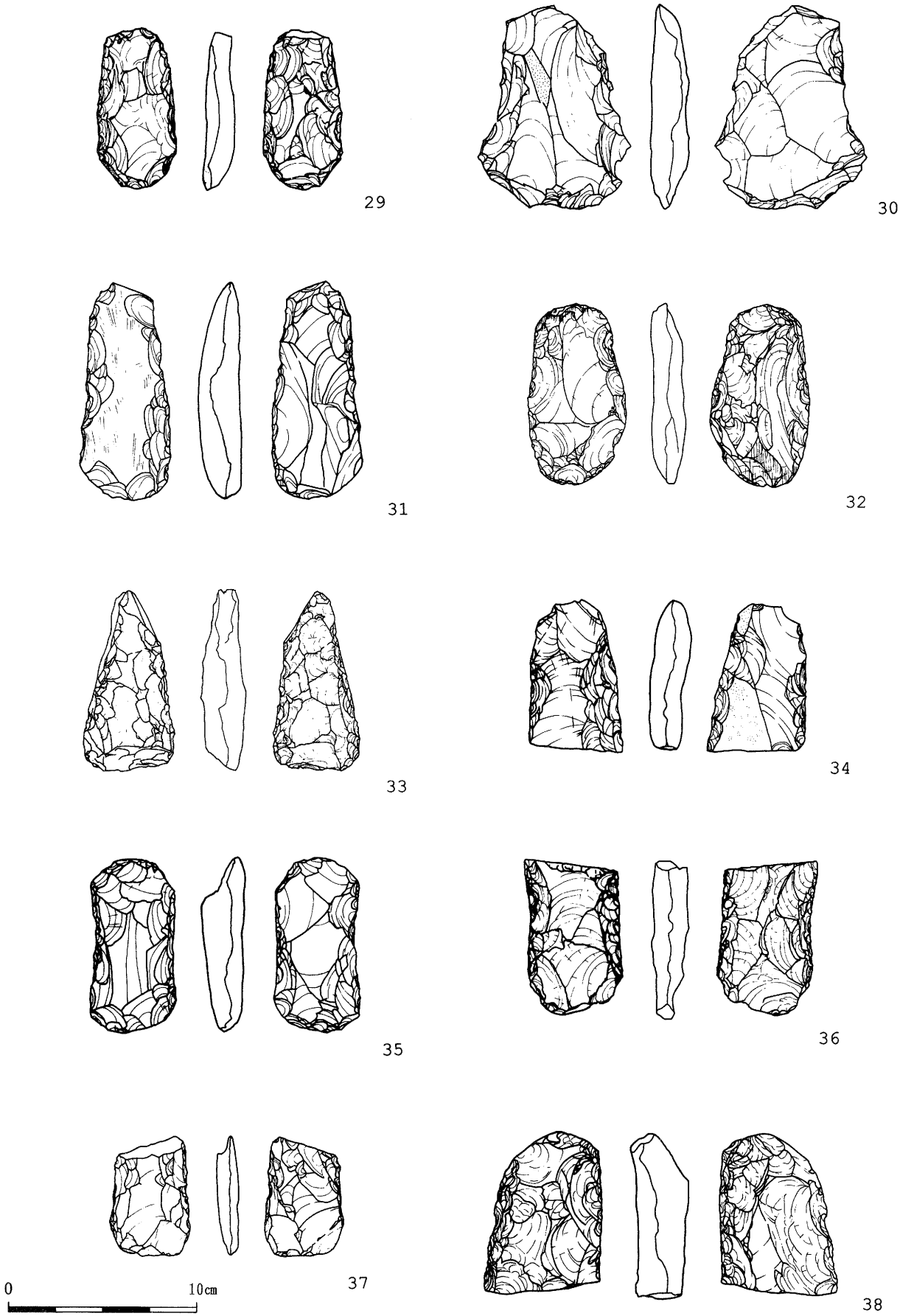
第５３図　遺構外出土土器実測図（３）



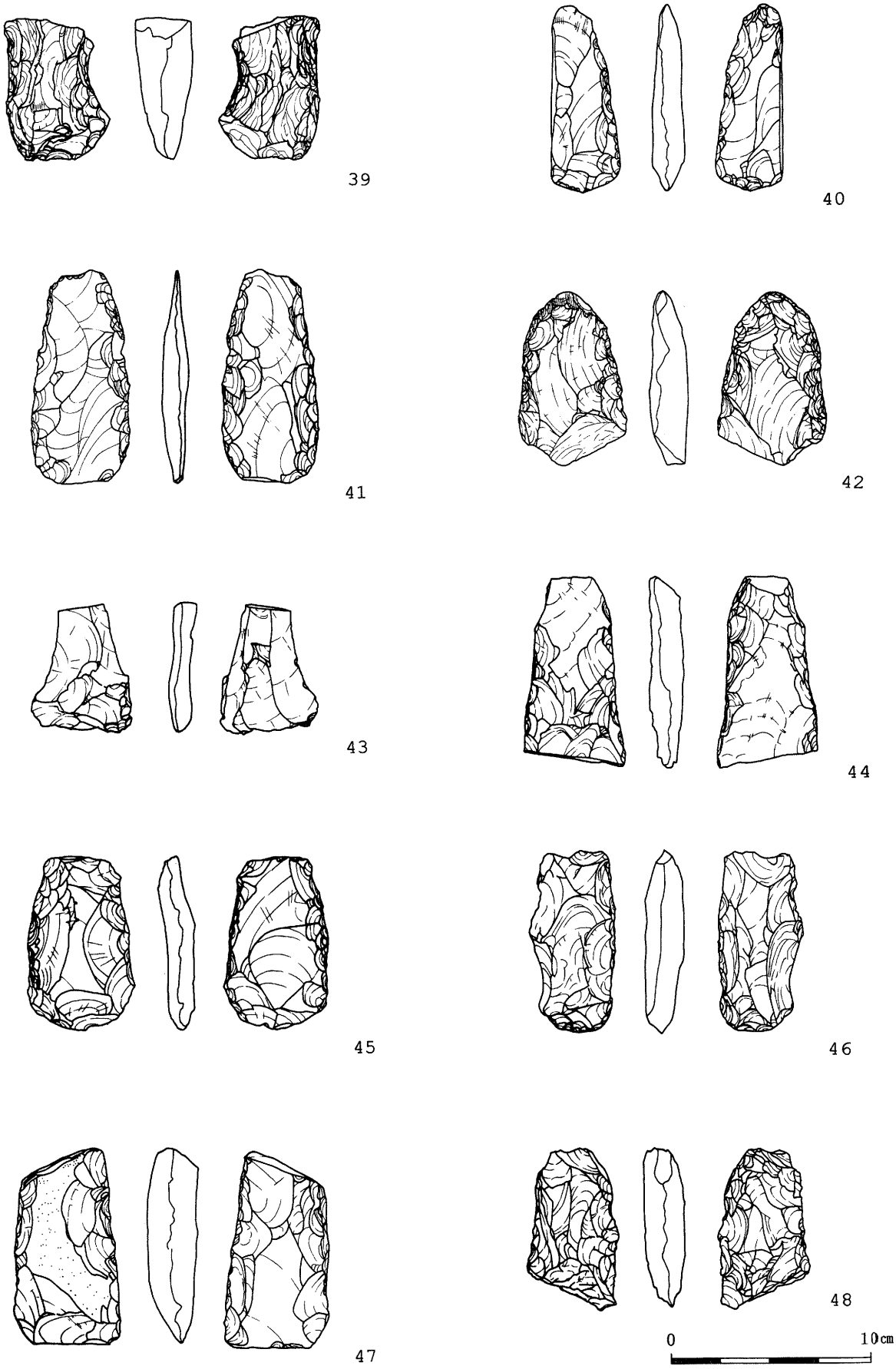
第５３図　遺構外出土土器実測図（４）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
0
5 cm
0
10cm

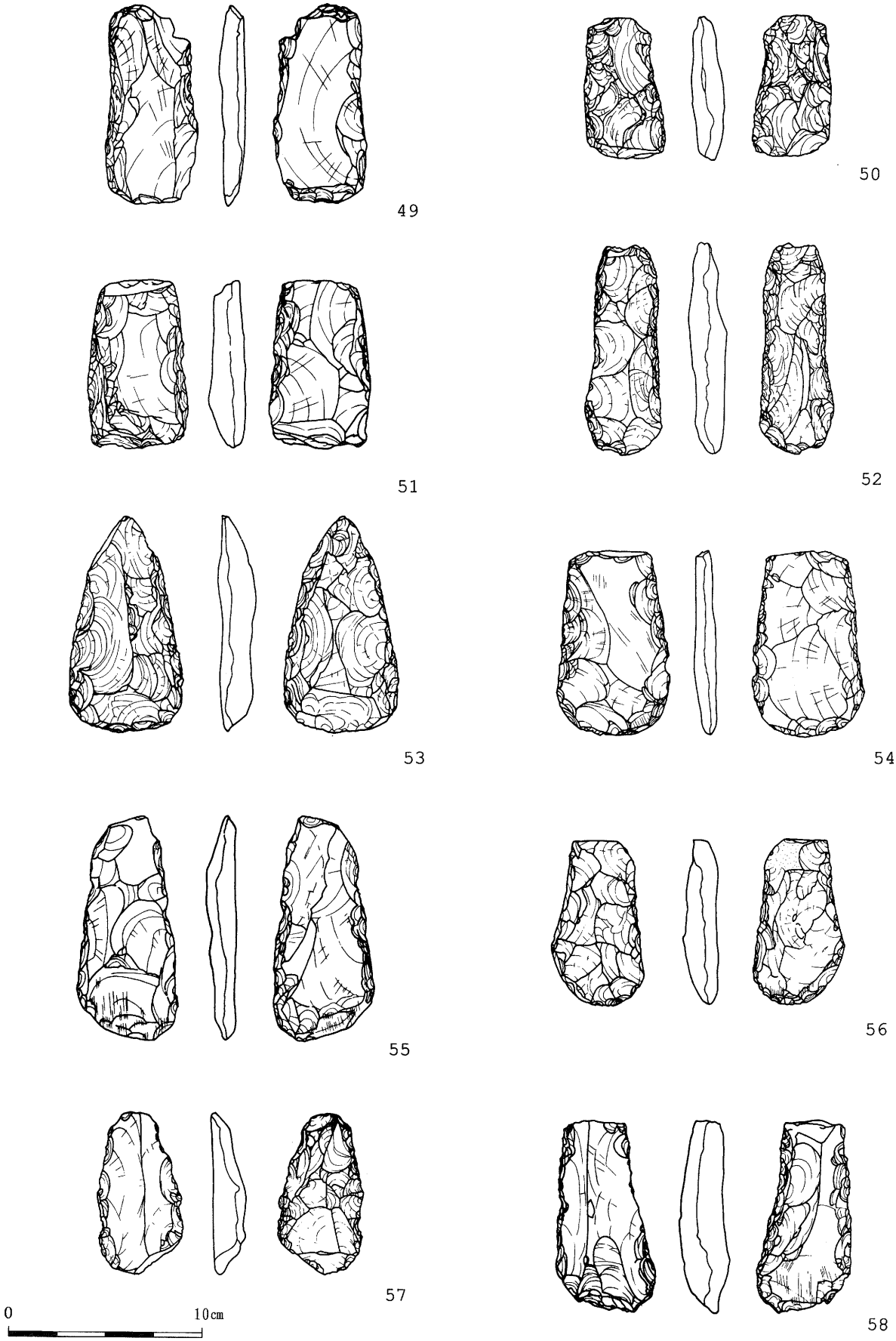
第５４図　石器実測図（１）



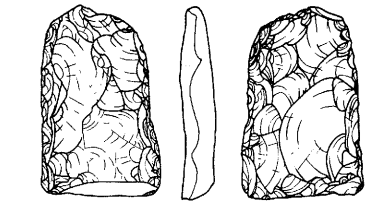
第５４図　石器実測図（２）

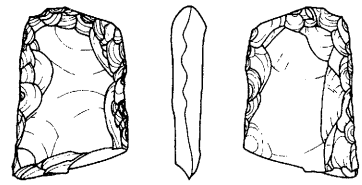


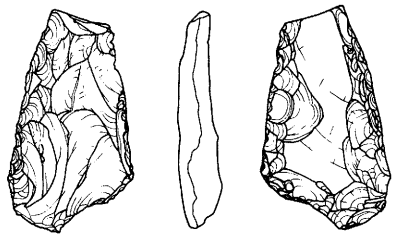
第５４図　石器実測図（３）

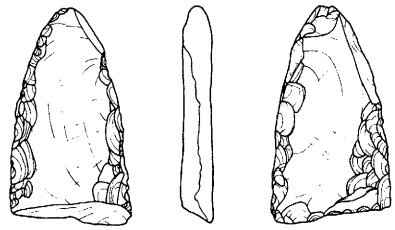


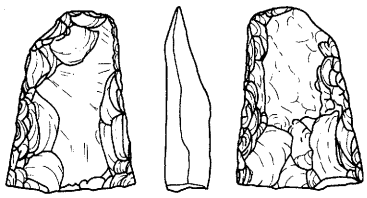
第５４図　石器実測図（４）

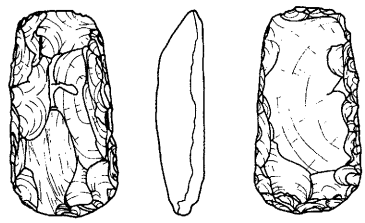

59

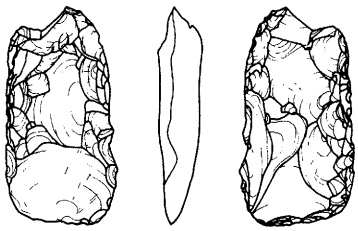

60

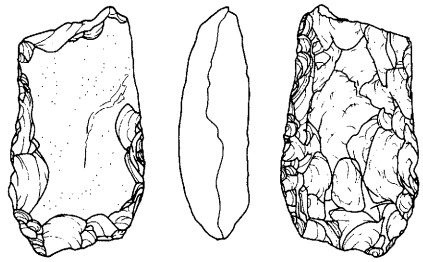

61

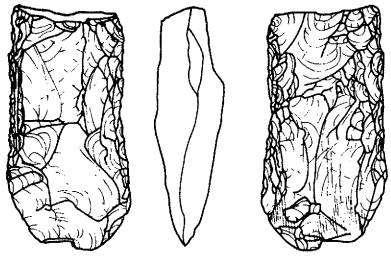

62

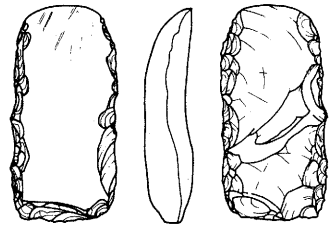

63


64


65

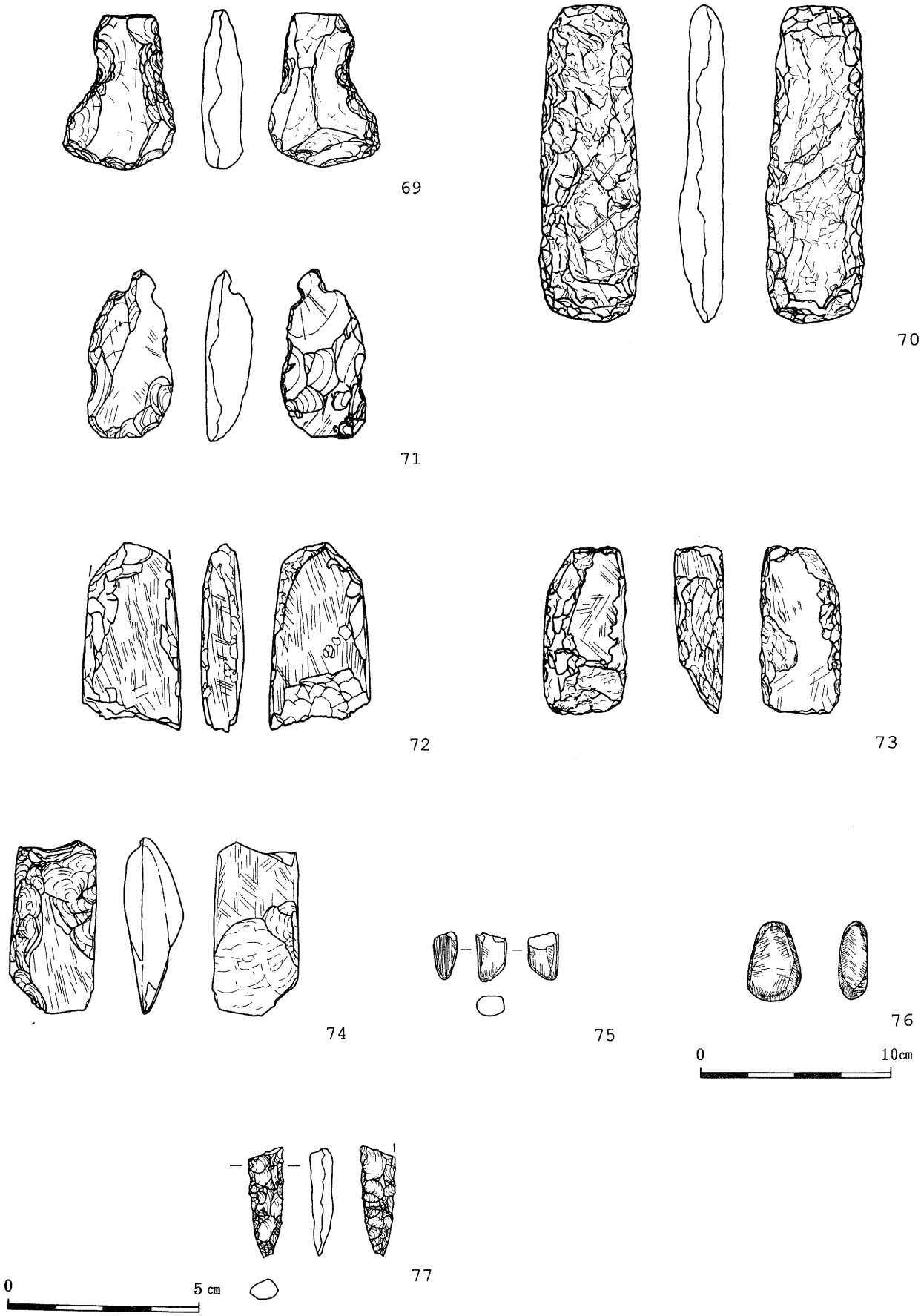

66


67

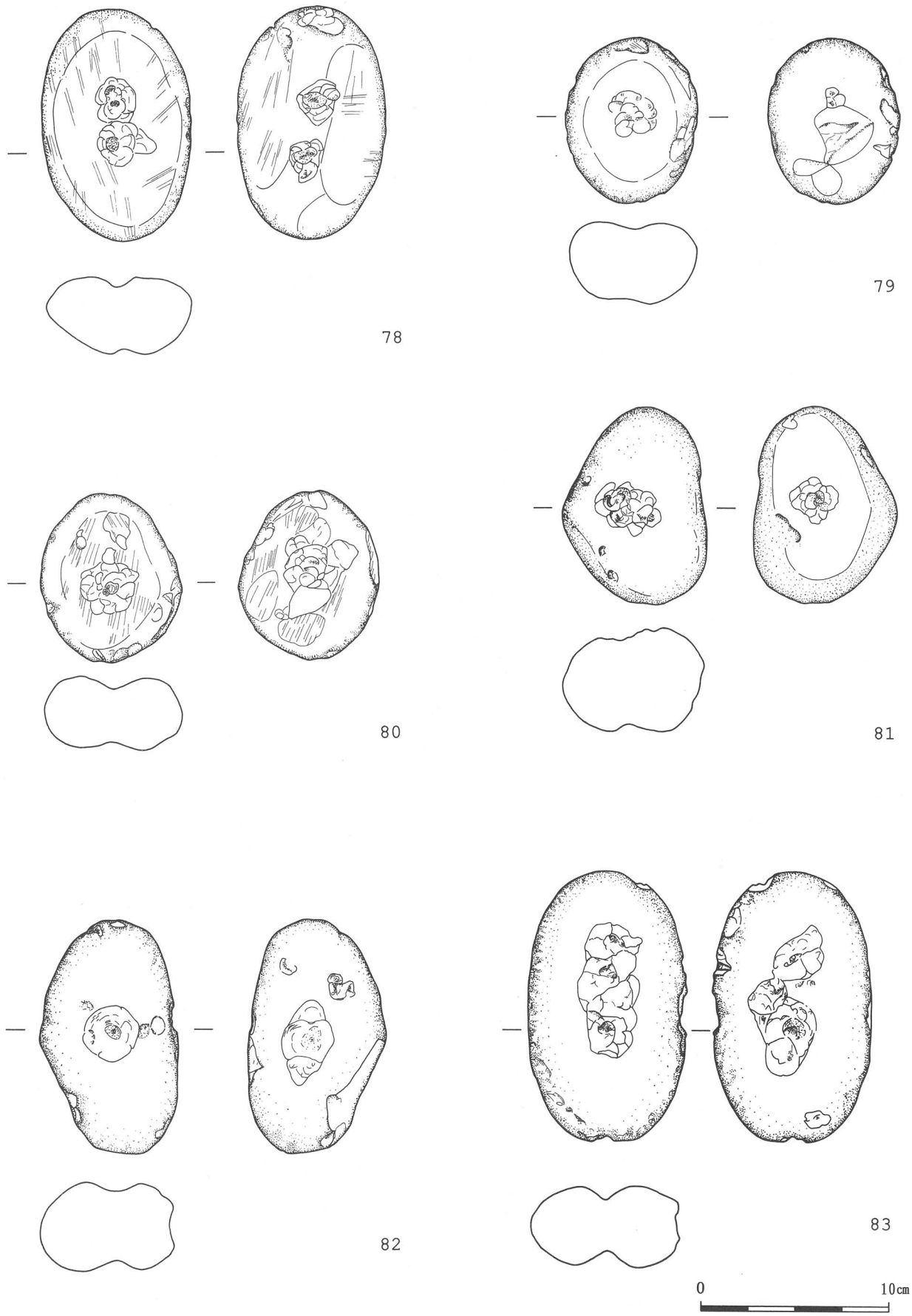

68

0 10 cm

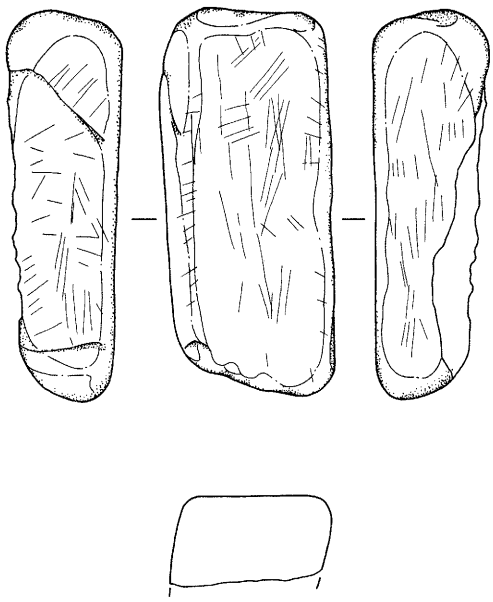
第５４図　石器実測図（５）

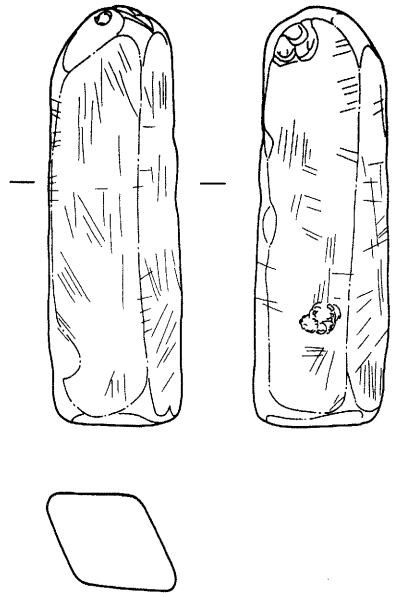


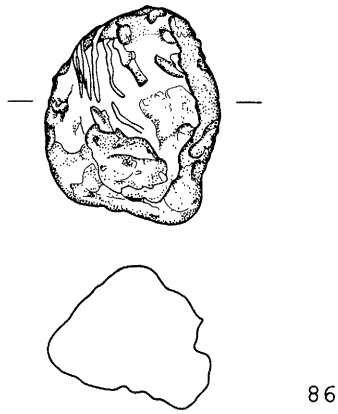
第５４図　石器実測図（６）

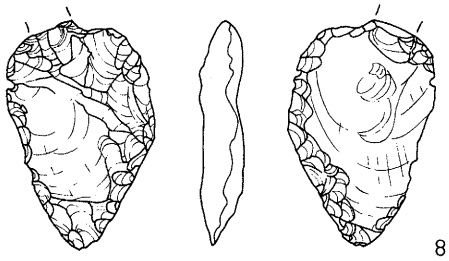


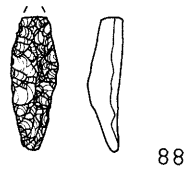
第５４図　石器実測図（７）



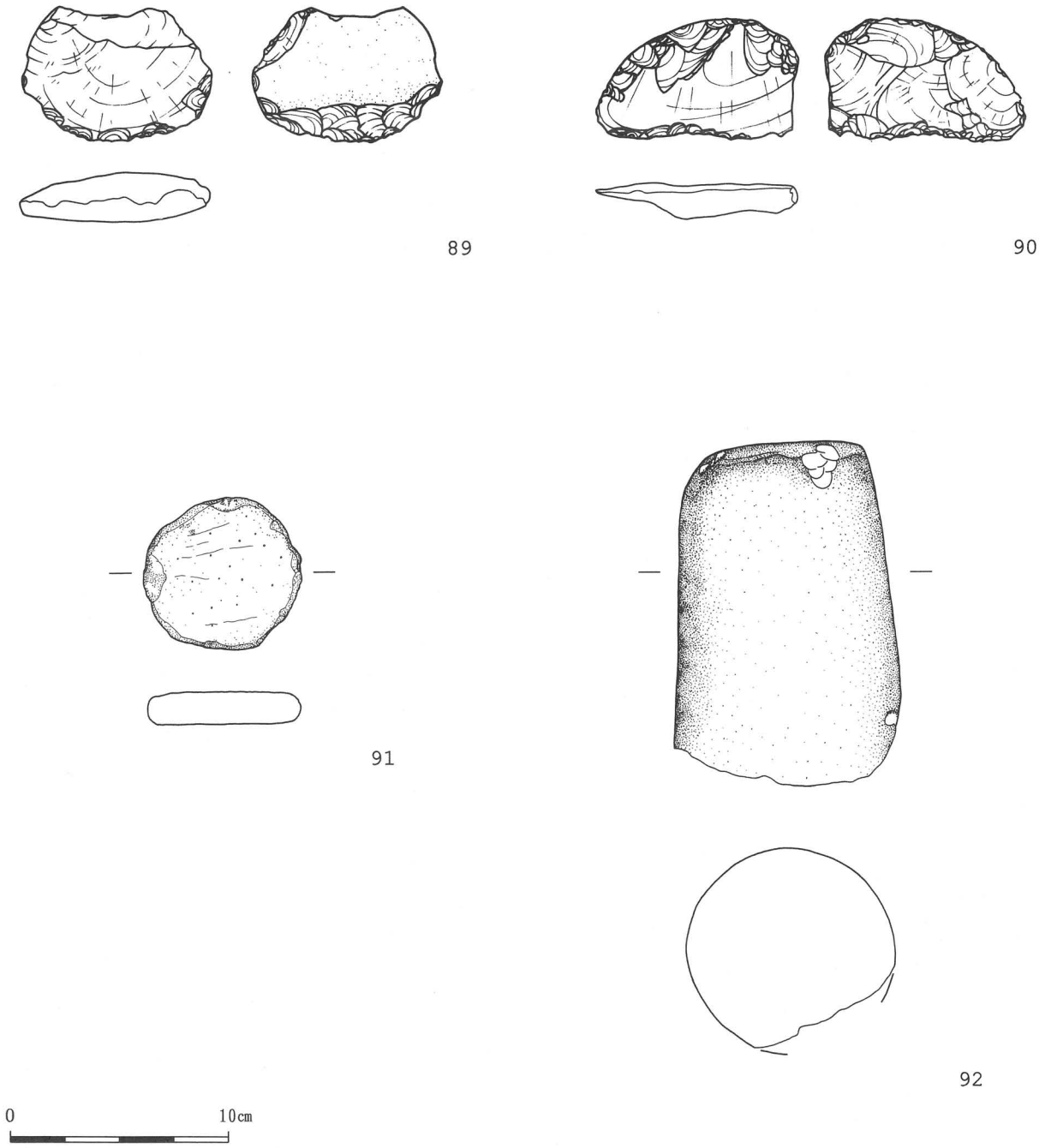




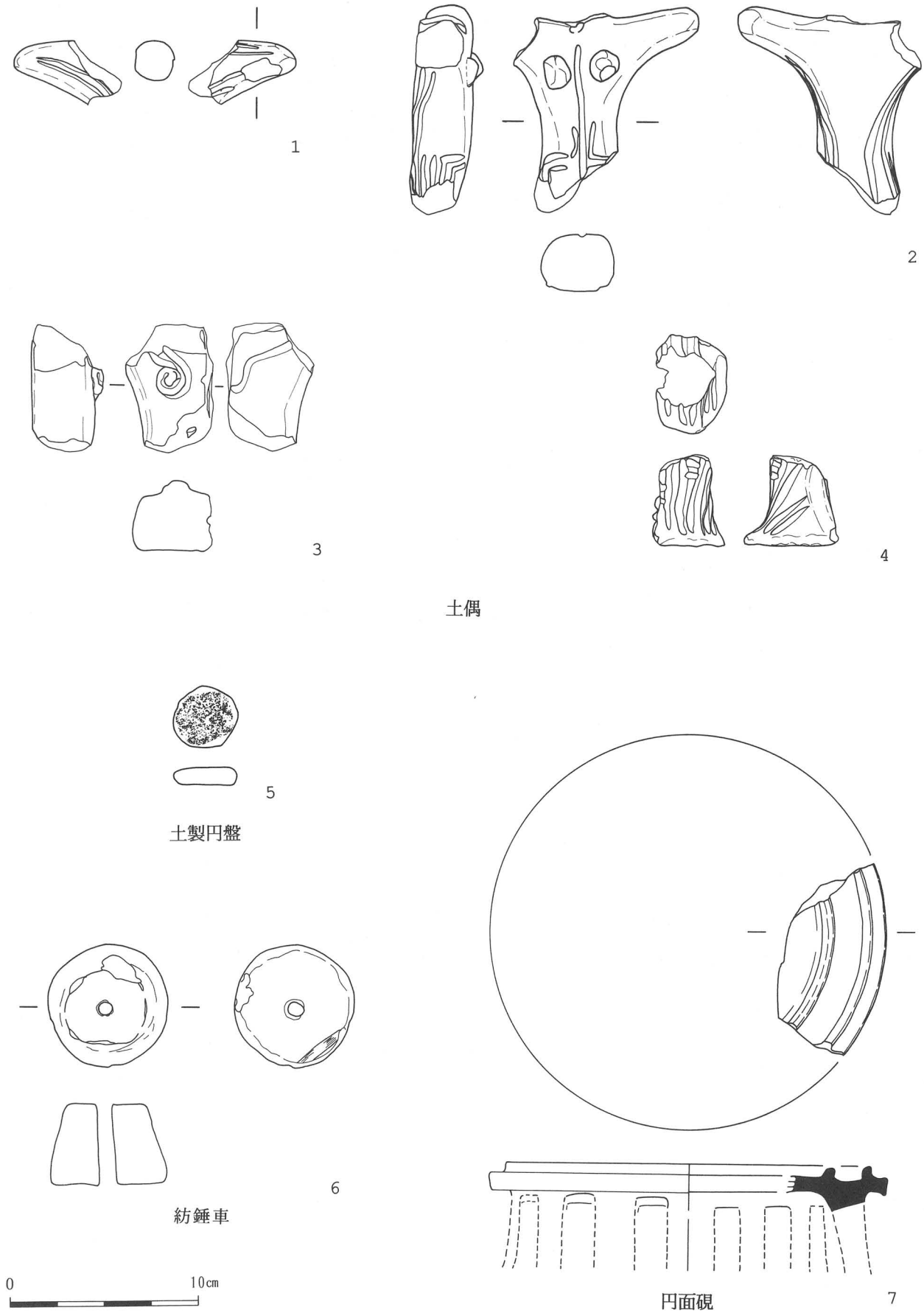




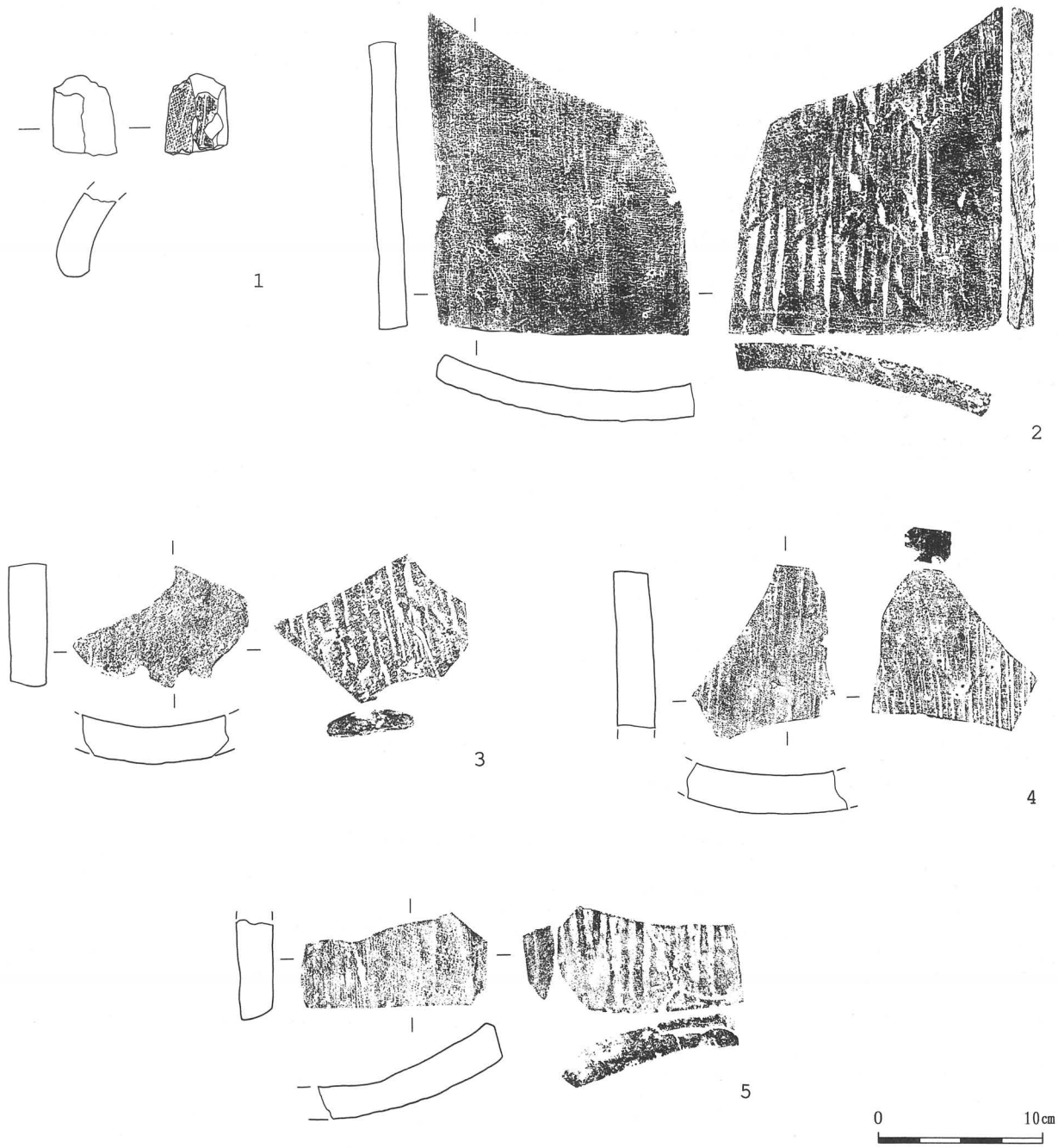
第５４図　石器実測図（８）



第５４図　石器実測図（９）



第５５図　土偶・土製円盤・紡錘車・円面硯実測図



第５６図　瓦実測図

第５７図　寛永通寶拓影図

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-01 28図-1	坏 土師	口径(17.0) 残高 3.8 底径 — 口縁部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)10YR2/1黒	内弯しながら口縁に至る	(外) ヘラケズリ ヨコナデ (内) ヨコナデ 黒色処理
SB-01 28図-2	坏 土師	口径 — 残高 1.8 底径 (5.0) 底部1/2	胎；石英、雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)10YR5/8赤	平底	(外) 底部ヘラナデ ヘラケズリ ナデ (内) ヨコナデ ミガキ
SB-01 28図-3	坏蓋 須恵	鈕径 — 残高 1.7 裾径(10.0) 一部	胎；細砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)5Y7/2灰白 (内)N5/灰	内面に返りを有する ロクロつくり	(外) 回転ヘラケズリ ナデ (内) ナデ
SB-01 28図-4	坏蓋 須恵	鈕径 — 残高 1.5 裾径(16.2) 裾部一部	胎；粗砂粒をわずかに含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)5B5/1青灰	内面に返りを有する ロクロつくり	(外) ナデ (内) ナデ
SB-01 28図-5	坏蓋 須恵	鈕径 — 残高 1.4 裾径(16.0) 裾部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y5/1灰 (内)5Y5/1灰	内面に返りを有する ロクロつくり	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB-01 28図-6	坏蓋 須恵	鈕径 3.6 器高 3.9 裾径 16.9 7/10	胎；礫、粗砂粒極わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5Y6/1灰 (内)7.5Y7/1灰白	抓み部は扁平な擬宝珠状を呈する 口縁部端部を折り曲げる ロクロつくり	(外) 回転ヘラケズリ (内) ナデ
SB-01 28図-7	坏蓋 須恵	鈕径 3.2 器高 3.2 裾径 16.2 2/3	胎；礫、細砂粒極わずかに含む 焼；良好 色；(外)N6/灰 (内)5PB6/1 青灰	抓み部はボタン状を呈する 口縁部端部を折り曲げる ロクロつくり	(外) 回転ヘラケズリ (内) ナデ
SB-01 28図-8	坏蓋 須恵	鈕径 — 残高 2.3 裾径(18.6) 一部	胎；細砂粒極わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/1 褐灰 (内)N5/灰	口縁部端部は稜を有して短く屈曲する ロクロつくり	(外) 回転ヘラケズリ ナデ (内) ナデ
SB-01 28図-9	坏蓋 須恵	鈕径 3.5 残高 2.0 裾径 — 抓み完	胎；細砂粒極わずかに含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)7.5YR5/1 褐灰	抓み部は扁平な擬宝珠状を呈する ロクロつくり	(外) 回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SB-01 28図 -10	坏 須恵	口径 (8.6) 残高 2.6 底径 — 一部	胎；細砂粒極わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/1 褐灰 (内)N6/灰	丸底で蓋受け部分を持ち、受け部から口縁部にかけて立ち上がりを持つ ロクロつくり	(外) ナデ (内) ナデ
SB-01 28図 -11	坏 須恵	口径 — 残高 3.3 底径(11.5) 底部一部	胎；粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)10YR3/2黒褐 (内)10YR5/1褐灰	平底より外傾して立ち上がる ロクロつくり	(外) 底部ヘラ切りの後ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SB-01 28図 -12	坏 須恵	口径 — 残高 2.8 底径 (7.0) 底部~体部一部	胎；細砂粒極わずかに含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N6/灰	平底より外傾して立ち上がる ロクロつくり	(外) 底部ヘラ切りの後ヘラケズリ ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB-01 28図 -13	坏 須恵	口径 16.6 器高 3.6 底径 13.2 底部~坏部3/5	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5GY5/1 オリーブ灰 (内)5G5/1緑灰	高台付の底部から体部は外傾して立ち上がり口縁部に至る 高台底面にくぼみがある ロクロつくり	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ
SB-01 28図 -14	坏 須恵	口径(13.6) 器高 3.4 底径(10.6) 口縁1/4~酷	胎；石英、細砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)5YR5/2 灰褐	高台付の底部から体部は外傾して立ち上がり口縁部に至る ロクロつくり	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB-01 28図 -15	坏 須恵	口径 — 残高 2.0 底径 — 底部	胎；細砂粒含む 焼；やや酸化 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR6/1褐灰	高台を付す 底部が高台底面よりとび出す ロクロつくり	(外) 回転ヘラケズリ (内) ナデ
SB-01 28図 -16	Ⅲ 須恵	口径(16.4) 器高 2.3 底径(14.4) 一部	胎；細砂粒極わずかに含む 焼；良好 色；(外)5Y5/1灰 (内)10Y5/1 灰	平底より外傾して立ち上がり口縁部に至る 口唇部面取りが施される ロクロつくり	(外) 体部下位より底部回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ

第１６表　土器観察表（１）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-01 28図 -17	平瓶 須恵	口径 — 残高 8.2 底径 — 胴部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N6/灰 (内)N7/灰白	胴部は肩部で屈曲する ロクロつくり	(外) 刷毛ナデ (内) ナデ
SB-01 28図 -18	横瓶 須恵	口径 — 残高 9.0 底径 — 胴上部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)5B4/1暗青灰	胴部は内弯する	(外) タタキ目 (内) ナデ
SB-02 29図-1	坏 土師	口径(10.4) 器高 3.1 底径 — 一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 N3/暗灰 (内)N3/暗灰	体部に丸みを持つ	(外) ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SB-02 29図-2	坏 土師	口径(10.6) 残高 3.1 底径 — 一部	胎；礫、粗砂粒を含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)N3/暗灰	体部に丸みを持つ	(外) ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SB-02 29図-3	坏 土師	口径(13.8) 残高 3.8 底径 — 1/4	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)N2/黒	内弯しながら開き、口縁部に至る	(外) ヘラケズリ　口縁部ヨコナデ (内) ヘラケズリの後ヘラミガキ 黒色処理
SB-02 29図-4	坏 土師	口径(13.6) 残高 3.2 底径 — 一部	胎；粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)N3/暗灰	体部に丸みを持つ	(外) ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SB-02 29図-5	高坏 土師	口径(17.4) 残高 4.5 裾径 — 一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)N3/暗灰	大きく開く坏部	(外) (内) ミガキ 黒色処理
SB-02 29図-6	高坏 土師	口径 — 残高 5.0 裾径(11.2) 脚部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	裾部に向かってゆるやかに開く	(外) タテのヘラケズリの後ヨコミガキ (内) ヘラナデ　ヘラケズリ
SB-02 29図-7	高坏 土師	口径 — 残高 6.0 裾径 — 脚部1/2	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4にぶい橙 N4/灰	裾部に向かって開く脚部	(外) ケズリ　ミガキ (内) ケズリ
SB-02 29図-8	坏 須恵	口径(10.2) 残高 2.3 底径 — 一部	胎；微砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)7.5Y5/1灰	蓋受け部分を有し、受け部から口縁部にかけて立ち上がりを持つ	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB-02 29図-9	甕 土師	口径(22.6) 残高 7.0 底径 — 一部	胎；雲母、粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)10YR5/4にぶい黄褐 (内)7.5Y6/6橙	張りのない胴部より外反して口縁部に至る	(外) 胴部ヘラケズリ (内) ナデ
SB-02 29図 -10	甕 土師	口径(16.0) 残高 4.3 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)7.5YR8/4 浅黄橙	口縁部は外反する	(外) ヘラナデ (内) ヨコナデ
SB-02 29図 -11	甕 土師	口径(14.0) 残高 5.4 底径 — 口縁部1/4	胎；石英、雲母、礫含む 焼；良好 色；(外)2.5YR5/6 明赤褐 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	粘土帯積み上げ 口縁部は外傾する	(外) ヨコナデ (内) ヘラケズリ
SB-02 29図 -12	甕 土師	口径(18.6) 残高 7.5 底径 — 一部	胎；礫わずかに含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR6/6 橙	張りのある胴部より外反して口縁部に至る	(外) ヘラミガキ (内) 口縁部ヘラミガキ　胴部木口状工具によるナデ
SB-03 30図-1	坏 土師	口径(12.8) 器高 4.2 底径 — 1/2	胎；雲母、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)10YR1.7/1黒	丸底から体部は内弯して立ち上がり口縁に至る	(外) 口縁部ヨコナデ　ヘラケズリ　ナデ (内) ヘラミガキ　ナデ 黒色処理
SB-03 30図-2	高坏 土師	口径 16.0 器高 11.5 裾径(10.8) 7/10	胎；石英、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)2.5Y2/1黒	坏部は接合部から丸みを持って立ち上がり口縁部に至る 脚部は接合部から緩やかに外反して開く裾部に至る	(外) 口縁部ナデ　坏部ヘラケズリ　ナデ　脚部タテのヘラケズリ (内) 脚部ヘラケズリ　坏部ミガキ　黒色処理

第１７表　土器観察表（２）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-03 30図-3	高坏 土師	口径(11.4) 残高 3.4 裾径 — 坏部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR7/4にぶい橙 4/1褐灰	浅く丸みのある坏部 脚部を坏部にはめこみ接合	(外) ヘラケズリ (内) ヘラミガキ
SB-03 30図-4	坏蓋 須恵	鍔径 — 残高 1.5 裾径(11.0) 一部	胎；細砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)2.5Y6/1黄灰 (内)2.5Y6/1黄灰	内面に返りを持つ	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB-03 30図-5	坏蓋 須恵	鍔径 — 残高 1.8 裾径(14.2) 一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y4/1灰 2.5Y5/4黄褐 (内)5Y4/1灰 2.5Y5/4黄褐	口縁端部で折れる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB-03 30図-6	甕 土師	口径 20.0 残高 9.0 底径 — 口縁部～胴部	胎；礫、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	張りのある胴部より外反して 口縁部に至る	(外) ヘラケズリの後ヘラミガキ (内) 口縁部ヘラミガキ 胴部ヘラケズリ
SB-03 30図-7	甕 土師	口径(14.2) 残高 8.0 底径 — 口縁部～胴部	胎；礫、粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3にぶい褐 5/3 にぶい褐 (内)7.5YR6/3にぶい褐 5/3 にぶい褐	小型の甕 丸みのある胴部より外反して 口縁部に至る	(外) ヘラケズリの後ヘラミガキ (内) 口縁部ヘラミガキ 胴部ヘラケズリ
SB-03 30図-8	甕 土師	口径(18.2) 残高 10.0 底径 — 口縁部～胴部	胎；粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	張りのある胴部より外反して 口縁部に至る	(外) ヘラケズリの後ナデ (内) ナデ ヘラケズリ
SB-03 30図-9	甕 土師	口径(17.4) 残高 8.8 底径 — 口縁部～胴部	胎；雲母、礫、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR8/8 黄橙	口縁部は外反する 粘土帯積み上げ	(外) タテのヘラケズリ 頸部ヨコナデ 口縁部指ナデ (内) ヨコのヘラケズリ
SB-03 30図 -10	甕 土師	口径 21.5 器高 34.2 底径 4.6 4/5	胎；石英、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)2.5YR4/8 赤褐 (内)2.5YR4/6 赤褐	平底より立ち上がり、丸みのある胴部より外反する口縁部に至る 粘土帯積み上げ	(外) 底部ヘラミガキ 胴部ヘラケズリ 頸部、口縁部ヨコナデ (内) ヘラケズリ ナデ ヘラミガキ
SB-03 30図 -11	甕 土師	口径 24.2 器高 39.2 底径 6.3 9/10	胎；石英、礫、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/8 黄橙 (内)5YR6/6 橙	平底より立ち上がり、張りのない胴部より外反する口縁部に至る 粘土帯積み上げ	(外) 頸部、胴部ナナメのケズリ 胴部ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB-03 30図 -12	甕 土師	口径(19.0) 残高 16.0 底径 — 口縁部～胴部	胎；礫、粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR5/6 明褐	張りのない胴部より外反して 口縁部に至る	(外) 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (内) 胴部ヘラケズリの後ナデ
SB-03 30図 -13	甕 土師	口径(18.6) 器高 10.5 底径 — 口縁部～胴部	胎；礫、粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR5/6 明褐	張りのない胴部より外反して 口縁部に至る	(外) 胴部ヘラケズリ (内) 胴部ヘラケズリ
SB-03 30図 -14	甕 土師	口径(20.4) 残高 27.3 底径 — 口縁部～胴部	胎；石英、雲母、礫わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/8 黄橙 (内)7.5YR3/1 黒褐	胴部は丸みを持ち、ゆるく外反する口縁部に至る 粘土帯積み上げ	(外) ヘラケズリ ヘラナデ (内) ヘラナデ
SB-03 30図 -15	甕 土師	口径 — 残高 24.6 底径 (5.0) 胴部～底部	胎；礫、粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	張りのない胴部	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリの後ナデ
SB-03 30図 -16	甕 土師	口径 — 残高 3.2 底径 (9.4) 底部 1/4	胎；礫、雲母、礫、細砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)10YR3/3暗褐	平底 粘土帯積み上げ	(外) ヘラケズリ (内)
SB-04 31図-1	坏蓋 須恵	鍔径 — 残高 1.2 裾径(18.6) 一部	胎；粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)10Y4/1 灰 (内)10Y4/1 灰	口縁部端部が折れる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB-04 31図-2	甕 土師	口径(12.3) 残高 10.5 底径 — 1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/2 灰褐 6/4にぶい橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙	小型の甕	(外) ヘラケズリ 口縁ヨコナデ (内) ケズリ ナデ 口縁ヨコナデ

第１８表　土器観察表（３）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-05 32図-1	坏 須恵	口径(10.2) 器高 3.1 底径 (5.3) 一部	胎；粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)5YR5/1 灰 (内)5YR5/1 灰	体部は丸みを持ち、口縁部は内弯する	(外) 底部外面はヘラによる調整が施される (内)
SB-05 32図-2	坏 須恵	口径(13.2) 残高 3.7 底径 — 一部	胎；粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)5Y7/1灰白 (内)5Y7/1灰白	直線的に開く体部を持つ	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB-05 32図-3	甕 土師	口径(12.0) 残高 5.6 底径 — 一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3 にぶい褐 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部はゆるく外反する 小型の甕	(外) ナデ (内) ヘラケズリ
SB-05 32図-4	甕 土師	口径(16.8) 残高 21.1 底径 — 1/2	胎；礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 4/1褐灰 (内)7.5YR6/2 灰褐	張りのない胴部より外反する口縁部に至る 長胴甕 輪積み成形	(外) ヘラケズリ (内) ケズリ　ナデ
SB-05 32図-5	甕 須恵	口径(33.4) 残高 9.3 底径 — 口縁部~胴部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5Y7/1灰白 (内)2.5Y7/1灰白	頸部でゆるく締まって口縁部で外反する 広口	(外) 胴部にタタキ調整を持つ (内)
SB-06 33図-1	坏 土師	口径(11.6) 器高 2.7 底径 (7.8) 1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR8/2 灰白 (内)5YR7/6 橙	平底　浅い体部 口縁はゆるい屈曲を経て立ち上がる	(外) 摩耗していて不明 (内) 摩耗していて不明
SB-07 34図-1	坏 土師	口径(17.2) 器高 4.8 底径 — 1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N3/暗灰	丸底で体部に丸みを持つ	(外) 体部～底部手持ちヘラケズリ (内) ヘラミガキ　黒色処理 非ロクロ調整
SB-07 34図-2	坏 土師	口径 12.3 器高 4.8 底径 — ほぼ完	胎；石英、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3 にぶい橙 (内)N3/暗灰	丸底で体部に丸みを持つ	(外) 体部～底部手持ちヘラケズリ (内) ヘラミガキ　黒色処理 非ロクロ調整
SB-07 34図-3	高坏 土師	口径(12.6) 残高 5.3 裾径 — 坏部1/3	胎；雲母、礫含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4にぶい褐 N3/暗灰 (内)N3/暗灰	浅く丸みのある坏部	(外) ナデ　ケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SB-07 34図-4	高坏 土師	口径(16.4) 残高 4.7 裾径 — 坏部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)N3/暗灰	浅く丸みのある坏部	(外) ケズリ　ナデ (内) ミガキ 黒色処理
SB-07 34図-5	高坏 土師	口径 — 残高 8.5 裾径 — 脚部 (裾欠)	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)脚部10YR7/4にぶい黄橙 坏部N3/ 暗灰	筒部より屈曲して開く裾部に至る	(外) 脚部ヘラミガキ (内) 坏部ヘラミガキ　脚部ヘラケズリ　坏部黒色処理
SB-07 34図-6	高坏 土師	口径 — 残高 6.1 裾径 — 脚部1/2	胎；礫、粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙	脚部は裾に向かって開く	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB-07 34図-7	坏蓋 須恵	鳥ゆ径 2.1 器高 3.0 裾径 10.6 完存	胎；黒色粒子含む 焼；良好 色；(外)7.5Y6/1灰 (内)7.5Y6/1灰	内側に返りがある	(外) (内)
SB-07 34図-8	坏蓋 須恵	鳥ゆ径 — 残高 2.3 裾径 15.5 2/3	胎；礫、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5Y6/1灰 (内)7.5Y6/1灰	内側に返りがある	(外) 天井部ヘラケズリ (内) ナデ
SB-07 34図-9	坏 須恵	口径(10.2) 器高 3.2 底径 5.4 底完~口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y7/1灰白 (内)7.5Y7/1灰白	体部は垂直に近く立ち上がる	(外) 底部ヘラによる調整 (内)
SB-07 34図 -10	坏 須恵	口径(14.8) 器高 3.5 底径 (8.0) 1/3	胎；礫、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)5Y6/1灰 (内)N6/1 灰	箱形の体部に高台を付す　高台の位置は中央寄りに入り、体部の立ち上がりはきちんとした稜を持たない	(外) 底部回転ヘラケズリ (内)

第１９表　土器観察表（４）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB-07 34図 -11	坏 須恵	口径(17.4) 器高 (4.8) 底径(12.3) 1/4	胎；微砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5Y6/1灰 (内)7.5Y6/1灰	箱形の体部に高台を付す　高台断面は平行四辺形を呈す	(外) 底部回転ヘラケズリ (内)
SB-07 34図 -12	甕 土師	口径(27.2) 残高 17.7 底径　— 口縁部~胴部	胎；細砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR6/3にぶい黄橙	張りのない胴部より外反して口縁部に至る 粘土帯積み上げ	(外) 口縁部ヨコナデ　胴部ヘラケズリ (内) 胴部ヘラナデ
SB-07 34図 -13	甕 土師	口径　— 残高 24.5 底径 (5.0) 胴部～底部	胎；礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	張りのない胴部　器壁は薄い	(外) 胴部ヘラケズリ (内) ヘラケズリの後木口状工具によるナデ
SB-07 34図 -14	甕 土師	口径(24.0) 残高　9.0 底径　— 口縁部~胴部	胎；礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/8 明褐 (内)7.5YR5/8 明褐	張りのない胴部より外反して口縁部に至る	(外) 口縁部ヨコナデ　胴部ヘラケズリ (内) ナデ
SB-07 34図 -15	甕 土師	口径(23.2) 残高　7.2 底径　— 口縁部1/3	胎；雲母、礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	張りのない胴部より屈曲外反して口縁部に至る	(外) 口縁部ヨコナデ　胴部ヘラケズリ (内) ナデ
SB-07 34図 -16	甕 土師	口径(21.0) 残高　9.0 底径　— 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	張りのない胴部より外反して口縁部に至る	(外) 胴部ヘラケズリ (内) 胴部ヘラケズリ
SB-07 34図 -17	甕 土師	口径(24.4) 残高　9.4 底径　9.8 口縁部~胴部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)7.5YR8/6 浅黄橙	胴部は丸みを持ち、外反する口縁部に至る 粘土帯積み上げ	(外) ケズリ　ナデ (内) ケズリ　ナデ
SB-07 34図 -18	甕 土師	口径(17.4) 残高 10.3 底径　— 口縁部~胴部	胎；雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR6/6 橙	口縁部は外反する	(外) 胴部ヘラケズリの後ナデ (内) ヘラケズリ　ナデ
SB-07 34図 -19	甕 土師	口径(20.4) 残高　6.0 底径　— 口縁部~胴部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6 橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	口縁部は外反する	(外) 胴部ヘラケズリ (内) ヘラナデ
SB-07 34図 -20	甕 土師	口径(20.2) 残高　3.8 底径　— 口縁部一部	胎；粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR6/6 橙	口縁部は外反する	(外) ナデ (内) ナデ
SB-07 34図 -21	甕 土師	口径　— 残高　1.9 底径 (7.8) 底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR5/3にぶい黄褐 (内)7.5YR6/6 橙	平底	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB-07 34図 -22	壺 須恵	口径 (9.4) 器高 17.9 底径 (4.6) 1/4	胎；礫、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N5/灰	卵形の体部 口縁部で折り返し口縁帯を持つ	(外) ロクロナデ　体部下位にタタキ目　底部ヘラ調整 (内) ロクロナデ
SB-07 34図 -23	壺 須恵	口径　— 残高　5.5 底径　7.1 底部～体部	胎；微砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)10YR2/2黒褐 7/1灰白 (内)10YR5/1褐灰	体部は肩の部分で屈曲する 高台を付す	(外) 体部下半ヘラケズリ (内)
SB-07 34図 -24	長頸壺 須恵	口径(10.2) 残高　1.5 底径　— 口縁部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y4/2灰オリーブ (内)7.5Y4/2灰オリーブ	口縁部がラッパ状に開く	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB-07 34図 -25	深鉢 縄文	口径　— 残高　3.7 底径　— 胴部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4 にぶい赤褐 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	沈線文　縄文	(外) (内) ケズリ　ナデ
SB-07 34図 -26	鉢 縄文	口径　— 残高　6.6 底径　— 口縁部一部	胎；石英、雲母含む 焼；良好 色；(外)7.5YR3/3 暗褐 (内)10YR4/6褐	口縁部に刻みをもち鋸歯状を呈する 沈線文	(外) (内) ナデ

第２０表　土器観察表（５）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SB-09 35図-1	坏 土師	口径 11.7 器高 4.1 底径 6.6 4/5	胎；石英、雲母、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)10YR2/1黒	丸みを帯びた底部よりやや内弯気味に開き、わずかに外反する口縁部に至る 非ロクロつくり	(外) 体部ヘラケズリ　口縁部ヨコナデ (内) 口縁部ヨコナデ　底部ミガキ　黒色処理
SB-09 35図-2	坏 土師	口径 11.0 器高 4.3 底径 — ほぼ完存	胎；石英、雲母、細砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)2.5Y2/1黒 (内)10YR1.7/1黒	丸底より内弯して開き、わずかに外反する口縁部に至る	(外) 底部ヘラケズリ　口縁部ミガキ　黒色処理 (内) ヨコミガキ　黒色処理 付着物あり
SB-09 35図-3	坏 土師	口径 12.8 器高 4.3 底径 — 2/3	胎；礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好　一部二次焼成を受ける 色；(外)10YR6/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙 N3/暗灰	丸みを持った体部	(外) ヘラケズリ (内) ヘラミガキ 黒色処理
SB-09 35図-4	高坏 土師	口径(14.0) 残高 7.4 裾径 — 坏部1/2	胎；石英、礫、細砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)10YR1.7/1黒	坏部は接合部より内弯して立上がり口縁部に至る	(外) 坏部ヘラケズリの後ナデ　脚部ヘラケズリ、ナデ　口縁部ヨコナデ (内) ヨコナデ　ミガキ　黒色処理
SB-09 35図-5	高坏 土師	口径 — 残高 2.3 裾径(11.8) 脚部裾1/3	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	脚部は裾部に向かって大きく開く	(外) ヘラミガキ (内) ヘラケズリ
SB-09 35図-6	高坏 土師	口径 — 残高 4.8 裾径 — 接合部~脚部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR6/6 橙	坏底部を突出させ脚部と接合している	(外) 脚部ヘラケズリ (内) 坏部ヘラミガキ
SB-09 35図-7	鉢 土師	口径(19.2) 残高 8.3 底径 — 口縁部~胴部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい橙 (内)N3/暗灰	直線的に開く体部　わずかに折れて立つ口縁部	(外) ヘラケズリ (内) ヘラミガキ 黒色処理
SB-09 35図-8	鉢 土師	口径(22.4) 残高 10.0 底径 — 口縁部~胴部	胎；礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N3/暗灰	丸みのある体部より小さく外反して口縁部に至る	(外) 体部ヘラケズリ (内) 体部ヘラミガキ 黒色処理
SB-09 35図-9	坏蓋 須恵	鈕径 — 残高 1.9 裾径 10.0 1/3	胎；細砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)2.5YR6/1 黄灰 (内)2.5YR6/1 黄灰	内面に返りがある ロクロつくり	(外) ヘラケズリ (内) ナデ
SB-09 35図 -10	甕 土師	口径(20.8) 残高 8.3 底径 — 口縁部~胴部	胎；礫、雲母、礫、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR6/3 にぶい褐	口縁部は外反する 粘土帯積み上げ 口縁部に面取りを施す	(外) 口縁部ヨコナデ、胴部タテのヘラケズリ (内) 口縁部ヨコナデ　ナナメのナデ
SB-09 35図 -11	甕 土師	口径(16.2) 残高 6.0 底径 — 口縁部~胴部	胎；礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	張りのない胴部より外反して口縁部に至る	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB-09 35図 -12	甕 土師	口径(24.0) 残高 12.5 底径 — 口縁部~胴部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/4にぶい黄橙 (内)10YR6/4にぶい黄橙	張りのない胴部より屈曲して「く」の字状に外反して口縁部に至る	(外) 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ (内) ナデ
SB-09 35図 -13	甕 土師	口径 — 残高 30.5 底径 4.4 胴部～底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/4にぶい黄橙 (内)10YR6/4にぶい黄橙	張りのない胴部	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB-09 35図 -14	瓶 須恵	口径 (8.0) 残高 5.5 底径 — 口縁部~頸部	胎；細砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)N6/灰 (内)N6/灰	頸部は口縁部へ向かって外反する ロクロつくり	(外) 頸部外反に二条の沈線を引く (内) ナデ
SB-10 36図-1	深鉢 縄文	口径 — 残高 7.9 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR4/6 赤褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	口縁部の内側は稜線を持って肥厚する 半裁竹管による沈線文と隆帯による文様構成	(外) (内) ヨコのヘラケズリ
SB-10 36図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.3 底径 — 突起部	胎；石英極多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR4/3 にぶい赤褐 (内)10YR6/4にぶい黄橙	隆帯、沈線	(外) (内)

第２１表　土器観察表（６）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SB-10 36図-3	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.0 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	無文	(外) (内)
SB-10 36図-4	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.1 底径 — 一部	胎；石英含む 焼；良好 色；(外)5YR4/4 にぶい赤褐 (内)7.5YR4/1 褐灰	沈線文	(外) (内)
SB-10 36図-5	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.9 底径 — 一部	胎；石英、雲母多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/6 褐 (内)5YR4/4 にぶい赤褐	沈線文	(外) (内)
SB-10 36図-6	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.3 底径 — 一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	沈線文	(外) (内)
ST-01 P-172 37図-1	高坏 土師	口径(17.2) 残高 6.5 裾径 — 坏部1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/3にぶい橙 N2/黒 (内)N2/黒 7.5YR6/3にぶい褐	接合部より開いてゆるく屈曲して口縁部に至る	(外) ヘラケズリ (内) ヘラミガキ
ST-01 P-164 37図-2	高坏 土師	口径 — 残高 5.0 裾径 10.2 脚部	胎；粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)N2/黒	裾部に向かって大きく開く	(外) ミガキ ナデ (内) ケズリ ミガキ
ST-02 P-149 38図-1	坏 土師	口径(14.2) 残高 4.4 底径 — 口縁部~体部	胎；礫、粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR6/6 橙	丸みのある体部	(外) 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ (内) ヘラミガキ
ST-02 P-116 38図-2	坏 土師	口径 — 残高 2.6 底径 — 体部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)N2/黒	丸みのある体部	(外) ヘラケズリ (内) ヘラミガキ 黒色処理
ST-02 P-116 38図-3	坏蓋 須恵	鳳径 — 残高 1.3 裾径 — 体部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)7.5Y5/1灰	口縁部先端で折れる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
ST-02 P-116 38図-4	甕 土師	口径(20.6) 残高 3.6 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、微砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)10YR5/2灰黄褐 5/4にぶい黄褐 (内)10YR5/2灰黄褐 5/4にぶい黄褐	口縁部は外反する	(外) (内) ヘラケズリの後ヘラミガキ
ST-02 P-149 38図-5	甕 須恵	口径 — 残高 4.5 底径 — 胴部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)7.5Y5/1灰	丸みのある胴部	(外) タタキ目 (内) ナデ
ST-02 P-88 38図-6	甕 弥生	口径 — 残高 3.9 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	口縁部は外反する	(外) 櫛描波状文 (内) ミガキ
ST-04 P-154 39図-1	坏 土師	口径 11.8 残高 2.8 底径 — 口縁部~体部一部	胎；細砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR5/6 明褐	体部は浅く丸みを持ち、口縁部が先端で折れて立ち上がる	(外) 口縁部ナデ 体部ヘラケズリ (内)
SK-01 40図-1	椀蓋 須恵	鳳径 5.0 残高 1.5 裾径 — 抓み部2/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)5Y5/2灰オリーブ	環状抓みを付す	(外) 回転ヘラケズリ (内) ロクロナデの後ナデ
SK-01 40図-2	坏 須恵	口径(15.4) 残高 4.4 底径(11.0) 口縁部~底部	胎；礫含む 焼；良好 色；(外)10Y4/1 灰 (内)10Y5/1 灰	箱形の体部に高台を付す 高台は底部の端につき、外側で接地する	(外) 底部回転ヘラケズリ (内)
SK-02 40図-1	甕 須恵	口径 — 残高 3.8 底径 — 胴部一部	胎；微砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N4/灰		(外) タタキ目 (内) あて具痕

第２２表　土器観察表（７）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SK-03 40図-1	坏 須恵	口径(16.2) 残高 3.3 底径 — 口縁部~体部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y3/1オリーブ黒 (内)5Y3/1オリーブ黒	体部は直線的に開く	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SK-04 40図-1	甕 須恵	口径 — 残高 4.4 底径 — 胴部一部	胎；微砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)5Y6/1灰 (内)5Y6/1灰		(外) タタキ目 (内) ナデ
SK-05 40図-1	深鉢 縄文	口径(29.2) 残高 19.3 底径 — 口縁部~胴部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/2 灰褐 (内)7.5YR5/2 灰褐		(外) 指ナデ (内) ヘラケズリ　ヘラミガキ
SK-05 40図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 9.7 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/3 褐 (内)7.5YR4/3 褐	口縁部に無文帯を持つ　沈線文による文様	(外) ヘラケズリ (内)
SK-05 40図-3	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.0 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR6/6 橙 5/6明褐	隆帯及び沈線による文様	(外) (内)
SK-05 40図-4	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.0 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR4/2 灰褐	波状口縁 沈線文	(外) (内)
SK-05 40図-5	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.0 底径 — 胴部一部	胎；雲母、粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4 にぶい赤褐 (内)5YR4/1 褐灰	胴部屈折する 沈線の文様構成	(外) (内)
SK-05 40図-6	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.0 底径 — 胴部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	沈線と隆帯による文様構成	(外) (内)
SK-05 40図-7	深鉢 縄文	口径(20.0) 残高 5.7 底径 — 口縁部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/4 褐 (内)7.5YR4/2 灰褐	口縁部は内側に屈曲する 縄文	(外) (内)
SK-05 40図-8	深鉢 縄文	口径 — 残高 7.6 底径(11.8) 底部1/4	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 6/6橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	平底より大きく開いて胴部に移行する RL縄文を回転施文	(外) ケズリ　ナデ (内)
SK-05 40図-9	深鉢 縄文	口径 — 残高 10.5 底径 12.4 底部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/4 にぶい赤褐 (内)5YR5/4 にぶい赤褐	平底	(外) (内)
SK-05 40図 -10	深鉢 縄文	口径 — 残高 8.0 底径 12.4 底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	平底	(外) (内)
SK-06 40図-1	Ⅲ 土師	口径 14.4 器高 2.9 底径 5.4 口縁部1/4欠	胎；石英、雲母、細砂粒多量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)N2/黒	体部は浅く直線的に伸び、高台を付す	(外) 底部切りはなした後調整を施す (内) ミガキ 黒色処理
SK-06 40図-2	椀 土師	口径 — 残高 1.5 底径 (6.4) 底部1/4	胎；石英、微砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)10YR3/1黒褐 (内)10YR3/1黒褐	高台を付す	(外) ヘラミガキ 黒色処理 (内) 黒色処理
SK-07 40図-1	坏 土師	口径(16.2) 残高 3.4 底径 — 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)10YR4/2灰黄褐 (内)N2/黒	大きく開く体部	(外) ロクロナデ (内) ミガキ 黒色処理
SK-07 40図-2	坏 土師	口径 — 残高 1.0 底径 (6.0) 底部一部	胎；雲母、微砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)10YR6/4にぶい黄橙 (内)10YR6/4にぶい黄橙	平底	(外) 底部回転糸切り (内) ミガキ

第２３表　土器観察表（８）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SK-07 40図-3	坏 土師	口径 — 残高 2.2 底径 (4.8) 底部～体部一部	胎；微砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR7/4にぶい黄橙	平底	(外) 底部回転糸切り (内) ミガキ
SK-07 40図-4	深鉢 縄文	口径 — 残高 7.2 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/4 褐 (内)7.5YR4/1 褐灰	沈線文	(外) (内)
SK-07 40図-5	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.5 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	隆帯と沈線による文様	(外) (内)
SK-08 40図-1	坏蓋 須恵	鈕径 — 残高 2.0 裾径 — 1/3	胎；礫多量に含む 焼；良好 色；(外)5Y5/1灰 (内)5Y5/1灰	口縁端部で折れ曲がる類のものと思われる	(外) 回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SK-09 40図-1	ミニチュア深鉢 縄文	口径 (8.4) 残高 6.0 底径 — 口縁部～胴部一部	胎；細砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR5/3 にぶい赤褐	隆帯及び縄文施文	(外) (内)
SK-09 40図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 10.0 底径 — 突起部	胎；石英、雲母多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR5/6 明赤褐	沈線文及び半肉彫	(外) (内)
SK-10 40図-1	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.2 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、礫多量に含む 焼；良好 色；(外)10YR7/4にぶい黄橙 (内)10YR7/2にぶい黄橙	口縁部鋸歯状、内側に肥厚する 胴部沈線文	(外) (内)
SK-10 40図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 7.0 底径 — 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR3/2黒褐 (内)10YR5/4にぶい黄褐	沈線文	(外) (内)
SK-10 40図-3	深鉢 縄文	口径 — 残高 13.0 底径 — 口縁部～胴部	胎；石英、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR6/1 褐灰	隆帯、縄文、沈線文による文様構成	(外) (内)
SK-10 40図-4	浅鉢 縄文	口径 — 残高 11.2 底径 — 口縁部～胴部一部	胎；礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	口縁部が屈折する 隆帯文による文様	(外) (内) ミガキ　朱塗り
SK-10 40図-5	浅鉢 縄文	口径 — 残高 10.5 底径 — 口縁部～胴部一部	胎；雲母多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	口縁部は強く内弯する　口唇部は面取りが施される 口縁部に隆帯による連続文	(外) 朱塗り (内) ミガキ　朱塗り
SK-10 40図-6	深鉢 縄文	口径 — 残高 7.0 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、礫、多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/3 褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	波状口縁　口縁部内側に肥厚する 沈線文及び半肉彫	(外) (内)
SK-10 40図-7	台付鉢 縄文	口径 — 残高 3.9 裾径 14.4 脚部一部	胎；雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR5/6 明褐	外面に縄文 円形の透かしを入れる	(外) (内)
SK-11 40図-1	甕 須恵	口径 — 残高 10.8 底径 — 胴部一部	胎；礫わずかに含む 焼；良好 色；(外)5Y6/1灰 (内)5Y6/1灰		(外) タタキ目 (内) あて具痕
SK-11 40図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.0 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR3/2 黒褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	沈線文	(外) (内)
SK-11 40図-3	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.0 底径 — 口縁部付近	胎；雲母、礫多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5Y7/3にぶい橙 (内)7.5Y7/3にぶい橙	楕円区画文	(外) (内)

第２４表　土器観察表（９）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SK-11 40図-4	浅鉢 縄文	口径 — 残高 3.0 底径 — 口縁部—部	胎；石英、礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5Y6/3にぶい褐 (内)7.5Y7/3にぶい橙	口縁部に平行沈線	(外) (内)
SX-03 41図-1	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.7 底径 — 口縁部—部	胎；石英、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR6/8 橙 (内)5YR5/1 褐灰	隆帯	(外) (内)
SX-03 41図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 2.8 底径 — 胴部—部	胎；石英、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	隆帯及び沈線文	(外) (内)
SX-03 41図-3	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.4 底径 — 胴部—部	胎；雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	RL縄文及び隆帯	(外) (内)
SX-03 41図-4	深鉢 縄文	口径 — 残高 2.2 底径 5.8 底部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR3/1 黒褐	平底	(外) ケズリ (内) ケズリ　ナデ
SX-01 42図-1	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.3 底径 — 胴部—部	胎；石英、雲母多量に含む 焼；良好 色；(外)10YR5/4にぶい黄褐 (内)10YR6/4にぶい黄橙	沈線文	(外) (内)
SX-01 42図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.1 底径 — 胴部—部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/6 褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	隆帯文	(外) (内)
SX-01 42図-3	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.8 底径 — 胴部—部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR3/3 暗褐 (内)7.5YR3/3 暗褐	隆帯及び沈線文	(外) (内)
SX-01 42図-4	甕 須恵	口径 — 残高 8.4 底径 — 胴部—部	胎；粗砂粒わずかに含む 焼；やや甘い 色；(外)5Y7/1灰白 (内)5Y7/1灰白		(外) タタキ目 (内) ナデ
SX-02 42図-1	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.0 底径 — 胴部—部	胎；石英、雲母多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	隆帯及び縄文回転施文	(外) (内)
SX-02 42図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.5 底径 — 胴部—部	胎；石英、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/2 灰褐 (内)7.5YR4/2 灰褐	LR縄文回転施文	(外) (内)
SX-02 42図-3	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.2 底径 — 胴部—部	胎；石英、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	縄文回転施文	(外) (内)
SD-01 43図-1	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.9 底径 — 口縁部—部	胎；雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR3/1 黒褐	隆帯及び沈線文	(外) (内)
SD-01 43図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 2.7 底径 — 胴部—部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	沈線文	(外) (内)
SD-01 43図-3	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.5 底径 — 胴部—部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/3 褐 (内)7.5YR3/1 黒褐	沈線文	(外) (内)
SD-01 43図-4	深鉢 縄文	口径 — 残高 2.7 底径 — 胴部—部	胎；雲母、礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/6 褐 (内)7.5YR4/2 灰褐	沈線文及びLR縄文	(外) (内)

第２５表　土器観察表（１０）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SD-01 43図-5	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.5 底径 — 胴部一部	胎；雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR4/2 灰褐	LR縄文回転施文	(外) (内)
SD-01 43図-6	壺 弥生	口径 — 残高 5.6 底径 — 頸部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR5/3 にぶい褐		(外) T字文 (内) ヘラケズリ
SD-01 43図-7	甕 弥生	口径 — 残高 4.0 底径 — 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/2 灰褐 (内)7.5YR5/4 にぶい橙		(外) 櫛描波状文 (内) ミガキ
SD-02 44図-1	深鉢 縄文	口径 — 残高 19.2 底径 9.0 底部～胴部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR4/3 にぶい赤褐	平底より直線的に立ち上がる 隆帯による楕円形区画文に縦位の沈線文が施文される	(外) (内)
SD-02 44図-2	深鉢 縄文	口径(21.5) 残高 3.9 底径 — 口縁部一部	胎；礫、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR5/6 明褐	口縁部は内湾する 口縁部は無文	(外) ケズリ　ナデ (内) ケズリ　ナデ
SD-02 44図-3	深鉢 縄文	口径 18.5 残高 11.2 底径 — 口縁部1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/4 褐 (内)7.5YR4/4 褐	口縁部は波状を呈する 隆帯及び沈線文	(外) (内) ケズリ
SD-02 44図-4	甑 弥生	口径 — 残高 5.0 底径 5.0 底部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/6 赤褐 (内)5YR4/6 赤褐	底部に一孔を有する	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ　ナデ
SD-02 44図-5	壺 弥生	口径 — 残高 3.2 底径 10.0 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR3/4 暗赤褐 (内)5YR4/6 赤褐	平底	(外) ハケ調整の後ミガキ (内) ハケ調整
SD-03 45図-1	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.9 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR4/3 にぶい赤褐 (内)5YR5/6 明赤褐	口縁部は波状を呈する 沈線と隆帯による文様構成	(外) (内)
SD-03 45図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.0 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR3/3 暗赤褐	口縁部は波状を呈する 沈線と隆帯による文様構成	(外) (内)
SD-04 46図-1	高坏 弥生	口径 24.3 残高 20.3 裾径 15.5 1/2	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10R4/4 赤褐 (内)10R4/4 赤褐 5YR5/4にぶい赤褐	口縁部に山形突起を有し、脚部に三角形の透しを持つ	(外) 坏部ヨコミガキ　脚部タテミガキ　赤色塗彩 (内) 坏部ヨコミガキ　脚部ケズリ　赤色塗彩
SD-04 46図-2	甕蓋 弥生	鈕径 4.8 残高 4.7 裾径 — 抓み部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4 にぶい赤褐 (内)5YR5/4 にぶい赤褐		(外) タテのミガキ (内) ナデ
SD-04 46図-3	壺 弥生	口径 — 残高 2.2 底径 14.2 底部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR6/6 橙	平底	(外) ミガキ (内) 剥落が著しい
SD-04 46図-4	壺 弥生	口径 — 残高 24.6 底径 15.6 底部～胴部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5R4/6赤 (内)5YR6/6 橙	平底より立ち上がり、胴部は下位に外稜を有する 粘土帯積み上げ	(外) 胴部上位ヨコミガキ　下位タテミガキ　赤色塗彩 (内) 不明
SD-05 47図-1	坏 土師	口径 — 残高 1.7 底径 (7.4) 底部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)5Y4/1灰 10YR7/3にぶい黄橙 (内)5Y4/1灰 7.5YR7/4にぶい橙	平底	(外) 底部回転糸切り (内) ナデ
SD-05 47図-2	壺 須恵	口径 — 残高 3.0 底径 — 胴部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/1 褐灰 (内)7.5YR5/2 灰褐		(外) ナデ (内) ナデ

第２６表　土器観察表（１１）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SD-05 47図-3	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.7 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR4/3 にぶい赤褐 (内)5YR4/6 赤褐	沈線文	(外) (内)
SD-05 47図-4	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.6 底径 — 胴部一部	胎；雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)10YR5/3にぶい黄褐 (内)10YR6/3にぶい黄橙	沈線文	(外) (内)
SD-05 47図-5	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.0 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/6 褐 (内)7.5YR5/6 明褐	口縁部は波状を呈する	(外) (内)
SD-05 47図-6	ミニチュア 縄文	口径 — 残高 1.5 底径 3.2 底部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR3/2 黒褐 (内)7.5YR3/1 黒褐	手捏ね	(外) (内)
SD-06 48図-1	坏 土師	口径(19.2) 残高 3.0 底径 — 口縁部~体部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/3にぶい黄橙 (内) N2/ 黒	ゆるやかにのびる体部	(外) (内) ミガキ 黒色処理
SD-06 48図-2	坏 土師	口径 — 残高 1.2 底径 6.2 底部3/4	胎；礫多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)5Y4/1灰	平底	(外) 回転糸切り (内) 黒色処理
SD-06 48図-3	Ⅲ 土師	口径(10.4) 残高 1.3 底径 — 口縁部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)N2/黒	浅い体部	(外) ナデ (内) ミガキ 黒色処理
SD-06 48図-4	椀 土師	口径(14.0) 残高 3.3 底径 — 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)N2/黒 (内)N2/黒	ゆるやかに開く体部	(外) ミガキ 黒色処理 (内) ミガキ 黒色処理
SD-06 48図-5	Ⅲ 土師	口径(12.8) 残高 1.3 底径 — 口縁部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外)N2/黒 (内)N2/黒	浅い体部	(外) ナデ 黒色処理 (内) ミガキ 黒色処理
SD-07 49図-1	深鉢 縄文	口径 — 残高 7.9 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	沈線文　刺突文　交互刺突文	(外) (内)
SD-07 49図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.5 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 暗褐 (内)7.5YR5/6 暗褐	半裁竹管文	(外) (内)
SD-07 49図-3	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.2 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/4 褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	口唇部に連続した刻み目を入れる	(外) (内)
SD-07 49図-4	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.7 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	楕円形区画文　沈線文	(外) (内)
SD-07 49図-5	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.6 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR4/2 灰褐	隆帯の曲線的な文様	(外) (内)
SD-07 49図-6	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.3 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)10YR5/4にぶい黄褐 (内)10YR5/6黄褐	粘土紐添貼　隆帯	(外) (内)
SD-07 49図-7	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.6 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)10YR7/3にぶい黄橙 (内)10YR7/3にぶい黄橙	隆線文　沈線文	(外) (内)

第２７表　土器観察表（１２）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SD-07 49図-8	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.8 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量含む 焼；良好 色；(外)10YR5/3にぶい黄褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	隆帯 RL縄文	(外) (内)
SD-07 49図-9	深鉢 縄文	口径 — 残高 7.0 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR6/6 橙	隆帯 RL縄文	(外) (内)
SD-07 49図 -10	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.2 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	蛇行沈線文 縄文	(外) (内)
SD-07 49図 -11	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.2 底径 — 胴部一部	胎；雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/6明黄褐 (内)10YR6/6明黄褐	雨垂れ状沈線文	(外) (内)
SD-07 49図 -12	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.3 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)7.5YR7/4にぶい橙 4/1褐灰	条線文 沈線文	(外) (内)
SD-07 49図 -13	浅鉢 縄文	口径 — 残高 3.5 底径 — 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)10YR6/3にぶい黄橙 (内)10YR6/3にぶい黄橙	「8」字状貼付文	(外) (内)
SD-07 49図 -14	浅鉢 縄文	口径 — 残高 3.7 底径 — 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/6明黄褐 (内)10YR7/4にぶい黄橙	薄手	(外) (内)
SD-07 49図 -15	浅鉢 縄文	口径 — 残高 5.3 底径 — 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/6明黄褐 (内)10YR5/2灰黄褐	「8」字状貼付文 刺突文 沈線文 縄文	(外) (内)
SD-07 49図 -16	皿 土師	口径 13.2 器高 2.8 底径 5.2 3/4	胎；礫わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)5YR6/6 橙	直線的に伸びる扁平な体部で無台 ロクロつくり	(外) ナデ 底部回転糸切りの後部分的にケズリ (内) ナデ
SD-08 50図-1	深鉢 縄文	口径(25.0) 残高 29.8 底径 (9.0) 口縁部1/3	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/4 にぶい赤褐 (内)5YR3/2 暗赤褐	口縁部は波状を呈する 粘土帯積み上げ 沈線文 隆帯 鎖状隆帯	(外) タテナデ ヘラケズリ (内) ミガキ
SD-08 50図-2	深鉢 縄文	口径 33.9 残高 38.0 底径 — 口縁部~胴部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量含む 焼；良好 色；(外)5YR4/4 にぶい赤褐 (内)7.5YR4/3 褐	口縁部は波状を呈する 沈線文 隆帯 胴部はRL縄文を縦位に回転施文	(外) (内)
SD-08 50図-3	浅鉢 縄文	口径 26.7 器高 15.4 底径(11.2) 1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR4/6 赤褐 (内)5YR4/8 赤褐	平底より大きく開いて立ち上がり屈曲して内傾する口縁に至る 隆帯 爪形文 交互刺突文	(外) ヨコのケズリ (内) ヨコのケズリ ナデ
SD-08 50図-4	浅鉢 縄文	口径(22.4) 器高 11.8 底径 11.0 1/4	胎；白色砂粒、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR3/6 明赤褐 (内)10YR5/4にぶい黄褐	台付鉢 沈線文と隆帯による渦巻状の曲線	(外) (内)
SD-08 50図-5	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.6 底径 — 胴部一部	胎；石英多量に含む 焼；良好 色；(外)2.5YR4/6 赤褐 (内)5YR4/6 赤褐	曲線的な沈線文	(外) (内)
SD-08 50図-6	深鉢 縄文	口径 — 残高 10.0 底径 — 胴部一部	胎；白色砂粒、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/4にぶい黄橙 (内)10YR5/2灰黄褐	隆帯及び沈線文	(外) ケズリ (内)
SD-08 50図-7	深鉢 縄文	口径(14.5) 残高 7.4 底径 — 口縁部1/4	胎；石英、雲母含む 焼；良好 色；(外)2.5YR4/4 にぶい赤褐 (内)10YR4/1褐灰	沈線と隆帯による文様構成	(外) (内) 茶色の付着物あり

第２８表　土器観察表（１３）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SD-08 50図-8	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.8 底径 — 口辺部1/3	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR3/3 暗褐 (内)7.5YR2/2 黒褐	沈線と隆帯による文様構成	(外) (内) 茶色の付着物あり
SD-08 50図-9	深鉢 縄文	口径 — 残高 16.6 底径 — 口縁部一部	胎；石英多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR5/6 明赤褐	口縁部は波状を呈する 沈線文	(外) (内)
SD-08 50図 -10	深鉢 縄文	口径 — 残高 7.8 底径 — 口縁部一部	胎；石英多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR4/6 赤褐 (内)5YR3/2 暗赤褐	楕円形区画文	(外) (内)
SD-08 50図 -11	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.7 底径 — 胴部一部	胎；雲母多量に含む 焼；良好 色；(外)10YR4/3にぶい黄褐 (内)10YR4/3にぶい黄褐	沈線文及び列点文	(外) (内)
SD-08 50図 -12	深鉢 縄文	口径 — 残高 8.0 底径 — 口縁部一部	胎；白色砂粒、雲母含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR3/1 黒褐	胴部から口縁部にかけて屈曲内弯する 隆帯による区画及び縦位沈線文	(外) ケズリ (内) ヘラケズリ
SD-08 50図 -13	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.1 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR4/6 褐	交互刺突文　沈線文　LR縄文	(外) (内)
SD-08 50図 -14	ミニチュア 縄文	口径 (3.7) 器高 1.8 底径 — 1/4	胎；雲母多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/4 褐 (内)7.5YR5/6 明褐	手捏ね	(外) (内)
SD-08 50図 -15	坏 土師	口径 — 残高 4.9 底径 (9.2) 底部1/2	胎；雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) N2/ 黒	平底より内弯して開く ロクロつくり	(外) 底部回転糸切り　ロクロナデ (内) ミガキ 黒色処理
SD-09 51図-1	浅鉢 縄文	口径 — 残高 3.5 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母多量に含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/3褐 (内) 7.5YR4/6褐	内面に交互刺突文を施す	(外) (内)
SD-09 51図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.2 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR5/4 にぶい赤褐	LR縄文　沈線文	(外) (内)
SD-09 51図-3	甕 弥生	口径 — 残高 7.4 底径 — 胴部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR4/6 赤褐 (内)5YR5/6 明赤褐	丸みのある胴部よりゆるやかに外反して頸部に移行する	(外) 櫛描斜状文 (内) 刷毛調整の後ナデ
SD-09 51図-4	甕 弥生	口径 — 残高 1.7 底径 10.4 底部	胎；細砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR3/3 暗赤褐 4/6赤褐 (内)5YR4/6 赤褐	平底	(外) 木葉痕　胴部ヘラケズリ (内) 指ナデ
SD-09 51図-5	坏 須恵	口径(13.3) 器高 4.6 底径 10.0 底部完	胎；細砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)5B5/1青灰 (内)N6/灰	高台付の底部より直線的に立ち上がり口縁部に至る　高台は内面で接地する ロクロつくり	(外) 底部高台の周辺に回転ヘラケズリ　中央ナデ (内) 高台内側に粘土付着
SD-09 51図-6	坏 須恵	口径(16.6) 器高 4.5 底径(13.2) 底部3/4	胎；細砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)N6/灰	高台付の底部より外傾しながら立ち上がり口縁部に至る 高台は平面で接地する ロクロつくり	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ
SD-09 51図-7	甕 土師	口径(17.2) 残高 15.8 底径 — 口縁部~胴部	胎；石英、雲母、礫含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)7.5YR5/2 灰褐	胴部は張りがなく、口縁部はゆるやかな「く」の字状に外反する 粘土帯積み上げ	(外) 胴部タテのヘラケズリ 頸部、口縁部ヨコナデ (内) ヨコナデ
SD-09 51図-8	長頸壺 須恵	口径 12.6 残高 8.5 底径 — 口縁部~頸部	胎；粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)5Y5/2灰オリーブ (内)7.5Y5/2灰オリーブ	口縁部は外反する ロクロつくり	(外) 自然釉 (内) 口縁部ケズリ　自然釉

第２９表　土器観察表（１４）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
SD-09 51図-9	甕 須恵	口径 — 残高 8.5 底径 — 頸部一部	胎；石英、礫、細砂粒極わずかに含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N6/灰	頸部は「く」の字状に屈曲して外反する ロクロつくり	(外) ロクロナデ 波状文 (内) 青海波文
P-14 52図-1	坏蓋 須恵	鳴径 — 残高 2.7 裾径(11.2) 裾部1/4	胎；粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)10Y5/1 灰 (内)10Y5/1 灰	内面に返りがつく ロクロつくり	(外) 回転ヘラケズリ ナデ (内) ナデ
P-14 52図-2	坏 須恵	口径 — 残高 2.6 底径 6.2 底部1/6	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/1 灰 (内)10Y5/1 灰	平底 ロクロつくり	(外) 底部ヘラキリ (内) ロクロナデ
P-71 52図-3	坏 須恵	口径 (9.2) 残高 2.2 底径 — 一部	胎；微砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)7.5Y5/1灰	蓋受けを持ち、受け部から口縁部にかけて立ち上がりを持つ	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
P-150 52図-4	坏蓋 須恵	鳴径 — 残高 2.4 裾径(11.8) 1/2	胎；礫わずかに含む 焼；良好 色；(外)5Y6/1灰 (内)5Y6/1灰	内面に返りを持つ	(外) 回転ヘラケズリ ナデ (内) ロクロナデ
P-156 52図-5	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.2 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/1 褐灰 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	内側に稜を持って肥厚する 沈線文 交互刺突文	(外) (内)
P-175 52図-6	坏 須恵	口径(10.0) 残高 2.7 底径 — 一部	胎；白色砂粒、礫含む 焼；良好 色；(外)5Y7/1灰白 (内)5Y7/1灰白	蓋受けを持ち、受け部から口縁部にかけて立ち上がりを持つ	(外) 回転ヘラケズリ (内) ナデ
P-198 52図-7	高坏 土師	口径 — 残高 4.8 裾径 — 接合部1/2	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)N2/黒	坏部を脚部にはめこむ	(外) 坏部ミガキ (内) 坏部ミガキ 黒色処理
P-222 52図-8	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.9 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/2 灰褐 (内)7.5YR4/2 灰褐	内弯する口縁部 隆帯及び縄文	(外) (内)
P-234 52図-9	Ⅲ 須恵	口径(16.0) 器高 3.3 底径(11.8) 2/3	胎；礫わずかに含む 焼；良好 色；(外) 10YR6/1 灰 (内) 10YR6/1 灰	浅い体部	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ 内面に付着物
P-248 52図 -10	高坏 土師	口径(13.4) 残高 5.1 裾径 — 坏部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/6橙 (内) 7.5YR6/6橙	丸みのある椀形の坏部	(外) ヘラミガキ ヘラケズリ (内) ヘラミガキ
P-281 52図 -11	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.3 底径 — 胴部一部	胎；石英多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/2 灰褐 (内)7.5YR5/2 灰褐	ゆるやかに折曲する 隆帯 半起隆線 沈線文	(外) (内)
P-281 52図 -12	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.8 底径 — 胴部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/3 にぶい褐 (内)7.5YR6/3 にぶい褐	沈線文 隆帯	(外) (内)
P-281 52図 -13	台付鉢 縄文	口径 — 残高 5.9 裾径 7.6 脚部	胎；石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR5/6 明褐		(外) ヘラケズリ ナデ (内) ヘラケズリ ナデ
P-300 52図 -14	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.3 底径 — 胴部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	隆帯 沈線文	(外) (内)
P-301 52図 -15	深鉢 縄文	口径 — 残高 8.0 底径 — 胴部一部	胎；粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/2 灰褐 (内)7.5YR4/2 灰褐	沈線文	(外) (内)

第３０表　土器観察表（１５）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
P-301 52図 -16	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.2 底径 — 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/3 にぶい褐 (内)7.5YR4/1 褐灰	隆帯 沈線文 RL縄文	(外) (内)
P-304 52図 -17	深鉢 縄文	口径 — 残高 10.1 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR5/6 明赤褐 4/1褐灰	隆帯 沈線文	(外) (内)
P-304 52図 -18	深鉢 縄文	口径(23.2) 残高 13.3 底径 — 口縁部~胴部	胎；石英、雲母多量に含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/3 褐 (内)7.5YR4/3 褐	口縁部は直線的に開き、胴部は筒状を呈する 口縁部は無文帯 胴部は縦位沈線文、角押文	(外) (内)
P-304 52図 -19	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.9 底径 — 口縁部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/2 灰褐 (内)7.5YR4/2 灰褐	隆線貼付、沈線文	(外) (内)
S27E42 53図-1	深鉢 縄文	口径 — 残高 24.4 底径 6.0 口辺部~胴部	胎；石英、礫多く含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR4/3 にぶい赤褐	四単位の把手が付くと思われる 底部上げ底 台に二か所の切り込みが入る 隆帯 沈線文 LR縄文	(外) (内)
S30E42 53図-2	深鉢 縄文	口径 — 残高 43.6 底径 — 口縁部~胴部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	四単位の把手が付くと思われる 隆帯 沈線文 LR縄文	(外) (内)
S33E42 53図-3	深鉢 縄文	口径 — 残高 16.2 底径 (7.0) 底部～胴部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR3/2 黒褐	底部は台を有する 沈線文及び隆帯	(外) (内)
S33E45 53図-4	深鉢 縄文	口径(16.0) 残高 7.3 底径 — 口縁部~胴部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR4/3 褐	口縁部は鋸歯状を呈する 胴部にRL縄文	(外) (内)
S33W39 53図-5	深鉢 縄文	口径 — 残高 8.8 底径 8.0 底部～胴部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)5YR4/6 赤褐 (内)5YR4/6 赤褐	沈線文	(外) (内)
S33E45 53図-6	台付土器 縄文	口径 — 残高 6.0 裾径 10.0 脚部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外)10YR5/3にぶい黄橙 (内)10YR5/4にぶい黄橙	透かしを持つ 縄文	(外) (内)
S36E42 53図-7	台付鉢 縄文	口径 — 残高 5.6 裾径 13.2 台部	胎；石英、雲母含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)5YR5/6 明赤褐	四単位の透かしを有すると推定される	(外) ナデ (内) ナデ
S30E42 53図-8	浅鉢 縄文	口径 16.1 器高 7.5 底径 7.7 2/3	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR4/6 赤褐 (内)2.5YR5/8 明赤褐	平底より立ち上がり内弯して口縁部に至る 口縁部は内側に折れて肥厚する 粘土帯積み上げ	(外) ナデ (内) ナデ ミガキ
S33E42 53図-9	深鉢 縄文	口径 — 残高 4.5 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4 にぶい赤褐 (内)7.5Y6/3にぶい褐	沈線文	(外) (内) ナデ
S33E42 53図 -10	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.1 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)10YR6/4にぶい黄橙	沈線文	(外) (内) ナデ
S33E42 53図 -11	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.9 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/6 赤褐 (内)7.5YR7/3 にぶい橙	沈線文	(外) (内) ナデ
S33E42 53図 -12	深鉢 縄文	口径 — 残高 2.0 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR6/4 にぶい橙 (内)5YR5/6 明赤褐	沈線文	(外) (内) ナデ

第３１表　土器観察表（１６）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
S24E36 53図 -13	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.0 底径 — 胴部一部	胎；石英、雲母含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR6/4 にぶい橙	沈線文　刺突文	(外) (内) ナデ
S33E42 53図 -14	深鉢 縄文	口径 — 残高 5.0 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母含む 焼；良好 色；(外)10YR6/4にぶい黄橙 (内)7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部は内側に折れる　口縁部に突起を有する 沈線文　刺突文	(外) ナデ (内) ナデ
S33E42 53図 -15	深鉢 縄文	口径 — 残高 7.5 底径 — 突起部	胎；石英、微砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR6/3にぶい黄橙 (内)10YR5/3にぶい黄橙	沈線文	(外) (内) ナデ
S30E36 53図 -16	深鉢 縄文	口径 — 残高 7.0 底径 — 胴部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10YR5/3にぶい黄橙 (内)10YR6/3にぶい黄橙	沈線文	(外) (内) ケズリ　ナデ
S33E45 53図 -17	深鉢 縄文	口径(34.0) 残高 21.0 底径 — 口縁部~胴部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR5/4 にぶい赤褐 (内)5YR5/4 にぶい赤褐	胴部より口縁部に向かって緩やかに外反する　口縁部に突起を有する 綾杉文　唐草文	(外) (内)
S27E36 53図 -18	深鉢 縄文	口径 — 器高 5.3 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR4/1 褐灰	キャリパー形 隆帯による曲線文	(外) (内) ヘラケズリ　ナデ
S27E36 53図 -19	深鉢 縄文	口径 — 器高 5.6 底径 — 頸部一部	胎；雲母、石英含む 焼；良好 色；(外)5YR6/2 灰褐 5/4にぶい赤褐 (内)5YR6/2 灰褐	キャリパー形を呈すると思われる 隆帯による貼付文	(外) (内) ヘラケズリ
S27E36 53図 -20	深鉢 縄文	口径 — 器高 9.5 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR6/6 橙 (内)7.5YR5/3 にぶい褐	胴部から口縁部にかけてくびれない 隆帯　LR縄文	(外) (内) ケズリ　ナデ
Z 53図 -21	深鉢 縄文	口径 — 残高 6.0 底径 — 口縁部一部	胎；微砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)10YR3/1黒褐 (内)10YR4/2灰黄褐	口縁部は波状を呈する　口縁部は内側に肥厚する 磨消縄文構成　沈線区画の後LR縄文を充填する	(外) ていねいなミガキ (内) ていねいなミガキ
Z 53図 -22	浅鉢 縄文	口径 — 残高 6.0 底径 — 体部一部	胎；微砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)10YR4/1褐灰 (内)10YR3/1黒褐 4/2灰黄褐	把手がつくものと思われる 磨消縄文構成　沈線区画文内をLR縄文によって充填する	(外) ていねいなミガキ (内) ていねいなミガキ
Z 53図 -23	深鉢 縄文	口径 — 残高 3.5 底径 (9.0) 底部1/3	胎；粗砂粒わずかに含む 焼；良好 色；(外)5YR6/6 橙 (内)5YR6/6 橙	平底	(外) 底部あじろ痕 (内) ケズリ　ナデ
S24E30 53図 -24	甕 弥生	口径(12.5) 器高 11.9 底径 5.4 口縁部~底部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/2 灰褐 (内)7.5YR4/2 灰褐	平底より立ち上がり胴部より外反する口縁部に至る	(外) 頸部に簾状文を施す　胴部に波状文を施す　ヘラケズリ (内) ヘラケズリ　ヘラミガキ
Z 53図 -25	台付甕 弥生	口径 — 残高 4.3 裾径 7.0 脚部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐	脚部は「ハ」の字状に開く	(外) 脚部タテの刷毛調整 (内) 脚部刷毛ケズリの後ナデ 体部底部に黒色付着物
N21W6 53図 -26	坏 土師	口径(13.5) 器高 4.6 底径 5.2 底部~口縁部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR7/6 橙 (内)N2/黒	平底で緩やかに口縁部に至る	(外) 底部回転糸切り　ナデ (内) 黒色処理
Z 53図 -27	椀 土師	口径 — 残高 1.6 底径 5.5 底部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)N2/黒	高台を付す	(外) 底部回転糸切り痕 (内) ミガキ 黒色処理
Z 53図 -28	椀 土師	口径 — 残高 1.8 底径 (6.0) 底部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N2/黒 (内)N2/黒	高台を付す	(外) ミガキ 黒色処理 (内) ミガキ 黒色処理

第３２表　土器観察表（１７）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
Z 53図 -29	皿 土師	口径 — 残高 1.3 底径 — 底部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N2/黒 (内)N2/黒	高台を付す	(外) 底部ヘラナデ 黒色処理 (内) ミガキ 黒色処理
Z 53図 -30	坏蓋 須恵	抓径 4.5 残高 1.6 裾径 — 天井部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10Y5/1 灰 (内)10Y5/1 灰	扁平な抓みを有する ロクロつくり	(外) 回転ヘラケズリ ナデ (内) ナデ
Z 53図 -31	坏蓋 須恵	抓径 — 残高 2.1 裾径(14.5) 一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N4/灰	口縁部端部が小さく折れる	(外) 回転ヘラケズリ ナデ (内) ナデ
S36E45 53図 -32	坏 須恵	口径(17.2) 残高 4.5 底径(13.5) 口縁部～底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N5/灰 (内)N5/灰	高台を付す ロクロつくり	(外) ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ
Z 53図 -33	椀 陶器	口径 — 残高 1.7 底径 (7.6) 底部1/2	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR2/4 極暗赤褐 (内)5YR2/4 極暗赤褐	高台を付す ロクロつくり	(外) 坏部及び底部に施釉 (内) 坏部に施釉
Z 53図 -34	甕 須恵	口径(24.2) 残高 6.4 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)N4/灰 (内)N6/灰	口縁部は外反する 口縁帯を有する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ

第３３表　土器観察表（１８）

図版No.	出土地点	種類	長さcm	幅 cm	厚さcm	重さ g	材質	備考
第54図-1	SB-07	石鏃	2.7	1.8	0.4	1.10	黒曜石	凹基 有茎
2	SB-07	石鏃	(2.4)	(1.6)	0.3	0.82	黒曜石	凹基 無茎
3	SB-07	石鏃	3.3	(1.1)	0.4	1.12	黒曜石	凹基 無茎
4	SB-07	石鏃	(1.6)	1.8	0.3	0.87	玉髄	凹基 無茎
5	SB-07	石鏃	(1.7)	(1.4)	0.3	0.45	黒曜石	基部欠損
6	SB-07	石鏃	(1.3)	(0.9)	0.3	0.33	黒曜石	基部欠損
7	SK-05	石鏃	(3.2)	2.4	0.9	6.31	黒曜石	凹基 無茎
8	SK-09	石鏃	(3.9)	1.9	0.4	2.97	黒曜石	凹基 無茎
9	SD-02	石鏃	(0.8)	(0.7)	0.3	0.09	黒曜石	凹基 無茎 欠損
10	SD-04	石鏃	2.4	1.1	0.5	1.11	流紋岩	基部欠損
11	SD-04	石鏃	(1.5)	1.8	0.3	0.76	黒曜石	凹基 無茎 欠損
12	SD-07	石鏃	3.2	1.6	0.4	1.42	硬砂岩	凹基 無茎
13	P-272	石鏃	2.2	1.7	0.3	0.76	黒曜石	凹基 無茎
14	S27E39	石鏃	2.6	1.9	0.5	1.99	玄武岩	凹基 無茎
15	S33E42	石鏃	1.8	1.1	0.3	0.34	玉髄	凹基 無茎
16	S36E42	石鏃	(2.4)	1.2	0.4	0.60	玉髄	凹基 無茎 欠損
17	S30E39	石鏃	(1.4)	(1.2)	0.2	0.19	黒曜石	凹基 無茎 欠損
18	Tr-04	石鏃	(2.7)	(1.7)	0.4	1.48	黒曜石	凹基 無茎
19	Z	石鏃	(2.1)	(1.4)	0.4	0.83	黒曜石	凹基 無茎
20	Z	石鏃	(1.6)	(1.4)	0.4	0.70	黒曜石	凹基 無茎 欠損
21	N6E21	石鏃	(2.0)	(1.2)	0.2	0.45	黒曜石	凹基 無茎 欠損

第３４表　石器観察表（１）

図版No.	出土地点	種類	長さcm	幅 cm	厚さcm	重さ g	材質	備考
第54図-22	S30E36	石鏃	1.7	1.4	0.3	0.55	黒曜石	平基　無茎
23	Tr-02	石鏃	(1.7)	1.6	0.4	0.89	黒曜石	平基　無茎　欠損
24	S33E39	石鏃	(1.8)	1.4	0.4	0.90	黒曜石	平基　無茎　欠損
25	S21E33	石鏃	(2.2)	2.0	0.5	2.45	チャート	平基　無茎　欠損
26	Z	石鏃	(1.7)	1.7	0.4	0.85	黒曜石	平基　無茎　欠損
27	S27E39	石鏃	(1.8)	1.4	0.5	1.20	黒曜石	平基　無茎　未製品　欠損
28	S33E45	磨石	8.2	8.2	(3.0)	204.0	安山岩	擦痕及び敲痕あり
29	SB-07	打製石斧	8.5	4.2	1.6	66.5	玄武岩	撥形　円刃　完形
30	SB-07	打製石斧	(10.7)	8.1	2.1	166.0	安山岩	撥形　円刃　基部欠損
31	SB-07	打製石斧	11.5	4.9	2.2	144.0	玄武岩	撥形　偏刃　完形
32	SB-07	打製石斧	9.5	5.3	1.8	99.5	玄武岩	撥形　偏刃　完形
33	SB-07	打製石斧	(9.5)	4.8	2.4	115.5	安山岩	撥形　直刃　基部欠損
34	SB-07	打製石斧	(8.0)	5.2	1.9	101.0	安山岩	撥形　刃部欠損
35	SB-07	打製石斧	9.3	4.6	2.3	106.0	チャート	短冊形　円刃　完形
36	SB-07	打製石斧	(8.3)	5.0	1.7	101.0	玄武岩	短冊形　円刃　基部、刃部欠損
37	SB-07	打製石斧	(6.3)	4.2	1.2	39.0	玄武岩	短冊形　直刃　基部欠損
38	SB-10	打製石斧	(8.7)	6.2	2.8	186.0	玄武岩	撥形　刃部欠損
39	SB-10	打製石斧	(7.3)	5.0	2.7	107.5	玄武岩	分銅形　円刃　基部欠損
40	SK-05	打製石斧	8.4	3.5	1.7	62.0	安山岩	撥形　円刃　完形
41	SK-05	打製石斧	(10.9)	5.0	1.3	64.5	玄武岩	撥形　円刃　刃部欠損
42	SK-10	打製石斧	(8.8)	5.4	2.0	96.0	流紋岩	撥形　刃部欠損
43	SX-03	打製石斧	(6.5)	5.0	1.2	38.5	玄武岩	分銅形　直刃　基部欠損
44	SD-04	打製石斧	(9.8)	5.1	1.7	96.0	ひん岩	撥形　刃部欠損
45	SD-06	打製石斧	8.8	5.3	1.5	99.0	ひん岩	撥形　円刃　完形
46	SD-07	打製石斧	(9.2)	4.3	2.0	76.0	玄武岩	短冊形　刃部欠損
47	SD-09	打製石斧	(10.0)	5.3	2.6	165.0	流紋岩	撥形　直刃　基部欠損
48	P-218	打製石斧	(8.3)	4.4	2.0	88.5	頁岩	撥形　刃部欠損
49	P-271	打製石斧	(10.3)	4.8	1.3	99.5	頁岩	短冊形　円刃　基部欠損
50	P-278	打製石斧	(7.3)	4.0	1.7	53.0	玄武岩	撥形　刃部欠損
51	P-289	打製石斧	(8.7)	5.1	1.9	118.5	流紋岩	撥形　直刃　基部欠損
52	Z	打製石斧	10.8	3.8	1.9	82.0	安山岩	撥形　円刃　完形
53	S33E39	打製石斧	11.0	5.8	2.0	122.0	安山岩	撥形　円刃　完形
54	S27E39	打製石斧	(9.6)	5.7	1.2	89.0	流紋岩	撥形　円刃　基部欠損
55	S30E42	打製石斧	11.5	5.2	1.6	99.0	玄武岩	撥形　偏刃　完形
56	S33E45	打製石斧	8.6	4.7	1.8	62.0	玄武岩	撥形　偏刃　完形
57	Tr-06	打製石斧	8.1	4.3	1.7	59.0	玄武岩	撥形　偏刃　完形
58	S33E39	打製石斧	(10.0)	5.1	2.4	120.5	玄武岩	撥形　偏刃　基部欠損
59	S30E39	打製石斧	(7.4)	4.8	1.3	62.5	安山岩	撥形　刃部欠損
60	Z	打製石斧	(6.8)	4.4	1.3	49.0	安山岩	撥形　刃部欠損
61	S33E36	打製石斧	(8.7)	4.8	1.7	76.0	安山岩	撥形　刃部欠損

第３５表　石器観察表（２）

図版No.	出土地点	種　　類	長さcm	幅　cm	厚さcm	重さ　g	材　　質	備　　考
第54図-62	S33E45	打製石斧	(8.5)	4.7	1.3	66.0	安山岩	撥形　刃部欠損
63	Z	打製石斧	(7.1)	5.0	1.9	75.0	安山岩	撥形　刃部欠損
64	Tr-05	打製石斧	8.2	4.2	1.8	74.5	安山岩	短冊形　円刃　完形
65	S33E42	打製石斧	(8.5)	4.4	1.7	69.5	安山岩	短冊形　円刃　基部欠損
66	S33E44	打製石斧	(10.2)	5.3	2.6	166.0	玄武岩	短冊形　円刃　基部欠損
67	S33E39	打製石斧	(10.3)	4.8	2.6	121.0	玄武岩	短冊形　円刃　基部欠損
68	S30E39	打製石斧	(8.4)	4.1	1.8	88.5	安山岩	短冊形　刃部欠損
69	S30E42	打製石斧	8.0	5.8	2.1	101.0	流紋岩	分銅形　円刃　完形
70	S30E36	打製石斧	16.6	5.2	2.3	261.5	緑泥片岩	円刃　完形　長い
71	S27E39	打製石斧	8.8	4.5	2.4	82.5	安山岩	抓状の小突起を有する
72	SD-02	磨製石斧	(10.0)	5.2	2.3	195.0		定角式　基端及び刀部欠損
73	S24E33	磨製石斧	8.9	4.4	2.5	161.5	石英岩	定角式　基端及び刀部欠損
74	Z	磨製石斧	9.1	4.4	3.0	158.0	玄武岩	定角式　基端及び刀部欠損
75	SB-07	磨製石斧	(2.5)	1.6	1.2	6.41	チャート	定角式　ミニチュア　欠損
76	Z	磨製石斧	4.1	2.9	1.5	32.5	チャート	定角式　ミニチュア
77	S30E42	石錐	(2.8)	0.9	0.6	1.36	黒耀石	抓部欠損
78	SB-07	凹石	12.4	7.9	4.1	532.0	安山岩	
79	SB-07	凹石	8.7	7.0	4.1	289.5	安山岩	
80	SB-07	凹石	9.0	7.6	3.8	242.0	安山岩	
81	SK-05	凹石	10.4	7.7	5.4	442.0	安山岩	
82	S30E39	凹石	12.4	7.4	4.5	569.0	安山岩	
83	Z	凹石	14.3	8.4	4.2	669.5	安山岩	
84	SB-07	砥石	15.3	6.8	4.6	739.0	安山岩	
85	SB-07	砥石	16.5	5.3	3.7	630.0	安山岩	
86	SK-05	砥石	8.5	6.9	5.0	186.0		
87	SB-07	石匙	(4.4)	2.8	0.8	9.68	チャート	縦形　先端が尖る　抓部欠損
88	Z	石匙	(2.6)	0.9	0.7	1.24	黒耀石	縦形　抓部欠損
89	S33E45	刃器	6.2	8.7	2.3	142.0	安山岩	一部欠損
90	S33E45	刃器	5.5	9.1	1.5	79.5	玄武岩	一部欠損
91	SD-02	石製円盤	7.0	7.2	1.4	112.0	石英安山岩	
92	S33E45	石棒	15.8	10.3	9.0	2110.0	安山岩	

第３６表　石器観察表（３）

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	材質	成形・形態・文様ほか	整形・調整ほか
SK-10 55図-1	土偶 縄文	高さ (5.7) 一部	胎；雲母、石英を多量に含む 焼；良好 色；(外)5YR5/6 明赤褐 (内)5YR5/6 明赤褐	沈線文	
S30E36 55図-2	土偶 縄文	高さ (10.9) 幅 (8.7) 厚さ (3.3) 胴部左腕部	胎；雲母、粗砂粒を多く含む 焼；良好 色；(外)5YR3/4 暗赤褐 (内)5YR3/4 暗赤褐	沈線文	頭部、右腕部胴下半を欠損する 頭部及び胴下半の欠損部に芯棒の跡が認められる
S30E12 55図-3	土偶 縄文	高さ (6.9) 幅 (4.7) 厚さ (3.1) 胸部一部	胎；粗砂粒を多く含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/4 褐 (内)7.5YR4/4 褐	表面と裏面に沈線によって施文される	欠損部に芯棒の跡が認められる
Z 55図-4	土偶 縄文	高さ (4.9) 幅 (3.9) 厚さ (5.3) 足部	胎；雲母、石英を含む 焼；良好 色；(外)2.5YR5/6 明赤褐 (内)2.5YR5/6 明赤褐	沈線文	
P-61 55図-5	土製 円盤 縄文	長さ 3.3 幅 3.4 厚さ 1.9 重さ 11.4	胎；石英、粗砂粒を含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/4 にぶい褐 (内)7.5YR5/4 にぶい褐		
SB-07 55図-6	紡錘車 土製品	上外径 4.2 下外径 6.4 厚さ 4.4 重さ 195.0 完存	胎；粗砂粒を含む 焼；良好 色；(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR5/6 明褐		(外) ナデ (内)
SB-07 55図-7	硯 須恵	径 (21.2) 高さ 2.6 一部	胎；微砂粒をわずかに含む 焼；良好 色；(外)7.5Y5/1灰 (内)7.5Y5/1灰	円面硯	ロクロナデ　ヘラケズリ

第３７表　その他土製品観察表

出土地点 図版NO	器種 種類	法量 残存	瓦質	調整ほか
S12E33 56図-1	丸瓦	長さ (4.7) 幅 (3.7) 厚さ 2.0 体部	胎；礫をわずかに含む 焼；還元 色；(外)N6/灰 (内)N6/灰	凸面；無文　ケズリ 凹面；布目 側面；ケズリ
SB-09 56図-2	平瓦	長さ (6.0) 幅 (11.3) 厚さ 2.2 端部	胎；礫をわずかに含む 焼；酸化 色；(外)10YR8/4浅黄橙 (内)10YR8/4浅黄橙	凹面；布目 凸面；押型紋 側面；凹面側を面取り
SK-02 56図-3	平瓦	長さ (7.5) 幅 (8.7) 厚さ 2.4 端部	胎；白色砂粒を含む 焼；還元 色；(外)10Y5/1 灰 (内)10Y6/1 灰	凹面；布目 凸面；押型紋
SD-05 56図-4	平瓦	長さ (6.0) 幅 (10.2) 厚さ 2.3 体部	胎；褐色砂粒を含む 焼；還元 色；(外)7.5Y6/1灰 (内)7.5Y6/1灰	凹面；布目　ケズリ 凸面；押型紋
SD-09 56図-5	平瓦	長さ (17.4) 幅 (16.6) 厚さ 1.7 端部	胎；礫を含む 焼；還元 色；(外)10Y5/1 灰 (内)7.5GY6/1 緑灰	凹面；布目 凸面；押型紋

第３８表　瓦観察表

写真図版

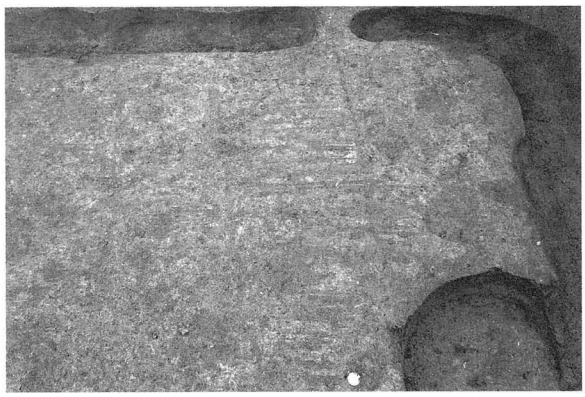
写真図版1

調査地区周辺

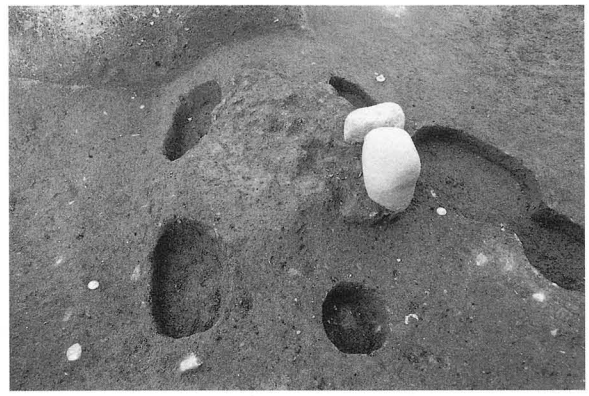
調査地区全景

SB-01

SB-03



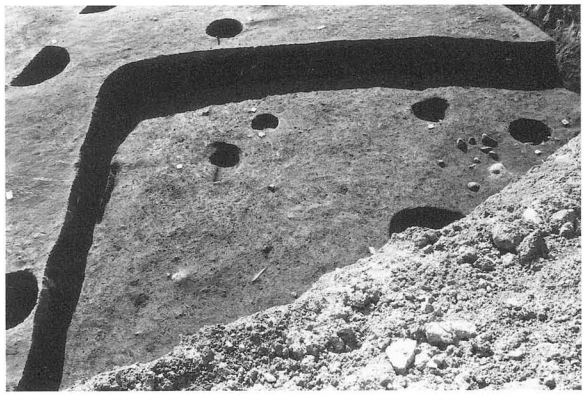
SB-01 床面



SB-03 カマド

SB-02

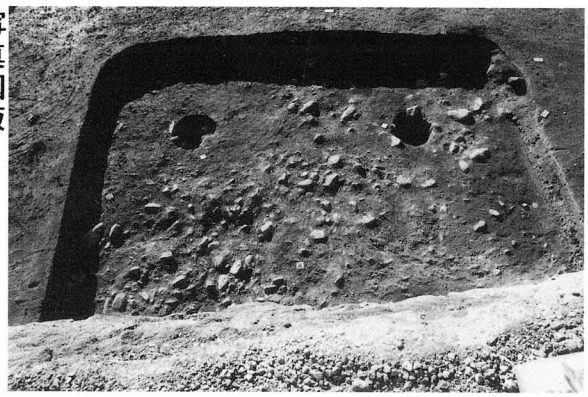
SB-03 土器出土状況



SB-02

SB-04

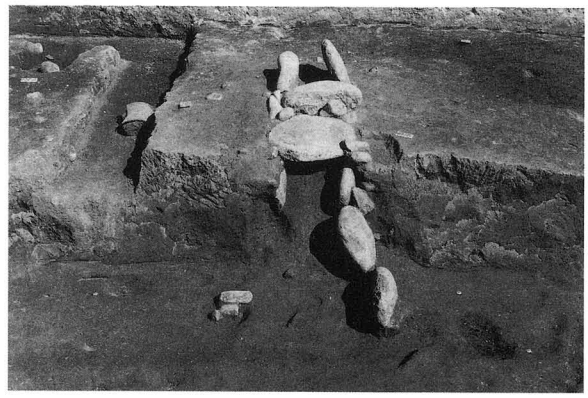
写真図版3



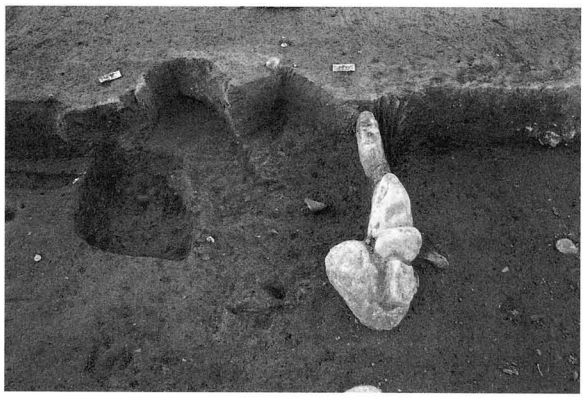
SB-04

SB-07

SB-05

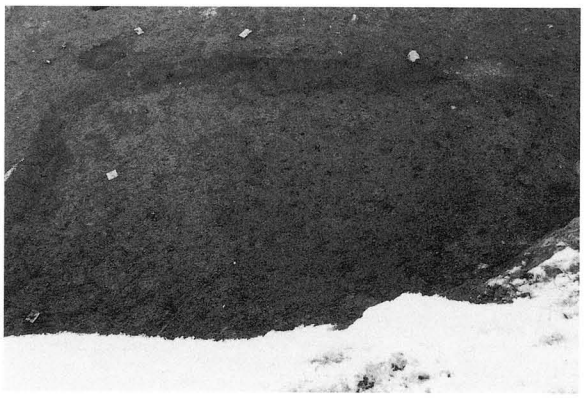


SB-07 カマド



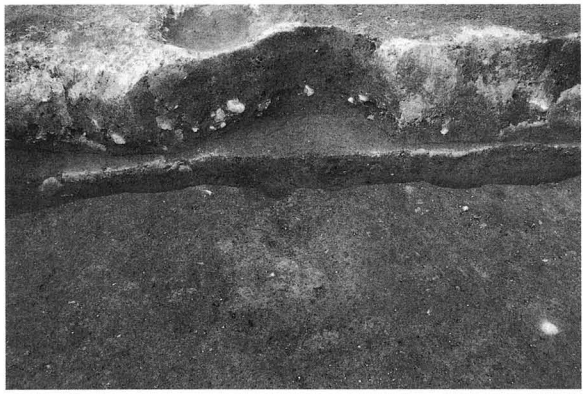
SB-05 カマド

SB-08

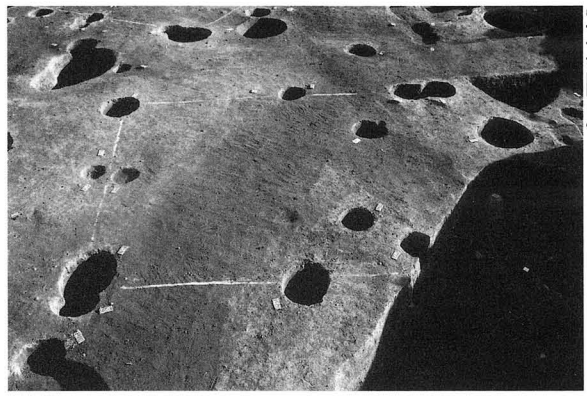


SB-06

SB-09

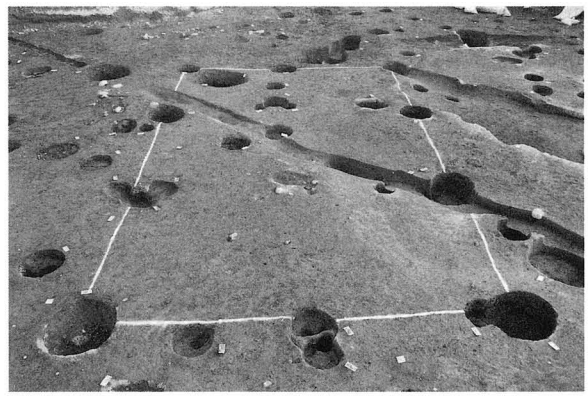


SB-09 カマド

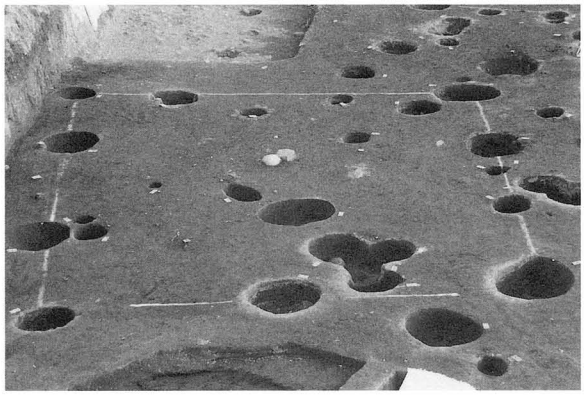


ST-03

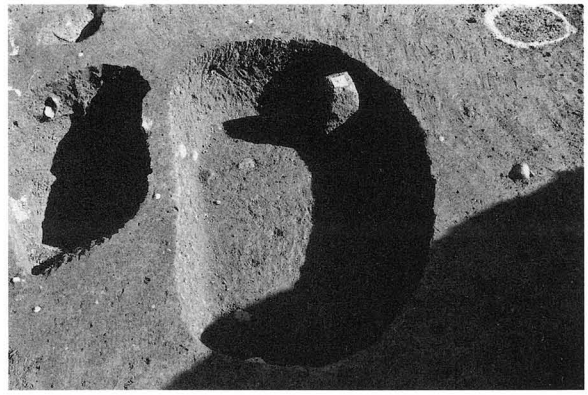
SB-10



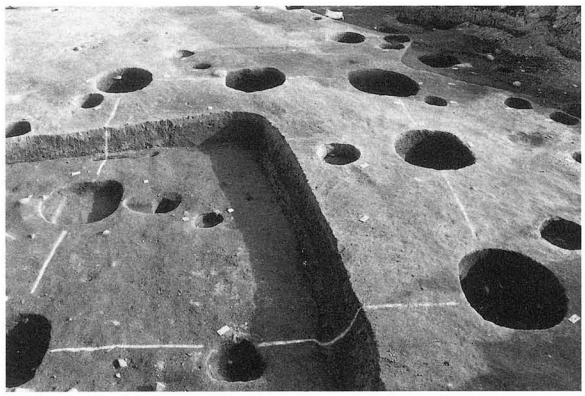
ST-04



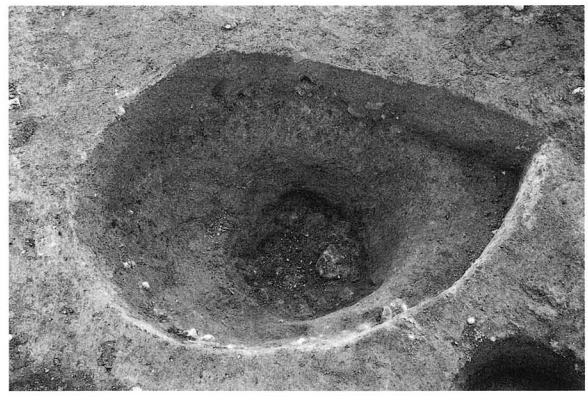
ST-01



SK-01

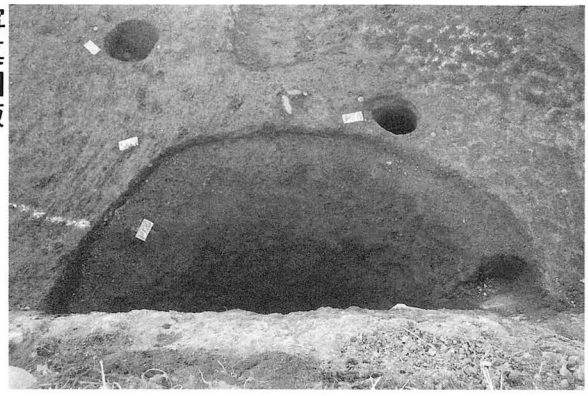


ST-02

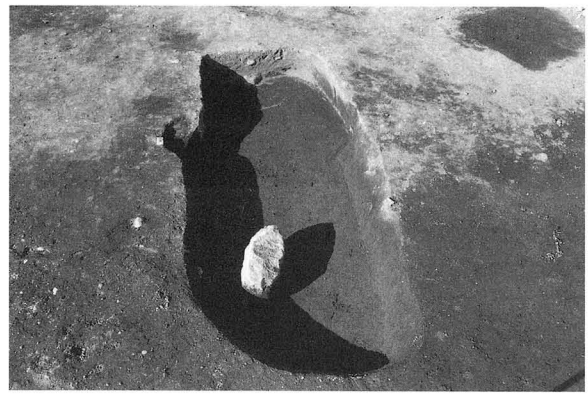


SK-02

写真図版5



SK-03



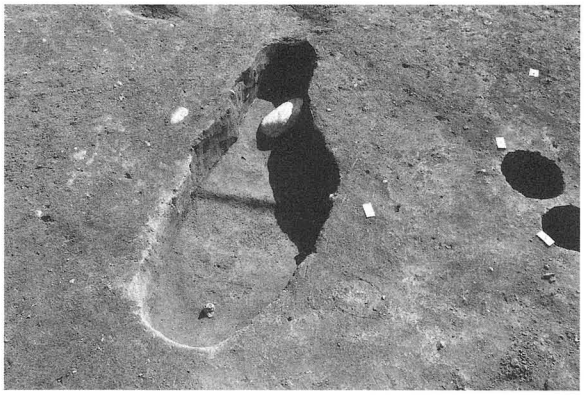
SK-07

SK-04

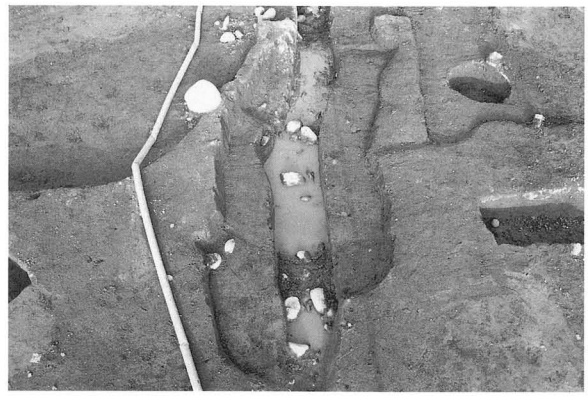
SK-08

SK-05

SK-09



SK-06

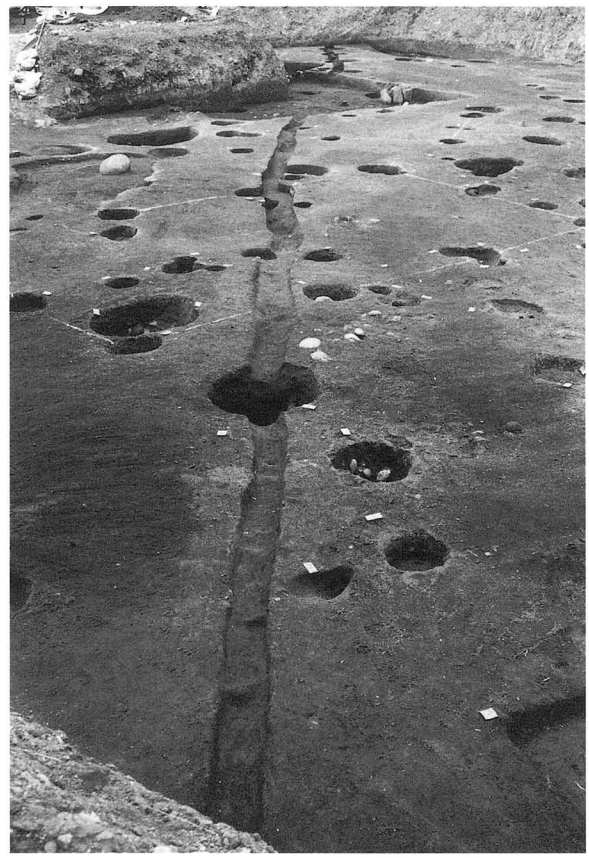


SK-11

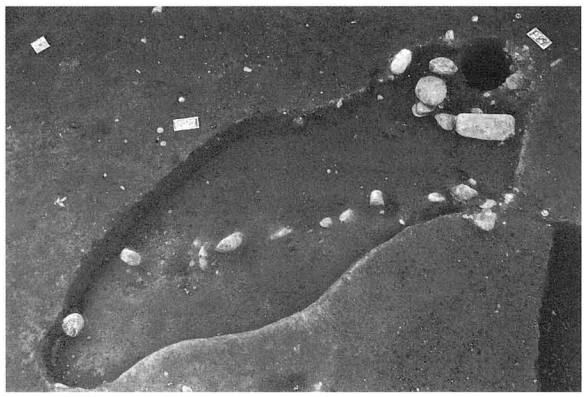
SX-03

SD-03

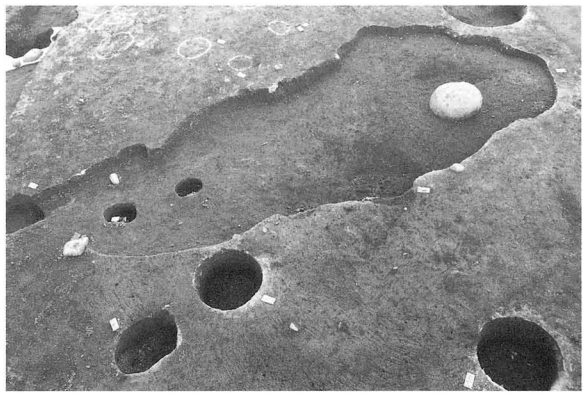
SX-02



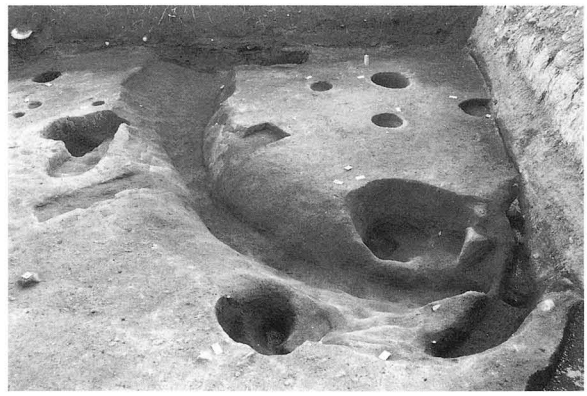
SD-03



SD-01



SD-02



SD-04

写真図版7

SD-05

SD-08 遺物出土状況

SD-06

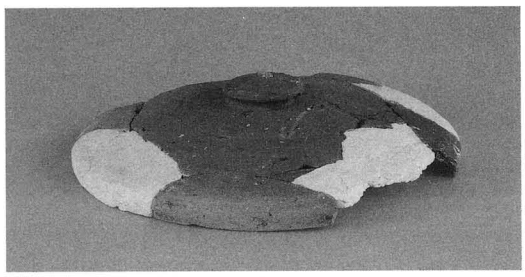
SD-09

SD-07

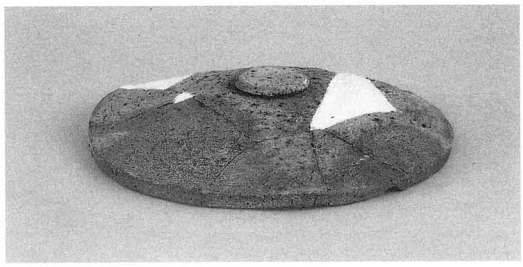
土偶出土状況

SD-08

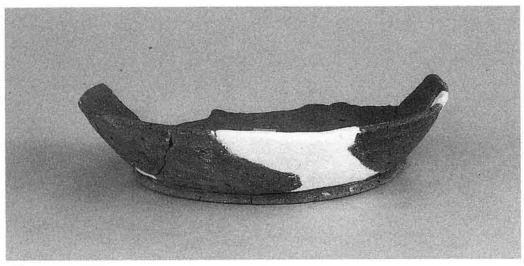
土器



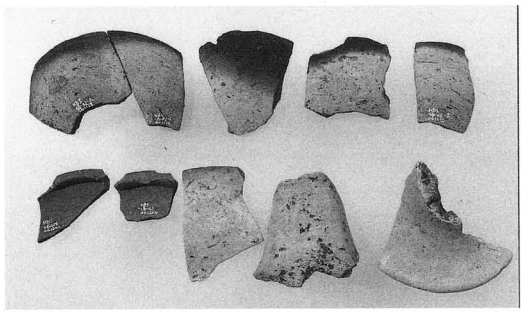
SB-01
6



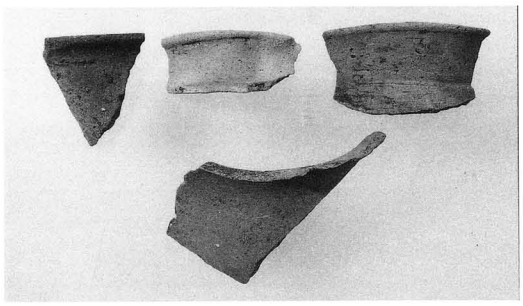
SB-01
7



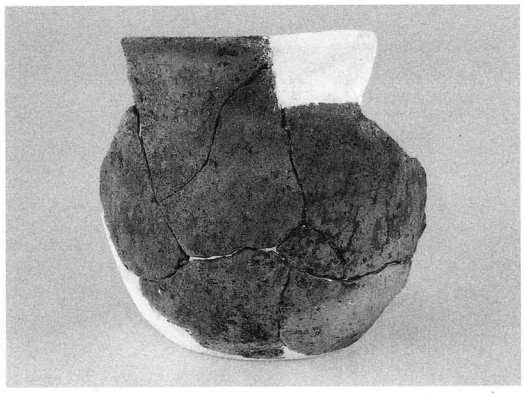
SB-01
13



SB-02
1～8

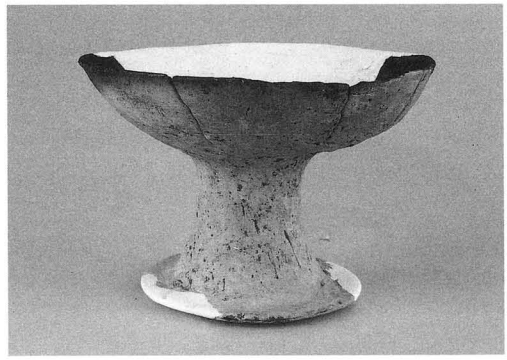


SB-02
9～12

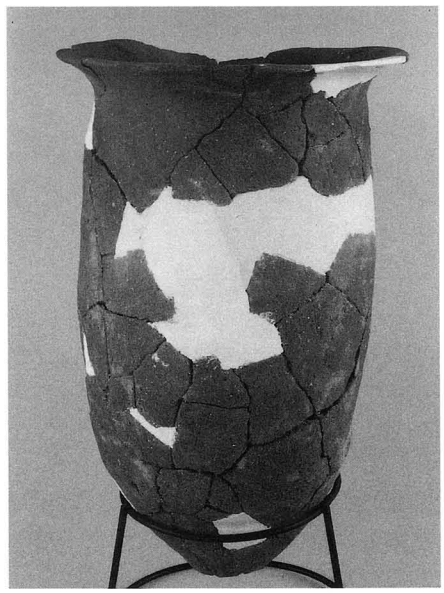


SB-03
7

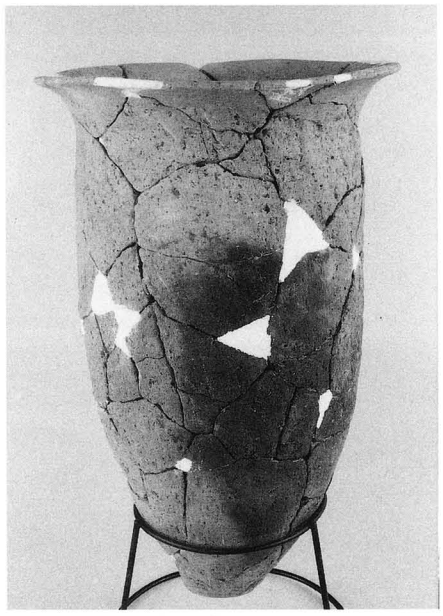
SB-03
1



SB-03
2

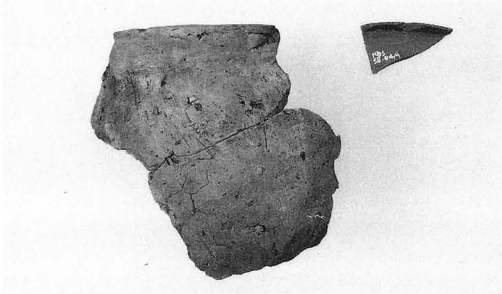


SB-03
10

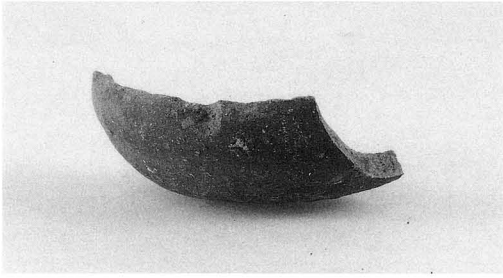


SB-03
11

写真図版9

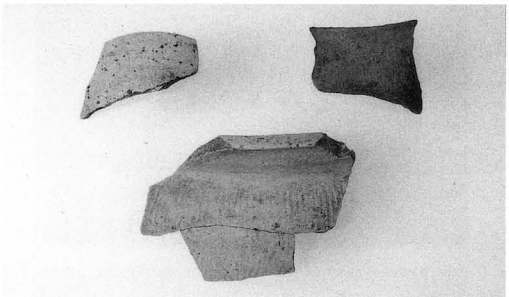


SB-04
2, 1

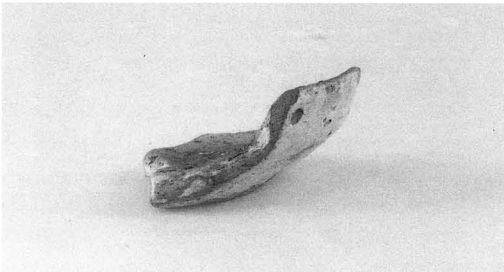


SB-05
1

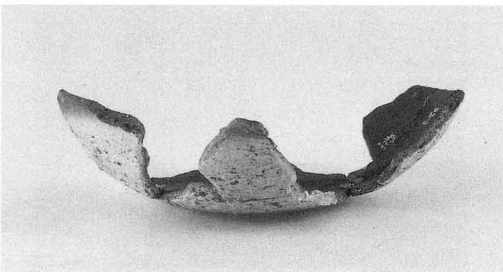
SB-05
4



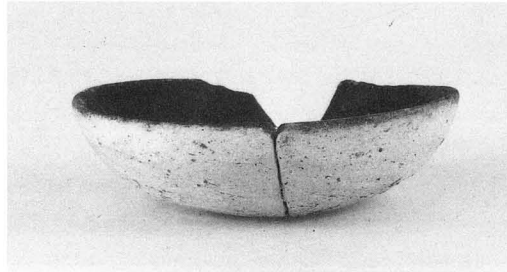
SB-05
2, 3
5



SB-06
1

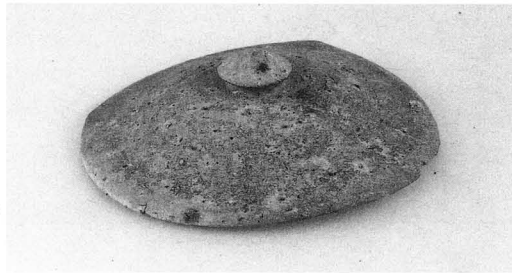


SB-07
1

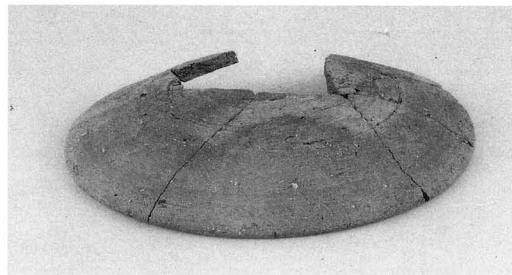


SB-07
2

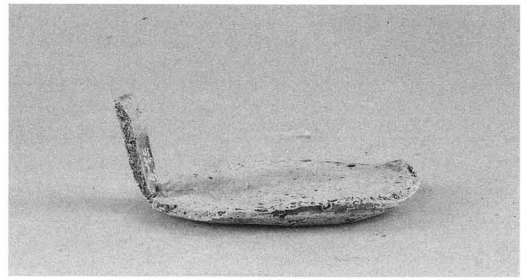
SB-07
5



SB-07
7

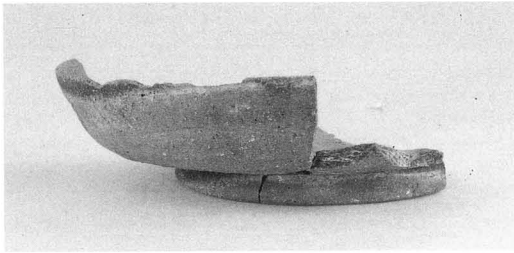


SB-07
8

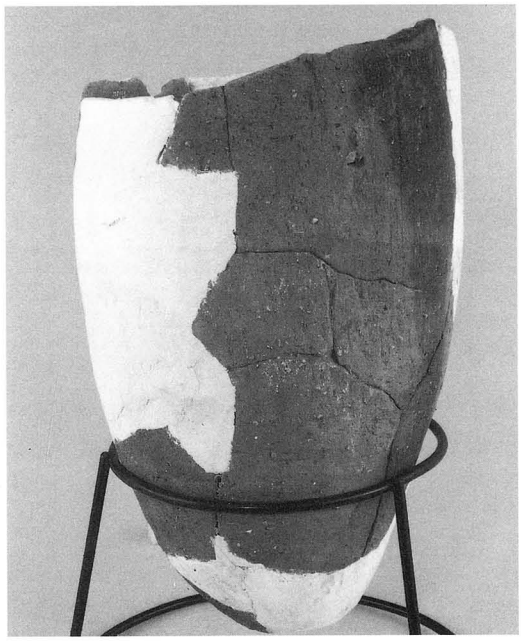


SB-07
9

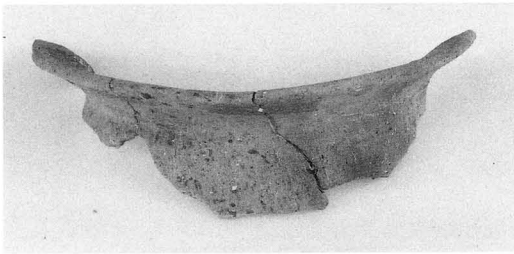
SB-07
10



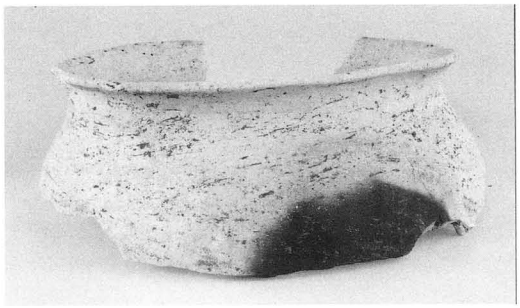
SB-07
11



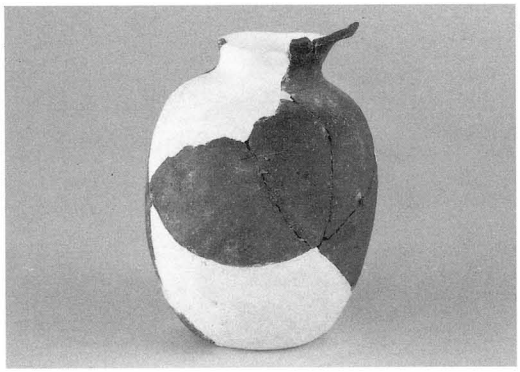
SB-07
13



SB-07
15

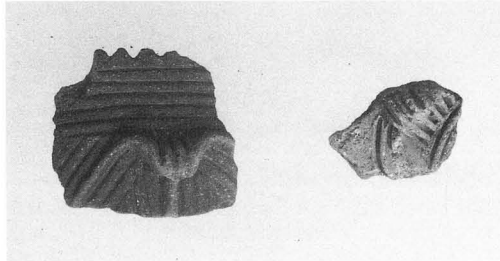


SB-07
17

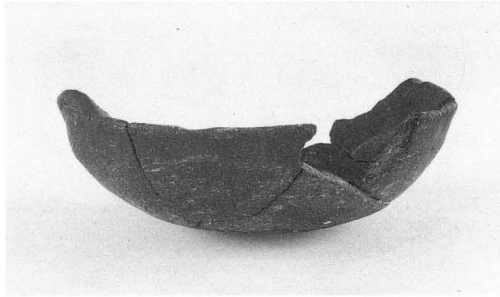


SB-07
22

SB-07
23

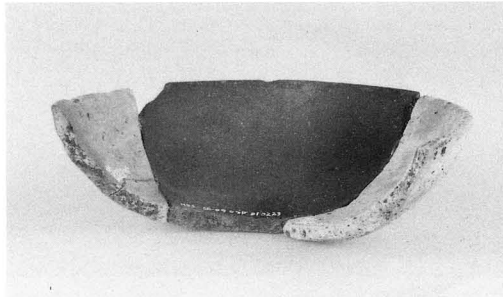


SB-07
26, 25

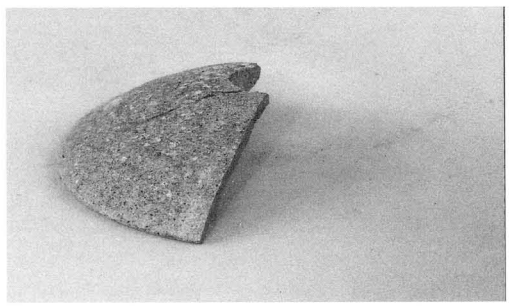


SB-09
1

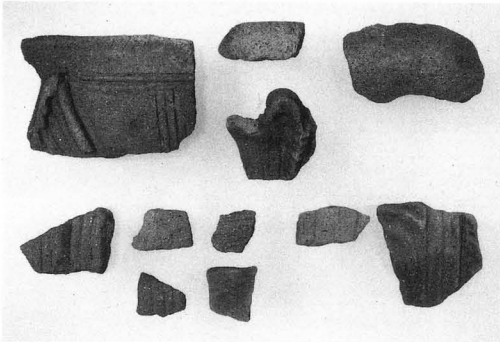
SB-09
2



SB-09
3

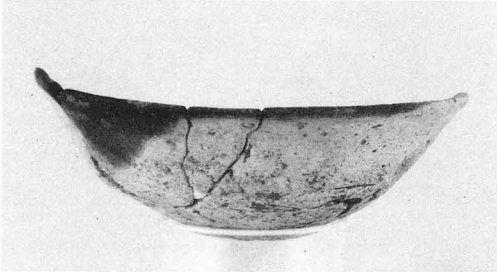


SB-09
9

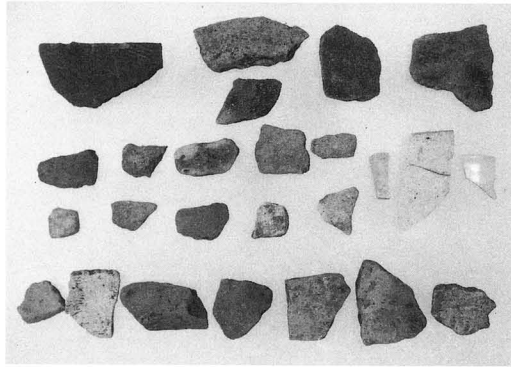


SB-10

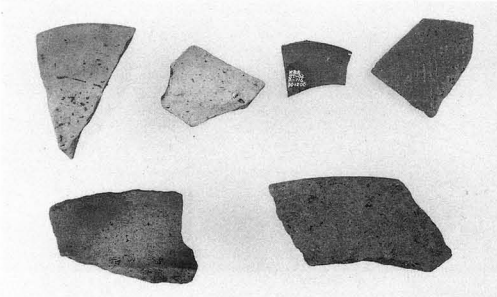
SK-01
2



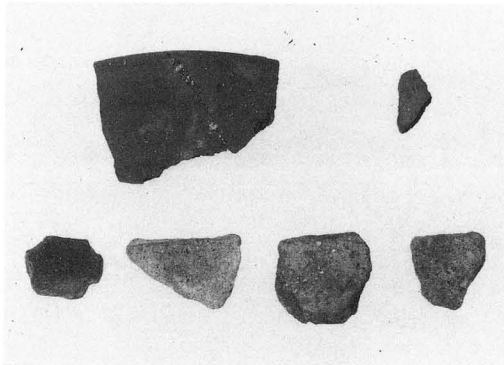
ST-01
1



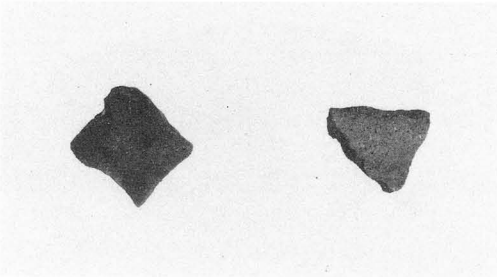
SK-02



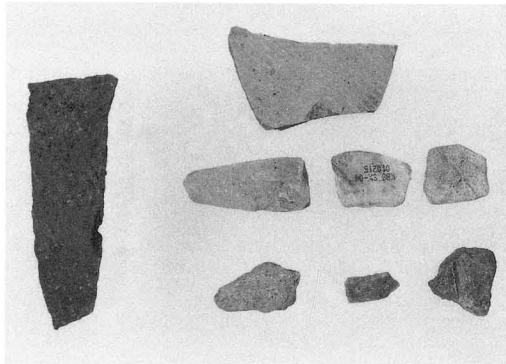
ST-02



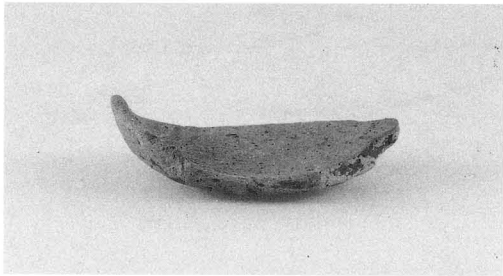
SK-03



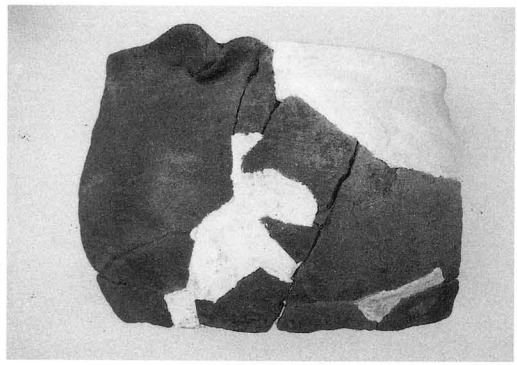
ST-03



SK-04

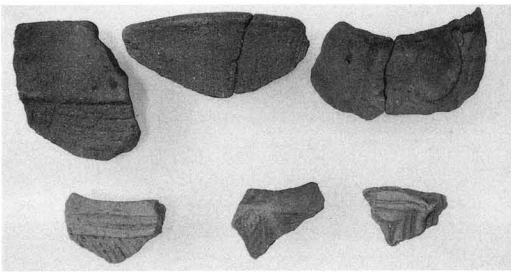


ST-04
1

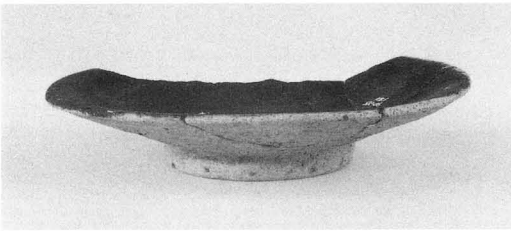


SK-05
1

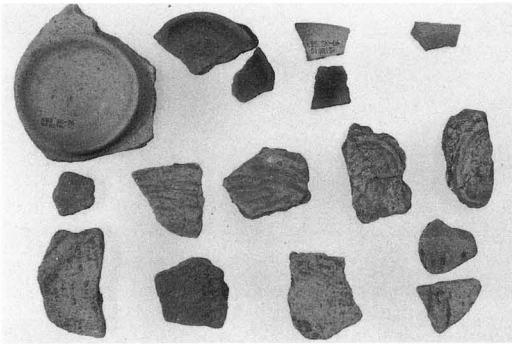
SK-01
1



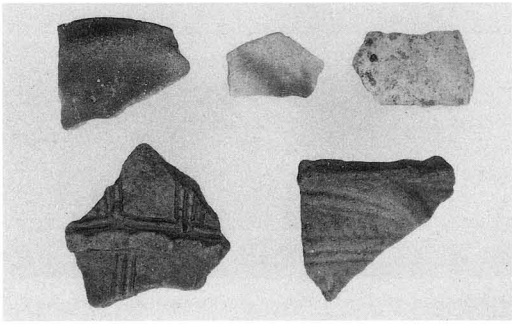
SK-05
2, 7, 5
3, 4, 6



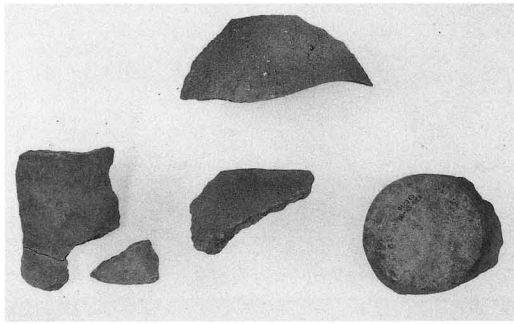
SK-06
1



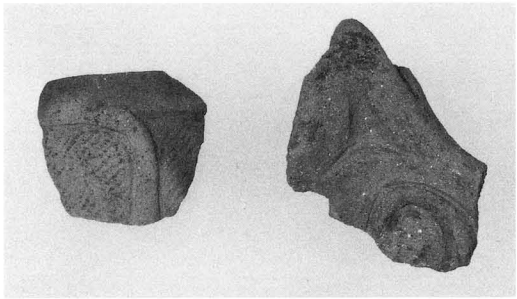
SK-06



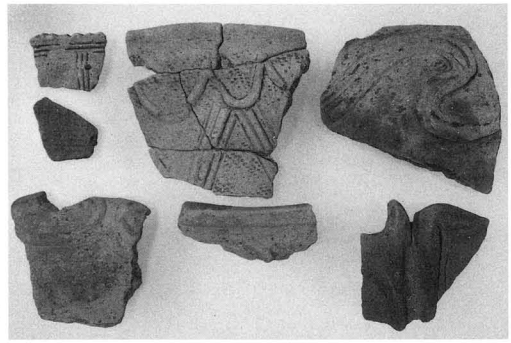
SK-07



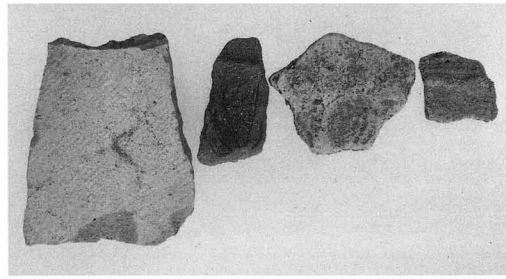
SK-08



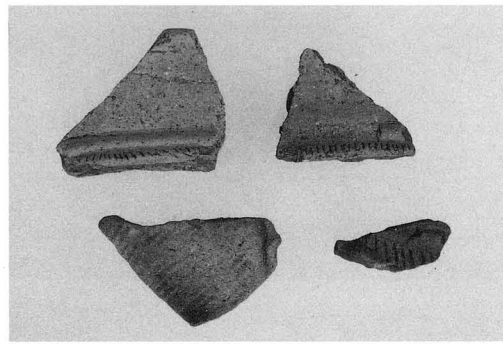
SK-09
1, 2



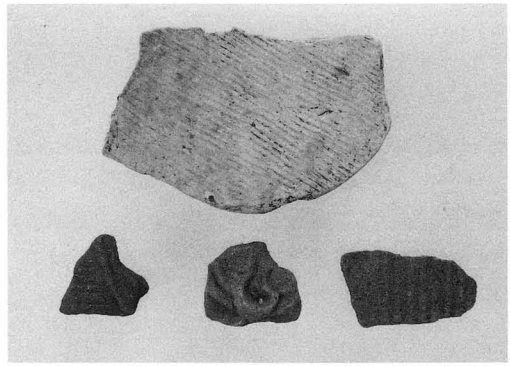
SK-10



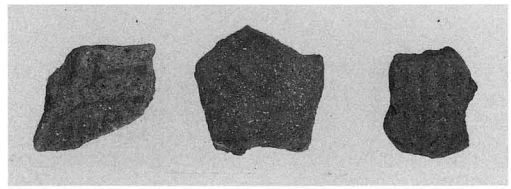
SK-11



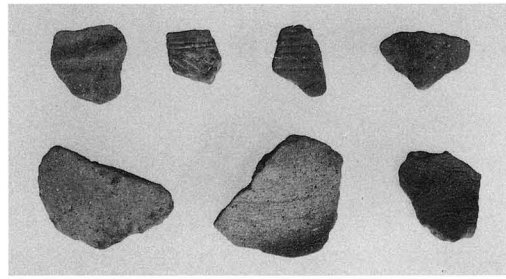
SX-03



SX-01



SX-02



SD-01

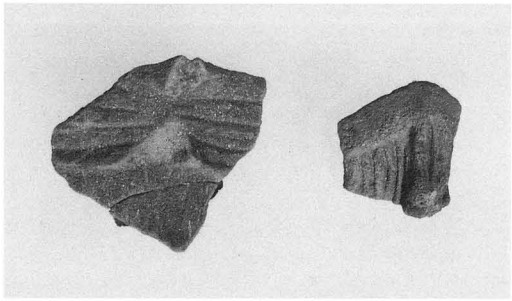
写真図版13

SD-02
1

SD-02
3

SD-02
4

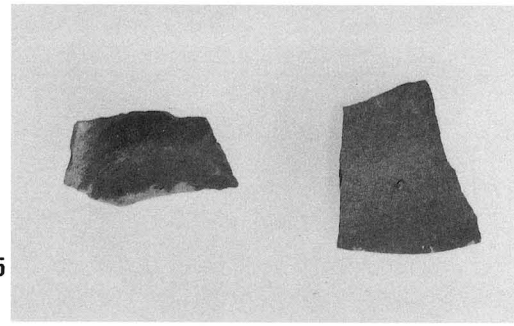
SD-02
5



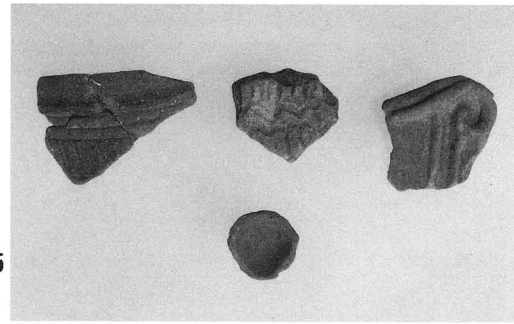
SD-03

SD-04
1

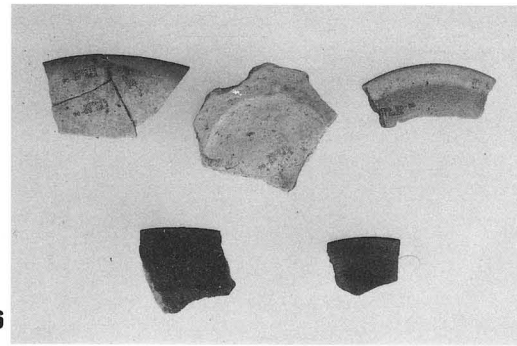
SD-04
4



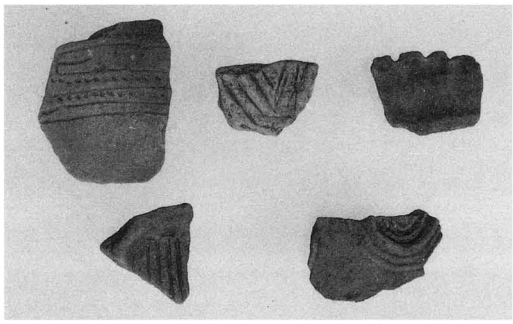
SD-05
1, 2



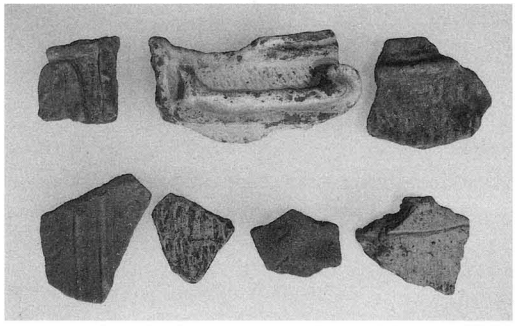
SD-05
3~6



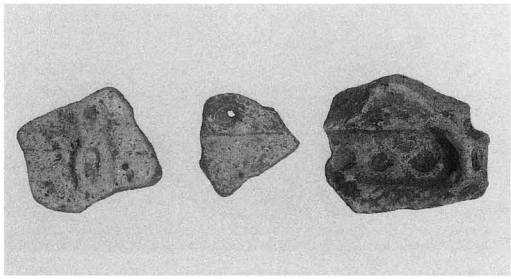
SD-06



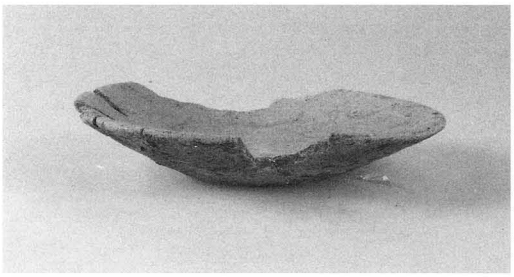
SD-07
1~5



SD-07
6~12

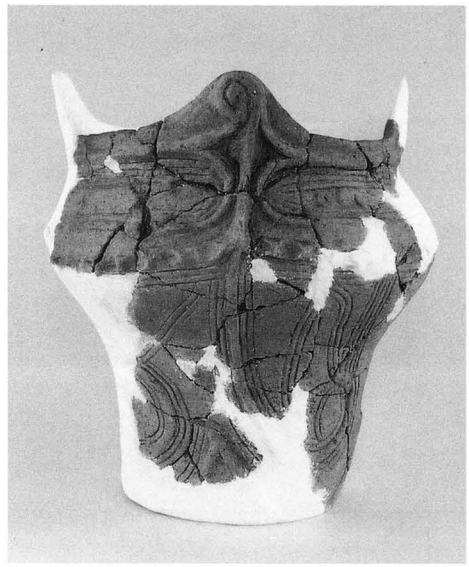


SD-07
13~15



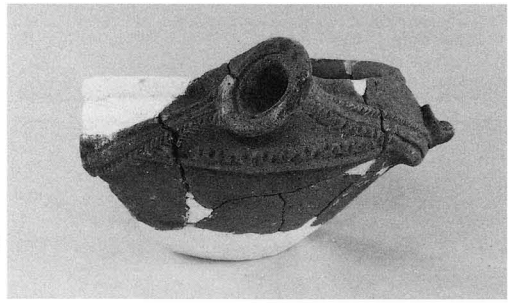
SD-07
16

SD-08
1



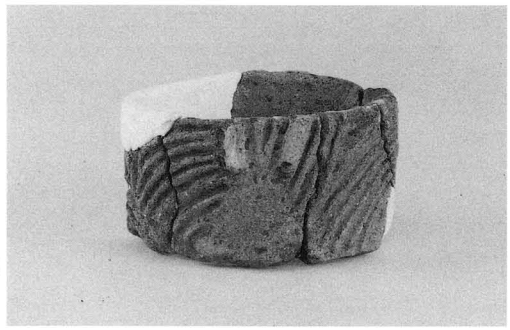
SD-08
2

SD-08
3



SD-08
3

SD-08
4



SD-08
5